不二出版
総合図書目録

ジャーナリズム・新聞
宗教
医学・心理
思想・哲学
社会福祉
人権
法律・政治・経済・統計
建築・都市・地理・民俗・観光
移民
沖縄
旧外地・アジア近現代史
戦時下統制関係資料
十五年戦争極秘資料集
十五年戦争重要文献シリーズ
戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史
戦後史
教育
生活・文化・芸術・映画
労働・社会運動
近現代文学
女性史・女性文学・ジェンダー
農業史
中国語・中国文学・漢文
解説・解題・総目次・索引

情況　學生優　子供の教養

2022–2023

雲生　柏冬

信友　日本阪大華文

新建築

営業案内

●本カタログ中の価格表示につきまして、「定価」は消費税10％込の価格、「本体」は税抜の価格と致しました。できる限り併記致しましたが、一部「定価」のみ、「本体」のみの箇所もございます。何卒御了承下さい。

●ご注文は、最寄りの書店へお申し込み下さい。
弊社の出版物は、注文制です。従いまして、書店の店頭にはほとんど並んでおりません。ご注文の際は、出版社名（出版社コード№７３１６）・書名・定価を書店へお申し出ください。

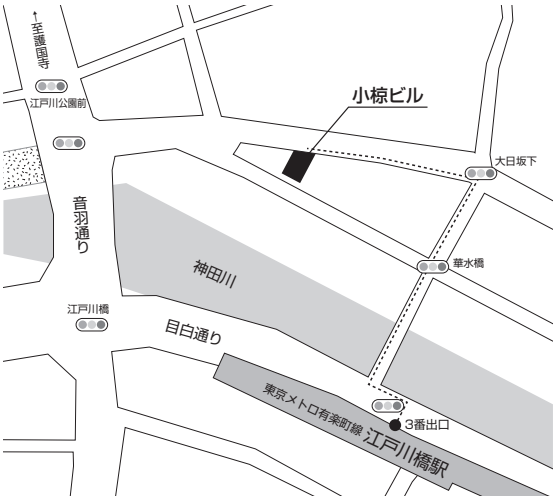
●弊社に直接ご注文をご希望の方は、お電話・Eメール・FAXなどで在庫をご確認下さい。お支払い・発送方法につきましては、下記２種類でご対応いたします。

１、ご請求金額（商品定価＋送料）を記入した郵便振替用紙を先にお送りし、ご入金確認後発送。振込手数料はご負担いただきます。
２、宅配業者による料金代引き制（お届けの際に金額をご請求）にて発送。定価代金の他、宅配便運賃と代引き手数料を頂戴いたします。

本体価格合計10,000円以上のお買い上げにつきましては、送料は無料とさせていただきます（その他の手数料はご負担いただきます）。

商品情報は以下URLをご覧願います。
URL：http://www.fujishuppan.co.jp　不二出版　検索
e-mail：administrator@fujishuppan.co.jp

●価格は２０２３年３月現在のものです。
●各書籍のより詳しいカタログをご希望の方は、営業部までお申し込み下さい。無料でお送り致します。
●弊社の営業時間は、祝・祭日を除く月曜～金曜日の、9：30～17：30です。



東京本社
〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10
電話　03-5981-6704
FAX　03-5981-6705
郵便振替　00160-2-94084

交通
東京メトロ有楽町線　江戸川橋駅 徒歩3分
東京メトロ東西線　神楽坂駅 徒歩15分
都営バス　江戸川橋 徒歩3分

不二出版
総合図書目録

2022－2023

新刊一覧

【宗教】
戦前期仏教社会事業集成　第14巻・補遺編…… 8
戦前期仏教社会事業の研究　第2集 …… 9
【思想・哲学】
占領期報徳運動資料集成…… 16
【社会福祉】
戦争孤児関係資料集成　第Ⅰ期　愛児の家… 19
戦争孤児関係資料集成　第Ⅱ期　関西編
東光学園史料ほか…… 19
【人権】
復刻版「愛生」〈戦前編〉…… 23
万寿果…… 23
【法律・政治・経済・統計】
土地が哭いている――農地改革と農地法八十条 … 31
【沖縄】
日本近代史のなかの沖縄…… 43
沖縄と色川大吉…… 43
【旧外地・アジア近現代史】
朝鮮治安関係資料集成　第Ⅱ期…… 48
朝鮮治安関係資料集成　第Ⅲ期…… 48
華文大阪毎日…… 50
旧制台北高等学校同窓会誌『蕉葉会報』…… 53
【戦時下統制関係資料】
戦時期　早稲田大学学生読書調査報告書…… 58
【十五年戦争極秘資料集　補巻】
補巻51　海軍兵学校第三七期クラス会誌
『海軍生活の思い出』…… 61, 65
補巻52　東京大学薬学図書館薬史学文庫
所蔵「北支関係・満洲関係」綴…… 46, 61
補巻53　陸軍軍医学校防疫研究報告
第9冊・補遺…… 61, 65
【戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史】
留守名簿　関東軍軍馬防疫廠…… 64
信友…… 66
黒死病――加藤秀造小説…… 66
七三一部隊1931-1940――細菌戦への道程 … 66
【戦後史】
情況　第1次 …… 68
藤井忠俊著作集…… 69
民衆史の狼火を――追悼 色川大吉 …… 69
【教育】
幼児教育資料アーカイブ3　幼小接続資料集成… 71
幼児教育資料アーカイブ4　子供の教養 …… 71
【生活・文化・芸術・映画】
演藝画報　DVD版 …… 81
【労働・社会運動】
何を読むべきか…… 82
【学会誌】
日本仏教社会福祉学会年報
第50号・第51号・第52号 …… 10
植民地文化研究　第20号・第21号…… 54
社会文学
第53号・第54号・第55号・第56号・第57号…… 91
【解説・解題・総目次・索引シリーズ】
『愛生　戦前編』総目次・索引 ……112
『陸軍軍医学校防疫研究報告』
解説・総目次〈改訂版〉 ……115
『信友』……115
『赤光』総目次・索引・附『赤光』第1号……115
『情況』解説・回想・総目次・索引 ……115
『幼小接続資料集成』解説 ……115

近刊一覧

【社会福祉】
戦争孤児関係資料集成 第Ⅰ期 愛児の家補写真史料
【法律・政治・経済・統計】
紙之世界
【移民】
海の外【大正編】【昭和編】
【沖縄】
占領期奄美・沖縄の青年団資料集
球陽・学友会雑誌・養秀
山城翠香論
近現代沖縄言語教育史研究
沖縄近代の学校と教師――組織と実践
沖縄ともろさわようこ
【旧外地・アジア近現代史】
月刊満洲
日本近代史のなかの朝鮮
【十五年戦争極秘資料集】
軍事極秘 尖閣諸島調査報告書
【戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史】
留守名簿　関東軍防疫給水部復七名簿
「秋丸機関」関係資料集成
【戦後史】
中国
暗河
【教育】
幼児教育資料アーカイブ5　児童の村史料
報徳思想とその展開
【生活・文化・芸術・映画】
文化運動
【近現代文学】
文學建設
【農業史】
日本4H新聞
【女性史・女性文学・ジェンダー】
性的マイノリティー関係資料Ⅰ
レズビアン雑誌資料集成

ジャーナリズム・新聞　1
宗教　6
医学・心理　14
思想・哲学　16
社会福祉　18
人権　22
法律・政治・経済・統計　26
建築・都市・地理・民俗・観光　32
移民　36
沖縄　40
旧外地・アジア近現代史　45
戦時下統制関係資料　55
十五年戦争極秘資料集　59
十五年戦争極秘資料集 補巻　60
十五年戦争重要文献シリーズ　62
十五年戦争重要文献シリーズ 補集　63
戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史　64
戦後史　68
教育　71
生活・文化・芸術・映画　78
労働・社会運動　82
近現代文学　85
女性史・女性文学・ジェンダー　98
農業史　104
中国語・中国文学・漢文　105
解説・解題・総目次・索引シリーズ　110
執筆者・推薦者索引　121
書名索引　128

目　次

ジャーナリズム・新聞

横浜毎日新聞…… 1
二六新報…… 1
近事評論・扶桑新誌…… 1
自由燈（じゆうのともしび）…… 2
牟婁（むろ）新報…… 2
週刊たいまつ…… 2
週刊案内新聞…… 2
週刊東日…… 2
新聞学院『学報』…… 2
現代新聞批判…… 3
時局新聞…… 3
言論報國…… 3
他山の石…… 3
サラリーマン…… 3
号外…… 3
人物評論…… 4
古人今人…… 4
夕刊 新大阪…… 4
茅原華山（かやはらかざん）と同時代人…… 4
民本主義の論客 茅原華山伝 …… 4

宗教

【仏教】

資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅰ期〉… 6
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅱ期〉… 6
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅲ期〉… 6
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅳ期〉… 6
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅴ期〉… 7
明治仏教研究事始め…… 7
令知会雑誌…… 7
雑誌『國教』と九州真宗…… 7
仏教海外開教史資料集成〈ハワイ編〉 …… 7
仏教海外開教史資料集成〈北米編〉 …… 7
仏教海外開教史資料集成〈南米編〉 …… 8
戦前期仏教社会事業資料集成…… 8
戦前期仏教社会事業資料集成
第14巻・補遺編 …… 8
教界時言…… 8
現代知識 教化講習録 …… 8
児童と宗教…… 8
救済…… 9
仏教海外開教史の研究…… 9
戦前期仏教社会事業の研究…… 9
戦前期仏教社会事業の研究　第２集 …… 9
令知会と明治仏教…… 9
論集・戦時下「日本仏教」の国際交流… 9
日本仏教社会福祉学会年報
第１号～第52号 …… 10

【キリスト教】

地の塩…… 11
女子青年界…… 11
救世…… 11
ときのこゑ…… 11
婦人新報…… 11
基督教青年…… 12
聖化…… 12
七一（しちいち）雑報…… 12
聖書におけるエコロジーと人権…… 12

【神道・その他】

開知新聞…… 13
『昭和青年』『昭和』 …… 13
人類愛善新聞…… 13

医学・心理

優生學…… 14
優生…… 14
変態心理…… 14
変態性慾…… 14
犯罪科學…… 14
精神分析〈戦前編〉 …… 15

戦場心理の研究
（十五年戦争極秘資料集 補巻㉜） …… 15

思想・哲学

成功…… 16
占領期報徳運動資料集成…… 16
唯研ニュース（十五年戦争重要文献シリーズ 補集②）…… 16
初期社会主義思想論…… 17
浮田和民の思想史的研究
——倫理的帝国主義の形成 …… 17
人間の輪郭——共生への理念 …… 17
検証 藤村操——華厳の滝投身自殺事件 …… 17
吉田松陰の思想——尊王攘夷への思想的道程… 17
春、雪ふる——荒畑寒村戦中日誌…… 17
夢を食う——素描 荒畑寒村 …… 17

社会福祉

社会事業…… 18
東京都養育院月報…… 18
東京市養育院月報〈明治期〉…… 18
東京市養育院月報〈大正期〉…… 18
東京市養育院月報〈昭和期〉…… 18
戦争孤児関係資料集成 第Ⅰ期
愛児の家史料…… 19
戦争孤児関係資料集成 第Ⅱ期
関西編 東光学園史料ほか…… 19
東京孤児院月報…… 19
岡山孤児院関係資料集成…… 19
獄事叢書…… 19
労働共済…… 19
石川県之社会改良…… 20
社会事業彙報…… 20
留岡幸助の研究…… 20
留岡幸助と家庭学校
——近代日本感化教育史序説 改訂普及版 … 20
学校保健の近代…… 20

人権

近現代日本ハンセン病問題資料集成
〈戦前編〉 …… 22
近現代日本ハンセン病問題資料集成
〈戦後編〉 …… 22
近現代日本ハンセン病問題資料集成
〈補巻１～５〉…… 22
近現代日本ハンセン病問題資料集成
〈補巻６～９〉…… 22
近現代日本ハンセン病問題資料集成
〈補巻10～12〉…… 22
近現代日本ハンセン病問題資料集成
〈補巻13～15〉…… 23
近現代日本ハンセン病問題資料集成
〈補巻16～19〉日本ＭＴＬ …… 23
愛生〈戦前編〉…… 23
万寿果…… 23
知的・身体障害者問題資料集成
〈戦前編〉 …… 23
愛護…… 23
子どもの人権問題資料集成〈戦前編〉…… 24
資料集成 戦争と障害者〈第Ⅰ期〉
（十五年戦争極秘資料集 補巻㉘） …… 24
神奈川の部落史…… 24
【水平運動・部落史研究】
更生…… 24
警鐘…… 25
初期水平運動資料集…… 25
愛国新聞…… 25
ワシラノシンブン…… 25
創立期水平社運動資料…… 25
民族と歴史…… 25

法律・政治・経済・統計

教化運動…… 26
法律新聞〈明治期〉…… 26
法律新聞 ＤＶＤ－ＲＯＭ版 …… 26

斯民（しみん）…… 26
国家学会雑誌〈明治期〉〈大正期〉〈昭和期〉 …… 27
通商彙纂〈第Ⅰ期〉〈第Ⅱ期〉〈第Ⅲ期〉 …… 27
通商公報〈第Ⅰ期〉〈第Ⅱ期〉〈第Ⅲ期〉 …… 28
日刊 海外商報 …… 28
海外日本実業者の調査…… 28
戦前期 海外商工興信録集成 …… 28
中央銀行会通信録〈明治期〉〈大正期〉〈昭和期〉 … 29
大阪銀行通信録〈明治期〉〈大正期〉〈昭和期〉 … 29
近代日本「市場」関係資料集…… 30
ゾルゲ事件史料集成 太田耐造関係文書… 30
経済月報…… 30
戦時下政治行政活動史料1941-1945
（十五年戦争極秘資料集補巻㊹）…… 30
昭和大礼記録資料…… 30
小繋事件裁判資料集 DVD版 …… 30
渋沢栄一記念財団の挑戦…… 31
渋沢栄一と中国
―― 一九一四年の中国訪問 …… 31
太平洋にかける橋
――渋沢栄一の生涯 …… 31
日本流人島史…… 31
金融雑誌の展開…… 31
在日コリアンの経済活動…… 31
土地が哭いている
――農地改革と農地法八十条 …… 31

建築・都市・地理・民俗・観光

風景…… 32
都市不燃化…… 32
新都市…… 32
都市創作…… 32
昭和10年全国商店街調査資料…… 32
『町会』『町と生活』 …… 33
新建築…… 33
近代建築画譜 近畿編 …… 33
東京百建築…… 33
大阪府写真帖…… 33
京都地籍図…… 33
古蹟…… 34
史蹟名勝天然紀念物〈大正編〉 …… 34
史蹟名勝天然紀念物
〈昭和編 第Ⅰ期～第Ⅳ期〉 …… 34
國立公園…… 34
遍路…… 34
東京地籍図…… 34
外邦測量沿革史 草稿
（十五年戦争極秘資料集 補巻㉚） …… 35
研究蒐録 地図
（十五年戦争極秘資料集 補巻㊳） …… 35
陸地測量部沿革誌…… 35
皇室陵墓…… 35

移民

力行（りっこう）世界…… 36
週刊南米…… 36
戦前期ブラジル移民日本語読本…… 36
日本移民協会報告…… 36
カナダ移民史資料…… 36
カナダ移民史資料Ⅱ…… 37
海外各地在留本邦人 職業別人口表 …… 37
戦前期中国在留日本人統計…… 37
移民地事情…… 37
ハワイ日本語学校教科書集成…… 37
日系アメリカ文学雑誌集成…… 37
輝号（かがやきごう）（十五年戦争重要文献シリーズ 補集③）…… 38
移民の魁傑・星名謙一郎の生涯
――ハワイ・テキサス・ブラジル …… 38
日本人移民ハワイ上陸拒絶事件
――領事報告を中心に …… 38
日本人カナダ移民史…… 38
日本人アメリカ移民史…… 38
戦後日系カナダ人の社会と文化…… 38
交錯する国家・民族・宗教――移民の社会適応 … 38
日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学… 38

「出稼ぎ」から「デカセギ」へ
——ブラジル移民100年にみる人と文化のダイナミズム…… 38
エスニック学生組織に見る「祖国」
——フィリピン系アメリカ人のナショナリズムと文化…… 38
来日留学生の体験
——北米・アジア出身者の1930年代 …… 38
実業家とブラジル移住…… 39
アメリカ日系二世と越境教育
——1930年代を主にして …… 39

沖縄

よみがえる 沖縄 米国施政権下のテレビ映像
——琉球列島米国民政府（ＵＳＣＡＲ）の時代… 40
文教時報…… 40
占領下の奄美・琉球における教員団体
関係史料集成…… 40
地域と文化…… 40
月刊 文化沖縄 …… 40
八重山文化…… 41
沖縄文化…… 41
おきなわ…… 41
琉球要覧…… 41
琉球統計年鑑…… 41
今日の琉球…… 41
守礼の光 ＤＶＤ版 …… 42
沖縄教育…… 42
うるま新報…… 42
琉球新報…… 42
沖縄新民報・自由沖縄…… 42
占領期・琉球諸島新聞集成…… 42
近代沖縄新聞集成 ＤＶＤ版 …… 43
戦後初期沖縄解放運動資料集 ＤＶＤ版 … 43
「島ぐるみ闘争」はどう準備されたか … 43
移行する沖縄の教員世界
——戦時体制から米軍占領下へ…… 43
アヘンとユートピア
——イギリス艦来琉（1816年）をめぐる考察と史料紹介… 43
英人バジル・ホールと大琉球
——来琉二百周年を記念して …… 43
クリフォード訪琉日記
——もうひとつの開国…… 43
日本近代史のなかの沖縄…… 43
沖縄と色川大吉…… 43

旧外地・アジア近現代史

【満洲・蒙古】

満蒙〈第Ⅰ期〉〈第Ⅱ期〉〈第Ⅲ期〉…… 45
拓け満蒙・新満洲・開拓…… 45
旅行満洲…… 46
満洲開拓関係雑誌集成…… 46
東京大学薬学図書館薬史学文庫所蔵
「北支関係・満洲関係」綴
（十五年戦争極秘資料集 補巻㊷）…… 46
満蒙開拓青少年義勇軍関係資料…… 46
興亜会報告・亜細亜協会報告…… 46
日本人民反戦同盟資料…… 47
興農合作社関係資料 DVD版 …… 47
近代日本と「満州国」…… 47
「満洲国」資料集積機関概観 …… 47
《満洲国》文化細目 …… 47
満洲泰阜（やすおか）分村——七〇年の歴史と記憶 …… 47
満鉄調査部と中国農村調査
——天野元之助中国研究回顧 …… 47
長野県飯田下伊那の満洲移民関係資料目録… 47

【朝鮮・韓国】

朝鮮治安関係資料集成
〈第Ⅰ期〉〈第Ⅱ期〉〈第Ⅲ期〉 …… 48
朝鮮総督府 帝国議会説明資料 …… 48
朝鮮総督府 帝国議会説明資料
〈第４回配本〉…… 48
外交史料 韓国併合 上・下 …… 48
植民地下 朝鮮におけるハンセン病資料集成… 49
朝鮮憲兵隊歴史…… 49
朝鮮の治安状況 大正13年12月 …… 49
国策会社・東拓の研究…… 49

植民地朝鮮における朝鮮語奨励政策
——朝鮮語を学んだ日本人 …… 49
【中国・その他】
華文大阪毎日…… 50
根岸佶(ただし)著作集…… 50
旧外地「工場名簿」集成…… 50
上海新報…… 50
中国農業経済論…… 50
情報（十五年戦争極秘資料集 補巻㉟）…… 51
特調班月報・通訊
（十五年戦争極秘資料集 補巻㊵） …… 51
東亜同文書院 中国調査旅行記録 …… 51
東亜同文書院の教育に関する多面的研究… 51
反帝新聞…… 51
初期コミンテルンと東アジア…… 51
日本帝国主義下の植民地労働史…… 51
日本反帝同盟史研究
——戦前期反戦・反帝運動の軌跡 …… 51
中国残留日本人孤児に関する調査と研究
上・下 …… 51
清水安三と北京崇貞学園
——近代における日中教育文化交流史の一断面… 52
【台湾・南洋・東南アジア・西アジア】
新亜細亜…… 52
南洋群島…… 52
台湾総督府第六十回帝国議会説明資料
（十五年戦争極秘資料集 補巻㊽） …… 52
台湾議会設置関係書類
（十五年戦争極秘資料集 補巻㊿） …… 52
資料集 終戦直後の台湾 …… 53
台湾引揚者関係資料集…… 53
旧制台北高等学校同窓会誌『蕉葉会報』… 53
植民地文化研究 創刊号～第21号…… 54

戦時下統制関係資料

文部省思想統制関係資料集成…… 55
情報局関係極秘資料…… 55
戦前期警察関係資料集〈第Ⅰ期〉…… 55
戦前期警察関係資料集〈第Ⅱ期〉
岡山県特高警察資料 …… 55
特高警察関係資料集成〈第Ⅰ期〉…… 55
特高警察関係資料集成〈第Ⅱ期〉…… 56
台湾出版警察報…… 56
出版警察報…… 56
出版警察資料…… 56
出版警察概観…… 56
外務省警察史…… 56
外事警察概況…… 57
外事警察報…… 57
外事警察報 補巻 …… 57
外事月報…… 57
外事警察資料…… 57
海外よりの左翼宣伝印刷物集…… 57
宣撫月報（十五年戦争極秘資料集 補巻㉕）…… 58
陸軍省『調査彙報』（十五年戦争極秘資料集 補巻㉙）… 58
戦時期早稲田大学学生読書調査報告書… 58
特高警察関係資料解説…… 58

十五年戦争極秘資料集 全30集

① 大東亜戦争ニ伴フ我カ人的国力ノ検討… 59
② ババル島事件関係書類 …… 59
③ 沖縄秘密戦に関する資料 …… 59
④ 満洲事変における憲兵隊の行動に関する資料… 59
⑤ 東京裁判 大山文雄関係資料…… 59
⑥ 高等外事月報 …… 59
⑦ 大東亜縦貫鉄道関係書類 …… 59
⑧ 重慶中国国民党在港秘密機関検挙状況… 59
⑨ 支那事変大東亜戦争間 動員概史…… 59
⑩ 戦争栄養失調症関係資料 …… 59
⑪ 俘虜ニ関スル諸法規類聚 …… 59
⑫ 軍律会議関係資料 …… 59
⑬ 華中宣撫工作資料 …… 59
⑭ 思想彙報 …… 59
⑮ 朝鮮軍概要史 …… 59
⑯ 俘虜取扱に関する諸外国からの抗議集… 59
⑰ 在満軍法会議處刑特殊犯罪集 …… 59

⑱ 毒ガス戦関係資料 …… 59
⑲ 台湾島内情報・本島人の動向 …… 59
⑳ 海軍法務資料 馬場東作綴（ばばとうさくつづり） …… 59
㉑ 戦時下国民栄養の現況調査報告書 … 59
㉒ 満州移民拓務局原資料 …… 59
㉓ 国民義勇隊関係資料 …… 59
㉔ 久留米師団召集徴発雇用書類 …… 59
㉕ 台湾霧社事件軍事関係資料 …… 59
㉖ 初期の満州国軍に関する資料 …… 59
㉗ 陸海軍省法務局長巡察報告 …… 59
㉘ 朝鮮思想運動概況 …… 59
㉙ 七三一部隊作成資料 …… 59
㉚ 外邦兵要地図整備誌 …… 59

十五年戦争極秘資料集　補巻

① 毒ガス戦教育関係資料 …… 60
② 毒ガス戦関係資料Ⅱ …… 60
③ 思想彙報Ⅱ …… 60
④ 戦時下国民栄養の現況調査報告書〔昭和18年〕… 60
⑤ 第一次上海事変における第九師団軍医部
「陣中日誌」…… 60
⑥ 盧溝橋事件期支那駐屯憲兵隊
重松関係文書 …… 60
⑦ 韓国併合始末 関係資料…… 60
⑧ 軍隊警察の対立と憲兵指令部
重松関係文書Ⅱ …… 60
⑨ 南方地域現地自活教本 …… 60
⑩ 戦後の皇軍 重松憲兵少佐綴…… 60
⑪ 二反長音蔵・アヘン関係資料 …… 60
⑫ 東亜諸民族の死亡に関する衛生統計的調査… 60
⑬ 関東軍参謀部作成 総動員関係調査資料… 60
⑭ 軍律法廷審判例集 …… 60
⑮ 南方方面海軍資料 …… 60
⑯ 陸軍に於ける花柳病 …… 60
⑰ 毒ガス戦教育関係資料Ⅱ …… 60
⑱ 十五年戦争末期国内憲兵分遣隊報告 … 60
⑲ 日本占領下上海における日中要人
インタビューの記録 …… 60
⑳ 満洲国軍ノ現況 …… 60
㉑ ベンゾイリン不正輸入事件関係資料… 60
㉒ 終戦後の法令 制定・改正・廃止
経過一覧 …… 60
㉓ 陸軍軍医学校防疫研究報告 …… 60
㉔ 山東出兵時における
「第三師団特種研究記事」…… 60
㉕ 宣撫月報 …… 60
㉖ 五・一五事件期憲兵司令部関係文書… 60
㉗ 関東軍化学部・毒ガス戦教育演習
関係資料 …… 60
㉘ 資料集成 戦争と障害者〈第Ⅰ期〉…… 60
㉙ 陸軍省『調査彙報』…… 60
㉚ 外邦測量沿革史　草稿 …… 60
㉛ 大同保育隊報告 …… 60
㉜ 戦場心理の研究 …… 60
㉝ 満洲事変日誌記録 …… 60
㉞「合作社事件」関係資料…… 61
㉟ 情報 …… 61
㊱ 南満州鉄道株式会社
帝国議会説明資料・別冊 …… 61
㊲ 陸軍経理学校五十年史 …… 61
㊳ 研究蒐録　地図 …… 61
㊴ 東京時事資料月報 …… 61
㊵ 特調班月報・通訊 …… 61
㊶ 大阪府特高警察関係資料――昭和二〇年… 61
㊷ 憲兵隊が記す日中開戦時の国内状況… 61
㊸ 内外地憲兵隊にみる検閲錬成 …… 61
㊹ 戦時下政治行政活動史料1941-1945… 61
㊺ 海軍軍法会議判例類集 …… 61
㊻ 陸軍軍法会議判例類集 …… 61
㊼ 総力戦研究所関係資料集 …… 61
㊽ 台湾総督府第六十回帝国議会説明資料… 61
㊾ 迫撃第五大隊毒ガス戦関係資料 …… 61
㊿ 台湾議会設置関係書類 …… 61
(51) 海軍兵学校第三十七期クラス会誌
『海軍生活の思い出』…… 61

㊷ 東京大学薬学図書館薬史学文庫所蔵
「北支関係・満洲関係」綴 …… 61
㊸ 陸軍軍医学校防疫研究報告
第９冊・補遺 …… 61

十五年戦争重要文献シリーズ 全20集

① 軍医官の戦場報告意見集 …… 62
②『集報』――南京日本人収容所新聞… 62
③ 中華民国よりの掠奪文化財総目録 … 62
④ 興亜青年勤労報国隊　東朝義記録（あずまあさよし） … 62
⑤ 火焔樹――東南アジア強制労働下の機関誌… 62
⑥ 軍紀・風紀に関する資料 …… 62
⑦ 支那駐屯憲兵隊関係盧溝橋事件期資料… 62
⑧ 俘虜情報局・俘虜取扱の記録
付＝海軍兵学校『国際法』…… 62
⑨ ＧＨＱ（マ元帥）処刑命令書 …… 62
⑩ 昭和十年前後期 支那駐屯軍憲兵部文書… 62
⑪ 朝鮮徴兵準備読本 …… 62
⑫ 特殊労務者の労務管理 …… 62
⑬ 大東亜舞台芸術研究所関係資料 …… 62
⑭ 満州建設勤労奉仕隊関係資料 …… 62
⑮ 中国人日本留学史稿 …… 62
⑯ 興亜学生勤労報国隊関係資料 …… 62
⑰ 興亜院刊行図書・雑誌目録 …… 62
⑱ 久米島住民虐殺事件資料 …… 62
⑲ 学生義勇軍関係資料 …… 62
⑳ 二・二六事件 警察秘録…… 62

十五年戦争重要文献シリーズ 補集

① 原子爆弾災害調査報告 …… 63
② 唯研ニュース …… 63
③ 輝　号（かがやきごう）〔ブラジル「勝ち組」広報誌〕 …… 63

戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史

迫撃第五大隊毒ガス戦関係資料
（十五年戦争極秘資料集 補巻㊾） …… 64
十五年戦争陸軍留守名簿資料集…… 64
総力戦研究所関係資料集
（十五年戦争極秘資料集 補巻㊼） …… 64
海軍兵学校第三十七期クラス会誌
『海軍生活の思い出』
（十五年戦争極秘資料集 補巻㊿） …… 65
原子爆弾災害調査報告
（十五年戦争重要文献シリーズ 補集①）…… 65
陸軍軍医学校防疫研究報告
（十五年戦争極秘資料集 補巻㉓） …… 65
陸軍軍医学校防疫研究報告　第９冊・補遺
（十五年戦争極秘資料集 補巻㊸） …… 65
艦内新聞集成…… 65
大東亜戦争俘虜関係外交文書集成…… 65
信友…… 66
すがも新聞 ＤＶＤ版 …… 66
巣鴨プリズン三部作…… 66
戦犯裁判の実相…… 66
生物兵器防御研究…… 66
七三一部隊1931-1940
――「細菌戦」への道程 …… 66
黒死病――加藤秀造小説集 …… 66
七三一細菌戦部隊・中国新資料…… 66
「七三一部隊」罪行鉄証
――特移扱・防疫文書編集 …… 67
「七三一部隊」罪行鉄証
――関東憲兵隊「特移扱」文書…… 67
公判記録 七三一細菌戦部隊 …… 67
シンガポール英軍法廷 華僑虐殺事件起訴詳報… 67

戦後史

赤光（しゃっこう）…… 68
情況〈第１次〉…… 68
「三鷹事件」裁判関係資料集 DVD－ROM版… 68
戦後日本共産党関係資料…… 68
朝鮮戦争下 公安関係資料――光永源槌資料… 68
特審月報…… 69
在日朝鮮人関係資料集成〈戦後編〉…… 69
藤井忠俊著作集…… 69

民衆史の狼火を――追悼 色川大吉 …… 69
国連軍の犯罪
――民衆・女性から見た朝鮮戦争 …… 69
昭和の闇を生きて…… 69
顔のない国
――戦後の虚妄と国の品位喪失を問う …… 69
ベトナム通信…… 69

教育

幼小接続資料集成…… 71
子供の教養…… 71
戦前期愛育会関係資料集成…… 71
関西連合保育会雑誌…… 71
大正新教育 学級・学校経営重要文献選… 71
東京帝国大学農学部 学徒動員関係史料… 72
教育修身研究…… 72
台湾教育〈大正期〉…… 72
戦後改革期文部省実験学校資料集成
〈第Ⅰ期〉 …… 72
戦後改革期文部省実験学校資料集成
〈第Ⅱ期〉 …… 72
戦後改革期文部省実験学校資料集成
〈第Ⅲ期〉 …… 72
東京府教育会雑誌…… 73
良民…… 73
『帝國青年』『青年』 …… 73
戦後新教育・「実力の検討」実践資料集… 73
旧制成城高等学校尋常科地理自学書集… 73
近・現代日本教育会史研究…… 73
青少年の逸脱をめぐる教育史…… 73
東京外国語学校史――外国語を学んだ人たち…… 74
近代日本の女性と大学教育…… 74
田澤義鋪(たざわよしはる)選集…… 74
山本瀧之助の生涯と社会教育実践…… 74
若者仲間の歴史…… 74
【学校新聞】
帝國大學新聞…… 75
東京大学新聞…… 75
三田新聞…… 75
成城学園時報…… 76
大倉高商新聞・東京経済大学新聞…… 76
一橋(いっきょう)新聞…… 76
小商科大学新聞『緑丘』 …… 76
緑丘五十年史…… 76
【近代社会教育史料集成】
大日本青年團史…… 77
大日本青少年団史…… 77
山本瀧之助全集…… 77

生活・文化・芸術・映画

家の光…… 78
記録映画…… 78
記録映画作家協会会報…… 78
旬刊美術新報…… 79
ソヴェト文化…… 79
ソヴェト映画…… 79
三好十郎著作集…… 79
文化生活〈文化普及会刊〉…… 79
家庭科学〈戦前編〉…… 79
昭和戦前期 日本公衆衛生史 …… 80
月刊民藝・民藝…… 80
工藝 DVD－ROM電子版 …… 80
映画検閲時報…… 80
映画創造…… 80
音楽 ＤＶＤ版 …… 80
演芸画報〈昭和編〉…… 81
演藝画報 ＤＶＤ版 …… 81
築地小劇場…… 81
『築地小劇場』ポスター・プログラム … 81
戦時国民生活最低基準ニ関スル答申書… 81

労働・社会運動

何を読むべきか…… 82
安全第一…… 82
進め…… 82
社会運動の状況〈大正15年版・昭和２年版〉… 82

一九二〇年代社会運動関係警察資料…… 82
映像で見る賀川豊彦とその時代 DVD版… 83
安全第一の誕生——安全運動の社会史
〔増補改訂版〕…… 83
磯野小作争議・小樽港湾争議 資料集 … 83
労働週報…… 83
空中征服——賀川豊彦、大阪市長になる…… 83
日本労働新聞…… 83
青い鳥はいなかった
——薬害をめぐる一人の親のモノローグ … 83
山本宣治写真集…… 83
大正デモクラシー下の〝地域振興〟…… 83
ある明治社会主義者の肖像
〔山根吾一覚書〕…… 83
「我が職業は普通選挙なり」
——中村太八郎とその周辺 …… 83

近現代文学

宮本百合子裁判資料——「手記」と「聴取書」… 85
冬柏…… 85
文藝…… 85
文學界…… 85
文庫…… 85
日光…… 86
新著月刊…… 86
青年文…… 86
穎才(えいさい)新誌…… 86
小国民…… 86
文学案内…… 86
農民…… 87
現代日本詩集 1927年～1944年…… 87
ゲエ・ギムギガム・プルルル・ギムゲム… 87
三人…… 87
文芸時報…… 87
文学報国…… 87
文芸懇話会…… 88
人民文庫…… 88
図書新聞…… 88
週刊 読書人 …… 88
黒煙…… 88
生長する星の群…… 88
峠…… 89
層雲…… 89
貴司山治全日記 DVD版 …… 89
貴司山治研究…… 89
「日本近代文学における上海」
研究文献目録 1840年－1945年…… 89
坑夫…… 89
文学時標…… 89
社会文学 一九二〇年前後
——平林初之輔と同時代文学 …… 89
病中放浪…… 89
有聲無聲…… 89
創作 労働問題 …… 90
安成貞雄——その人と仕事 …… 90
社会文学 創刊号～第57号…… 91
【戦後文化運動雑誌叢書】
午前…… 93
文化展望…… 93
鵬・ピオネ・藝術前衛…… 93
サークル村…… 93
人民戦線…… 93
ヂンダレ・カリオン…… 94
東京南部サークル雑誌集成…… 94
綜合文化…… 94
新女性…… 94
人民文学…… 94
学園評論…… 94
琉大文学…… 95
東北文学…… 95
ひろば…… 95
学生評論・季刊大学・大学…… 95
【社会文学雑誌叢書】
家庭雑誌〈堺利彦主宰〉 …… 96
新社会…… 96
国家社会主義…… 96

洪水以後…… 96
文明批評…… 96
中外…… 97
日本評論…… 97
文芸雑誌…… 97
労働文学…… 97
原始…… 97

女性史・女性文学・ジェンダー

処女の友…… 98
連合婦人…… 98
日本婦人…… 98
日本女性運動資料集成…… 98
女性改造〈戦前編〉…… 98
婦選…… 99
婦人運動…… 99
婦人…… 99
廓清（かくせい）…… 99
紅燈下の彼女の生活…… 99
日本廃娼運動史…… 99
買売春問題資料集成〈戦前編〉…… 99
性暴力問題資料集成〈第Ⅰ期〉…… 100
性暴力問題資料集成〈第Ⅱ期〉…… 100
性と生殖の人権問題資料集成…… 100
戦前期 同性愛関連文献集成…… 100
性科学研究…… 100
廃娼…… 100
上毛之青年…… 100
明治初期の三女性
——中島湘煙・若松賤子・清水紫琴…… 101
辛抱づよい者へ…… 101
性の歴史学…… 101
性の国家管理——買売春の近現代史…… 101
評伝 賀川ハル
——賀川豊彦とともに、人々とともに…… 101
福田英子（ひでこ）集…… 101
近代日本女性論の系譜…… 101
ふたつの文化のはざまから
——大正デモクラシーを生きた女…… 101

【女性文学】

日本女性詩集 1930年～1943年…… 102
叢書『青鞜』の女たち…… 102
女子文壇…… 102
『女子文壇』執筆者名・記事名データベース… 102
以良都女（いらつめ）…… 102
新真婦人…… 103
長谷川時雨全集…… 103
婦人文芸…… 103
ビアトリス…… 103
黒薔薇（くろしょうび）…… 103
青鞜の女・尾竹紅吉（こうきち）伝…… 103
文学としての『青鞜』…… 103
青鞜文学集…… 103
鷗外女性論集…… 103

農業史

農家経済調査簿…… 104
農政研究…… 104
東北振興計画集覧…… 104
農政時報…… 104
岐阜県小作争議資料集成…… 104
流芳…… 104

中国語・中国文学・漢文

明治漢文教科書集成…… 105
明治漢文教科書集成 補集…… 105
中国書籍総目録…… 105
人民日報索引…… 105
中国語辞典集成…… 105
中国語学資料叢刊…… 106
中国文学語学資料集成…… 106
中国語文資料彙刊…… 106
中国語教本類集成〈第Ⅰ期 第1集～第5集〉… 106
中国語教本類集成〈第Ⅱ期 第6集～第10集〉… 106
中国語教本類集成 補集…… 106

中国社会主義経済建設文献目録…… 107
紅衛兵新聞目録…… 107
中文資料叢刊 補遺 …… 107
『談藪』研究 …… 107
呉語の研究——上海語を中心にして …… 107
近代日本の中国語教育…… 107
旧外地における中国語教育…… 107
中国における社会主義経済理論の展開… 107
中国語教育史論考…… 107
中国語教育史稿拾遺…… 107
中国語書誌…… 107
中国語関係書書目〔増補版〕…… 108
北京同学会の回想…… 108
波多野太郎博士 覆印語文資料提要…… 108
電脳処理 西夏文雑字研究 …… 108
電脳処理 西夏文字諸解対照表（稿）…… 108
清代中国語 満洲語辞典 …… 108
電脳処理《文海宝韻》研究…… 108
電脳処理 西夏文献《文海》反切法解析… 108
電脳処理 西夏文字字素分析 …… 108
海南島方言基礎語彙集…… 108
契丹小字釋読問題…… 108

【中国共産党史資料叢書】

新中華報〈刷新版〉…… 109
闘争〈瑞金版〉…… 109
布爾塞維克…… 109

解説・解題・総目次・索引シリーズ

■ ジャーナリズム・新聞

『横浜毎日新聞』解説・総目次 …… 110
『近事評論・扶桑新誌』解説・総目次・索引… 110
『自由燈』解説・主要記事索引 …… 110
『牟婁新報』〈第Ⅰ期〉解説・執筆者索引… 110
『牟婁新報』〈第Ⅱ期・第Ⅲ期〉
解説・執筆者索引…… 110
『新聞学院『学報』』解説・総目次・索引 … 110
『現代新聞批判』解説・総目次・索引 … 110
『言論報国』解説・総目次・索引 …… 110
『他山の石』解説・総目次・索引 …… 110
『サラリーマン』解説・総目次・索引 … 110
『号外』解題・総目次・索引 …… 110
『人物評論』解説・総目次・索引 …… 110
『夕刊 新大阪』解説・主要記事索引 …… 110
茅原華山年譜・著作目録稿…… 110
『近きより』解説・総目次・索引 …… 110

■ 宗教

『雑誌『國教』と九州真宗』
解題・総目次・索引…… 110
『遍路』解説・総目次・索引 …… 110
『児童と宗教』解説・総目次・索引 …… 110
『救済』解説・総目次・索引 …… 110
『地の塩』解説・総目次・索引 …… 110
『女子青年界』解説・総目次・索引 …… 111
『救世』解説・総目次・索引 …… 111
『ときのこゑ』解説・総目次・執筆者索引… 111
『婦人新報』解説・総目次・索引 …… 111
『聖化』解説・総目次・索引 …… 111
『七一雑報』解説・総目次・索引 …… 111
『人類愛善新聞』解説 …… 111
『無我の愛』解説・総目次・索引 …… 111
『六合雑誌』解説・執筆者・作品名索引
付＝『創造者』第１号…… 111
『上毛教界月報』解説・総目次・索引 … 111
『近代日本「平和運動」資料集成』
解題・総目次・索引…… 111

■ 心理・医学

『優生學』解説・総目次・索引 …… 111
『変態心理』解説・総目次・索引 …… 111
『変態性慾』解説・総目次 …… 111
『犯罪科學』解説・総目次・索引 …… 111
『精神分析』解説・総目次・索引 …… 111
『人性』解説・総目次・索引 …… 111
『優生運動』解説・総目次・索引 …… 111

■ 思想・哲学

『成功』解題・総目次 …… 111

■ 社会福祉

『東京都養育院月報』
解説・回想・総目次…… 111
『東京市養育院月報』解説・総目次・索引 … 111
『東京孤児院月報』解説・総目次・索引 … 112
『獄事叢書』解説・総目次・索引 …… 112
『労働共済』解説・総目次・索引 …… 112
『石川県之社会改良』解説・総目次・索引 … 112
『社会事業彙報』解説・事項索引 …… 112

■ 人権

『近現代日本ハンセン病問題資料集成』
〈戦前編・戦後編〉解説・総目次 …… 112
『近現代日本ハンセン病問題資料集成』
〈補巻１～15〉解説・総目次 …… 112
『近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻16～19〉
日本ＭＴＬ』解説・総目次・索引 …… 112
『愛生』〈戦前編〉総目次・索引 …… 112
『愛護』解説・総目次・索引 …… 112
『更生』解説・総目次・索引 …… 112
『初期水平運動資料集』解説・総目次・索引 … 112
『創立期水平社運動資料』解説・細目次 … 112
『民族と歴史』解説・総目次・索引 …… 112

■ 法律・政治・経済・統計

『法律新聞』総目次 …… 112
『通商公報』解説・総索引 …… 112
『日刊 海外商報』解説・総目次…… 112
『中央銀行会通信録』解題・記事総索引 112
『大阪銀行通信録』解説・総目次 …… 112
『近代日本「市場」関係資料集』解説／近代
日本「市場」関係資料目録…… 112
『斯民』目次総覧〈新版〉 …… 112
『経済月報』解題・総目次 …… 112
『昭和大礼記録資料』解説 …… 113
『小繋事件裁判資料集』
解説・解題・各裁判記録細目次…… 113
『教化運動』解説・総目次・索引 …… 113

■ 建築・都市・地理・民俗・観光

『風景』総目次・索引 …… 113
『都市不燃化』解題・総目次・索引 …… 113
『新都市』解説・総目次・索引 …… 113
『都市創作』解説・総目次・索引 …… 113
昭和10年全国商店街調査資料
別巻＝解題・参考資料編…… 113
『町会』『町と生活』解説・総目次・索引 … 113
『新建築』解説・総目次・索引 …… 113
『都市美』監修の辞・解説・総目次・索引 … 113
『京都地籍図』解説 …… 113
『古蹟』解説・総目次・索引 …… 113
『史蹟名勝天然紀念物』〈大正編〉
解説・総目次・索引…… 113
『史蹟名勝天然紀念物』〈昭和編〉
解題・総目次・索引…… 113
『國立公園』解題・総目次・索引 …… 113
『東京地籍図』解説 …… 113
『外邦測量沿革史 草稿』解説・総目次… 113
『建築と社会』解説・総目次・索引 …… 113
『都市公論』総目次・索引 …… 113

■ 移民

『力行世界』『力行』『力行網』『渡米新報』
解説・総目次・索引…… 113
『カナダ移民史資料』別冊（英文） …… 113
『移民地事情』解説・総目次 …… 114
日系アメリカ文学雑誌研究
――日本語雑誌を中心に …… 114
『殖民協会報告』解説・総目次・索引 … 114

■ 沖縄

『文教時報』解説・総目次・索引 …… 114
『占領下の奄美・琉球における教員団体
関係史料集成』解説・総目次・索引 … 114
『地域と文化』解説・総目次・索引 …… 114
『月刊 文化沖縄』解説・総目次・索引… 114
『八重山文化』解説・総目次・索引 …… 114
『おきなわ』解説・総目次・索引 …… 114
『今日の琉球』解説・総目次・索引 …… 114
『守礼の光』解説・総目次・索引 …… 114
『沖縄教育』解説・総目次・索引 …… 114

■ 旧外地・アジア近現代史

『満蒙』総目次・執筆者索引 …… 114
『拓け満蒙』『新満洲』『開拓』
解説・解題・総目次…… 114
『満洲開拓関係雑誌集成』解題・総目次 … 114
日本人民反戦同盟資料
解説・解題・総目次…… 114
『興農合作社関係資料』解説・総目次 … 114
『情報』解題・総目次 …… 114
『新亜細亜』解題・総目次・索引 …… 114
『南洋群島』解説・総目次・索引 …… 114
『満州移民関係資料集成』解説 …… 114

■ 戦時下統制関係資料

『台湾出版警察報』解説・発禁図書新聞
リスト…… 115
出版警察関係資料解説・総目次…… 115
『外務省警察史』解題・総目次 …… 115
『外事警察報』解説・総目次・索引 …… 115
『外事警察報 補巻』解題・総目次・索引 … 115
『宣撫月報』解説・総目次・索引 …… 115
陸軍省『調査彙報』解説・総目次…… 115

■ 戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史

『総力戦研究所関係資料集』解説・総目次… 115
『陸軍軍医学校防疫研究報告』解説・総目次… 115
『陸軍軍医学校防疫研究報告』
解説・総目次〈改訂版〉…… 115
『信友』解題・総目次・索引・年表 …… 115
『すがも新聞』解題・総目次・年表 …… 115

■ 戦後史

『赤光』総目次・索引・附『赤光』第1号… 115
『情況』〈第1次〉解説・回想・総目次・索引… 115
『「三鷹事件」裁判関係資料集』解説・資料目録… 115
『戦後日本共産党関係資料』収録資料目録… 115
『戦後日本共産党関係資料』解題・解説 … 115
『朝鮮戦争下 公安関係資料――光永源槌
資料』解説・解題・収録資料目録… 115
『特審月報』解説・総目次 …… 115

■ 教育

『幼小接続資料集成』解説 …… 115
『教育修身研究』解説・総目次 …… 116
『台湾教育』総目次・索引 …… 116
『東京府教育会雑誌』
解説・総目次・関連年表…… 116
『良民』解説・総目次 …… 116
『帝國青年』『青年』解説・総目次・索引 … 116
『帝國大學新聞』記事・執筆者索引 …… 116
『東京大学新聞』記事・執筆者索引 …… 116
『三田新聞』記事・執筆者索引 …… 116
『成城学園時報』解説・総目次・索引 … 116
『一橋新聞』記事・執筆者索引 …… 116
『壯年團』解説・総目次・索引 …… 116

■ 生活・文化・芸術・映画

『記録映画』解説・総目次・索引 …… 116
『記録映画作家協会会報』
解説・総目次・索引…… 116
『旬刊美術新報』解説・目録 …… 116
『ソヴェト文化』解説・総目次・索引 … 116
『ソヴェト映画』解説・総目次・索引 … 116
『三好十郎著作集』解説・回想・総目次 … 116
『文化生活』〈文化普及会 刊〉
解説・総目次・索引…… 116
『家庭科学』〈戦前編〉解説・総目次・索引 … 116
『月刊民藝・民藝』解説・総目次・索引 … 116
『工藝』解説・総目次・索引 …… 116
『音楽』総目次・索引 …… 116
『築地小劇場』解説・総目次・索引 …… 116
『文化生活』〈文化生活研究会 刊〉
解説・総目次・索引…… 117

■ 労働・社会運動

『安全第一』解説・総目次・索引 …… 117
『一九二〇年代社会運動関係警察資料』
解説・総目録・索引…… 117
『社会運動通信』
解説・総目次・記事・地方別索引… 117

■ 近現代文学

『冬柏』総目次・索引 …… 117
『文藝』解説・総目次・索引 …… 117
『文學界』解説・総目次・索引 …… 117
『文庫』解題・総目次・索引 …… 117
『日光』解説・総目次・索引 …… 117
『新著月刊』解説・総目次・索引 …… 117
『青年文』解説・総目次・索引 …… 117
『穎才新誌』解説・総目次・索引 …… 117
『小国民』解説・解題・総目次・索引
付＝『小国民』綜覧…… 117
『文学案内』解題・総目次・索引 …… 117
『農民』解説・総目次・索引 …… 117
『現代日本詩集』〔1927年～1944年〕
解説・索引…… 117
『ゲエ・ギムギガム・プルルル・ギムゲム』
解説・総目次・索引 …… 117
『三人』解題・回想・総目次・索引 …… 117
『文芸時報』解題・総目次・索引 …… 117
『文芸懇話会』解説・総目次・索引 …… 117
『人民文庫』解説・総目次・索引 …… 117
『図書新聞』解説・記事・執筆者・書評索引
Ⅰ（'49～'59）…… 117
『図書新聞』記事・執筆者・書評索引
Ⅱ（'60～'68）…… 118
『図書新聞』記事・執筆者・書評索引
Ⅲ（'69～'79）…… 118
『図書新聞』記事・執筆者・書評索引
Ⅳ（'80～'88）…… 118
『生長する星の群』解説・総目次・索引… 118
『峠』解説・総目次・索引 …… 118
『午前』解説・回想・総目次・索引 …… 118
『文化展望』解説・総目次・索引 …… 118
『鵬』『ピオネ』『藝術前衛』
解説・総目次・索引…… 118
『サークル村』『労働藝術』『地下戦線』『炭砿
長屋』解説・回想・総目次・索引 …… 118
『人民戦線』解題・総目次・索引 …… 118
『ヂンダレ・カリオン』
解説・鼎談・総目次・索引…… 118
『東京南部サークル雑誌集成』
解説・解題・回想・総目次・索引… 118
『綜合文化』解説・総目次・索引 …… 118
『新女性』解題・総目次・索引 …… 118
『人民文学』解説・解題・回想・総目次・索引 … 118
『学園評論』解題・総目次・索引 …… 118
戦後学生雑誌と学生運動…… 118
『琉大文学』解説・総目次・索引 …… 118
『東北文学』解説・総目次・索引 …… 118
『ひろば』解説・総目次・索引 …… 118
『家庭雑誌』〈堺利彦主宰〉解題・総目次・索引 … 118
『新社会』解題・総目次・索引 …… 118
『洪水以後』解題・総目次・索引 …… 118
『中外』解説・総目次・索引 …… 118
『日本評論』解説・総目次・索引 …… 119
『文芸雑誌』解説・総目次・索引 …… 119
『原始』解説・総目次・索引 …… 119
『日本読書新聞』解説・記事・執筆者・書評索引 … 119
『趣味』解説・総目次・索引 …… 119
『新小説』解説・総目次・索引 …… 119
『天鼓』解説・総目次・索引 …… 119
『火鞭・ヒラメキ』解説・総目次・索引 … 119
『近代思想』解題・総目次・索引 …… 119
『反響』解題・総目次・索引 …… 119
『科学と文芸』解説・総目次・索引 …… 119
『家庭雑誌』〈徳富蘇峰主宰〉解説・総目次・索引 … 119
『新しき村』解説・総目次・索引 …… 119

■ 女性史・女性文学・ジェンダー

『処女の友』解題・総目次・索引 …… 119
『連合婦人』解説・総目次・索引 …… 119
『日本婦人』解説・総目次・索引 …… 119
日本女性運動資料集成別巻＝索引…… 119
『女性改造』〈戦前編〉解説・総目次・索引 … 119
『婦選』解説・総目次・索引 …… 119
『婦人運動』解説・総目次・索引 …… 119
『婦人』解説・総目次・索引 …… 119

『廓清』解説・総目次・索引 …… 119
『買売春問題資料集成』〈戦前編〉
解説・総目次・索引…… 119
『性暴力問題資料集成』解説・総目次 … 120
『性と生殖の人権問題資料集成』
解説・総目次・索引…… 120
『性科学研究』解説・総目次・索引 …… 120
『性と社会』解説・総目次・索引 …… 120
『上毛之青年』解説・総目次・索引 …… 120
『日本女性詩集 1930年～1943年』
解説・総目次・索引…… 120
『女子文壇』解説・総目次・索引 …… 120
『以良都女』解題・総目次・索引 …… 120
『新真婦人』解説・総目次・索引 …… 120
『輝ク』解説・総目次・索引 …… 120
『婦人文芸』解説・総目次・索引 …… 120
『青鞜』解説・総目次・索引 …… 120
『女人藝術』解説・総目次・索引 …… 120
■ 農業史
『農政時報』解説・総目次 …… 120
『流芳』解題・総目次・索引 …… 120
『清明心』解説・資料編 …… 120
■ 中国語・中国文学・漢文
『明治漢文教科書集成』第Ⅰ期・第Ⅱ期
解説…… 120
『明治漢文教科書集成』第Ⅲ期解説・総索引 … 120
『明治漢文教科書集成』補集Ⅰ解説 …… 120
中国雑誌所蔵目録…… 120
人民日報社論索引…… 120
『紅旗週報』解題・総目次・索引 …… 120

品切リスト

書名	巻数	本体価格	刊行年
愛知県農地史	全２冊	42,000 円	1991年
青森県農地改革史		20,000 円	1990年
清明心	全５巻・別冊１	35,000 円	1982年
秋田県農地改革史		24,000 円	1990年
新しき村　大正期	全６巻・別冊１	75,000 円	1988年
石川県農地改革史		24,000 円	1990年
石つぶての中で―モルフィの廃娼運動		1,500 円	1984年
伊藤証信とその周辺		2,000 円	1986年
岩手県農地改革史		12,000 円	1990年
埋もれた明治の青春―松岡荒村		3,800 円	1982年
江口きち資料集成〈塔影詩社蔵〉		4,800 円	2002年
愛媛県農地改革概要		16,000 円	1991年
演芸画報　大正編	全81巻	1,296,000 円	1987～90年
大分県農地改革史		8,500 円	1992年
岡山県農会三十年史		5,500 円	1987年
岡山県農地改革誌		12,000 円	1991年
科学と文芸	全７巻・別冊１	98,000 円	1987年
輝ク	全２巻・別冊１	25,000 円	1988年
香川県農地改革三年史		11,000 円	1992年
各県産業組合史料集成	全37巻	380,000 円	1988～1990年
学生義勇軍		2,000 円	1987年
核戦争の危機に文学者はどのように対するか		1,200 円	1984年
学徒勤労報国隊〈増補改訂版〉		2,800 円	1988年
歌集　巣鴨		3,800 円	1986年
華族財産関係資料	全２巻	28,000 円	1986年
家庭雑誌（徳富蘇峰主宰）	全11巻・別冊１	198,000 円	1986年
加藤完治の世界		2,000 円	1984年
加藤時次郎		1,800 円	1983年
神奈川県農地改革史		11,000 円	1991年
火鞭・ヒラメキ		15,000 円	1985年
簡易生活	全１巻	3,800 円	1983年
岸田俊子研究文献目録 湘煙選集④		3,600 円	1986年
岸田俊子評論集 湘煙選集①		3,600 円	1985年
岸田俊子文学集 湘煙選集②		3,600 円	1985年
恐慌下の東北農村	全３巻	30,000 円	1984年
京都大学新聞	全９巻・別冊１	160,000 円	1986年
『京都大学新聞』記事・執筆者索引		25,000 円	1986年
京都府農会史		5,500 円	1988年
京都府農地改革史		20,000 円	1991年
キリスト教社会福祉思想史の研究―「一国の良心」に生きた人々		13,000 円	1994年
近代思想〈合本版〉		9,800 円	1982年
近代思想〈特装版〉	総27冊・別冊１	28,000 円	1982年
近代日本と「偽満州国」		5,000 円	1997年
近代日本「平和運動」資料集成	全５巻・付録１・別冊１	85,000 円	2005年
クラルテ		4,000 円	1990年
群馬県農地改革誌		7,500 円	1990年
荊逆星霜史		2,800 円	1985年
経済発展過程の研究		5,000 円	1990年
現代ドイツ法社会学入門		2,000 円	1995年
建築と社会	全87巻・別冊１	1,540,000 円	1991～96年
紅旗週報	全７巻	85,000 円	1985年
紅色中華	全３巻	75,000 円	1986年
荒村遺稿		4,500 円	1982年
高知県農地改革史		18,000 円	1991年
抗日朝鮮人の証言―回想の金突破		1,500 円	1984年

書名	巻数	本体価格	刊行年
西園寺公望と明治の文人たち		2,800円	2002年
最近に於ける朝鮮治安状況	昭和11年5月	7,000円	1986年
埼玉県農地改革の実態		12,000円	1990年
佐賀県農地改革史	全2冊	24,000円	1991年
番紅花	全2巻・別冊1	18,000円（上製合本版・函入）	
		35,000円	1984年
『番紅花』解題・総目次・索引		500円	1984年
静岡県農地制度改革誌		26,000円	1990年
島根県農地改革誌	全2冊	40,000円	1990年
社会運動通信	全40巻・別冊1	1,000,000円	1984～86年
『社会福利』総目次・索引		3,000円	1982年
出版警察関係資料集成	全8巻	120,000円	1986年
趣味	全19巻・別冊1	350,000円	1986年
湘煙日記　湘煙選集③		3,600円	1986年
少年園	全13巻・別冊1	220,000円	1988年
『少年園』解説・総目次・索引		2,000円	1988年
上毛教界月報	全12巻	188,000円	1984～85年
昭和初期政党政治関係資料	全4巻	40,000円	1988年
殖民協会報告	全13巻・別冊1	260,000円	1986～87年
女流作家の真髄		1,800円	1987年
資料　平民社の女たち		5,800円	1986年
人性	全17巻・別冊1	374,000円	2001～02年
人道	全20巻・別冊1	260,000円	1983年
『人道』解説・総目次		8,000円	1983年
人民日報索引　第1巻		15,000円	1983年
すがも新聞	全2巻	28,000円	1985年
『進め』解説・総目次・索引		5,000円	1990年
政治の陥穽と文学の自律		2,600円	1995年
西廂記罕見版本考		7,500円	1984年
青鞜	総52冊・別冊1	120,000円	1983年
性と社会	全2巻	15,000円	1995年
青年学校論〈増補改訂版〉		2,800円	1996年
生物科学・毒素兵器の歴史と現状		15,000円	1991年
全国貸本新聞	全2巻	20,000円	2010年
戦後初期沖縄解放運動資料集	全3巻	84,000円	2004～05年
戦後帝大新聞の歴史		2,500円	1988年
戦後婦人界の動向		1,500円	1984年
戦争に対する戦争		2,800円	1984年
壮年團	全7巻・別冊1	98,000円	1985年
続・目の高さで見た中国		1,500円	1995年
孫冶方の社会主義経済理論		1,800円	1985年
「大逆事件」関係外務省往復文書		28,000円	1993年
第三帝国	全9巻・別冊1	170,000円	1983年
『第三帝国』解説・総目次・索引		3,000円	1984年
台湾慰安婦関係資料集	全2巻	50,000円	2001年
魂鎮への道―無意味な死から問う戦争責任		2,000円	1997年
探書五十年		2,800円	1999年
近きより	全1巻	18,000円	1989年
中国経済の諸問題		1,000円	1991年
中国社会主義経済理論論争史　上・下		2,500円	1986年
中国社会主義経済理論論争史（抄訳）		2,400円	1990年
中国の経済改革と経済理論〈増補版〉		2,200円	1989年
中国の経済改革理論10年を回顧する		1,000円	1993年
中国文芸理論に関する文献解題・総目録		1,500円	1983年
朝鮮における日窒コンツェルン		5,000円	1985年
朝鮮の治安状況　昭和2年・5年版	全2冊	18,000円	1984年
天鼓	全2巻	28,000円	1985年
天乃蒼		3,800円	1982年

書名	巻数	本体価格	刊行年
東海地域文化の諸問題		2,500円	1994年
東高時報		8,000円	1982年
徳島県農地改革史		10,000円	1992年
都市公論	全64巻・別冊1	975,000円	1988～92年
都市美	全4巻・別冊1・付録1	100,000円	2007年
栃木県農地改革史		14,000円	1990年
鳥取県農地改革誌		13,000円	1991年
富山県農地改革史		8,000円	1991年
長崎県農地改革史		8,500円	1992年
中里介山の原郷		2,500円	1987年
長野県に於ける農地改革		9,000円	1991年
長野県農地改革史	全2冊	20,000円	1991年
那須皓先生―遺文と追想		4,500円	1985年
新潟県農地改革史	全7冊	115,000円	1991年
新島襄先生の生涯		5,500円	1990年
西ボルネオ住民虐殺事件―検証「ポンテアナ事件」		2,000円	1987年
日・朝・韓 自由人の会 会報		4,500円	1993年
日本学芸新聞	全3巻・別冊1	65,000円	1986年
『日本学芸新聞』解説・総目次・索引		2,000円	1986年
日本読書新聞	全15巻・別冊1	295,000円	1987～88年
入門　中国経済論―中国経済と出会う人のために		2,400円	1992年
女人藝術	総48冊・別冊1・付録1	150,000円	1987年
熱帯野菜園芸		1,600円	1973年
農業年鑑		150,000円	1984年
農山漁村経済更生運動と小平権一		12,000円	1983年
農村青年＝稲垣稔―大正デモクラシーと〈土〉の思想		2,200円	1985年
農村保健衛生実地調査		20,000円	1990年
売文集		5,500円	1985年
母なる大地		1,500円	1982年
反響	全2巻	18,000円	1985年
ＢＣ級戦犯関係資料集成			
①日本ＢＣ級戦犯資料		5,800円	1983年
②ＢＣ級戦犯軍事法廷資料―広東編		4,800円	1984年
③ＢＣ級戦犯横浜裁判資料		6,800円	1985年
④巣鴨プリズン・シベリア日本新聞		4,800円	1986年
⑤ＢＣ級戦犯米軍マニラ裁判資料		5,800円	1986年
⑥大日本帝国 内地 俘虜収容所		6,800円	1986年
⑦大東亜戦下 外地 俘虜収容所		6,800円	1987年
⑧ＢＣ級戦犯フィリピン裁判資料		5,800円	1987年
⑨ＢＣ級戦犯英軍裁判資料（上）		6,800円	1988年
⑩ＢＣ級戦犯英軍裁判資料（下）		5,800円	1989年
⑪ＢＣ級戦犯米軍上海等裁判資料		6,800円	1989年
⑫ＢＣ級戦犯豪軍ラバウル裁判資料		6,800円	1990年
⑬ＢＣ級戦犯豪軍マヌス等裁判資料		6,800円	1991年
⑭ＢＣ級戦犯中国・仏国裁判資料		9,800円	1992年
⑮ＢＣ級戦犯和蘭裁判資料・全巻通覧		9,800円	1992年
ＢＣ級戦犯関係　茶園義男論文集		1,500円	1993年
百五人事件「寺内朝鮮総督暗殺未遂事件」資料集	全4巻	38,000円	1986年
百姓の見たソ連		2,000円	1993年
兵庫県農会史		8,500円	1987年
兵庫県農地改革史		29,000円	1991年
評伝　桐生悠々		1,500円	1987年
広島県農会史		9,000円	1987年
福井県農会史		9,500円	1987年
福井県の農地改革		12,000円	1990年
福岡県農地改革史	全4冊	75,000円	1992年
福島県農地改革史		13,000円	1990年
婦女新聞	全68巻・付録2	1,000,000円	1982～85年

書名	巻数	本体価格	刊行年
『婦女新聞』記事・執筆者索引		28,000円	1985年
『婦女新聞』と女性の近代		3,200円	1997年
婦人界三十五年		18,000円	1984年
文化生活〈文化生活研究会〉	全10巻・別冊1・付録1	154,000円	1995年
『文章倶楽部』総目次・索引		18,000円	1985年
北京における魯迅		980円	1985年
へちまの花	全2巻	5,000円	1984年
『変態心理』と中村古峡―大正文化への新視角		6,500円	2001年
ほうとくまんだら		2,800円	1983年
法律新聞　大正期	全95巻	1,125,000円	1984～86年
昭和期	全95巻	1,200,000円	1987～89年
細川嘉六獄中調書―横浜事件の証言		2,800円	1989年
本土決戦　日本内地防衛軍		4,800円	1986年
魔女の審判〈増補改訂版〉		1,500円	1984年
魔女の論理〈増補改訂版〉		1,500円	1984年
満州移民関係資料集成	全40冊・別冊1	680,000円	1990～92年
満洲帝国協和会組織沿革史		12,000円	1982年
満洲評論	全28巻・補巻1	398,000円	1978年
『満洲評論』解題・総目次		14,000円	1982年
満鉄調査月報	全48巻・別冊1	684,000円	1986～87年
『満鉄調査月報』総目次・索引		1,000円	1987年
満鉄調査時報	全31巻・別冊1	496,000円	1987～88年
『満鉄調査時報』総目次・索引		1,000円	1988年
三重県農会史		19,500円	1987年
都の花	全22巻・別冊1	270,000円	1984～85年
『都の花』解題・総目次・索引		1,000円	1985年
無我の愛	全14巻・別冊1	150,000円	1986年
村を考える―村落論集		4,500円	1986年
山形県農地改革史〈増補改訂版〉		4,500円	1984年
山口県農会史		11,000円	1987年
山口県農地改革誌		9,000円	1991年
山本宣治　上		3,000円	1998年
山本宣治　下		3,500円	1998年
優生運動	全9巻・別冊1	154,000円	1999年
陸軍軍医学校五十年史		20,000円	1988年
六合雑誌	全73巻・別冊1	900,000円	1986～88年
わが生涯の新島襄―森中章光先生日記		2,000円	1991年
我が青春のノモンハン事件スケッチ集		8,000円	1990年
和歌山県農地改革誌		14,000円	1991年
和平は売国か―ある汪兆銘伝		1,800円	1990年

絶版

〈日本近現代史関係〉

日本帝国陸軍と精神障害兵士		5,800円	2006年

品切れ中の商品につきまして、重版等のご希望のお声には前向きに検討致しますため、お目に留まる資料がございましたら、電話やFAX、メールなどでお気軽にご希望をお寄せ下さい。

ジャーナリズム・新聞

横浜活版社ほか 刊〔明治３年～明治39年刊〕

横浜毎日新聞 全149巻・別冊１

揃定価 3,245,000円（揃本体 2,950,000円＋税10%）

第Ⅰ期 全45巻〔第１巻～第45巻〕・別冊１

別冊＝解説（甘利璋八）・総目次　全３巻
Ａ４判・上製・総 20,000頁
揃定価 957,000円（揃本体 870,000円＋税10%）
〔第１回～第15回配本〕
'89年５月～'93年１月配本完結〔復刻版〕

第Ⅱ期 全47巻〔第46巻～第92巻〕

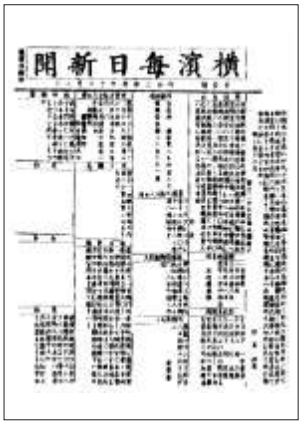
門奈直樹 解説（第46巻に収録）
Ａ４判・上製・総 17,000頁
揃定価 1,034,000円（揃本体 940,000円＋税10%）
〔第16回～第27回配本〕
'93年４月～'96年１月配本完結〔復刻版〕

第Ⅲ期 全57巻〔第93巻～第149巻〕

門奈直樹 解説（第149巻に収録）
Ａ４判・上製・総 22,010頁
揃定価 1,254,000円（揃本体 1,140,000円＋税10%）
〔第28回～第42回配本〕
'96年４月～'99年10月配本完結〔復刻版〕

『横浜毎日新聞』は、明治３年12月８日（陰暦）、日本で初めての日刊新聞として創刊された。当初は貿易商況記事を主としていたが、政論新聞時代の展開と共に政治性を帯びていき、明治12年、沼間守一が同紙を買収し社長につくとともに、編集局を横浜から東京へ移し、紙名も『東京横浜毎日新聞』と改め、民権派言論の一翼を担うに至り、俄然注目を集めた。本紙は、日本近代史・政治史・社会史・文化史の研究等に必須の基礎的資料である。
●**推薦**＝内川芳美・北根　豊・羽島知之・服部一馬

◎紙名の変遷
『**横浜毎日新聞**』明治３年12月８日→12年11月16日
『**東京横浜毎日新聞**』明治12年11月18日→19年４月30日
『**毎日新聞**』明治19年５月１日→39年６月30日


横濱毎日新聞

秋山定輔 主宰〔明治26年～明治42年刊〕

二六新報 全48巻

Ｂ４判・上製・総 18,000頁
揃定価 1,056,000円（揃本 960,000円＋税10%）
'92年６月～'96年６月配本完結〔復刻版〕

本紙は、秋山定輔が26歳のとき明治26年10月26日に創刊された日刊新聞である。藩閥政治反対を唱え、朝鮮問題や中国の動向に注目した独立の政論新聞であったが、いったんは経営難から休刊した。明治33年、再興された『二六新報』（第二次）は、三井財閥攻撃・娼妓自由廃業支援・労働者懇親会の開催など社会問題のキャンペーンに重点をおき、紙面を大衆向けに面白くし、かつ廉価販売によって、全盛時代には『万朝報』を抑え最高18万部を発行した。
●**推薦**＝飛鳥井雅道・荒瀬　豊・姜在彦・山本武利

林 正明 主宰〔明治９年～明治16年刊〕

近事評論・扶桑新誌 全11巻・別冊１

別冊＝解説（水野公寿）・総目次・索引
Ａ４判・上製・函入・総 4,200頁
揃定価 198,000円（揃本体 180,000円＋税10%）
'90年４月～10月配本完結〔復刻版〕

『近事評論』『扶桑新誌』（のちに改題して『政海志叢』）は、ともに林正明の主宰する共同社より発行された民権派の代表的雑誌である。自由主義思想に立つ時事評論誌として明治政府を内外から揺るがす諸問題――士族問題・条約改正・朝鮮問題・琉球処分問題などを鋭く論じ続けた。そのラジカルな政府批判によってしばしば発売禁止や発行停止、検閲処分などに遭いながら、新しい視点を提示し続けた本誌を近代史研究に欠かせない資料として復刻する。
●**推薦**＝荒瀬　豊・我部政男・後藤　靖・松永昌三・矢沢康祐

「東京朝日新聞」の前身紙〔明治17年～明治21年刊〕

自由燈（じゆうのともしび） 全13巻・別巻1

別巻＝解説（松尾章一）・主要記事索引
Ｂ４判・上製・総4,210頁
揃定価418,000円（揃本体380,000円＋税10%）
'06年6月～'07年3月配本完結〔復刻版〕

本紙は、明治17年5月11日に自由党最高幹部の1人であった星亨によって創刊された小新聞である。

本紙の役割は2つあった。第1には政府からの強まる弾圧を受けて、万一それまでの政党機関紙である『自由新聞』が停刊になった際の代用紙たる役割。もう1つは、国会開設や憲法発布を控えて激化し続ける民権陣営と政府との戦いの中で、それまで以上に自由民権運動思想を国民の間に宣伝する機関紙としての使命であった。

継続後紙の『燈新聞』『めさまし新聞』までを収録し復刻。

●**推薦**＝安在邦夫・色川大吉・谷川惠一・土屋礼子

毛利柴庵 主筆〔明治33年～大正9年刊〕

牟婁（むろ）新報 全33巻・補巻1・別冊2

Ｂ４判・Ａ４判・上製・総11,424頁
揃定価1,027,400円（揃本体934,000円＋税10%）
'01年5月～'06年1月配本完結〔復刻版〕
別冊＝「第Ⅰ期」解説（門奈直樹・武内善信）・執筆者索引
「第Ⅱ期／第Ⅲ期」解説（武内善信・中瀬喜陽）・執筆者索引

明治33（1900）年、和歌山県田辺市で毛利柴庵によって創刊された本紙は、県内外から多くの革新的思想家たちが寄稿し、平民社落城後の初期社会主義の砦ともいうべき存在となった。世界的な民俗学者・博物学者として知られる南方熊楠が健筆を揮って、柴庵とともに環境保全・自然保護の問題に取り組んだこともその大きな特色である。

エコロジー運動のさきがけとしても貴重な資料である。

●**推薦**＝赤松徹眞・高嶋雅明・鶴見和子・中瀬喜陽・堀切利高

むのたけじ 発行責任者
たいまつ新聞社 発行〔昭和23年～昭和53年刊〕

週刊たいまつ 全5巻

Ｂ４判・上製・総1,722頁
揃定価99,000円（揃本体90,000円＋税10%）
'18年12月刊〔復刻版〕

『週刊たいまつ』は、戦争報道に責任を感じて朝日新聞社を退社したむのたけじが昭和23年、「反省と反戦」を掲げて秋田県横手市で創刊した地域新聞である。激動の戦後日本にあって、農村の貧困・出稼ぎ・サークル活動など身近な暮らしの中の出来事と、国や世界全体の問題とのつながりを問い続けた本紙は、文字通り人々のために暗闇を照らし出す「たいまつ」であった。昭和53年までの全780号を復刻した本書は、ジャーナリズム・メディア研究にとって不可欠なばかりではなく、戦後文化、地域史、市民運動史を知るための生きた資料である。

●**推薦**＝門奈直樹・小森陽一

案内新聞社 発行〔昭和22年～昭和23年刊〕

週刊案内新聞 全1巻

Ｂ４判・上製・168頁
定価27,500円（本体25,000円＋税10%）
'19年1月〔復刻版〕

『週刊案内新聞』は「一目でわかる東京の一週間」をキャッチフレーズに、昭和22年から約1年間発行された情報紙である。後の情報誌『ぴあ』を思わせる紙面には、映画、演劇、展覧会、講演、労働組合や宗教・政治の集会、競馬、スポーツ、地域の祭り、ラジオ、レコードや新刊書の案内など、占領期東京の文化状況をリアルに伝える催事・娯楽情報が満載。求人求職・貸間売家などの「案内広告」も当時の世相を読み解く上で貴重である。本書はメディア研究をはじめ、戦後文化史、社会史、映画・演劇研究など多様なジャンルで活用できるだろう。

●**推薦**＝土屋礼子

東京日日新聞社 発行〔1949年～1950年〕

週刊東日 全2巻

Ｂ４判・上製・総496頁
揃定価63,800円（揃本体58,000円＋税10%）
'16年3月刊行〔復刻版〕

東京日日新聞社は昭和24年1月、一般読者向けに『東日ダイジェスト』を創刊した。各号タブロイド判の基本4頁立てで、芸能記事や野球記事をはじめ、政治・経済情報など当時の世相をふんだんに伝えている。

その後『週刊東日』『東京レポート』とタイトルを変更したが、いずれもほとんどの研究機関に所蔵されていない貴重資料である。今回の復刻では1949年1月2日発行の第1号から1950年12月25日発行の第101号までを収録する。

ジャーナリズム史、文化史研究をはじめ広く戦後史研究に供するものである。

●**推薦**＝土屋礼子

新聞学院 発行〔昭和7年～昭和17年刊〕

新聞学院『学報』 全4巻・別冊1

別冊＝解説（松野良一・大久保謙）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総1,742頁
揃定価79,200円（揃本体72,000円＋税10%）
'15年2月刊行〔復刻版〕

本書は、『国民新聞』編集局長、日本新聞協会理事を務めた山根真治郎（1884～1952年）が1931年に設立した、日本で最初の新聞人養成機関「新聞学院」の機関誌である。当時の専門学校卒業生・大学生、一年以上の実務経験者のほか朝鮮半島・中国・台湾出身の学生も多く学び、卒業後は7割がマスコミ界で活躍した。誌面には毎号山根が健筆を揮い、徳富蘇峰、緒方竹虎、鈴木文史朗ら著名な記者が執筆した。在学生、卒業生の寄稿、各期試験問題と答案、記事作成の「課題」も掲載された。しかしアジア・太平洋戦争開始と戦況悪化に伴う報道の完全統制の中、学院は幕を閉じた。

●**推薦**＝春原昭彦

太田梶太 主宰〔昭和８年～昭和18年刊〕

現代新聞批判 全７巻・別冊１

別冊＝解説（門奈直樹）・総目次・索引
Ａ４判・上製・総 2,676 頁
揃定価 154,000 円（揃本体 140,000 円＋税10%）
'95年６月～９月配本完結〔復刻版〕

本紙は『大阪朝日新聞』出身のジャーナリスト・太田梶太が、十五年戦争のさなか、1933年に創刊したメディア批判のメディアである。その既成ジャーナリズム批判は痛烈で、軍部や言論統制に迎合する新聞のあり方を糾弾し、同時に新聞人への殺傷事件や舌禍事件などを見逃さない。ファシズムが荒れ狂う時代にジャーナリスト主体の確立と勇気ある連帯を訴えて、関西で体制に抵抗した数少ないジャーナリズムのひとつとして、貴重な資料である。
●**推薦**＝荒瀬　豊・家永三郎・尾崎秀樹・久野　収

長谷川国雄 編〔昭和７年～昭和11年刊〕

時局新聞 全２巻

解説（犬丸義一）・解題（桑尾光太郎）・索引付き
Ｂ４判・上製・総 674 頁
揃定価 55,000 円（揃本体 50,000 円＋税10%）
'98年６月刊〔復刻版〕

柳条湖事件の翌年に創刊された本紙は、体制迎合をあからさまにしていった一般新聞雑誌の堕落を憂い、鋭いジャーナリズム批判を貫いた希少メディアである。編集顧問に青野季吉・大宅壮一・鈴木茂三郎らを迎え、反ファシズム色を鮮明に出し、それゆえに度々の発禁に遭ったが、都市労働者や農民などの「大衆」を中心に読者層を広げた。戦争に突き進む日本帝国主義に歯止めをかける戦線統一の可能性をはらんでいた本紙を近代史研究に貴重な資料として復刻。
●**推薦**＝犬丸義一・久野　収・高橋新太郎

大日本言論報国会 刊〔昭和18年～昭和20年刊〕

言論報國 全２巻・別冊１

別冊＝解説（赤澤史朗）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総 1,076 頁
揃定価 44,000 円（揃本体 40,000 円＋税10%）
'98年10月刊〔復刻版〕

本誌は、十五年戦争末期、「一億国民の思想」の統一に向け、思想家・言論人の結束をよりいっそうはかるため、結成された大日本言論報国会の機関誌である。1943年10月から敗戦の年の５月まで20号が刊行された。誌面には自然科学者をも含む代表的な文化人・思想家・マスメディアに携わる言論人・社会活動家などが登場。戦争末期の言論界のありようを示す希有の資料として復刻し、近代思想史・近代文学史研究に呈するものである。
●**推薦**＝中山和子・山領健二

桐生悠々 主宰〔昭和９年～昭和16年刊〕

他山の石 全４巻・別冊１

別冊＝解説（荒瀬　豊）・総目次・索引
Ａ４判・上製・函入・総 1,490 頁
揃定価 66,000 円（揃本体 60,000 円＋税10%）
'87年９月刊〔復刻版〕

本誌は、戦前期の反骨・不屈のジャーナリスト＝桐生悠々の主宰した個人雑誌である。当初は、欧米の著作物を翻訳・紹介して国際状況の中での日本の立場を明らかにすることにつとめていたが、現実への危機意識から、次第に憲法を盾として議会政治と国民の自由回復をくりかえし主張し、軍部による政治の危険を訴え、反戦を唱えるようになる。度重なる弾圧・検閲にも挫けることなく抵抗し続けた、ひとりのジャーナリストの良心が脈打っている本誌 173 冊を復刻。
●**推薦**＝家永三郎・井出孫六・太田雅夫・むの　たけじ

長谷川国雄 主宰〔昭和３年～昭和11年刊〕

サラリーマン 全24巻・別冊１

別冊＝解説（田中秀臣）・総目次・索引
Ｂ５判・上製・総 9,690 頁
揃定価 478,500 円（揃本体 435,000 円＋税10%）
'99年10月～'00年11月配本完結〔復刻版〕

本誌は、1920年代末、昭和金融恐慌・不況を迎え、急速に増大したサラリーマン（俸給生活者）層にとっての受難の時代に、創刊された「大衆経済雑誌」である。「新中間層」と呼ばれた彼らを「知識労働者」あるいはインテリゲンチャーとして自覚させ啓発することを意図した。財閥や企業を撃ち、国際問題を論じ、「サラリーマンは戦争に行きたくない」と非戦論を謳い、「働く者本位の社会」をめざした本誌は、経済史・思想史研究に必須の資料である。
●**推薦**＝猪瀬直樹・奥平康弘・佐高　信・杉原四郎・松浦総三

東京記者聯盟 刊〔昭和２年～昭和３年刊〕

号　外 全２巻・別冊１

別冊＝解題（河原　功）・総目次・索引
Ｂ５判・Ａ５判・上製・総 894 頁
揃定価 38,500 円（揃本体 35,000 円＋税10%）
'04年10月刊〔復刻版〕

本誌は、「金融恐慌」に始まった不景気・失業・金融不安の時代に、民衆に真実を報道することを目的に刊行されたプロレタリアートの機関誌。普選実施に絡む既成政党間の抗争、無産政党の活動ぶりを紹介し、また治安維持法に強く反対し、不当検束や検閲制度への抵抗も露にしているなど、当時の社会状況を反映している。この時期は、プロレタリア文学運動の隆盛期と重なり、本誌文芸欄を特徴づけている。近代政治史・メディア史研究等に貴重な資料である。
●**推薦**＝堀切利高

大宅壮一 主宰〔昭和８年～昭和９年刊〕

人物評論 全５巻・別冊１

別冊＝解説（尾崎秀樹）・総目次・索引
菊判・上製・総 2, 524 頁
揃定価 93, 500 円（揃本体 85, 000 円＋税10%）
'96年11月刊〔復刻版〕

「この密閉された室内に、涼風をもたらすものは誰ぞ！」（大宅壮一）。本誌は、言論・表現の自由が封殺されてゆく時代にあって、わずか１年余の短命とはいえジャーナリスト大宅の旺盛な批評精神を体言した、人物・時事評論雑誌である。
痛烈な大宅の評論のほかに作家・漫画家によるユニークで直截な評論・小説・画も多く、近代文学史・思想史・ジャーナリズム史研究そして現代のジャーナリズムにとって見過ごせない資料である。
●**推薦**＝小田切秀雄・佐高　信・鶴見俊輔・松浦総三

生方敏郎 主宰〔昭和10年～昭和20年刊〕

古人今人

解説（高橋新太郎）・総目次・索引付き
付＝『ゆもりすと』全２号
Ｂ５判・上製・函入・総 542 頁
定価 19, 800 円（揃本体 18, 000 円＋税10%）
'90年７月刊〔復刻版〕

本誌は戦前期における当代きっての風刺家・ユーモリストとして知られる生方敏郎の個人雑誌である。軍国主義社会にあっても自由主義者としての気骨を失わずむしろユーモリストとしての真骨頂を発揮、軍部や戦時体制下の社会を痛烈に告発した。『他山の石』『近きより』などとともに記憶されるべき数少ない抵抗の雑誌であり、当時の知識人たちの動向を知る上でも貴重な資料である。昭和２年に発行された同じく生方の個人雑誌『ゆもりすと』も合わせて復刻。
●**推薦**＝家永三郎・鶴見俊輔

新大阪新聞社 刊〔1946年～1949年刊〕

夕刊 新大阪 全10巻・別冊１

別冊＝解説（浦西和彦）・主要記事索引
Ａ３判・上製・総 2, 838 頁
揃定価 330, 000 円（揃本体 300, 000 円＋税10%）
'06年10月～'07年５月配本完結〔復刻版〕

本紙は、昭和21年２月４日に創刊された横長の夕刊紙である。不安と希望が入り混じる、戦後間もない大阪の地において、民主主義を根本理念とし、権力に屈せず、市民に活力を与え、生活を向上させていくことを発刊の主旨とした。
大新聞には文化欄がほとんどないと言っていい時期に、本紙は投書欄と学芸欄さらにスポーツ欄に大きなスペースを割き、文化新聞として独自の地位を築いた。敗戦直後の庶民の世相を色濃く反映し、また占領期文学の宝庫でもある本紙を昭和24年まで復刻する。
●**推薦**＝田辺聖子・谷沢永一・山内祥史・山本武利

茅原　健 著

茅原華山（かやはら かざん）と同時代人

『万朝報』の記者を経て、社会評論誌『第三帝国』『洪水以後』を主宰し、大正デモクラシーの潮流に一石を投じた特異なジャーナリスト・茅原華山の生涯を、その多彩な人物往還の中に浮かびあがらせる。
●**四六判・上製・316 頁・定価 1, 980 円／'85年１月刊**

茅原　健 著

民本主義の論客　茅原華山（かやはら かざん）

『万朝報』で藩閥・官僚政治の打破を唱えて看板記者となり、民本主義の社会評論雑誌『第三帝国』を創刊。大正デモクラシー期に革新青年たちの熱い支持を得た生涯ージャーナリストの本格的評伝。
●**四六判・上製・284 頁・定価 1, 980 円／'02年12月刊**

七一雑報

12ページをご参照ください。

人類愛善新聞

13ページをご参照ください。

おきなわ

41ページをご参照ください。

うるま新報

42ページをご参照ください。

琉球新報

42ページをご参照ください。

沖縄新民報・自由沖縄

42ページをご参照ください。

占領期・琉球諸島新聞集成

42ページをご参照ください。

近代沖縄新聞集成 ＤＶＤ版

43ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

上海新報	50ページをご参照ください。
艦内新聞集成	65ページをご参照ください。
【学校新聞】	75ページをご参照ください。

宗教

【仏教】

■龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 1
龍谷大学アジア仏教文化研究センター
（中西直樹（代表）・林　行夫・吉永進一・大澤広嗣）編

資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流
〔第Ⅰ期〕汎太平洋仏教青年会大会関係資料　全２巻

Ｂ５判・上製・総 1,008 頁
揃定価 52,800 円（揃本体 48,000 円＋税10%）
'16年３月刊〔編集復刻版〕

1933年３月、日本は国際連盟を脱退し国際的な孤立状態に陥った。そのような中、日本仏教の関係者たちは欧米の仏教者・研究者と緊密に連絡を図り、アジア諸国の仏教勢力との協力提携を目指した。その事業は基本的に国策に順応する方向性をもっていたことは否定できないが、広範囲かつ大規模に及ぶこれらの事業には、様々な立場の人物が関わり、その活動も多様な側面を有していた。今、日本の民間レベルでの国際交流のあり方を問い、これらの事業の検証が求められているといえよう。本資料集は、そのための必要不可欠な文献を収録したものである。
●**推薦**＝赤松徹眞・楠　淳證

■龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 2
龍谷大学アジア仏教文化研究センター
（中西直樹（代表）・林　行夫・吉永進一・大澤広嗣）編

資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流
〔第Ⅱ期〕南方仏教圏との交流　全３巻

Ｂ５判・上製・総 1,298 頁
揃定価 79,200 円（揃本体 72,000 円＋税10%）
'16年10月刊〔編集復刻版〕

第Ⅱ期は「南方仏教圏との交流」をテーマとして、『海外仏教事情』（国際仏教協会発行、昭和９年～19年）を中心に、『世界に伸びて行く日本仏教』（昭和13年）、『南方仏教青年会会報』（昭和16年）、『大東亜建設学徒大会紀要』（昭和18年）などを収録。
戦時下における日本仏教と南方仏教圏との関係性を示す資料群である。

●**推薦**＝赤松徹眞・楠　淳證

■龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 4
龍谷大学アジア仏教文化研究センター
（中西直樹（代表）・林　行夫・吉永進一・大澤広嗣）編

資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流
〔第Ⅲ期〕中国仏教との提携　全２巻

Ｂ５判・上製・総 740 頁
揃定価 50,600 円（揃本体 46,000 円＋税10%）
'17年９月刊〔編集復刻版〕

第Ⅲ期は「中国仏教との提携」をテーマとして、『国際仏教通報』（昭和10年～12年）、『日華仏教』（昭和11年・12年）、『支那宗教事情（継続後誌『東亜宗教事情』）』（昭和13年～15年）を収録した。
支那事変前後における、日本と中国の仏教における関係性を知ることのできる資料群である。

●**推薦**＝赤松徹眞・楠　淳證

■龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 5
龍谷大学アジア仏教文化研究センター
（中西直樹（代表）・林　行夫・吉永進一・大澤広嗣）編

資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流
〔第Ⅳ期〕全日本仏教青年会連盟機関誌『青年仏徒』　全２巻

Ｂ５判・上製・総 782 頁
揃定価 50,600 円（揃本体 46,000 円＋税10%）
'18年２月刊〔編集復刻版〕

第Ⅳ期は、全日本仏教青年会連盟の機関誌『青年仏徒』（1936年７月創刊～1943年６月第８巻第２号）を収録する。
アジア・太平洋戦争下、各宗派の青年仏徒の団結、また日本仏教がアジア各地の仏教と交流した軌跡を伝える貴重資料。

●**推薦**＝赤松徹眞・楠　淳證

■龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 9
龍谷大学アジア仏教文化研究センター
（中西直樹（代表）・林　行夫・吉永進一・大澤広嗣）編

資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流
〔第Ⅴ期〕チベット仏教との連携　全1巻

Ｂ５判・上製・324 頁
定価 26,400 円（揃本体 24,000 円＋税10%）
'19年２月刊〔編集復刻版〕

第Ⅴ期は、「チベット仏教との連携」をテーマとして、真言宗『依宗教日支親善』（昭和８年）、同『興亜密教』１号（昭和19年）、真宗大谷派『日華全体仏教徒提携親善書』（昭和14年）、浄土宗『入蒙行脚記』（昭和14年）、日蓮宗『蒙古王公巡教記』（昭和４年）などを収録。

満洲事変後、各宗派によって、当時「喇嘛教」と呼ばれたチベット仏教との連携を図る動きが加速。チベット僧侶の日本留学・養成事業などの実態を知る上で重要な資料である。

●**推薦**＝赤松徹眞・楠　淳證

中西直樹 編・解説

復刻版『明治仏教』
明治仏教研究事始め　全１巻

解説・総目次・索引付き
Ａ５判・上製・340 頁
定価 19,800 円（揃本体 18,000 円＋税10%）
'18年10月刊〔復刻版〕

昭和初期、友松圓諦（1895-1973）は、宗派主義を超えた仏教界の和合協同を目指し、明治仏教史編纂所の創設を提唱した。同編纂所は1934年、近代仏教史研究の先駆けとなる雑誌『明治仏教』を創刊、各宗派の協力のもと貴重な文献・資料を蒐集し、1937年までに通巻28号を刊行した。本書は、そのほぼ全号を復刻し、同編纂所が蒐集した新聞・雑誌約750誌（紙）の情報を記載した『明治年間仏教関係新聞雑誌目録』を加えたものである。明治以降の仏教史・仏教改革運動に関する論考のほか、多数の仏教者の事績・評伝、海外留学生・仏教博覧会などの豊富な主題を網羅。

令知会 発行〔明治17年～明治25年刊〕

令知会雑誌　全７巻

中西直樹・近藤俊太郎 監修
Ａ４判・上製・総 3,030 頁
揃定価 192,500 円（揃本体 175,000 円＋税10%）
'17年６月～11月配本完結〔復刻版〕

西洋化とそれに伴うキリスト教の進出に対する僧侶たちの危機感を背景に、仏教界は明治20年代に改革の時代を迎えた。明治10年代後半から僧侶による結社活動が活発化するなかで、島地黙雷、日下痴龍、吉谷覚寿、多田賢住らは明治17年に、当時の代表的な仏教結社のひとつである令知会を結成し、機関誌『令知会雑誌』を創刊する。

その後の仏教系メディアの先駆的位置にあるといえる本誌には、現在からみても仏教界の重大な記事や論説が数多く掲載されている。

●**推薦**＝大谷栄一

中西直樹 編・解題

雑誌『國教』と九州真宗
全３巻・別冊１

Ｂ５判・上製・総 1,274 頁
揃定価 82,500 円（揃本体 75,000 円＋税10%）
'16年７月刊〔編集復刻版〕

明治20年代初頭、日本仏教界ではキリスト教に対抗して「通仏教」を標榜して結束する動きが高まった。その拠点となった熊本では、真宗僧侶を中心に「九州仏教団」が結成され、九州各地の各宗派の僧侶・在家信者が数多く参加した。その事業は雑誌『國教』の創刊をはじめ幅広い領域に及び、国粋主義の台頭期には中央言論界でも注目を浴びたものの、キリスト教の教勢が衰退すると活動は停滞し、日清戦争前にその役目を終えた。しかし、当時の仏教の革新運動の一翼を担い、日本の思想界にも大きな影響を与えた点で注目に値する。

●**推薦**＝赤松徹眞

中西直樹 編・解題

仏教海外開教史資料集成
〈ハワイ編〉全６巻

Ａ５判・上製・総 3,642 頁
揃定価 132,000 円（揃本体 120,000 円＋税10%）
'07年10月～'08年１月配本完結〔編集復刻版〕

本資料集成は、ハワイにおける膨大な仏教開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を検討するための、必要不可欠な資料集である。

〈収録資料抜粋〉全25点
『布哇開教史』本派本願寺布哇開教教務所文書部編　1918年
『浄土宗開教要覧』〈抄録〉柴田玄鳳編　1929年
『布哇真言宗開教沿革――創立五十周年記念』加登田哲英著　1966年
『布哇曹洞宗寺院情勢概要』布哇曹洞宗教会編　1949年
『ハワイ日蓮宗八〇年のあゆみ』ハワイ日蓮宗別院編　1982年

●**推薦**＝大村英昭・坂口満宏

中西直樹 編・解題

仏教海外開教史資料集成
〈北米編〉全６巻

Ａ５判・上製・総 3,372 頁
揃定価 132,000 円（揃本体 120,000 円＋税10%）
'08年９月～'09年１月配本完結〔編集復刻版〕

本資料集成は、北米における膨大な仏教開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を検討するための、必要不可欠な資料集である。

〈収録資料抜粋〉全15点
「北米視察談」宮本恵順著　1898年
『桑港仏教会開教三十年記念誌』桑港仏教会文書部編　1930年
『万国宗教大会一覧』釈宗演著　1893年
『人と仏――日蓮主義の要領』〈抄録〉遠山潮徳・池田順教著　1924年
『第二世と兵役関係』日本米布協会編集部編　1938年

●**推薦**＝大村英昭・坂口満宏

中西直樹 編・解題

仏教海外開教史資料集成 〈南米編〉全3巻

Ｂ５判・Ａ５判・上製・総1,526頁
揃定価66,000円（揃本体60,000円＋税10%）
'09年10月刊〔編集復刻版〕

本資料集成は、南米における膨大な仏教開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を検討するための、必要不可欠な資料集である。
〈収録資料抜粋〉全17点
『伯国仏教篤信功労者名鑑』ブラジル仏教徒協議会編　1960年
「南米視察談」井上円了著　1912年
『うかつに行けない南米』松宮石丈著　1927年
『平野廿五周年史』平野植民地日本人会編　1941年
『南米開教35年誌』真宗大谷派南米教団編　1987年
●**推薦**＝大村英昭・坂口満宏

菊池正治・髙石史人・中西直樹 編・解題

戦前期仏教社会事業資料集成 全13巻

Ａ５判・上製・総7,556頁
揃定価367,400円（揃本体334,000円＋税10%）
'11年９月～'13年６月配本完結〔編集復刻版〕

明治末から大正・昭和戦前期、仏教が社会事業に果たした役割は大きく、各教団による事業、僧侶ら仏教者が設立した施設、寺院に附設された施設は膨大な数にのぼる。本資料集成では、浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、浄土宗をはじめ曹洞宗、日蓮宗、真言宗の各教団関係機関の発行した社会事業の要覧・便覧・報告書等を収集整理し、収録した。戦前期仏教社会事業の軌跡を、国家目的遂行に利用された側面も含めて検証し、仏教史・仏教福祉、さらに近代史・社会福祉研究のための基礎資料として提供する。
●**推薦**＝長谷川匡俊・室田保夫

髙石史人・菊池正治・中西直樹 編・解題

戦前期仏教社会事業資料集成 第14巻・補遺編（全１巻・別巻１）

Ａ４判・上製・約490頁
別巻＝『戦前期仏教社会事業の研究 第２集』
（分売可。定価5,060円）
揃定価38,060円（揃本体34,600円+税10%）
'21年７月刊行〔編集復刻版〕

明治期以降、キリスト教界での貧困層への救済に対抗すべく、仏教界において救貧対策は急務であった。各寺院、教派によるそれは、次第に仏教界全体で連携する社会事業へと発展した。本巻は救貧、児童養護など、仏教各派が果たした役割を分析するための基礎資料『戦前期仏教社会事業資料集成』全13巻の、待望の補遺編。教派横断を試みた、『仏教徒同志団体創立事務所報告』『仏教同志会々報』や『慈善団報』ほか、諸教派の事業報告等も収録。
また解説として、別巻『戦前期仏教社会事業の研究 第２集』（９ページをご覧ください）を附す。戦前期における仏教界の社会事業を概観するために、本書は不可欠の論集といえるだろう。
●**推薦**＝長谷川匡俊・室田保夫

教界時言社 発行〔明治29年～明治31年刊〕

教界時言 全3巻

解説（福島栄寿）・総目次・索引付き
Ａ５判・Ｂ５判・上製・総966頁
揃定価59,400円（揃本体54,000円＋税10%）
'18年４月刊〔復刻版〕

1896年、真宗僧・清澤満之（1863～1903年）は、「教学」の振興を掲げて同志たちとともに真宗大谷派改革運動を開始、『教界時言』を創刊した。「我大谷派をして其積弊を掃蕩して、前途の方鍼を確定し、大谷派が当に為すべきの本務を為」すと宣言した『教界時言』創刊号は発行当日に五千部を売り尽くし、宗門内外に大きな影響を与えた。しかし教団の圧力などにより制度改革はならず、改革派有志の大谷派事務革新全国同盟会解散に続き1898年３月わずか17号で廃刊した。以降満之は「精神主義」運動に至る。宗派史をこえた近代仏教研究の貴重な資料。
●**推薦**＝佐賀枝夏文・島薗　進

加藤咄堂 編〔大正10年～大正12年刊〕

現代知識 教化講習録 全5巻

長谷川匡俊 序文／山口幸照・宮城洋一郎 解説
Ａ５判・上製・総1,932頁
揃定価93,500円（揃本体85,000円＋税10%）
'16年８月刊〔復刻版〕

本書は、教化にあたる仏教者を対象に、当時の著名な専門家が執筆したテキストである。この時期は、社会事業と社会教化が密接に関係した時期であり、また社会事業の勃興期であり、社会教化の成立期でもあった。加藤咄堂は「宗教活動は常に社会教化と関連し、社会教化は宗教を中心とする」と述べ、社会教化の中心に宗教を置いていた。社会的役割が大いに期待されていた仏教者の背景が分かる資料である。
●**推薦**＝藤田光寛

真宗大谷派（大谷派本願寺社会課）発行
〔大正11年～昭和12年刊〕

児童と宗教 全15巻・別冊1

別冊＝解説（佐賀枝夏文）・総目次・索引
Ａ５判・Ｂ５判・上製・総7,822頁
揃定価313,500円（揃本体285,000円＋税10%）
'13年12月～'14年10月配本完結〔復刻版〕

本誌は、東京浅草別院の有志で始めた雑誌『救済』（弊社にて復刻済。９ページをご覧ください）の啓蒙活動を引き継ぐものとして、社会課主事の武内了温が事業として推進し、戦前の宗教と社会の接点として隆盛を極めた「日曜学校」の機関誌である。教育勅語を背景とした宗教・児童福祉問題の一考察・児童文学・キリスト教等に対する言及も見られ、また子供の道徳教育や日曜学校の教案やカリキュラムも記載されている。継続後誌『青少年と宗教』も合わせて復刻する当資料は、「教育と宗教」のあり方を示す重要資料である。
●**推薦**＝長谷川匡俊・谷川　穣

大谷派慈善協会 刊〔明治44年～大正８年刊〕

救　済 全９巻・別冊１

別冊＝解説（佐賀枝夏文）・総目次・索引
菊判・上製・総 4,888 頁
揃定価 179,300 円（揃本体 163,000 円＋税10%）
'01年10月～'02年１月配本完結〔復刻版〕

本誌は、真宗大谷派の僧・大草慧実が設立した福祉団体＝大谷派慈善協会の機関誌である。貧困者・失業者・無宿者の救済、刑期終了者の社会復帰事業、被差別部落の改善、禁酒運動、ハンセン病患者への対策、そして児童保護事業・知的障害児教育など豊富な資料が掲載されている。これまで近代社会福祉事業といえばキリスト教の活動が主に語られてきたが、仏教者の新たな事業活動の展開については十分に考察されていない。仏教社会福祉の原点として復刻する。
●推薦＝長谷川匡俊・吉田久一

中西直樹 著

仏教海外開教史の研究

近代以降、日本人の赴くところには、必ず仏教伝道開教使が同行し、拠点を築き、進出の出先機関としての役割を果たしてきた。本書は復刻版『仏教海外開教史資料集成（ハワイ編・北米編・南米編）』に収録した解題と収録内容を一冊にまとめたものである。
●Ａ５判・並製・120 頁・定価 2,200 円／'12年10月刊

中西直樹・髙石史人・菊池正治 著

戦前期仏教社会事業の研究

戦前期に仏教が社会事業に果たした役割は大きく、仏教者有志設立の施設、各宗派の事業、寺院に附設された施設等は莫大な数にのぼる。本書は『戦前期仏教社会事業資料集成』に収録した解題と収録内容を一冊にまとめたものである。
●Ａ５判・上製・168 頁・定価 2,750 円／'13年８月刊

髙石史人・菊池正治・中西直樹 著

戦前期仏教社会事業の研究 第２集
——髙石史人先生追悼論集

『戦前期仏教社会事業資料集成』第14巻・補遺の別巻である本書は、補遺編収録資料の解題、さらに2020年に早逝された髙石史人先生の追悼として、生前発表された「天皇制国家における救貧の論理」「『感化救済』から『社会事業へ』」などを収録。戦前における仏教者の社会事業史を概説する恰好の入門書である。●Ａ５判・上製・262 頁・定価 5,060 円／'21年７月刊

中西直樹・近藤俊太郎 編著／中川洋子 著

令知会と明治仏教

令知会は1884年、島地黙雷らが中心となって結成された仏教結社である。本書はその令知会の機関誌『令知会雑誌』を研究の対象とし、明治初期・中期の仏教界の様子を探る解題論文集である。
●Ａ５判・上製・200 頁・定価 2,970 円／'17年６月刊

■龍谷大学アジア仏教文化研究叢書11
中西直樹・大澤広嗣 編著／野世英水・林　行夫 著

論集・戦時下「日本仏教」の国際交流

戦時下「日本仏教」が試みた国際的連携の実態を検証し、現代における宗教間対話の可能性を模索する初めての試み！
第Ⅰ部には「戦前期における仏教国際大会の変遷」「一九四〇年のオリンピック・万国博覧会と仏教界」などの諸論考を、第Ⅱ部には『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』全Ⅴ期・全10巻として復刻した、『海外仏教事情』『青年仏徒』など７誌の総目次を収録。仏教史、近現代史、国際交流、文化史等の研究者として、確認しておきたい戦前仏教界の実情を網羅！
●Ａ５判・上製・296 頁・定価 6,380 円／'19年12月刊

労働共済

19ページをご参照ください。

ハワイ日本語学校教科書集成

37ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

日本仏教社会福祉学会機関誌

日本仏教社会福祉学会年報 全８巻

第１号（昭和44年）～第26号（平成７年）
Ｂ５・Ａ５判・上製・総3,432頁
揃定価132,000円（揃本体120,000円）
'04年10月刊〔復刻版〕

仏教社会事業の研究と推進に関心を持つ関係者によって創立された日本仏教社会福祉学会の機関誌。長らく欠号になっていた第１号（昭和44年）から第26号（平成７年）を合本にして復刻。第８巻に付録として「文献目録」を収録。現在も継続刊行されている本誌には、多くの貴重な研究論文が収録されており、社会福祉の基本理念、仏教社会福祉の意味を考える上で、研究者のみならず、社会福祉に従事する人々にとっても貴重な文献である。
●**推薦**＝阿部志郎・吉田久一

■ バックナンバー ■

第27号	192頁・定価2,200円／'97年10月刊
第28号	182頁・定価2,200円／'97年10月刊
第29号	174頁・定価2,200円／'98年10月刊
第30号	168頁・定価2,200円／'99年９月刊
第31号	154頁・定価2,200円／'00年９月刊
第32号	188頁・定価2,200円／'01年９月刊
第33号	120頁・定価2,200円／'02年９月刊
第34号	176頁・定価2,750円／'03年９月刊
第35号	150頁・定価2,750円／'04年９月刊
第36号	164頁・定価2,750円／'05年12月刊
第37号	204頁・定価2,750円／'06年10月刊
第38号	138頁・定価2,750円／'07年10月刊
第39号	198頁・定価2,750円／'08年８月刊
第40号	160頁・定価2,750円／'10年２月刊
第41号	202頁・定価2,750円／'10年11月刊
第42号	182頁・定価2,750円／'11年11月刊
第43号	242頁・定価2,750円／'12年10月刊
第44・45合併号	288頁・定価2,750円／'14年９月刊
第46号	190頁・定価2,750円／'15年９月刊
第47号	96頁・定価2,750円／'17年３月刊
第48号	162頁・定価2,750円／'18年３月刊
第49号	162頁・定価2,750円／'19年３月刊
第50号	146頁・定価2,750円／'21年３月刊
第51号	146頁・定価2,750円／'21年５月刊
第52号	128頁・定価2,750円／'22年７月刊

年１回発行――Ｂ５判・並製（27～32号はＡ５判）
【既刊分合計定価64,900円（合計本体59,500円＋税10%）】

定価は消費税10％込

【キリスト教】

東京基督教女子青年会 発行〔大正15年～昭和14年刊〕

地の塩 全7巻・別冊1

別冊＝解説（樽松かほる・影山礼子）・総目次・索引
Ｂ4判・Ａ5判・上製・総3,242頁
揃定価154,000円（揃本体140,000円＋税10%）
'14年5月～12月配本完結〔復刻版〕

『地の塩』は大正15（1926）年7月、東京基督教女子青年会（東京ＹＷＣＡ）の機関紙として昭和14（1939）年3月の第113号まで発行され、その後、日本基督教女子青年会（日本ＹＷＣＡ）機関誌『女子青年界』に統合された。
キリスト教関係の記事はもとより、当時の東京ＹＷＣＡの実践的な活動内容を生き生きと伝えており、戦時色が濃くなる情勢下で世界のＹＷＣＡとの交流を軸に世界平和を訴える様子もみてとれる。東京ＹＷＣＡ以外に所蔵を確認できない本紙はキリスト教史、女性史、教育史、国際交流史、平和運動史に必須の貴重資料である。
●**推薦**＝川戸れい子

日本基督教女子青年会 刊〔明治37年～昭和25年刊〕

女子青年界 全33巻・別冊1

別冊＝解説（武田清子）・総目次・索引
Ａ5判・Ｂ4判・上製・総21,866頁
揃定価822,800円（揃本体748,000円＋税10%）
'92年4月～'94年1月配本完結〔復刻版〕

本誌は、当初「明治の女子」の題名で創刊され、翌年日本基督教女子青年会（日本ＹＷＣＡ）の発足にともない、その機関誌として敗戦の前年まで発行された。本誌は、女子学生や働く女性のための寄宿舎事業、託児所設置、婦人問題に関する調査・研究、女工・女中の生活教育など、女性の社会教育を一貫して行なったＹＷＣＡの活動を克明に記録したものとして、日本近代女性史・思想史研究に有用な資料となるものである。後継紙『女性新聞』もあわせて復刻。
●**推薦**＝一番ケ瀬康子・笠原芳光・関屋綾子・水田珠枝・山口光朔

日本力行会 発行〔明治28年～明治44年刊〕

救　世 全2巻・別冊1

別冊＝解説（和田敦彦）・総目次・索引
Ａ5判・Ｂ4判・上製・総762頁
揃定価52,800円（揃本体48,000円＋税10%）
'12年7月刊〔復刻版〕

『救世』は、日本力行会を設立した島貫兵太夫が、1895年に創刊したキリスト教伝道誌である。日本力行会の名称は中国の古語「苦学力行」に由来し、苦学生の救済を端緒としており、苦学生の情報も豊富に掲載されている。日本力行会は救済の地を米国に拓き、苦学生の渡米を勧めながら『渡米新報』を刊行、その後、『救世』は『渡米新報』を吸収したため、海外事情や海外在住会員の情報が豊富に掲載されるようになる。明治期キリスト教史、教育史、移民史を補完する重要資料として復刻する。
●**推薦**＝坂口満宏・竹内　洋・出村　彰

日本救世軍 編〔明治28年～昭和23年刊〕

ときのこゑ 全21巻・補巻1・別冊2

補巻＝『日本救世新聞』『朝のひかり』「のど書」
別冊＝解説（室田保夫）・総目次・執筆者索引 全2巻
Ａ3判・Ｂ4判・Ａ4判・上製・函入・総9,042頁
揃定価440,000円（揃本体400,000円＋税10%）
'87年4月～'89年12月配本完結〔復刻版〕

日本救世軍の歩みは、そのまま日本の社会福祉の歩みであるといわれる。あまりにも名高い娼妓自由廃業運動とその救済活動、生活困窮者・無宿者・刑余者対策、結核療養所創設、災害救済……等々その業績は、日本近代の社会問題、人権問題及び社会福祉の歴史を語るのに不可欠である。日本救世軍の機関紙である本誌は、その歩みの記録としての日本社会事業史・女性史・日本キリスト教史・人権運動史研究に必須の資料である。改題紙二紙を補巻に収録。
●**推薦**＝朝野　洋・一番ケ瀬康子・杉井六郎・高橋喜久江・山室徳子

日本基督教婦人矯風会 刊〔明治21年～昭和33年刊〕

婦人新報 全60巻・別冊1

別冊＝解説（五味百合子）・総目次・索引
菊判・上製・総30,000頁
揃定価924,000円（揃本体840,000円＋税10%）
'96年8月～'98年6月配本完結〔復刻版〕

日本で最も歴史の古い女性団体である矯風会の活動は廃娼運動をはじめ婦人参政権運動などによって、日本近代史の中でも重要な意義をもつ。矯風会の機関誌である本誌の復刻によって、女権運動の先駆でかつ大きな柱であった矯風会の再評価がなされ、権利をかちとるための日本の女性たちによる長い闘いの轍をたどることができよう。キリスト教史・近代史研究にも大きな手掛りとなる基礎資料を前身の『東京婦人矯風雑誌』『婦人矯風雑誌』をあわせて復刻。
●**推薦**＝一番ケ瀬康子・小倉襄二・林　千代・森崎和江

基督教青年同盟（YMCA）発行〔明治22年～明治23年刊〕

基督教青年　全1巻

解説（滝澤民夫）・総目次・索引付き
Ａ５判・上製・462頁
定価19,800円（揃本体18,000円＋税10%）
'10年12月刊〔復刻版〕

明治20年前後、西日本地方でキリスト教青年会が次々と結成された時期、大阪青年会の機関誌として『基督教青年』は創刊された。第４号からは基督教同盟社の発行となり、同盟加入数の増加に伴い、明治23年３月新たに発足した関西連合基督教青年会からの発行となるが、編纂人増野悦興が渡米するなか、同年８月終刊にいたる。廃娼運動を推進し、西日本の教界事情を丁寧に報じた本誌は、近代キリスト教史研究の貴重な資料である。
●**推薦**＝細井　勇

住谷天来 主宰〔昭和２年～昭和14年刊〕

聖　化　全2巻・別冊1

別冊＝解説（門奈直樹）・総目次・索引
Ｂ５判・上製・函入・総830頁
揃定価39,600円（揃本体36,000円＋税10%）
'90年11月刊〔復刻版〕

本誌は、群馬県甘楽（かんら）教会の牧師・住谷天来が十五年戦争直前の1927年に創刊し、1939年警察の命令によって廃刊を余儀なくされるまでの12年間、軍国主義の時代に刊行されたキリスト教雑誌である。批判的精神に満ちた人間尊重の思想に基づいて、日清戦争以来一貫して非戦を説いてきた天来独自の平和思想が結実した雑誌であり、『他山の石』『近きより』『嘉信』『古人今人』とならぶ反体制・反戦争の雑誌として貴重な資料である。
●**推薦**＝杉井六郎・鈴木範久・萩原　進

雑報社 刊〔明治８年～明治16年刊〕

七一雑報（しちいち）　全8巻・別冊1

別冊＝解説（山口光朔）・総目次・索引
Ａ４判・上製・函入・総3,212頁
揃定価176,000円（揃本体160,000円＋税10%）
'88年６月～'89年２月配本完結〔復刻版〕

本書は、日本最初のキリスト教週刊新聞『七一雑報』全389号の復刻版である。創刊号において「啓蒙、文明化、キリスト教化」とその発行意図を示した本紙は、キリスト教の伝播という使命とともに、西洋の新文明を紹介した記事を満載し、日本の近代文化の形成に大きな役割を果たした。キリスト教史、日本近代史研究に必備の資料である。
●**推薦**＝大内三郎・岡本道雄・笠原芳光・杉井六郎・竹中正夫・韓　晳曦

大河原礼三 著

聖書におけるエコロジーと人権

本書は、旧約聖書における「自由」「人権」「平等」「自然」思想を検証し、現代社会が直面するさまざまな問題に対する指針とインスピレーションと希望を探究した書である。
●**四六判・上製・248頁・定価2,200円／'99年５月刊**

信友

66ページをご参照ください。

岡山孤児院関係資料集成

19ページをご参照ください。

獄事叢書

19ページをご参照ください。

日本MTL

23ページをご参照ください。

力行世界

36ページをご参照ください。

評伝 賀川ハル

101ページをご参照ください。

定価は消費税10%込

【神道・その他】

弘道社 発行〔明治９年～明治14年刊〕

開知新聞 全11巻

齊藤智朗 解説
Ａ４判・Ａ５判・上製・総5,846頁
揃定価238,700円（揃本体217,000円＋税10%）
'13年11月～'15年１月配本完結〔復刻版〕

『開知新聞』は神官教導職の中核として明治８年に創設された神道事務局の機関紙である。全国の神道諸派を結集、統括する役割をもって、全国の神社で購読されたと考えられる。当紙は明治13年より本格化した祭神論争の決着、明治14年の神道大会議を経て廃刊に至った。内容は神道事務局からの報告、神官の任免記事をはじめ、全国の神社に関するニュース、各地の神官からの投稿などが掲載されている。神道界を通して、明治初期から中期にかけての転換期を知るための貴重な資料である。
●推薦＝阪本是丸・島薗　進

昭和青年会 発行〔昭和５年～昭和10年刊〕

『昭和青年』『昭和』 全15巻

Ａ５判・Ｂ５判・上製・総約7,600頁
揃定価319,000円（揃本体290,000円＋税10%）
'17年12月～'19年５月配本完結〔復刻版〕

『昭和青年』は大本の内部組織「昭和青年会」の機関誌として1930年に創刊され、二年後「全日本の大衆を把握する」ため『昭和』と改題した。誌面は宗教や政治の主張、時事・国際情勢の分析・論文のほか、出口王仁三郎の動静や昭和青年会の活動等を紹介する巻頭写真、歌壇をはじめとする文芸欄、エスペラント欄、女性欄など多彩である。膨張主義の背景下、愛国化を進めたが、不況にあえぐ人々、文化人、政治家、軍人にまで拡がった教団の影響力を恐れる当局によって1935年12月教団施設を爆破され発行を停止する。通巻68号まで刊行された。
●推薦＝井上順孝・島薗　進

人類愛善会 発行〔大正14年～昭和11年刊〕

人類愛善新聞 全５巻・別冊１

別冊＝解説（對馬路人）
Ａ３判・上製・総1,302頁
揃定価192,500円（揃本体175,000円＋税10%）
'12年10月～'13年10月配本完結〔復刻版〕

『人類愛善新聞』とは、大正14年に発会した大本（大本教）の外郭団体である人類愛善会の機関紙であり、その読者は台湾、満蒙、南洋、南米にまで広がり、昭和９年には百万部の発行部数を超えるに至った。
復刻された『人類愛善新聞』により、戦前の日本に最も影響を与えた宗教指導者の一人である出口王仁三郎のアジア全域を巻き込んだ宗教運動とその思想、当時の社会や民心の動向、近代日本社会の思想基盤等を理解する手助けとなるであろう。
●推薦＝井上順孝・島薗　進・原　武史・ナンシー ストーカー

成功 16ページをご参照ください。

昭和大礼記録資料 30ページをご参照ください。

皇室陵墓 35ページをご参照ください。

新亜細亜 52ページをご参照ください。

医学・心理

日本優生学会 発行〔大正13年～昭和18年刊〕

優生學 全16巻・別冊1

別冊＝解説（中馬充子）・総目次・索引
Ｂ５判・Ａ５判・上製・総7,904頁
揃定価325,600円（揃本体296,000円＋税10%）
'13年10月～'15年1月配本完結〔復刻版〕

第一次大戦勃発後、日本でも優生学研究体制の必要性が叫ばれるようになる。その活動をまとめるものとして、後藤龍吉は『ユーゼニックス』を創刊する。後に『優生學』と改題される本誌に掲載の執筆者は、医学博士から精神科医、児童相談所員等と幅広く、そのため登場するキーワードも、「遺伝」「人種改良」「性」「犯罪」等、実に多様である。当誌は当時刊行された数少ない「優生学」専門誌だったが、全号を所蔵する研究機関は存在しなかった。現在の生命倫理に対しても鋭い示唆に富む重要資料である。
●**推薦**＝市野川容孝・笹栗俊之・鈴木晃仁・鈴木善次

日本優生結婚普及会 発行〔昭和11年～昭和14年刊〕

優　生 全2巻

解説（加藤秀一）・総目次・索引付き
Ａ５判・上製・総980頁
揃定価44,000円（揃本体40,000円＋税10%）
'16年6月刊〔復刻版〕

本誌は、優生学の研究および啓蒙に大きな影響力を持った日本民族衛生協会（1930年設立）の付属機関である日本優生結婚普及会（会長・永井潜）の機関誌である。
「結婚衛生思想の普及及び涵養を図る」（会則摘要）ことを目的とし、東京白木屋デパート内に「優生結婚相談所」を運営していた。
戦前期日本における優生学の啓蒙・普及活動の従来知られざる一面を伝える貴重資料である。
●**推薦**＝鈴木晃仁

中村古峡 主幹／日本精神医学会 刊
〔大正６年～大正15年刊〕

変態心理 全34巻・別冊1

別冊＝解説（曾根博義）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総12,000頁
揃定価333,300円（揃本体303,000円＋税10%）
'98年4月～'99年11月配本完結〔復刻版〕

大正６年創刊の本誌は、現在でいうところの多重人格、トラウマ、精神病質、神経衰弱、心霊現象、催眠現象、マインド・コントロール、サイコセラピーから、買売春、嬰児殺し、ドメスティック・バイオレンス等さまざまな異常心理・超心理の具体的事例を満載した研究雑誌である。
社会心理学・精神医学はもとより、犯罪・風俗・性・差別・教育・宗教・文学などの分野に広く活用できる資料の宝庫である。
●**編集委員**＝小田　晋・栗原　彬・佐藤達哉・曾根博義・中村民男
●**推薦**＝大原健士郎・小峯和茂・関井光男・南　博・山下　武

田中香涯 主筆／日本精神医学会 発行
〔大正11年～大正14年刊〕

変態性慾 全6巻・別冊1

別冊＝解説（斎藤　光）・総目次
Ａ５判・上製・総2,166頁
揃定価99,000円（揃本体90,000円＋税10%）
'02年10月刊〔復刻版〕

田中香涯が『変態心理』主幹・中村古峡の全面的協力によって発刊した性研究の純学術雑誌。性研究こそが人間と社会問題にとって緊要だという信念のもと、当時「変態」すなわち「異常」と呼ばれた性のあらゆる形態を究明。生殖器の機能、疾患・同性愛・トランスセックス・買売春・避妊・人工妊娠中絶・生殖器信仰・性犯罪などを論じている。性科学研究はもとより教育・医史学・女性・文化史研究の貴重文献。
●**推薦**＝佐藤達哉・山下　武

武侠社 発行〔昭和５年～昭和７年刊〕

犯罪科學 全21巻・別冊1

別冊＝解説（馬場伸彦）・総目次・索引
Ａ５判・Ｂ５判・上製・総11,166頁
揃定価415,800円（揃本体378,000円＋税10%）
'07年10月～'08年8月配本完結〔復刻版〕

エログロナンセンス的風潮がピークを迎える昭和５年、『犯罪科學』は華やかな都市生活から隠蔽された裏面を暴露すること、人間生活の暗黒面を探求することを目的として刊行された。発行人は杉山清太郎、田中直樹、今田謹吾。本誌は犯罪学、法医学に関する研究報告に加えて、探偵小説、犯罪実話、内外の猟奇譚を満載し、性に関する様々な論考を混在させ、学術と現実を繋ぐ猟奇趣味の雑誌として人気を博した。風俗史・犯罪文学・性科学・犯罪社会学研究の宝庫！
●**推薦**＝斎藤　光・坪井秀人・吉田司雄

大槻憲二 主宰〔昭和８年～昭和16年刊〕

精神分析〈戦前編〉全12巻・別冊１

別冊＝解説（サトウタツヤ・曾根博義）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総6,662頁
揃定価264,000円（揃本体240,000円＋税10%）
'08年６月～'09年１月配本完結〔復刻版〕

大槻憲二は、フロイトを最も早く本格的に日本に紹介し、日本に精神分析という概念を定着させた精神分析学者である。本誌は、大槻が主宰した東京精神分析学研究所の機関誌である。フロイトの精神分析を中核に「無意識心理」の研究と論評を目的に創刊され、夢の研究・戦争心理・心理療法・同性愛・恋愛心理・ドストエフスキー・児童心理・優生学・精神病への理解などの特集を組んでいる。

日本精神分析学及び精神医学、臨床心理学の源流を辿る貴重資料。

●**推薦**＝北山　修・藤井淑禎・一柳廣孝・松原洋子

■十五年戦争極秘資料集　補巻㉜

戦場心理の研究　全４冊

早尾乗雄 原著／岡田靖雄 解説
Ｂ５判・上製・総926頁
揃定価35,200円（揃本体32,000円＋税10%）
'09年２月～８月刊〔編集復刻版〕

「陸軍軍人は性慾の奴隷の如くに戦場を荒して居る」――前線で占領地で、皇軍の兵士たちがなぜ、どのような行為を行ったか。戦争は兵士たちの精神をどのように破壊したか。1937年12月、精神科の従軍医・早尾乗雄は、「陥落」１週間後の南京に入り、日本軍による殺戮、強奪、強姦の現場で、精神に異常をきたした兵士たちを診察、皇軍兵士のありのままの姿を率直に記録し分析を試みた。「戦場心理ノ研究」「中支戦線に於ける精神鑑定書」「戦争心理ノ研究ヲ終了スルト共ニ将来へ希望ス」など六点の秘密資料を復刻。

思想・哲学

成功雑誌社 発行〔明治35年～大正４年刊〕

成　功 全32巻・別冊１

別冊＝解説（三上敦史）・総目次
Ｂ５判・上製・総19,324頁
揃定価809,600円（揃本体736,000円＋税10%）
'14年11月～'17年３月配本完結〔復刻版〕

『成功』は、明治35年に創刊され、大正５年まで刊行された、青少年向けの総合雑誌である。スマイルズの『西国立志編』に続く、若者向け啓蒙誌の必要性を感じた村上濁浪が、裸一貫から創刊した。当時一級の知識人、文豪、実業家らが「自助」「学問」「修養」による「立身出世」「成功」への道を説いた。特別賛成員の、幸田露伴、井上円了、巌本善治、徳富蘇峰、村上専精、志賀重昂らは気鋭の知識人であり、若者たちが憧れたであろう人士であった。近代教育体制確立時の目に見えない「時代の空気」を伝える本誌は、近代教育の未開拓領域を解明するであろう。
●**推薦**＝寺崎昌男・竹内　洋・辻本雅史・新谷恭明・菅原亮芳

■配本一覧

第１回配本（第１～４巻）明治35年10月～明治38年７月　定価101,200円　'14年11月
第２回配本（第５～８巻）明治38年８月～明治40年６月　定価101,200円　'15年３月
第３回配本（第９～12巻）明治40年７月～明治42年３月　定価101,200円　'15年７月
第４回配本（第13～16巻＋別冊）明治42年４月～明治43年８月　定価101,200円　'15年11月
第５回配本（第17～20巻）明治43年９月～明治44年10月　定価101,200円　'16年３月
第６回配本（第21～24巻）明治44年10月～大正元年10月　定価101,200円　'16年７月
第７回配本（第25～28巻）大正元年11月～大正３年４月　定価101,200円　'16年11月
第８回配本（第29～32巻）大正３年５月～大正４年12月　定価101,200円　'17年３月

見城悌治・須田将司 編集・解説

占領期報徳運動資料集成 全10巻

協力　大日本報徳社・報徳福運社 報徳博物館
解説・総目次・索引付き
Ａ４判・Ａ５判・上製・総約4,400頁
揃定価222,200円（揃本体202,000円＋税10%）
'21年６月～'22年１月配本完結〔編集復刻版〕

戦中期の活動が批判された報徳運動、その敗戦直後から占領期終了時までの、復活の軌跡をあとづける、雑誌『報徳』『民主報徳』『報徳青年』３誌をまとめた意欲的な試み。
戦後報徳思想を理解するための基礎資料にもかかわらず、これまで閲覧困難であったこれらの雑誌からは、国際と歩調を合わせた戦前期の活動を乗り越えて、戦後社会における報徳思想の意義、その「仕法」の可能性を模索した草場弘、河合弥八、加藤仁平らの軌跡がよみがえる。地域社会において農業、商工業、教育、社会運動など、広範な影響を及ぼした報徳思想、報徳運動の終戦直後からの展開を伝える重要史料群、待望の復刻！
●**推薦**＝落合　功・奈良岡聰智

■十五年戦争重要文献シリーズ　補集②
唯物論研究会 編・発行〔昭和８年～昭和13年〕

唯研ニュース 全１巻

解説（渋谷一夫・北林雅洋）・総目次・索引付き
Ａ４判・上製・424頁
定価20,900円（揃本体19,000円＋税10%）
'12年１月刊〔復刻版〕

唯物論研究会は、戸坂潤、岡邦雄、三枝博音らによって設立された組織であり、満洲事変以降の反動的な時流のなかで、旺盛な研究活動を続けた。本書はその会報というべきものであり、少ないページのなかにも、唯研の活動の記録や、時局、文学、映画などに対する言及も見られる。『唯研ニュース』（全88冊）およびその後継誌『ダイヂェスト』（全８冊）と、付録としてガリ版刷のチラシ「唯物論研究会ニュースNo.4」を収録し、復刻刊行する。
●**推薦**＝小川晴久

定価は消費税10％込

荻野富士夫 著

初期社会主義思想論

本書は、日本社会主義史の初期の群像――赤羽巌穴、高山樗陰、正岡芸陽、山縣悌三郎、安部磯雄、石川啄木、土岐哀果、山本飼山、河上肇、大杉栄、荒畑寒村、堺利彦――等の思想と行動を検証する。

● A 5 判・上製・函入・720 頁・定価 9,350 円／'93年10月刊

姜　克實 著

浮田和民の思想史的研究
――倫理的帝国主義の形成

本書は、明治・大正期に活躍した浮田和民の思想史的研究、「倫理的帝国主義論」の形成史研究に重点を置き、浮田の周辺人物、関連事項にも触れている。

● A 5 判・上製・560 頁・定価 6,600 円／'03年12月刊

武藤整司 著

人間の輪郭――共生への理念

生きることと学ぶことが著者の思索の収斂する方向である。現代人は本当に生きていると言えるのか。また、学びの本質とは何か。それぞれ、いくつかの角度から論じようと試みたのが本書である。

● 四六判・上製・353 頁・定価 1,980 円・'04年 3 月刊

平岩昭三 著

検証 藤村操――華厳の滝投身自殺事件

「人生不可解」の辞を遺して、16歳の一高生・藤村操は、なぜ死ななければならなかったか――。20世紀初頭の社会に文学に大きな波紋を投げかけたひとりの青年の自死を考証する決定版！

● 四六判・上製・280 頁・定価 1,980 円／'03年 5 月刊

本山幸彦 著

吉田松陰の思想
――尊王攘夷への思想的道程

吉田松陰の思想過程を四期に区分し、各時期における九つの思想的論題（士道、忠誠、生死観、学問観、対外観、国体観、幕府観、政治思想、尊王攘夷論）に沿って、その思想の実像に迫った労作。

● A 5 判・上製・256 頁・定価 2,750 円／'10年 4 月刊

荒畑寒村 著／岡部伊都子 序／堀切利高 解説

春、雪ふる――荒畑寒村戦中日誌

荒畑寒村の唯一残された戦前の日誌――『昭和一八年日誌』（寒村57歳）及び『昭和一九年日誌』。戦時の閉塞した状況下、注意深く時事批判を避けながら当時の生活や感情が直截に記されている。

● 四六判・上製・152 頁・定価 1,650 円／'93年 4 月刊

堀切利高 著

夢を食う――素描 荒畑寒村

「貘てふ獣は夢を食ふと聞けど、われはまことに夢を食ひて生き来りし也」――〝冬の時代〟の雑誌から、悲しみの日に描いた１枚の画から、文学者になりきれなかった革命家・荒畑寒村を素描する。

● 四六判・上製・264 頁・定価 3,080 円／'93年 4 月刊

教界時言

８ページをご参照ください。

明治漢文教科書集成

105ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

社会福祉

中央社会事業協会 発行〔大正14年～昭和19年刊〕

社会事業 全46巻

Ａ５判・上製・総26,502頁
揃定価961,400円（揃本体874,000円＋税10%）
'13年９月～'16年５月配本完結〔復刻版〕

明治末期以降、資本主義経済の急速な展開に伴い貧困層が広範囲に出現するなか、本誌は貧困を「社会貧」と捉え相互扶助の「社会連帯責任」を唱導、社会的救済事業を指導・啓発する役割を担った。しかし、太平洋戦争開始後は誌名を『厚生問題』と改め、戦争遂行の国策の下に自らを位置付ける。近代日本の社会事業論壇の拠点であり、社会事業の歴史そのものである本誌は、社会事業史・社会福祉史研究の重要資料である。
●推薦＝永岡正己・長谷川匡俊

東京都養育院 発行〔昭和21年～昭和39年刊〕

東京都養育院月報 全12巻・別冊1

別冊＝解説（岩田正美）・回想・総目次
Ｂ５判・上製・総5,112頁
揃定価303,600円（揃本体276,000円＋税10%）
'16年５月～'17年４月配本完結〔復刻版〕

1938年より休刊していた『東京市養育院月報（救護事業）』は、1946年に『東京都養育院月報』として再刊された。
再刊当初の本誌からは、激増する収容者への対応や浮浪児の保護問題など、戦後東京の混乱と窮迫を如実に読み取ることができる。また、その後連合国占領下の福祉の現状から、1963年の老人福祉法制定まで、戦後日本の福祉事業がどのように発展していったのか、その歩みを辿ることのできる貴重資料である。
●推薦＝大友昌子・室田保夫

東京市養育院 刊〔明治34年～大正２年刊〕

東京市養育院月報 明治期 全6巻

Ｂ５判・上製・総2,830頁
揃定価132,000円（揃本体120,000円＋税10%）
'08年６月～９月配本完結〔復刻版〕

19世紀末から20世紀初頭、社会体制の崩壊と飢饉・災害によって多くのひとびとがよりどころを失い、首都東京でも貧困と飢餓に瀕していた。本誌は、路上生活者や知的・身体・精神障害者、身寄りのない高齢者・子ども、ハンセン病者ら、最底辺層にある者たちを救済する機能を果たした社会福祉事業の草分け・東京市養育院の機関誌である。江戸から明治への急激な社会変化の中で切り捨てられた、社会的弱者の様態が誌面から浮かび上がる貴重資料である。
●推薦＝宇都榮子・菊池義昭・杉山博昭・永岡正己

東京市養育院 刊〔大正２年～大正15年刊〕

東京市養育院月報 大正期 全12巻

Ａ５判・上製・総5,708頁
揃定価198,000円（揃本体180,000円＋税10%）
'08年12月～'09年４月配本完結〔復刻版〕

米騒動、ストライキの多発……近代化のひずみが露呈した1910～20年代に首都東京で窮乏にあえぐ路上生活者や障害者、高齢者・子ども、病者ら、社会の最下層にあることを余儀なくされた人々を保護しようとした東京市養育院。その機関誌である本誌は大正２年２月に「九恵」すなわち「老人を労り、幼者を慈しみ、孤児を憐れみ、病人に養生させ、貧困者に施す……」という意の題名に改題した。社会福祉史・社会政策史研究に必須の重要資料である。
●推薦＝宇都榮子・菊池義昭・杉山博昭・永岡正己

東京市養育院 刊〔昭和２年～昭和13年〕

東京市養育院月報 昭和期 全12巻・別冊1

別冊＝解説（清水　寛・室田保夫）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総5,436頁
揃定価198,000円（揃本体180,000円＋税10%）
'09年８月～12月配本完結〔復刻版〕

不況、失業、農村の疲弊、そして救護法の成立――十五年戦争に突入してゆく1920年代後半から1930年代のなかで、首都東京で窮乏にあえぐ路上生活者や知的・身体・精神障害者、身寄りのない高齢者・子ども、ハンセン病患者ら、近代日本社会において最も日の当らないところにあった人々を救済する機能を果たそうとした東京市養育院。その機関誌である本誌は、近代日本の最底辺層の人々の生き様を語ってやまない。
●推薦＝宇都榮子・菊池義昭・杉山博昭・永岡正己

戦争孤児関係資料集成　第Ⅰ期
浅井春夫・艮　香織・酒本知美 編・解説

愛児の家史料 全5巻

協力　愛児の家
B5判・上製・総約1,950頁
揃定価115,500円（揃本体105,000円+税10%）
'20年11月～'21年3月配本完結〔編集復刻版〕

空襲、引揚げ、家族の病没等によって戦後の苛烈な環境に投げ出され、必死で生きてきた子どもたち。彼らの実像は、当事者たちの証言以外にその裏づけとなる史料はほとんど現存していなかった。
戦後75年を経たいま、この状況を打破すべく、東京都中野区の児童養護施設、愛児の家に保管されてきた貴重な児童記録、感想文、書簡類を、一挙に復刻することとなった。組織や団体の後ろ盾なく、「ママ」とよばれた石綿貞代が私財を投じて子どもたちを救った貴重な足跡は、これまで光を当てられてこなかった「戦争孤児」の現実を浮き彫りにする。
●推薦＝大友昌子・本庄　豊

戦争孤児関係資料集成　第Ⅱ期
本庄　豊・玉村久二彦・平井美津子 編・解説

関西編 東光学園史料ほか 全8巻

協力　東光学園 大阪水上隣保館
B5判（1/2面付）・上製・総約2,600頁
揃定価211,200円（揃本体192,000円+税10%）
'23年1月～9月配本完結予定〔編集復刻版〕

小社では既に『戦争孤児関係資料集成』第Ⅰ期として、首都東京における『愛児の家史料』全5巻を刊行した。しかし、大陸からの引揚者を多く擁した関西、特に大阪の実態を伝える史料の欠落は否むことができない状況であった。このたび、大阪府堺市の東光学園に現存する、終戦直後の貴重な史料を確認、刊行することとなった。
本集成は東光学園の児童記録、行政文書、教育研究録、学園紙、写真を編集、さらに大阪で児童養護に尽力した大阪水上隣保館の50年史、京都市の八瀬学園史料、また梅田厚生館による『収容保護事業十年の歩み』も併せて提供、関西に於ける戦争孤児の実情を浮き彫りにする。
●推薦＝山田　朗、小野川文子

使命社・東京孤児院・東京育成園 刊〔明治32年～明治45年刊〕

東京孤児院月報 全3巻・別冊1・付録1

別冊＝解説（丹野喜久子）・総目次・索引
付録＝東京育成園創立百周年記念『東京育成園－創立から明治・大正期』（分売可。定価5,500円（本体5,000円＋税10%））
A4判・B5判・四六判・上製・総1,842頁
揃定価88,000円（揃本体80,000円＋税10%）
'03年6月刊〔復刻版〕

身よりのない子どもたちをただ「収容」するのではなく、ひとりひとりの子どもの人権を中軸に据え、「家庭」として子どもたちを受け入れ育てた東京孤児院＝東京育成園。平等と人権、反戦・平和を基調としたその理念は、ようやく表面化してきた児童虐待の問題や子どもの福祉一般について、今もなお大きな示唆を与える。社会福祉のみならず、児童教育・社会思想史研究にとっても第一級の資料である。
●推薦＝仲村優一・吉田久一

細井勇・菊池義昭 編・解説

岡山孤児院関係資料集成 全3巻

児嶋草次郎 刊行によせて／細井勇・菊池義昭 解説
A4判・上製・総1,178頁
揃定価82,500円（揃本体75,000円＋税10%）
'09年11月刊〔編集復刻版〕

「児童福祉の父」と呼ばれる石井十次と岡山孤児院（1887～1926）に関する資料を集大成した編集復刻版である。前身の孤児教育会の「趣旨・概則」に始まる第一次資料から当時の新聞切り抜き帖まで、天災・戦争・飢饉・貧困などによって保護者や住居を失った子どもたちへの行き届いた支援の状況をつぶさに表す資料を収録。最大1200人を受け入れた戦前期児童養護施設の代表的存在である岡山孤児院の事業と、そこで生き抜いた子どもたち、そして子どもたちを直接間接に支えた人々の様相を明らかにする。
●推薦＝阿部志郎・池田敬正

原　胤昭 主宰〔明治27年～明治29年刊〕

獄事叢書 全3巻・別冊1

別冊＝解説（室田保夫）・総目次・索引
A5判・上製・総1,272頁
揃定価49,500円（揃本体45,000円＋税10%）
'98年9月刊〔復刻版〕

本誌は、出獄人更生事業で知られるキリスト教教誨師・原胤昭が、監獄を囚人懲罰でなく囚人更生のために改良しようと起こした監獄改良運動の機関誌である。発行は北海道樺戸にある集治監内の同情会。かつて筆禍事件によって自らも下獄した経験のある原は、同志社出身の教誨師たちを集め、監獄改良事業を展開した。北海道の監獄のニュースを掲載し、監獄改良論を披瀝すると同時に外国の監獄事業を紹介するなど、監獄改良を志す人々に情報を発信した。
●推薦＝重松一義・谷　昌恒

浄土宗労働共済会 発行〔大正4年～大正10年刊〕

労働共済 全6巻・別冊1

別冊＝解説（長谷川匡俊・土井直子）・総目次・索引
A5判・上製・総2,480頁
揃定価99,000円（揃本体90,000円＋税10%）
'05年7月刊〔復刻版〕

本誌は、浄土宗労働共済会の機関誌である。渡辺海旭を主筆とし、大正4年1月から大正10年3月まで、全67冊が発行された。高島米峰、矢吹慶輝、長谷川良信などの仏教者、安達憲忠、田中太郎などの東京市関係者、小河滋次郎、田子一民などの社会事業家が寄稿し、労働問題に関わる情報を提供している。「協調の精神」を重視する仏教者らの社会事業活動の歴史的意義を検証し、現在の社会福祉、労働関係を考える上で研究者にとって重要な資料である。
●推薦＝池田敬正・吉田久一

石川県社会事業協会 発行〔大正13年～昭和15年刊〕

石川県之社会改良 全2巻・別冊1

別冊＝解説（元村智明）・総目次・索引
Ａ4判・上製・総806頁
揃定価61,600円（揃本体56,000円＋税10%）
'06年6月刊〔復刻版〕

石川県社会事業協会によって、石川県下に社会改良および社会改善を推し進めるために大正13年6月に発刊、第4号より『社会改良』と改題し、昭和15年12月の第17号まで継続した機関誌。編集は県社会事業主事であった中田邦造（後に石川県立図書館長、都立日比谷図書館長を歴任）と打尾忠治が担当、「国家興隆」と「社会福祉」の実現には社会事業と社会教育が緊急で切実な問題であると提起した。大正後期から昭和戦前期に至る地域社会福祉行政の実態解明に必備の史料。
●**推薦**＝池田敬正・長谷川匡俊

中央社会事業協会 発行〔昭和2年～昭和14年〕

社会事業彙報 全17巻・別冊1

別冊＝解説（寺脇隆夫）・事項索引
Ａ5判・上製・総8,792頁
揃定価374,000円（揃本体340,000円＋税10%）
'10年10月～'12年6月配本完結〔復刻版〕

「慈善」的概念から「社会事業」という理念が確立した1930年代――民営公営の社会事業施設が飛躍的に増加し、方面委員制度が全国的に普及した時期に刊行された社会事業情報専門誌である。児童保護、社会衛生、廃娼運動、釈放者保護事業、労働者災害扶助から共同浴場、公益質屋にいたる全国各地の社会事業関係の情報統計、調査、法令・通知等を中心に、海外情報、文献、関係日誌もほぼ毎号掲載されている。社会事業史・社会福祉史研究に欠かせない貴重な資料である。
●**推薦**＝右田紀久恵・永岡正己・古川孝順

室田保夫 著

留岡幸助の研究

近代日本における代表的な社会事業家・留岡幸助の前半生――岡山高梁での少年時代から、牧師・北海道バンド・米国留学・教誨師を経て家庭学校の創設、『人道』の発行まで――をあとづけた力作。
●Ａ5判・上製・函入・552頁・定価10,450円／'98年10月刊

二井仁美 著

留岡幸助と家庭学校
――近代日本感化教育史序説 改訂普及版

1899年に家庭学校を設立した留岡幸助の思想を、彼の200に及ぶ欧米の施設視察をあとづけながら明らかにし、東京・北海道・茅ヶ崎・小笠原諸島に展開した家庭学校の教育の具体像に迫る。
●Ａ5判・並製・402頁・定価4,620円／'20年9月刊（付・索引）

澤山信一 編・著

学校保健の近代

戦前期トラホーム対策の歴史を患者児童とその親の側から描写し、これまでの学校保健史の常識を問い直す著。さらに雑誌『養護』（1928～37年）から学校看護婦による記録80点を選び、収録。
●Ａ5判・上製・232頁・定価3,080円／'04年9月刊

戦前期仏教社会事業資料集成

8ページをご参照ください。

戦前期仏教社会事業資料集成 第14巻・補遺編

8ページをご参照ください。

救済

9ページをご参照ください。

戦前期仏教社会事業の研究

9ページをご参照ください。

戦前期仏教社会事業の研究 第2集

9ページをご参照ください。

日本仏教社会福祉学会年報

10ページをご参照ください。

ときのこゑ

11ページをご参照ください。

近現代日本ハンセン病問題資料集成

22ページをご参照ください。

知的・身体障害者問題資料集成〈戦前編〉

23ページをご参照ください。

愛護

23ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

子どもの人権問題資料集成〈戦前編〉	24ページをご参照ください。
斯民	26ページをご参照ください。
植民地下 朝鮮におけるハンセン病資料集成	49ページをご参照ください。

人権

■病者の人権問題資料集成 1
藤野　豊 編・解説

近現代日本 ハンセン病問題資料集成 戦前編 全8巻

Ａ４判・Ｂ５判・上製・総 2,968 頁
揃定価 209,000 円（揃本体 190,000 円＋税10%）
'02年６月～12月配本完結〔編集復刻版〕

なぜ日本のハンセン病患者は隔離を強制されたのか――1870年代以降、近現代におけるハンセン病をめぐる国家、医療者、宗教者、そして患者自身の言説をたどる資料集成の戦前編。弱い感染症であることが専門家の間で認知されていてもなお優生政策のもとで拡大強化されていった隔離政策。多くの患者の尊厳を傷つけ、家族や職場そして名前すら奪ったその真相を明らかにするための基礎文献。
●**推薦**＝内田博文・川上　武・神美知宏・斎藤美奈子・徳田靖之・永岡正己

■病者の人権問題資料集成 2
藤野　豊 編・解説

近現代日本 ハンセン病問題資料集成 戦後編 全10巻 別冊1

別冊＝解説（藤野　豊）・総目次
Ａ４判・Ｂ５判・上製・総 3,932 頁
揃定価 264,000 円（揃本体 240,000 円＋税10%）
'03年７月～'04年１月配本完結〔編集復刻版〕

敗戦後、日本国憲法下で強行された隔離政策の実態をハンセン病療養所入園者自身の運動の記録とともに資料1600余点によってあとづける。【内容】第１巻＝重監房廃止・プロミン獲得運動と自治会の新生／第２・３巻＝「癩予防法」改正問題／第４巻＝戦後無らい県運動／第５・６巻＝竜田寮児童通学問題／第７巻＝癩刑務所・留置所設置問題、米軍占領下沖縄・奄美のハンセン病政策／第８巻＝藤本事件／第９巻＝生活改善・反差別運動／第10巻＝国会議事録
●**推薦**＝石川一雄・川田悦子・谺　雄二・清水　寛

■病者の人権問題資料集成 3
藤野　豊 編・解説

近現代日本 ハンセン病問題資料集成 補巻１～５

Ｂ５判・Ａ４判・上製・総 1,644 頁
揃定価 122,100 円（揃本体 111,000 円＋税10%）
'04年９月～12月配本完結〔編集復刻版〕

【内容】**補巻１・２＝外島保養院年報**　上・下。1909～25年分を収録。本院は34年、台風で瓦解し多くの人命とともに流された。
補巻３＝本妙寺事件／九州療養所関係／自治会沿革史　隔離政策史上、最悪最大規模の強制収容事件・本妙寺事件（1940年７月）の資料及び九州療養所＝現在の菊池恵楓園の諸資料を収録。
補巻４＝大島療養所自治会日誌　瀬戸内海大島の療養所（現在の大島青松園）に残る戦前では唯一の入園者自身による記録。
補巻５＝世界のハンセン病政策／近代初期日本のハンセン病
●**推薦**＝太田　明・鈴木則子

■病者の人権問題資料集成 3
藤野　豊・訓覇　浩・清水　寛・平田勝政 編・解説

近現代日本 ハンセン病問題資料集成 補巻６～９

各巻解説（６＝訓覇　浩、７＝清水　寛・平田勝政、８・９＝藤野　豊）付き
Ａ４判・上製・総 1,440 頁
揃定価 110,000 円（揃本体 100,000 円＋税10%）
'05年12月刊〔編集復刻版〕

【内容】**補巻６＝私立療養所**　官公立のハンセン病療養所ではなく、民間の個人や宗教団体などの設立した療養所・病院の資料を収録。　**補巻７＝台湾におけるハンセン病政策**　日本の植民地下にあった台湾でのハンセン病政策を明らかにする資料を網羅。台湾総督府癩療養所楽生院の年報や事業概況書のほか機関誌『万寿果』より抄録。　**補巻８＝療養所長会議関係書類**　新たに発見された官公立癩療養所の療養所長会議関係資料、療養所状況、統計資料を収録。　**補巻９＝隔離政策の強化**　本集成戦前編刊行後に発見された、戦前期のハンセン病政策に関する資料群。患者管理の実態を明示する。

■病者の人権問題資料集成 3
藤野　豊・大竹　章・江連恭弘 編・解説

近現代日本 ハンセン病問題資料集成 補巻10～12

各巻解説（10＝江連恭弘、11＝大竹　章、12＝藤野　豊）付き
Ａ４判・上製・総 1,046 頁
揃定価 82,500 円（揃本体 75,000 円＋税10%）
'06年11月刊〔編集復刻版〕

【内容】**補巻10＝ハンセン病と教育**　邑久高等学校新良田教室（1955～87年）の資料を中心に、療養所の子どもたち、そして親が強制収容された子どもたちの教育をめぐる資料類を収録。
補巻11＝らい予防法闘争期の自治会日誌　1953年「癩予防法」改正問題で揺れ動く時期の大島青松園の自治会日誌と全療協の日誌を収録。
補巻12＝「癩予防法」改正問題Ⅲ　本資料集成〈戦後編〉刊行後に発見された諸資料のうち、各自治会や全癩患協本部に集中した1953年末までの多様な情報を収録する。

■病者の人権問題資料集成 3
藤野　豊 編・解説
近現代日本 ハンセン病問題資料集成 補巻13～15・別冊 1
各巻解説（藤野　豊）付き
別冊＝補巻（1～15）の解説・総目次
Ａ 4判・上製・総 1,154 頁
揃定価 82,500 円（揃本体 75,000 円＋税10%）
'07年 5 月刊〔編集復刻版〕

【内容】**補巻13＝生活改善・反差別運動Ⅱ／戦前期委任統治領「南洋群島」のハンセン病政策**　1954年以降の差別撤廃と生活改善の運動資料、及び「南洋群島」のハンセン病政策を検証する資料群。　**補巻14＝戦後無らい県運動Ⅱ**　偏見を露骨に示す投書や強制収容に邁進する行政の様子を描き出す戦後の自治体の公文書類及び厚生省資料を収録。（～1953年）　**補巻15＝戦後無らい県運動Ⅲ／生殖管理政策**　1954年以降の行政の隔離政策の実態を示す資料、及び入園者に強要された不妊手術・人工妊娠中絶が何のためだったのかを検証する諸資料を集成。

■病者の人権問題資料集成 3
近現代日本 ハンセン病問題資料集成 補巻16～19 日本ＭＴＬ　全 4 巻・別冊 1
別冊＝解説（平田勝政）・総目次・索引
Ｂ 5判・上製・総 1,688 頁
揃定価 88,000 円（揃本体 80,000 円＋税10%）
'09年 5 月刊〔復刻版〕

ハンセン病患者の救済・布教活動を目的として出発した日本ＭＴＬ（日本救癩協会）は、患者とその家族を支援するキリスト教団体であると同時に国の強制隔離政策を後押しし、皇室の恩賜策と協調して啓発活動をおこなった。本書は、その機関誌『日本MTL』及び後継誌『楓の蔭』の、1926年の創刊から1953年までの全264号を復刻したものである。朝鮮・台湾の植民地や統治領だけでなく、中国・フィリピンなどアジア各地やハワイのハンセン病に関する情報にも富み、多くの貴重な報告が掲載されている。
●**推薦**＝片野真佐子・加山久夫

愛　生〈戦前編〉全 15 巻・別冊 1
協力　長島愛生園・長濤会
Ａ 5判・上製・総約 6,900 頁
別冊＝総目次・索引
揃定価 316,800 円（揃本体 288,000 円+税10%）
'21年 7 月～'22年 5 月配本完結〔復刻版〕

日本初のハンセン病国立療養所として開設された長島愛生園の機関誌『愛生』は、開設直後から現在に至るまで、入所者、職員、来訪者や外部読者が交わる愛生園の「窓」として、その役割を果たしてきた。それは彼らの情熱の発表の場であり、また療養所で起こる様々な出来事が記録された貴重な雑誌だった。
このたび、長島愛生園の協力を得て『愛生』創刊号から戦争で休刊となった第14巻第７号までの全号、さらに「附録」として刊行された『青年愛生』全誌を復刻、刊行することとなった。
この資料が、ハンセン病療養施設における「療養」の営みの実像に近づくための基礎資料となることを願っている。
●**推薦**＝中尾伸治・廣川和花・松岡弘之

万寿果 全 4 巻
星名宏修 解説
協力　長島愛生園・国立台湾図書館
総目次・索引付き
Ａ 5判・上製・総 1,596 頁
揃定価 83,600 円（揃本体 76,000 円+税10%）
'22年10月刊行〔復刻版〕

戦前期ハンセン病政策の進展と軌を一にして、各地の療養施設では、北條民雄、明石海人、志樹逸馬はじめ多くの入所者たちが、激しい思いを込めて力強い文学を生み出していった。
植民地下台湾の楽生院の機関誌『萬壽果』も、往年、まどみちおとして知られる石田道雄や、戦後台湾美術史を代表する画家、藍蔭鼎らの作品を掲載、入所者たちが多くの文芸作品を生み出していった。本復刻は1935年４月の「皇太后陛下御仁慈感激記念号」から終刊の1944年１月の第10巻第２号までを収録。
植民地下ハンセン病政策とそこで生きた人びとを理解するうえで、貴重な証言と作品に満ちた重要資料である。
●**推薦**＝木村哲也・田中キャサリン

■病者の人権問題資料集成 4
知的・身体 障害者問題資料集成〈戦前編〉全 16 巻
高橋淳子・平田勝政 解説
Ａ 4判・上製・総 6,064 頁
揃定価 440,000 円（揃本体 400,000 円＋税10%）
'05年 6 月～'06年 6 月配本完結〔編集復刻版〕

戦前期、「障害者」は、国家・宗教・共同体・家族の中でどのように認識され、振り分けられ、疎外され、放置され、そして保護・教育され、生き抜いたのか。本資料集成は、学習障害（ＬＤ）、注意欠陥／多動性障害（ＡＤＨＤ）、高機能自閉症なども含む知的発達障害、そして視覚障害、聴覚障害、肢体不自由などの身体障害に関する資料を中心に、対象を虚弱児童・傷痍軍人にまで広げて収集した。研究者・研究機関及び障害者問題に関わる全ての人に呈する。
●**推薦**＝一番ケ瀬康子・大見川正治・清水　寛・中村満紀男

日本精神薄弱児愛護協会 発行〔昭和11年～昭和38年刊〕
愛　護 全 4 巻・別冊 1
別冊＝解説（蒲生俊宏）・総目次・索引
Ｂ 5・Ａ 5判・上製・総 1,700 頁
揃定価 66,000 円（揃本体 60,000 円＋税10%）
'06年 7 月刊〔復刻版〕

1934年、国や自治体の支援を期待できない困難な時代に知的障害児施設を創設・活動していた、滝乃川学園・白川学園・桃花塾・藤倉学園・筑波学園・三田谷治療教育院・八幡学園・六方学園などの先駆者が集まり結成した日本精神薄弱児愛護協会（現・日本知的障害者福祉協会）の機関誌の復刻版。最も対応の遅れた知的障害者への福祉政策を政府・自治体・学識者・児童保護施設等々各方面に訴えた、近現代の知的障害者福祉の歩みを証言する貴重な資料。
●**推薦**＝北沢清司・津曲裕次

室田保夫・二井仁美・倉持史朗・蜂谷俊隆 編・解説

子どもの人権問題資料集成〈戦前編〉全10巻

A4判・上製・総3,748頁
揃定価275,000円（揃本体250,000円＋税10%）
'09年6月～'10年6月配本完結〔編集復刻版〕

「児童の世紀」だったはずの20世紀――近代日本の子どもたちは、戦争と貧困の時代をどのように生き抜き、また社会はその保護・育成につとめたのか。児童養護施設や児童自立支援施設などの実践現場において永く収蔵されてきた小冊子・パンフレットなど、一般には容易に閲覧できない資料を中心に多数収載。
【内容】第1巻～第3巻＝子どもの養護／第4巻～第6巻＝子どもの保護教育／第7巻＝少年保護／第8巻＝子ども虐待／第9巻＝子どもと健康・障害／第10巻＝子どもと貧困・労働
●推薦＝相澤　仁・宇都榮子・小倉襄二・森田　明・山崎由可里

■十五年戦争極秘資料集　補巻㉘
清水　寛 編

資料集成 戦争と障害者〈第Ⅰ期〉全7冊

A4判・上製・函入・総2,532頁
揃定価154,000円（揃本体140,000円＋税10%）
'07年2月～'08年2月刊〔編集復刻版〕

大日本帝国の侵略戦争に参戦し精神障害を発症した兵士は国府台陸軍病院に収容された。本書はその「病床日誌」を症状により分類し、知的障害及び戦争神経症の事例約1300件を収録。そもそも兵役免除者の知的障害者を合格させた徴兵制度の問題、反戦思想をもつ兵士、逃亡兵士、窃盗・傷害等の事件を起こした兵士など「不良」兵士だけを集めた陸軍懲治隊、陸軍教化隊、戦闘や軍隊内のストレスから精神障害を発症した兵士に関する調査・論稿もあわせ、戦争と軍国主義の本質を、障害者兵士の視点から照らし出す。
●推薦＝野田正彰・吉田　裕

「神奈川の部落史」編集委員会 編・著

神奈川の部落史

鎌倉・鶴岡八幡宮の長吏から横浜開港による新たな被差別部落の形成、そして融和運動まで――中世から近代までの神奈川の被差別部落の人々の生活と差別とのたたかいの軌跡を初めて明らかにする。
●A5判・並製・228頁・定価1,980円／'07年9月刊

優生學

14ページをご参照ください。

植民地下 朝鮮におけるハンセン病資料集成

49ページをご参照ください。

買売春問題資料集成〈戦前編〉

99ページをご参照ください。

性暴力問題資料集成〈第Ⅰ期〉〈第Ⅱ期〉

100ページをご参照ください。

性と生殖の人権問題資料集成

100ページをご参照ください。

【水平運動・部落史研究】

■水平運動・部落史研究資料❶
㈶中央融和事業協会 刊〔昭和10年～昭和16年刊〕

更　生 全7巻・別冊1

別冊＝解題（藤野　豊）・総目次・索引
A5判・上製・函入・総2,688頁
揃定価66,000円（揃本体60,000円＋税10%）
'96年2月再刊〔復刻版〕

昭和7（1932）年以後、被差別部落において開始された「経済更生」運動は、農地獲得、農産物販売等を通して、水平運動に対抗、愛国心と融和の精神を部落内部に浸透させた。昭和12年の日本の中国全面侵略以降、経済更生運動は、軍需産業への転業職と「満洲」移民の奨励に尽きることとなり、侵略戦争に部落大衆を動員するための手段と化す。『更生』は経済更生の機関誌として十五年戦争下のその実態を伝える貴重な資料である。
●推薦＝秋定嘉和・由井正臣・渡部　徹

定価は消費税10%込

■水平運動・部落史研究資料❷
奈良県磯城郡大福村 三協社 刊〔大正９年～大正11年刊〕

警鐘（けいしょう）

松尾尊兊 解題
Ｂ５判・上製・函入・総572頁
定価16,500円（揃本体15,000円＋税10%）
'88年10月刊〔復刻版〕

本誌は、奈良県磯城郡大福部落に住む伊藤繁太郎、岡嶋松三郎、山本平信らによる三協社の機関誌で、大正９年に発刊された。当初、三協社は「部落の改善及び研究」を目的としていたが、時代の流れのなかで、改善から解放、融和から闘争へとあゆみを進め、水平社結成の先駆となる。本誌は、わずか20号をもって終刊となるが、初期水平運動の基底をささえた人々のたたかいを伝える貴重な資料である。

■水平運動・部落史研究資料❸
渡部 徹 監修・藤野 豊 解説

初期水平運動資料集 全５巻・別冊１

Ａ５判・Ｂ５判・Ａ３判・上製・函入・総2,042頁
揃定価93,500円（揃本体85,000円＋税10%）
'96年２月再刊〔復刻版〕

1922年から1927年にかけて全国各地で創刊された初期の水平運動の機関紙・誌を復刻。『水平運動』『人類愛』『燃え挙る心』『新聖潮』（以上、奈良）『聖戦』（三重）『相愛』『自由』（以上、群馬）『防長水平』（山口）『愛国』『野火』『水平線』『西浜水平新聞』『大阪水平新聞』『関西水平新聞』（以上、大阪）『国民運動』（京都）『正義之声』（滋賀）『自由新聞』『平等新聞』（以上、静岡）『自由新聞』（埼玉）『全国水平新聞』（長野）『関東水平運動』（東京）を収録。
●**推薦**＝秋定嘉和・田中真人・馬原鉄男

■水平運動・部落史研究資料❹
三重県松阪愛国新聞社 刊〔大正12年～昭和２年刊〕

愛国新聞

解説（黒川みどり）・総目次・索引付き
Ｂ４判・上製・函入・総314頁
定価19,800円（揃本体18,000円＋税10%）
'90年10月刊〔復刻版〕

『愛国新聞』（第１～37号）は、三重県水平社と日本農民組合三重県連合会の合同機関紙である。被差別部落の人々を啓蒙し階級闘争へ転換することを促す役割を果たし、単に一府県の機関紙というにとどまらず、近代部落史の資料の中でも水平運動が無産階級運動に踏み出していく過渡期の状況を詳細に伝えるものとして貴重である。前身の三重県水平社の『三重水平新聞』（全２号）、後身の『三重農民新聞』（第38～47号）もあわせ、復刻するものである。
●**推薦**＝上田音市

■水平運動・部落史研究資料❺
大阪府南河内 ワシラノシンブン社 刊〔大正13年～大正14年刊〕

ワシラノシンブン

解説（園部裕之）・総目次・索引付き
Ｂ４判・上製・函入・総246頁
定価19,800円（揃本体18,000円＋税10%）
'90年10月刊〔復刻版〕

大阪市郊外の新文化村で難波英夫によって創刊された本紙は、社会問題講習会の開催や児童に対する自由教育運動など自ら地域の文化運動の推進役となる一方、被差別者の人権を尊重する社会を目指した。途中『解放新聞』と改題し、「日本に初めて生れたプロ新聞」を謳う。詳細な社会運動関係記事とともに水平運動関係の記事も多く載せた本紙は、部落史研究・社会運動史研究・社会主義演劇史研究・民衆史研究に大きな示唆を提供する資料となろう。全30号。
●**推薦**＝藤野 豊

■奈良県水平社資料集❶
「（仮称）水平社歴史館」建設推進委員会 編

創立期水平社運動資料 全４巻・別冊１

別冊＝解説（蓮城寺秋幸）・細目次
Ｂ５判・上製・総2,016頁
揃定価77,000円（揃本体70,000円＋税10%）
'94年９月刊〔復刻版〕

奈良県下の創立期水平運動は、水平社の創立の中核的存在であった。本資料は、この奈良における、水平社創立へ向かう部落民の生の声を伝える、行政側文書の復刻である。今日まで、当時の記録は取締り警察側の二次的編纂物が主流であったが、今回、旧奈良県庁文書を整理し、解説を付して復刻刊行する。『水平社一件記録』（大正11年～12年）『水平運動ニ関スル書類』（大正12年）『水平一件』（大正11年～13年）の３点等を収録。
●**推薦**＝秋定嘉和・朝治 武・金井英樹

喜田貞吉 主筆〔大正８年～大正12年刊〕
奈良県部落解放研究所 編集

民族と歴史 全10巻・別冊１

別冊＝解説（平山和彦・朝治 武・吉田栄治郎・のびしょうじ）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総6,570頁
揃定価198,000円（揃本体180,000円＋税10%）
'97年６月～12月配本完結〔復刻版〕

喜田貞吉は、古代史・民俗学・考古学など幅広い研究において著名である。しかし、その業績は今日必ずしも評価されていない。彼の個人誌『民族と歴史』は、部落問題についての先見性に富んだ、「特殊部落研究号」において、今日の水平社運動や部落史の時期区分に新しい枠組みで見直す気運を作り出した。『民族と歴史』、その後継誌『社会史研究』の全10巻を復刻。また、新進気鋭の研究者による「解説」４編を付し、喜田民衆史観の再評価を提示する。
●**推薦**＝秋定嘉和・上田正昭

法律・政治・経済・統計

中央教化団体連合会 発行〔昭和５年～昭和19年刊〕

教化運動 全６巻・別冊１

別冊＝解説（須田将司）・総目次・索引
Ｂ４判・上製・総2,692頁
揃定価187,000円（揃本体170,000円＋税10%）
'18年11月～'19年９月配本完結〔復刻版〕

『教化運動』は、中央教化団体連合会が1930年に創刊、1944年まで刊行した機関紙である。同会は、日本はもとより朝鮮、台湾、南洋など植民地も含めた社会教化運動の担い手として、全国各地での大会・講演会の開催、教化市町村の指定、功労者の選奨、奨励金の交付を通じ、国民の「思想善導」を推し進めた。多くの政治家・官僚・宗教家・文化人らによる論説とともに、地方ごとの詳細な活動情報が掲載された全297号のほとんどを復刻した本書は、国民精神総動員体制へと突き進む昭和戦前・戦中期の人々の意識と生活を伝える第一級の史料である。

●推薦＝井上寿一・前田一男・米田俊彦

高木益太郎・岡崎源一 主幹〔明治33年～明治45年刊〕

法律新聞 明治期 全42巻

大正期 全95巻【品切】／昭和期 全95巻【品切】
Ｂ５判・上製・函入・総25,000頁
揃定価495,000円（揃本体450,000円＋税10%）
'83年６月～'84年６月配本完結〔復刻版〕

本紙は、弁護士高木益太郎を主幹として明治33（1900）年に創刊され、高木没後は女婿の弁護士岡崎源一が継承し、昭和19年4922号をもって終刊となる。高木主幹の「発刊の主旨」に見られるように、下級審の裁判例をも広く収載し、法律の普及と立法の資料として役立てることを目的とした。また大審院判決についても「判決録」「判例集」に登載されないものも全文掲載されている。

●推薦＝今井清一・加藤一郎・高木四郎・辻　誠・利谷信義・中野次雄・平野龍一・森長英三郎

高木益太郎・岡崎源一 主幹〔明治33年～昭和19年〕

法律新聞 ＤＶＤ―ＲＯＭ版 全５枚・別冊２

別冊＝『法律新聞』総目次（全２冊）
揃定価132,000円（揃本体120,000円＋税10%）
'09年12月刊

本紙は、弁護士高木益太郎を主幹として明治33（1900）年に創刊され、高木没後は女婿の弁護士岡崎源一が継承し、昭和19（1944）年に4922号をもって終刊となる。高木主幹の「発刊の主旨」に見られるように、下級審の裁判例を広く収載し、法律の普及と立法の資料として役立てることを目的とした。また大審院判決についても「判決録」「判例集」に登載されないものも全文掲載されている。

号数、発行年月日からの検索機能を付加し、デジタルデータとして新たに刊行。

中央報徳会 編纂〔明治39年～昭和21年刊〕

斯民（しみん） 全38巻・別冊１

別冊＝解説（金澤史男）・解題（酒田正敏）・目次総覧
Ａ４判・上製・総14,200頁
揃定価844,800円（揃本体768,000円＋税10%）
'00年10月～'02年12月配本完結〔復刻版〕

本誌は明治39（1906）年４月創刊、昭和21年12月まで、全40編471号刊行された。創刊当初、内務省は地方自治の基本方針として、二宮尊徳の「報徳」の理念を採用し、「道徳と経済の調和」を基本標語とした。当時の内務、農商務、文部の各省の地方行政、地方自治と密接な関係を持つ官僚を主導力とし、地方自治に対して常に多大の影響を与えており、狭義の報徳主義研究の資料にとどまらず、地方自治・農政史を含む日本近現代史研究の宝庫でもある。

●推薦＝海野福寿・宮崎隆次・宮地正人・和田　守

国家学会 編〔明治20年～昭和19年刊〕

国家学会雑誌 全177巻

揃定価 4,004,000円（揃本体 3,640,000円＋税10%）

明治期　全57巻〔第1巻～第57巻〕

Ａ5判・上製・総37,150頁
揃定価 1,254,000円（揃本体 1,140,000円＋税10%）
（各巻分売可。各巻定価 22,000円（本体 20,000円＋税10%））
'92年6月～'96年7月配本完結〔復刻版〕

大正期　全50巻〔第58巻～第107巻〕

Ａ5判・上製・総33,470頁
揃定価 1,210,000円（揃本体 1,100,000円＋税10%）
（各巻分売可。各巻定価 24,200円（本体 22,000円＋税10%））
'96年10月～'99年10月配本完結〔復刻版〕

昭和期　全70巻〔第108巻～第177巻〕

Ａ5判・上製・総34,128頁
揃定価 1,540,000円（揃本体 1,400,000円＋税10%）
（各巻分売可。各巻定価 22,000円（本体 20,000円＋税10%））
'00年1月～'04年7月配本完結〔復刻版〕

明治20（1887）年創刊の本誌は、「憲法、行政、法律、財政、外交、経済、統計等国家学ニ属スル論説事項ヲ掲載シテ斯学ヲ研究スルノ資ニ供スル」ことを目的に、百余年の長期間にわたり、今日もなお刊行され続けている、学術雑誌の中でも最大級の資料である。本復刻版は、今日の法律・政治学を中心とする研究の宝庫である。

●**推薦**＝碧海純一・今井清一・斎藤　眞・坂本義和・杉原泰雄・松尾尊兊

外務省通商局 編纂〔明治14年～大正2年刊〕

通商彙纂 全185巻

揃定価 3,426,500円（揃本体 3,115,000円＋税10%）

第Ⅰ期　全70巻〔第1巻～第70巻〕

高嶋雅明 解説（第1巻に収録）
Ｂ5判・上製・函入・総36,200頁
揃定価 1,155,000円（揃本体 1,050,000円＋税10%）
各配本定価 82,500円（本体 75,000円＋税10%）
'88年5月～'91年8月配本完結〔復刻版〕

第Ⅱ期　全60巻〔第71巻～第130巻〕

Ｂ5判・上製・総30,648頁
揃定価 1,122,000円（揃本体 1,020,000円＋税10%）
各配本定価 93,500円（本体 85,000円＋税10%）
'91年11月～'94年8月配本完結〔復刻版〕

第Ⅲ期　全55巻〔第131巻～第185巻〕

Ｂ5判・上製・総28,258頁
揃定価 1,149,500円（揃本体 1,045,000円＋税10%）
各配本定価 104,500円（本体 95,000円＋税10%）
'94年11月～'97年5月配本完結〔復刻版〕

本資料集は、外務省が編纂した領事報告の集大成である。「領事報告」とは、海外各地に駐在する領事が、本国政府に定期的に送付した現地の通商経済情報や貿易報告であり、19世紀国際経済史上きわめて重要な役割を果たした。報告書の項目をみても、商業・工業・水産・農業・鉱業・交通・貨幣及び金融・関税・電報・時事・雑報等多岐にわたりかつ膨大である。日本資本主義の生成・発展段階及び、各国経済活動を克明に記録した第一級資料である。

●**推薦**＝梶村秀樹・田中正俊・角山　栄・村上勝彦・山口和雄

〔復刻版の収録内容〕『通商彙編』（明治14年～19年）、『通商報告』（明治19年～22年）、『官報鈔存通商報告』（明治23年1月～10月）、『通商彙纂』（明治26年12月～大正2年3月）、および『官報』収録の「通商報告欄」（明治23年10月～明治26年12月）

外務省通商局 編纂〔大正２年～大正13年刊〕

通商公報 全145巻・別冊１

揃定価 3,135,000円（揃本体 2,850,000円＋税10%）

第Ⅰ期 全45巻〔第１巻～第45巻〕・別冊１

別冊＝解説（高嶋雅明）・総索引 全４巻
Ｂ５判・上製・総23,600頁
揃定価 1,045,000円（揃本体 950,000円＋税10%）
各配本定価 104,500円（本体 95,000円＋税10%）
'97年８月～'99年11月配本完結〔復刻版〕

第Ⅱ期 全50巻〔第46巻～第95巻〕

Ｂ５判・上製・総23,406頁
揃定価 1,045,000円（揃本体 950,000円＋税10%）
各配本定価 104,500円（本体 95,000円＋税10%）
'00年２月～'02年５月配本完結〔復刻版〕

第Ⅲ期 全50巻〔第96巻～第145巻〕

Ｂ５判・上製・総23,830頁
揃定価 1,045,000円（揃本体 950,000円＋税10%）
各配本定価 104,500円（本体 95,000円＋税10%）
'02年８月～'04年11月配本完結〔復刻版〕

『通商公報』は、『通商彙纂』の後継誌として、大正２(1913)年４月創刊、同13年12月、通巻号数1228号まで刊行された、海外領事報告集である。特に両大戦にまたがる時期の東アジアに生じた新しい国際経済関係を理解しようとする時、『通商公報』は、日本を中心とする通商情報を年々最も系統的に収集しているという意味において、基本資料である。大正期日本資本主義の発展・膨張期を、対外関係を通じて把握するための第一級資料である。

●推薦＝片山邦雄・北川勝彦・杉原　薫・高嶋雅明・村上勝彦

外務省通商局 編纂〔大正14年～昭和３年刊〕

日刊 海外商報 全15巻・別冊１

別冊＝解説（高嶋雅明）・総目次
Ａ４判・上製・総6,334頁
揃定価 462,000円（揃本体 420,000円＋税10%）
各配本定価 92,400円（本体 84,000円＋税10%）
'05年５月～'06年８月配本完結〔復刻版〕

『日刊海外商報』は、『通商公報』の後継誌として、大正14年１月から昭和３年３月まで刊行された通商貿易情報誌で、100を超える在外公館から寄せられた通商貿易、外国法規、移民、各国事情など広範囲にわたる情報を網羅している。大正末から昭和初頭の世界各地の経済事情や通商貿易状況と日本とのかかわりを掌握できる第一級の資料である。

●推薦＝高嶋雅明

外務省通商 局編〔明治36年～昭和14年〕

海外日本実業者の調査 全８巻

高嶋雅明 解説
Ａ４判・上製・総2,498頁
揃定価 246,400円（揃本体 224,000円＋税10%）
'06年11月～'07年６月配本完結〔復刻版〕

外務省は日露戦争直前の1903年10月、海外各地に在留する日本人実業者の調査を初めて実施し、その結果を『海外日本実業者ノ調査』として刊行した。以降、表題を『在外本邦実業者調』と変更しつつ、1939年末調査、同41年刊行に至る計22回の調査と21回の報告書を刊行した。

海外における日本人商工業者について、この調査に匹敵する網羅的調査報告はなく、明治期後半から昭和戦前期における日本人の殖民・移民の経済活動の全貌と日本企業の海外展開が掌握できる。

●推薦＝木村健二・柳田利夫

戦前期 海外商工興信録集成 全８巻

高嶋雅明 解説
Ａ４判・上製・総3,272頁（原本総7,746頁）
揃定価 220,000円（揃本体 200,000円＋税10%）
'09年10月～'10年５月配本完結〔編集復刻版〕

戦前期、朝鮮・中国・樺太・台湾・東南アジア・南洋など、アジアに進出した日本人実業者は相当数に達し、それぞれの地域で大きな地位を占めるものもあった。本資料集成では、これらの実業者に対して行われた、民間調査機関による調査の結果を収録した。個々人の商工業者の履歴、海外進出に至る動機や活動、また事業や経営といった商工業活動の実際など、公的な調査機関にはない項目や記述を多く含んでいる。日本人実業者たちの５万件におよぶデータは戦前期の中小商工業者の在外経営の実態を活写する。

●推薦＝木村健二・柳沢　遊

中央銀行会 刊〔明治36年～昭和17年刊〕

中央銀行会通信録 全130巻・別冊1

揃定価 2,255,000円（揃本体 2,050,000円＋税10%）

明治期　全25巻〔第1巻～第25巻〕

岡田和喜　監修・解説（第25巻に解説収録）
Ｂ5判・上製・函入・総10,368頁
揃定価 412,500円（揃本体 375,000円＋税10%）
各配本定価 82,500円（本体 75,000円＋税10%）
'89年5月～'90年5月配本完結〔復刻版〕

大正期　全56巻〔第26巻～第81巻〕

岡田和喜　監修・解説（第81巻に解説収録）
Ｂ5判・上製・総26,000頁
揃定価 825,500円（揃本体 750,000円＋税10%）
各配本定価 82,500円（本体 75,000円＋税10%）
'90年8月～'92年11月配本完結〔復刻版〕

昭和期　全49巻〔第82巻～第130巻〕

岡田和喜　監修・解説（第130巻に解説収録）
Ｂ5判・上製・総23,000頁
揃定価 990,000円（揃本体 900,000円＋税10%）
各配本定価 82,500円（本体 75,000円＋税10%）
'93年2月～'95年11月配本完結〔復刻版〕

『中央銀行会通信録』解題・記事総索引

岡田和喜 編・著／Ｂ5判・上製・総625頁
定価 27,500円（揃本体 25,000円＋税10%）／'98年1月刊

戦前期の三大銀行業界誌『銀行通信録』（東京）、『大阪銀行通信録』と並ぶ『中央銀行会通信録』は、中京地帯（静岡・福井・岐阜・三重をも含む）の銀行や金融市場の状況ばかりでなく、中部経済の動きについても多くの情報を与えており、この時代における中部経済に接近する資料として大きな価値をもっている。経済動向を月報形式で示す本通信録は、近代日本経済の史的研究に不可欠であり、貴重な資料である。

●**推薦**＝石井寛治・岡田和喜・新保　博・杉原四郎

◎紙名の変遷
『中央銀行会月報』
第1号（明治36年5月）→第24号（明治38年4月）
『中央銀行会通信録』
第25号（明治38年5月）→第472号（昭和17年7月）

大阪銀行集会所 編〔明治23年～昭和17年刊〕

大阪銀行通信録 全174巻・別冊1

揃定価 3,399,000円（揃本体 3,090,000円＋税10%）

明治期　全60巻〔第1巻～第60巻〕

作道洋太郎・岡田和喜・高嶋雅明・本間靖夫 監修・解説
Ｂ5判・上製・総25,170頁
揃定価 1,056,000円（揃本体 960,000円＋税10%）
'91年5月～'95年1月配本完結〔復刻版〕

大正期　全55巻〔第61巻～第115巻〕

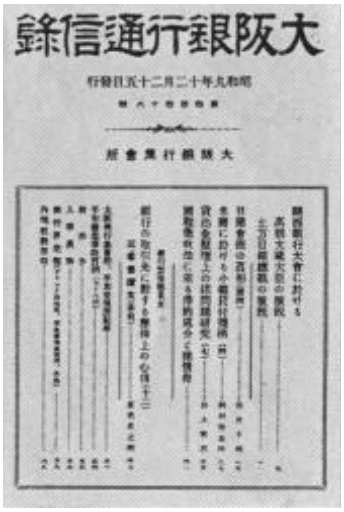
作道洋太郎・岡田和喜・高嶋雅明・本間靖夫 監修・解説
Ｂ5判・上製・総29,798頁
揃定価 1,089,000円（揃本体 990,000円＋税10%）
'95年5月～'98年9月配本完結〔復刻版〕

昭和期　全59巻〔第116巻～第174巻〕・別冊1

別冊＝解説・総目次
作道洋太郎・岡田和喜・高嶋雅明・本間靖夫 監修・解説
Ｂ5判・上製・総34,914頁
揃定価 1,254,000円（揃本体 1,140,000円＋税10%）
'99年1月～'02年9月配本完結〔復刻版〕

『大阪銀行通信録』（前身誌『銀行報告誌』を含む）は、全国的視野にたつ金融経済の状況をもとに、特に大阪金融市場を中心とする関西の諸地域、及び西日本各地の金融経済の動向を把握できる第一級の資料である。東京の『銀行通信録』、名古屋の『中央銀行会通信録』（弊社にて復刻版刊行済）と共に、日本金融史研究に不可欠の三大重要資料であり、大学等の研究機関のみならず、金融業界等の経済界においても広く活用できる内容を備えている。

●**推薦**＝宮本又次・長　幸男・安岡重明・大浦克彦



原田政美 編・解説

近代日本「市場」関係資料集
全８巻・別冊１・付録１

別冊＝解説（原田政美）・近代日本市場関係資料目録
付録＝近代日本市場関係資料目録データ（ＣＤ１枚）
Ａ５判・Ａ４判・上製・総4,284頁
揃定価200,200円（揃本体182,000円＋税10%）
'10年10月～'11年７月配本完結〔編集復刻版〕

食料品の供給問題は社会・経済政策上最大の関心事であり、人々にとっても生鮮食料品を扱う市場の整備は共通の願いであった。本資料集には、明治末年から昭和初期までの、食料品流通と市場制度の確立を物語る基礎資料約50点と、戦前期までの「近代日本市場関係資料目録」（約1500点）を収録した。日本近代の食料品流通の政策・法制度の推移を解明し、商業・流通構造の歴史にとどまらない、日本近代史、政治史の研究に新たな視点を提供する資料群である。
●**推薦**＝岩本由輝・宇佐美英機・小路田泰直・藤田貞一郎

加藤哲郎 編・解説

ゾルゲ事件史料集成 全10巻
太田耐造関係文書

Ｂ５判・上製・総3,436頁
揃定価275,000円（揃本体250,000円＋税10%）
'19年７月～'20年７月配本完結〔編集復刻版〕

本史料集成は、20世紀最大のスパイ事件＝ゾルゲ事件に関連する第一次史料を、国立国会図書館憲政資料室所蔵の太田耐造関係文書から精選・復刻したものである。思想検事・太田耐造が遺した史料群には、警察と検察の捜査・取調過程で作成された手書きやタイプ印刷の文書類を中心に、岩村通世法相から昭和天皇への「上奏文」、検察によるゾルゲ事件の総括ともいえる「国際共産党対日諜報機関検挙申報」などの注目すべき新史料を多数収録。ゾルゲ事件が国家権力最奥の司法において思想犯罪として立件されるプロセスを実証的に解明し、研究の新たな段階を切り拓く上で不可欠の史料。
●**推薦**＝伊藤　隆・荻野富士夫

司法省刑事局 編〔昭和16年～昭和23年刊〕

経済月報 全21巻・別冊１

別冊＝解題（西田美昭・荻野富士夫）・総目次
Ａ５判・上製・総10,800頁
揃定価462,000円（揃本体420,000円＋税10%）
'02年６月～'03年11月配本完結〔復刻版〕

「国家総動員法」（昭和13年４月公布）から３年、司法省は『経済月報』を創刊する。この法律は十五年戦争下の戦時統制の基本的法規であり、本法に基づき数多くの省令・告示・訓令が出されあらゆる面で国民の生活を統制する。
『経済月報』は、その運用の記録であり、いわゆる「経済検察」の実態を示す資料である。戦後の『新経済月報』も含めて戦時統制経済研究に不可欠の基本資料を復刻！
●**推薦**＝中村政則・原　朗・由井正臣

■十五年戦争極秘資料集　補巻㊹
古川隆久 編・解説

戦時下政治行政活動史料
1941-1945 全３冊

Ｂ５判・上製・函入・総1,392頁
揃定価62,700円（揃本体57,000円＋税10%）
'15年４月～８月刊〔編集復刻版〕

翼賛政治会が政務調査を中心とする政治活動のために収集または刊行したと推定される諸史料を復刻。日本政府と議会はいかに戦時に対応したのか。当時の政治家と議会、政府の関係を知る上で大変貴重な史料であると同時に、外交・経済・社会の実情をもうかがえる価値ある史料である。
特に、終戦直前（昭和20年７月）に実施された行政査察の詳細な報告書は、戦時統制の限界と破綻を示す貴重な内容となっている。
●**推薦**＝加藤陽子

内閣大礼記録編纂委員会・内務省警保局・内務省衛生局 刊

昭和大礼記録資料 全４巻・別冊１

別冊＝解説（西　秀成・荻野富士夫・藤野　豊）
Ｂ５判・上製・総2,512頁
揃定価104,500円（揃本体95,000円＋税10%）
'90年10月刊〔復刻版〕

1928（昭和３）年11月の「昭和大礼」は、十五年戦争の開始を目前にした、天皇制国家への民衆統合と動員のための最大の儀式であった。その記録は多数残されているが、その中から主要な３著作４巻を復刻。「昭和大礼」の実際の姿を検証し、あわせて、「平成大礼」の問題点をえぐり出す。
第１巻＝昭和大礼要録／**第２巻**＝㊙昭和大礼警備記録（上）／**第３巻**＝㊙昭和大礼警備記録（下）／**第４巻**＝昭和御大礼衛生記録
●**推薦**＝田中真人・中島三千男・由井正臣

小繋事件裁判資料集
DVD版 全14枚・別冊１

別冊＝解説（畑　穣・楜澤能生）・解題（早坂啓造・楜澤能生）・各裁判記録細目次
揃定価165,000円（揃本体150,000円＋税10%）
'12年１月～'13年３月配本完結

岩手県二戸郡一戸町字小繋に住む農民たちは、先祖代々小繋山に入り、建築用材、燃料、食糧などを調達していたが、1873年、地租改正にともなう官民所有区別所分の際に小繋山が民有地とされた。このときに発行された地券の名義人から譲渡を受けた者が、警察力などを使って立ち入りを実力で阻止するようになり、農民はこれを不服として1917年訴訟を起こし、この後すべての裁判が結審するまでに実に50余年、親子三代にわたって争われることになった。入会権を端緒とした公共事業、山林開発、環境問題を考えていく上で、本資料の意義は大きい。
●**推薦**＝戒能通厚・室田　武・山泉　進

公益財団法人渋沢栄一記念財団 編

渋沢栄一記念財団の挑戦

渋沢栄一記念財団は、新しい知の集積と発信を行う「文化資源館」を目指している。本書は、「渋沢史料館」「実業史研究情報センター」「研究部」の３つの組織が相互に協力しながら展開してきた実践報告である。
● Ａ５判・並製・324頁・定価2,970円／'15年10月刊

田　彤 編／于　臣 訳

渋沢栄一と中国
――一九一四年の中国訪問

渋沢栄一の1914年の訪中は、当時の中国において大きな反響を呼んだ。本書は中国の新聞雑誌の報道を和訳したものであり、今まで欠落していた情報を補うことのできる重要資料である。
●四六判・並製・254頁・定価2,420円／'16年７月刊

渋沢雅英 著

太平洋にかける橋
――渋沢栄一の生涯

本書は1970年に刊行された『太平洋にかける橋――渋沢栄一の生涯』に入江昭の序文を付した復刻版である。日本最初の国際人とも呼びうる渋沢栄一の生涯を軸に、日本における国際主義の系譜をたどる貴重な著作であると同時に、現代史の中で1970年代のもつ重要性をも認識させてくれる力作である。●四六判・上製・500頁・定価4,180円／'17年８月刊〔復刻版〕

重松一義 著

日本流人島史
――その多様性と刑罰の時代的特性

「流刑」の起原は王朝時代に遡り、政争や宗教、また身分による縁坐・連坐も少なくなかった。蝦夷から先島に及ぶ流刑地別に、「島流し」の諸形態・時代的特性を分析し、学問的観点から考察。
● Ａ５判・上製・208頁・定価4,180円／'11年11月刊

岡田和喜 著

金融雑誌の展開

『大阪銀行通信録』の復刻解題に係わる論稿を中心に、『銀行通信録』解題と、銀行業界３誌を統合した『全国金融統制会報』の解題を収録した、金融雑誌研究の集大成。
● Ａ５判・上製・248頁・定価5,280円／'11年12月刊

李洙任 編著

在日コリアンの経済活動
――移住労働者、起業家の過去・現在・未来

日本社会において、マイノリティによる経済活動の研究は立ち遅れていた。在日コリアンの戦前期からの経済活動に目を向け、グローバル化した日本社会のあるべき姿をも投げかける意欲作。
●推薦＝韓　榮恵
● Ａ５判・上製・274頁・定価4,180円／'12年３月刊

戸塚喜久 著【取扱図書】

土地が哭いている
――農地改革と農地法八十条

農地改革における不動産登記はどのように行われ、どのような問題が発生したのか、その問題はその後どうなったのか。青森県の大湊興業株式会社の所有地の裁判を事例に、実際の裁判資料と共に検討し、現在も未解決の農地改革の問題点を明らかにする。
●Ａ５判・並製・318頁・定価4,950円／'22年１月刊

都市不燃化

32ページをご参照ください。

昭和10年全国商店街調査資料

32ページをご参照ください。

根岸佶著作集

50ページをご参照ください。

旧外地「工場名簿」集成

50ページをご参照ください。

「三鷹事件」裁判関係資料集 DVD―ROM版

68ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

建築・都市・地理・民俗・観光

風景協会 発行〔昭和９年～昭和18年刊〕

風　景 全12巻・別冊１

別冊＝総目次・索引
Ｂ５判・上製・総5,494頁
揃定価316,800円（揃本体288,000円＋税10%）
'18年５月～'19年５月配本完結〔復刻版〕

風景協会は、1934年「科学と芸術との二大分野に跨りて、治く知識を糾合し…風景の綜合的研究調査を行ひ…風景国策の樹立を期せんこと」を目的として設立された。その機関誌『風景』は、日本各地だけでなく台湾、朝鮮、満洲などの植民地・旧外地を、調査研究論文、紀行、随筆、ふんだんな写真や絵画で紹介し、1943年12月に休刊となった。
観光、厚生、芸術、科学、「国際親善」、「国運発展」など風景をめぐる様々な観点が浮かび上がる。
●**推薦**＝荒山正彦

都市不燃化同盟 発行〔1949年～1959年刊〕

都市不燃化 全３巻・別冊１

別冊＝解題（初田香成）・総目次・索引
Ｂ５判・上製・総1,604頁
揃定価82,500円（揃本体75,000円＋税10%）
'14年11月刊〔復刻版〕

都市不燃化運動は戦前からの防火・防空研究をもとに、戦後まもなくから1950年代を通じて隆盛を誇った運動である。本書はその推進団体である都市不燃化同盟の機関誌で、1949年から1959年まで全97号が刊行された。同盟には産官学から多様な分野の関係者が集まり、とりわけ建設省官僚たちが大きく関わっていたのが特徴であった。
今日においても尚、火災対策は喫緊の課題である。都市不燃化運動や、当時の各都市の状況を詳細に伝えた本書は、今後の災害対策においても示唆に富む重要資料である。
●**推薦**＝内田青蔵・鈴木　淳・田中哮義・西村幸夫

㈶都市計画協会 刊〔昭和20年～昭和35年刊〕

新都市 全20巻・別冊１

別冊＝解説（越澤　明）・総目次・索引
Ｂ５判・上製・総8,900頁
揃定価418,000円（揃本体380,000円＋税10%）
'96年６月～'97年12月配本完結〔復刻版〕

戦前の都市計画は、後藤新平会長の都市研究会を中心とし、『都市公論』（大正７年～昭和20年）を発行、広く市政問題全体に論説・研究を発表してきた。
戦後、同研究会の流れを継承した、戦災復興院および都市計画協会は、それぞれ『復興情報』『新都市』を発刊、戦災復興という都市計画の重要なテーマに取り組んできた。特に、毎年都道府県ごとの特集号、また、海外の実情を紹介するなど、ユニークな誌面が見られる。同協会創立50周年を期して復刻。
●**推薦**＝石田頼房・西山康雄・八木田功・渡辺俊一

都市創作会 刊〔大正14年～昭和５年刊〕

都市創作 全10巻・別冊１

別冊＝解説（堀田典裕）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総5,284頁
揃定価220,000円（揃本体200,000円＋税10%）
'05年５月～９月配本完結〔復刻版〕

本誌は、大正14年に都市計画愛知地方委員会を中心として設立された「都市創作会」の機関誌であり、同年９月に創刊、昭和５年４月までの全55冊が確認されている。愛知県の都市形成史を中心に、戦前の主要都市における建築・交通・緑地・住宅・経済等を論じており、東京一極集中する以前の中央と地方の関係を省察する上で貴重な資料である。都市計画の揺籃期を代表する執筆者が多く寄稿しており、研究者のみならず、実務担当者にとっても必備の資料である。
●**推薦**＝片木　篤・鳴海邦碩・藤森照信

辻原万規彦・藤岡里圭 編・解題

昭和10年 全国商店街調査資料 全13巻・別巻１

別巻＝解題（辻原万規彦・藤岡里圭）・参考資料編
Ａ５判・Ａ４判・上製・総5,742頁
各巻定価16,500円（各巻本体15,000円＋税10%）
揃定価231,000円（揃本体210,000円＋税10%）
'07年７月～'08年５月配本完結〔編集復刻版〕

本資料は商店街におけるコミュニティの形成過程解明の基本文献である。商工省は昭和10年に商店街に関する、「詳細かつ大規模かつ網羅的な」調査を実施した。調査地域は、大都市圏を含む、北は旭川から南は那覇、さらに旧「満洲国」や統治下の朝鮮半島まで、全国90余都市に及ぶ。戦災等により失われた戦前期の商店街の諸相を、文字、数字、写真、地図により再現。商業史、建築史、都市史、都市計画史、盛り場、露天等の研究者に提供する。
●**推薦**＝石原武政・北原理雄

都政人協会・㈳東京都自治振興会 発行

『町会』『町と生活』 全11巻・別冊1

別冊＝解説（吉原直樹）・総目次・索引
Ａ５判・Ｂ５判・上製・総6,248頁
揃定価198,000円（揃本体180,000円＋税10%）
'07年11月～'08年５月配本完結〔復刻版〕

本誌は、激動する1950年・60年代の町内会・自治会の動きを伝える唯一のコミュニティ情報誌として、1956年から1967年まで発行された。
東京都の町内会の実態を中心に、都政のＰＲや広く住民の声を誌面に反映させ、戦後の高度経済成長による人口の流動化や、新たに開発された住宅地の変化等に伴う新たな住民運動や地方自治の問題を伝えている。
コミュニティ政策・都市社会学・行政史研究の基礎資料として復刻。
●**推薦**＝雨宮昭一・中田　實・西尾　勝

新建築社 刊〔大正14年～昭和19年刊〕

新建築 全46巻・補巻1・別冊1

別冊＝解説（石田潤一郎）・総目次・索引
Ａ５・Ａ４・Ｂ５判・上製・総13,602頁
揃定価990,000円（揃本体900,000円＋税10%）
'06年11月～'10年２月配本完結〔復刻版〕

1925年創刊の本誌は、戦前期の建築ジャーナリズムの中で、編集方針の偏りや党派性をみせることなく、個々の作品に関する情報や矩計図も添えられた図面と鮮明な写真、要を得た取材文を掲載し、昭和戦前期の日本建築界の総体を丸ごと伝えている。
本誌を通覧することによって、合理主義と経験主義、コスモポリタニズムと超国家主義とが生まれ、争い、結ばれあう様を目の当たりにすることができる。
●**推薦**＝橋爪紳也・藤田治彦・藤森照信・八束はじめ

近代建築画譜刊行会 発行〔昭和11年刊〕

近代建築画譜 近畿編 全1巻

橋爪紳也 監修
Ａ４判・上製・函入・672頁
定価52,800円（本体48,000円＋税10%）
'07年６月刊〔復刻版〕

本書は、昭和11年に大阪で刊行された建築物の写真集である。ここには、明治・大正・昭和の三代にわたって建設された関西の主要な建築物（写真1,202点・図面269点）が網羅されている。対象にした建物は、官公庁、学校をはじめとする公的機関から、銀行、病院、駅、新聞社、百貨店、ホテル、アパート、映画館、料亭、工場、神社、仏閣など、都市のあらゆる施設を取り上げている。近代建築史研究の重要資料である。
●**推薦**＝陣内秀信・初田　亨

建築画報社 発行／黒田鵬心 編〔大正４年刊〕

東京百建築 全1巻

石田潤一郎 解説
Ｂ５横判・上製・総280頁
定価13,200円（本体12,000円＋税10%）
'08年11月刊〔復刻版〕

『東京百建築』は、明治初年より大正３年までに東京で竣工した百の建築物を収録した写真集である。震災前の東京における代表的な建築物を網羅し、各建築物の様式及び手法、起工及び竣工年月、設計者、監督者、施工者などのデータを収載している。それぞれの写真は鮮明である。
稀覯本であった本書の復刻は日本の近代建築の誕生の過程の全体像を示すものであり、広く研究者に提供する。

大阪府 発行〔大正３年刊〕

大阪府写真帖 全1巻

橋爪紳也 監修・解題
Ｂ４横判・上製・総186頁
定価22,000円（本体15,000円＋税10%）
'10年11月刊〔復刻版〕

本書は、大正３年、天皇行幸に際して、大阪の現状を報告するために大阪府が編集した。掲載された写真は、市街図、御陵、官幣社・府社、軍、官公庁、学校、港、川の景観、駅、商業会議所、各種の取引所や市場、水源地、官民の工場、農地、名所旧跡、公園、名刹など多岐に渡る。近代化途上の商都の繁栄を伝える貴重な写真集である。

京都地籍図編纂所 発行〔大正元年刊〕

京都地籍図 全4巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（河原典史）・付録解説（井上　学）
付録＝「土地台帳」データＣＤ
Ａ４判・上製・総1,614頁
揃定価198,000円（揃本体180,000円＋税10%）
'08年10月～'09年４月配本完結〔復刻版〕

弊社では復刻版作成にあたり、上京・下京・接続町村部の地図図版３編分を１巻に合本し、３冊の「土地台帳」は原本通りとした。また、検索の便を図るために、「土地台帳」記載の７万件を越えるすべての記録を電子データ化し、ＣＤに収録して付録とした。これは、地名の検索はもちろん、地目・地主などの集計に活用できる。つまり、地主ごとの地籍を集計することによって、いわゆる「名寄帳」が作成でき、所有面積・地代などを指標とした社会・経済構造を読み取ることが可能になる。
●**推薦**＝末永國紀・杉本秀太郎・高橋康夫・山田　誠

帝国古蹟取調会 編〔明治33年～明治37年刊〕

古　蹟 全3巻・別冊1

別冊＝解説（丸山　宏）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総1,536頁
揃定価60,500円（揃本体55,000円＋税10%）
'11年1月刊〔復刻版〕

明治期の産業発展の過程で土地開発が進み、文化遺産は破壊の危機に晒される。九条道孝らは1900年、文化遺産の保存顕彰を目的として帝国古蹟取調会を発足させ、喜田貞吉を編集主任として機関誌『帝国古蹟取調会会報』を創刊、1903年『古蹟』と改題する。わずか4年後には活動を停止するが、誌面には吉田東伍、小杉榲邨、三宅米吉ら代表的歴史学者・考古学者が寄稿し、個別の史蹟研究、地方の紹介、古代石碑の論稿も多い。前身誌『帝国古蹟取調会会報』も収録した本復刻版は、文化史・郷土史研究の重要資料である。
●推薦＝羽賀祥二

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編〔大正3年～大正12年刊〕

史蹟名勝天然紀念物 大正編 全3巻・附録1・別冊1

別冊＝解説（丸山　宏）・総目次・索引
Ａ４・Ａ５判・上製・総1,510頁
揃定価74,800円（揃本体68,000円＋税10%）
'03年6月刊〔復刻版〕

本誌は明治後期から大正にいたる産業発展の過程で、破壊の危機にさらされた文化的景観と記念物文化財を保護顕彰することを目的に1911年に発足した「史蹟名勝天然紀念物保存協会」の会報である。
大正期の全巻、及び同協会が開催した講演会記録である『史蹟名勝天然紀念物保存協会報告』を復刻刊行し、広く日本文化史・郷土史研究の基本資料として提供する。
●推薦＝荒山正彦・上田正昭・栄原永遠男・羽賀祥二

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編〔大正15年～昭和19年刊〕

史蹟名勝天然紀念物 昭和編 全52巻・別冊1

別冊＝解題（高木博志）・総目次・索引
第Ⅰ期 揃定価220,000円（揃本体200,000円＋税10%）全12巻
第Ⅱ期 揃定価220,000円（揃本体200,000円＋税10%）全12巻
第Ⅲ期 揃定価220,000円（揃本体200,000円＋税10%）全12巻
第Ⅳ期 揃定価308,000円（揃本体280,000円＋税10%）全16巻・別冊1
Ａ５判・上製・総21,882頁
'04年10月～'08年11月配本完結〔復刻版〕

本誌は、旧幕臣の侯爵徳川頼倫らが1911年に発足させた、史蹟名勝天然紀念物保存協会の会報である。その趣旨及び内容は、日露戦争後、国内産業の発展の裏で進む、文化的景観と記念物文化財破壊の危機を訴え、保存の啓発と法制化を目的とし、様々な分野から著名な学者が参加し、多岐にわたる見解・分析を寄稿している。
昭和編として、関東大震災を挟んで約3年の休刊後、大正15年1月の復刊から昭和19年8月の終刊までを、全4期に分けて復刻刊行する。昭和戦前期の文化財保護行政の足跡を辿り、その全貌を明らかにするものである。
●推薦＝荒山正彦・上田正昭・栄原永遠男・羽賀祥二

国立公園協会 発行〔昭和4年～昭和19年刊〕

國立公園 全12巻・別冊1

別冊＝解題（白幡洋三郎）・総目次・索引
Ｂ５判・上製・総5,568頁
揃定価343,200円（揃本体312,000円＋税10%）
'10年7月～'11年12月配本完結〔復刻版〕

本書は、本多静六、田村剛、三好学、細川護立などにより昭和2年に設立された国立公園協会の機関誌である。昭和4年に創刊、太平洋戦争中の昭和18年に『國土と健民』と改題されるが、戦後の昭和23年『國立公園』の名で復刊し、今日まで刊行が続いている。国立公園法（昭和6年）制度の解説、同9年から指定が始まった国立公園の特質、保護や利用等の記事を通して国立公園の普及啓発に努めた。戦前戦中期、植民地をも含む国立公園の成立・運営とその意義、国立公園行政の全体像を捉える基本資料である。
●推薦＝小泉武栄・越澤　明・曽山　毅・西田正憲

遍路同行会 発行〔昭和6年～昭和17年刊〕

遍　路 全3巻・別冊1

別冊＝解説（下西　忠）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総1,238頁
揃定価59,400円（揃本体54,000円＋税10%）
'16年3月刊〔復刻版〕

本誌は東京中野・宝仙寺内の遍路同行会機関誌である。そして、「遍路愛」を鼓吹するために設立された遍路同行会の目的を達成するための「文書宣伝」を具体化したものである。
誌面では会長の富田敷純の文章をはじめ、高群逸枝や荻原井泉水等の著名文化人や会員の四国遍路の便りも載っている。また、遍路同行会は「大東京遍路修行会」「多磨遍路」等、関東圏での遍路行事も行った。近代の遍路を知るために不可欠な貴重資料である。
●推薦＝真鍋俊照・森　正人

内山模型製図社 発行〔昭和6年～昭和10年刊〕

東京地籍図 全26巻・別冊1・付録9

別冊＝解説（田中　傑・中島直人・野村悦子・初田香成）
付録＝「地籍台帳」データ（ＣＤ９枚）
Ｂ５判・Ａ３判・上製・総7,498頁
揃定価561,000円（揃本体510,000円＋税10%）
'10年7月～'12年11月配本完結〔復刻版〕

関東大震災により大被害を受けた東京は、下町を中心に震災復興区画整理事業が進められ、幹線道路が整備されるなど、大きく変貌しつつあった。本書は、この復興期の東京の土地所有状況を網羅した貴重資料である。復刻版では、16区の地籍図および地籍台帳に、検索の便を図るため地籍台帳データをＣＤに収め付録として付す。近代都市・東京を解析するデータベースであり、地理学、経済・経営史、都市工学研究必携の史料である。
●推薦＝伊藤　毅・北原糸子・松山　巌・水内俊雄

■十五年戦争極秘資料集　補巻㉚

外邦測量沿革史 草稿 全4冊・別冊1

別冊＝解説（小林　茂）・総目次
Ａ４判・上製・函入・総1,310頁
揃定価124,300円（揃本体113,000円＋税10%）
'08年６月～'09年３月刊〔復刻版〕

本書は、近隣アジア諸地域を測量するため、日清戦争を機に設けられた陸軍参謀本部陸地測量部関係者の行動記録（明治28年～大正15年）である。各年度における測量計画や実績報告、各種命令や関係者の往復書簡等が収められ、日清・日露戦争、韓国併合、シベリア出兵の過程で、中国、台湾、朝鮮各地で排日抵抗運動、現地の官憲の反発に直面しながら、公然あるいは隠密の測量活動を拡大し、地図の精度を高めていった実情を生々しく伝える。日本軍の近隣アジアにおける陸地測量の実態を解明する上で不可欠の資料である。
●推薦＝石原　潤・村上勝彦

■十五年戦争極秘資料集　補巻㊳

研究蒐録 地図 全3冊

解説（小林　茂・渡辺理絵）・総目次・執筆者索引付き
Ｂ５判・上製・函入・総1,580頁
揃定価59,400円（揃本体54,000円＋税10%）
'11年２月～６月刊〔復刻版〕

『研究蒐録 地図』は陸軍参謀本部陸地測量部の編集により、1943年１月に発行され、現在1944年10月までの計22冊が確認されている。陸地測量部の教育機関誌である本誌は、「陸地測量に関する識能増進のため、教育或いは測量技術の統制、…公文による不備を補足し、研究・論説等を紹介」（発行の趣旨より）し、戦火の拡大した中国、東南アジア諸地域を含む広範囲の測量事情を収載している。未解明な部分の多い陸地測量部の活動や秘密測量を検証する基礎資料である。
●推薦＝佐藤　久

陸地測量部 編

陸地測量部沿革誌
全１巻・付録ＣＤ１枚

小林　茂 解説
付録ＣＤ＝陸地測量部沿革誌附図・附表
Ａ５判・上製・函入・566頁
定価30,800円（揃本体28,000円＋税10%）
'13年７月刊〔復刻版〕

大正11年、昭和５年、昭和23年と三期に分けて発行された本誌は、明治から昭和戦前期まで、日本における地図製作を担っていた陸地測量部の変遷、活動内容を通覧することのできる数少ない資料である。
陸地測量部は日本の近代測量史において中枢を担っていたにも関わらず未解明な部分もまだ多い。また、学界だけでなく地図愛好者の間でも近代地図への関心も高まっており、その基本資料として、復刻するものである。
●推薦＝星埜由尚

寺田近雄 著／寺田事務所発行【取扱図書】

皇室陵墓

昭和までの歴代天皇、皇室、皇族の墳墓をオールカラーで紹介、解説を付す。歴史愛好家、郷土史家、公共図書館必備の一冊。
●Ｂ５判・上製・266頁・定価22,000円／'11年10月刊

沖縄文化

41ページをご参照ください。

新亜細亜

52ページをご参照ください。

南洋群島

52ページをご参照ください。

旧制成城高等学校尋常科地理自学書集

73ページをご参照ください。

月刊民藝・民藝

80ページをご参照ください。

工藝　ＤＶＤ―ＲＯＭ 電子版

80ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

移民

日本力行会 発行〔大正２年～昭和20年刊〕

力行世界（りっこう） 全39巻・別冊１

別冊＝解説（和田敦彦）・総目次・索引
Ａ５判・Ｂ５判・Ｂ４判・上製・総20,078頁
揃定価838,200円（揃本体762,000円＋税10%）
'12年11月～'15年２月配本完結〔復刻版〕

本誌は、1913年より現在も刊行中の日本力行会機関誌である。日本力行会は1897年、キリスト教徒であった島貫兵太夫が苦学生救済・海外発展の必要性を唱えるために設立された。『力行世界』は、世界各地に在住する会員の声、移民を希望している人との問答、渡航の方法等、移民に関する記事を豊富に提供する「移民情報の宝庫」であるが、揃いで所蔵している研究機関は皆無であり、容易に入手できなかった。今回の復刻により、移民史をはじめキリスト教史、教育史、広く近現代史研究に供するものである。
●**推薦**＝飯田耕二郎・根川幸男・日比嘉高・平井廣一

南米社 発行〔大正７年刊〕

週刊南米 全３巻

制作協力　飯田耕二郎
Ｂ５判・上製・総1,056頁
揃定価72,600円（揃本体66,000円＋税10%）
'17年６月刊〔復刻版〕

『週刊南米』は星名謙一郎によって発行されたブラジル初の邦字紙である。現在その存在を確認できるのが1918年刊行の27号分で、これらを収録した。内容は多彩で、農牧業に関する記事を中心に、ブラジル国内外、時節柄第一次大戦の記事も多く、日本の様子、文芸欄もある。笠戸丸移民から10年、史料の乏しい時期であり、草創期ブラジル日系人の活躍について新たな側面を見出すことができるだろう。
●**推薦**＝吉田　亮・根川幸男

戦前期ブラジル移民日本語読本 全１巻

根川幸男 解題
Ａ４判・上製・302頁
定価36,300円（揃本体33,000円＋税10%）
'16年１月刊〔編集復刻版〕

1936年から翌年にかけて刊行された、ブラジル初の日本語読本教科書である『日本語讀本』（ブラジル日本人教育普及会）全８冊を四面付け方式の１冊に合本、そしてカラーページをそのまま再現して復刻刊行する。この『日本語讀本』は素材の多くを当時の国定教科書から取っているが、中にはブラジルの偉人・歴史上の人物の伝記が収録されている。また、ブラジルの日系女生徒の作文、ポルトガル語教科書からの翻訳教材も見られ、「日本的教育」と「ブラジル的教育」の融和への志向性を垣間見ることができる。
●**推薦**＝森本豊富・エドワード マック

日本移民協会 発行〔大正３年～大正８年刊〕

日本移民協会報告 全２巻

解説（坂口満宏）・総目次・索引付き
Ｂ５判・上製・総680頁
揃定価39,600円（揃本体36,000円＋税10%）
'06年９月刊〔復刻版〕

日露戦争後、日本の東アジアへの急激な進出を危惧したアメリカでは対日批判が高まり、1907年には新規移民禁止、1913年には第一次排日土地法成立により日本人の土地所有や借地等の権利が剥奪されるに至る。この様な状況に鑑み、1914年2月に大隈重信を会頭として「日本移民協会」が設立された。本誌は同会の機関誌として、北米における日本移民の労働や就学状況調査、東南アジア・南米への移民の有望性・将来性、南洋諸島の移民地としての価値など、移民に関る幅広い論説と情報を提供している。

佐々木敏二 編集・解説

カナダ移民史資料 全５巻

Ａ４判・Ａ５判・Ｂ６判・上製・総2,664頁
揃定価107,800円（揃本体98,000円＋税10%）
'95年５月刊〔復刻版〕

本書は、明治～昭和戦前期のカナダ日本人移民に関する基本・重要文献を復刻したものである。
〈収録文献〉『加奈陀同胞発展史』（明治42年５月・大陸日報社編）
『加奈陀同胞発展史　第二』（大正６年８月・大陸日報社編）
『加奈陀同胞発展史　第三』（大正13年８月・大陸日報社編）
『加奈陀同胞発展大鑑　附録』（大正10年７月中山訒四郎著）
『須知武士道（スチグストン）漁者慈善団体　三十五年史』（昭和10年11月小林貞二編）
『足跡』（山崎寧翁伝記編纂会編著）
●**推薦**＝飯野正子・原口邦紘・三輪公忠

佐々木敏二・権並恒治 編集・解説

カナダ移民史資料Ⅱ 全6巻・別冊1

別冊＝全16点の英文目次＋『加奈陀と日本人』の翻訳
Ｂ5判・Ａ5判・上製・総4,116頁
揃定価162,800円（揃本体148,000円＋税10%）
'00年9月刊〔復刻版〕

本書は、『カナダ移民史資料』の第二集として10点の資料を収録した。
〈収録文献〉『加奈陀在留邦人々名録』（大正15年6月）『ビーシー州日本人電話帳』（1931年7月）『在加奈陀邦人々名録』（昭和16年9月）『加奈陀同胞発展大鑑 全』（大正10年7月）『在加同胞労働調査』（1923年）『加奈陀日本人農業発展号』（昭和5年10月）『加奈陀と日本人』（昭和15年10月）『海外移民が母村に及ぼした影響』（1953年2月）『湖東移民村の研究』（1964年3月）『黒潮の涯に』（1974年1月）

外務省通商局 編〔明治40年～昭和15年刊〕

海外各地在留本邦人職業別人口表 全5巻・附録1

柳田利夫 解説
Ｂ4・Ｂ5判・上製・総1,800頁
揃定価104,500円（揃本体95,000円＋税10%）
'02年11月刊〔編集復刻版〕

『海外各地在留本邦（内地）人職業別人口表』（外務省通商局編）は、世界各地に居住する日本人についてその男女別、職業別（後に本業者、家族別）を一覧表にまとめ、何度かその形式やタイトルを変えながらも、明治40年以降年1回、30年以上にわたって印刷・刊行された調書である。弊社ではこれらの統計表を年次別に整理し、復刻刊行する。明治期以降の海外における日本人の活動の実態を把握するための第一級資料。移民研究、歴史地理研究等の基本文献。
●**推薦**＝兒玉正昭・佐々木敏二

外務省政務局ほか 編〔明治41年～昭和19年刊〕

戦前期中国在留日本人統計 全8巻

木村健二・幸野保典 解説
Ｂ5・Ａ5・Ａ4判・上製・総3,470頁
揃定価209,000円（揃本体190,000円＋税10%）
'04年6月～11月配本完結〔編集復刻版〕

1909（明治42）年6月、外務省政務局編纂による『関東州並満洲在留本邦人及外国人人口統計表』が初めて刊行された。
以後、誌名を変えつつほぼ毎年刊行されたこれらの統計は、当該地域の各領事館・分館からの人口調査報告に基づいて作成され、内容も地域別（中国・「満洲国」・台湾）、民族別（日本人・中国人・朝鮮人・台湾人・及び外国人）に男女別人数とその合計を掲載し、1944（昭和19）年7月までの具体的な増加状況が概観できる。
戦前の中国における日本の支配地域や影響の拡大を知る好資料！
●**推薦**＝川島　真・高嶋雅明

外務省通商局 編〔大正11年～昭和6年刊〕

移民地事情 全10巻・別冊1

別冊＝解説（柳田利夫）・総目次
Ａ5判・上製・総4,810頁
揃定価210,100円（揃本体191,000円＋税10%）
'99年11月～'00年12月配本完結〔復刻版〕

外務省通商局は、海外の領事館からの報告を『通商公報』として定期的に公表していた。『移民地事情』はその中から、中南米地域＝ブラジル・アルゼンチン・ボリヴィア・メキシコ・コロンビア・チリ・パラグアイ・ウルグアイ等についての、日本人移民地の「視察報告」を取りまとめ、不定期で全27冊刊行された。
これらの各地域には、既に邦人移民が相当数定住しており、その地の詳細な地図と共に、彼等の生活状態を報告した本書は、日本人移民地の実情を知る基本資料である。

ハワイ日本語学校教科書集成 全10巻

高木〈北山〉眞理子 解説
Ａ4判・上製・総3,627頁
揃定価308,000円（揃本体280,000円＋税10%）
'11年11月～'12年11月配本完結〔編集復刻版〕

ハワイへの日本人移民は、1885年の「官約」により本格化し、定住化の過程で、第2世代の教育問題が移民社会の懸案となる。アメリカの同化政策、外国語学校取締法、これに対する違憲裁判と勝訴という苦闘のなかで、多いときは日系2世の9割が日本語学校で学んだ。本集成は、1918年から41年までに布哇教育会、布哇中央学院、本派本願寺学務部、布哇教育局等が子弟教育のために独自に編纂出版した日本語読本と修身教科書を収録。教育史のみならず移民・民族史の貴重な史料である。
●**推薦**＝沖田行司・白水繁彦・バゼル山本登紀子・吉田　亮

篠田左多江・山本岩夫 編集・解題・解説

日系アメリカ文学雑誌集成 全22巻・別冊1

別冊＝日系アメリカ文学雑誌研究――日本語雑誌を中心に
Ａ5判・Ｂ5判・上製・総11,420頁
揃定価435,600円（揃本体396,000円＋税10%）
各巻定価19,800円（各巻本体18,000円＋税10%）
'97年6月～'98年12月配本完結〔編集復刻版〕

太平洋戦争中、アメリカにおける強制収容所内で発行された、日系人による文学雑誌（日本語）を、今日収集できるかぎり集め、解題を付して復刻。また、その後継誌である戦後の日系文学雑誌も、あわせて復刻出版。『収穫』『若人』『怒涛』『鉄柵』『ハートマウンテン文芸』『ポストン文芸』『ＮＹ文芸』『南加文芸』の八種の雑誌を全22巻に収録。日系移民の想像を絶する苦労の日々を、文学を通じて再現。日系移民史の研究にも、基礎史料となる。
●**推薦**＝阪田安雄・佐々木敏二・福田陸太郎

■十五年戦争重要文献シリーズ　補集③

かがやきごう
輝　号〔ブラジル「勝ち組」広報誌〕

収録内容：創刊号（昭和24年３月）全頁・各号「目次」「編輯後記」
岸和田 仁 解説
Ｂ５判・上製・函入・180頁
揃定価 20,900円（揃本体 19,000円＋税10%）
'12年７月刊〔編集復刻版〕

第二次大戦後のブラジル日系社会では「勝ち組」、「負け組」というふたつの思想的な対立が顕著となった。「勝ち組」とは日本の敗戦を信じなかった日本人移民のことで「信念派」、「強硬派」と呼ばれ、1946年から47年の時点ではブラジル日系人の八割が「勝ち組」だった。一方「負け組」の人たちは、「認識派」、「敗戦派」と呼ばれ、ポルトガル語の新聞が読めた日系社会のエリートが多かった。情報が乏しい中、日本の勝利を信じていた「勝ち組」、「信念派」の日本回帰運動の心理に迫る復刻。
●推薦＝三田千代子

飯田耕二郎 著
移民の魁傑・星名謙一郎の生涯
——ハワイ・テキサス・ブラジル

星名謙一郎（1866～1926）は、日本人移民の草創期に、ハワイ・テキサス・ブラジルという三つの地域をまたいで先駆的な役割を果たした。星名が発行したブラジル初の邦字紙『週刊南米』総目次も収録した、初の評伝である。
●Ａ５判・並製・320頁・定価 4,180円／'17年8月刊

兒玉正昭 著
日本人移民ハワイ上陸拒絶事件
——領事報告を中心に

1897年の事件当時、ハワイ駐在日本総領事が書き残した記録、及び諸文献の豊富なデータをもとに事件の全容を考察し、移民の視点で事件の要因を実証した重要な研究である。
●Ａ５判・上製・192頁・定価 2,750円／'11年６月刊

佐々木敏二 著
日本人カナダ移民史

本書は、戦前、カナダへ渡った「日本人移民」の歴史を、滋賀・和歌山両県を中心として、出移民と移住地での定住過程を結びつけ、体系化した、著者の永年の実証的研究成果が結実した労作。
●Ａ５判・上製・304頁・定価 6,600円／'99年８月刊

坂口満宏 著
日本人アメリカ移民史

20世紀前半、日米開戦に伴う日系人の強制収容直前までのアメリカ合衆国西北部に形成された日本人移民社会の展開と消滅の過程を歴史の流れの中で多角的に考察した書。
●Ａ５判・上製・340頁・定価 7,150円／'01年11月刊

立命館大学日系文化研究会 編著
戦後日系カナダ人の社会と文化

多文化主義社会カナダの戦後日系人の抱えた政治的・文化的問題を、組織・祭り・言語・文学・メディア等を通して多角的に追求した論文集。坂口満宏・佐々木敏二・彦坂佳宣・山本岩夫ほか著。
●Ａ５判・上製・238頁・定価 3,850円／'03年７月刊

■龍谷大学社会科学研究所叢書　第45巻
戸上宗賢 編著
交錯する国家・民族・宗教——移民の社会適応

グローバル化した20世紀の移民・移住事象を国家、民族、宗教そして教育などの側面から考察した共同研究書。執筆＝戸上宗賢・李洙任・粂井輝子・木村健二・横山勝英・島田法子・飯野正子・小島　勝
●Ａ５判・上製・288頁・定価 5,060円／'01年５月刊

蘭　信三 編著
日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学

本書は、朝鮮、満洲、樺太、台湾、南洋を舞台として、複雑に展開された《人口移動》の諸相を、国際社会学的視角から総体として捉えようとしたものである。
●推薦＝木村健二・山本有造
●Ａ５判・上製・898頁・定価 8,800円／'08年６月刊

三田千代子 著
「出稼ぎ」から「デカセギ」へ
——ブラジル移民100年にみる人と文化のダイナミズム

1908年に始まるブラジル移民。ブラジルは、日本からの移民を70年にもわたり制度的に受け入れてきた唯一の国である。ヒトの移動によってもたらされた文化のダイナミックな変容を考察。
●Ａ５判・並製・296頁・定価 2,200円／'09年３月刊

木下　昭 著
エスニック学生組織に見る「祖国」
——フィリピン系アメリカ人のナショナリズムと文化

フィリピン系アメリカ人のアイデンティティを、主にエスニック学生組織を対象として考察。エスニシティとナショナリズムの交錯、遠隔地ナショナリズムの形成を丹念に描く。
●Ａ５判・上製・340頁・定価 6,380円／'09年５月刊

マイグレーション研究会 編
来日留学生の体験
——北米・アジア出身者の1930年代

満洲事変を機に十五年戦争に突入していく1930年代、留学生として来日した北米・アジア出身者（日系二世、台湾・朝鮮半島出身者、フィリピン人、中国人）は、二つの国や地域のはざまで何を思い、求め、生活し行動したのか。北米とアジア両地域からの日本への留学生の個人体験を比較することを主眼とした意欲作！　●Ａ５判・並製・212頁・定価 3,300円／'12年６月刊

定価は消費税10％込

公益財団法人渋沢栄一記念財団研究部 編

実業家とブラジル移住

本書は、ブラジル移住事業を企画経営した岩崎久彌、渋沢栄一、武藤山治、平生釟三郎という四人の実業家がどのような構想を抱き、それをどう実現させたのかを明らかにする。また、それらを支えた金融、海運、国際関係についても分析する。

● A 5 判・上製・270 頁・定価 4,180 円／'12年 8 月刊

吉田　亮 編著

アメリカ日系二世と越境教育
——1930年代を主にして

アメリカ日系二世の日本留学・就学という越境教育現象が、在米日本人移民社会および日米両国家・社会にもたらしたさまざまな影響や意味を、「地域」と「宗教」をキーワードに検証し、日本人移民越境史の一断面を分析する。

● A 5 判・上製・256 頁・定価 4,180 円／'12年 2 月刊

仏教海外開教史資料集成〈ハワイ編〉	7ページをご参照ください。
仏教海外開教史資料集成〈北米編〉	7ページをご参照ください。
仏教海外開教史資料集成〈南米編〉	8ページをご参照ください。
仏教海外開教史の研究	9ページをご参照ください。
成功	16ページをご参照ください。
通商彙纂	27ページをご参照ください。
通商公報	28ページをご参照ください。
日刊 海外商報	28ページをご参照ください。
海外日本実業者の調査	28ページをご参照ください。
戦前期 海外商工興信録集成	28ページをご参照ください。
満蒙	45ページをご参照ください。
拓け満蒙・新満洲・開拓	45ページをご参照ください。
満洲開拓関係雑誌集成	46ページをご参照ください。
満蒙開拓青少年義勇軍関係資料	46ページをご参照ください。
満洲泰阜分村	47ページをご参照ください。
長野県飯田下伊那の満洲移民関係資料目録	47ページをご参照ください。
南洋群島	52ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

沖縄

貴志俊彦・泉水英計・名嘉山リサ 編著／DVD編 企画・監修

よみがえる 沖縄 米国施政権下のテレビ映像

——琉球列島米国民政府（USCAR）の時代

書籍１冊（Ａ５判・上製・286頁）＋DVD編６枚組
揃定価 33,000円（揃本体 30,000円＋税10%）
分売あり 書籍 定価 5,500円（本体 5,000円＋税10%）
DVD編 定価 27,500円（本体 25,000円＋税10%）
'20年２月刊

本書は、琉球列島米国民政府（USCAR）下に日米両国に残された映像フィルム・広報用写真・公文書類に基づいて、USCAR時代とその後の沖縄に与えた影響を検証し、いわゆる「アメリカ世（ユー）」の功罪を明らかにする試みである。DVD編には、米国所蔵の2,000点あまりの映像フィルムから、６時間半のテレビ番組を採録。書籍には３人の編著者による詳細な論説のほか、研究者らによるコラム、元USCAR職員のインタビュー、関連年表等を収録した。米国による占領政治、異民族支配の実態を複眼的に理解する上で必須の資料である。
●推薦＝川平朝清・我部政男

沖縄文教部／琉球政府文教局 発行〔1946年～1972年刊〕

文教時報 全18巻・付録１・別冊１

藤澤健一・近藤健一郎 編・解説
別冊＝解説・総目次・索引
Ａ４判・Ｂ５判・Ａ５判・上製・総9,964頁
揃定価 431,200円（揃本体 392,000円＋税10%）
'17年９月～'19年12月配本完結〔復刻版〕

第二次大戦後、米軍によって占領されていた時期（1945～1972年）、沖縄・宮古・八重山（一時期、奄美をふくむ）において、文教担当部局が刊行した『文教時報』を復刻する。統治者として君臨した米国側との関係、また、沖縄教職員会をはじめとした教員団体との関係、「復帰」に向けた日本政府や文部省との関係、さらに離島や村落の教育環境など、同誌は変動する沖縄現代史のダイナミズムを体現するかのような史料群となっている。物事を判断するためには事実経過が知られなければならない。第１回配本に解説のほか、総目次や執筆者索引などから構成される別冊をあわせて刊行する。教育行政側からみた沖縄現代史を総覧できる史料的な環境を整備する。

四群島の各教員団体機関誌〔1947年～1953年〕

占領下の奄美・琉球における教員団体関係史料集成 全７巻・別冊１

編集＝（代表）藤澤健一・近藤健一郎・櫻澤　誠・高橋順子・戸邉秀明
別冊＝解説・総目次・総索引・附表（藤澤健一・近藤健一郎・櫻澤　誠・高橋順子・戸邉秀明・田中萌葵）
Ａ４判・上製・総2,444頁
揃定価 215,600円（揃本体 196,000円＋税10%）
'15年12月～'16年７月配本完結〔編集復刻版〕

米軍統治下の奄美・琉球では、日本国憲法が定めた集会や結社、出版など表現の自由が規制され、検閲の禁止、通信の秘密（21条）は実質的には保障されなかった。その背景には基地の安定確保と反共を政策とした軍政府の強権があった。各教員団体は、こうした制約下、自らの意見を表明・共有化するための機関誌を刊行していた。『教育大島』『教育と文化』（奄美群島）、『宮古教育』『教育時報』（宮古群島）、『新世代』（八重山群島）、『新教育』（沖縄群島）である。いずれも47年以降に軍政府の認可を受けて創刊され、簡易な冊子として会員を中心に配布されていた。新たな史料発掘と精細な考証の成果にもとづく史料集成。　●推薦＝弓削政己・仲宗根將二・大田静男・川井　勇

南西印刷出版部（ひるぎ社）発行〔1980年～1996年刊〕

地域と文化 全４巻・別冊１

別冊＝解説（高良倉吉）・総目次・索引
Ｂ５判・上製・総1,956頁
揃定価 92,400円（揃本体 84,000円＋税10%）
'17年７月刊〔復刻版〕

雑誌『地域と文化』は、1980年８月の第１号から1996年８月の第95号まで刊行された。第１号の編集委員は池宮正治、上江洲均、我部政男、宜保栄治郎、高良倉吉、仲地哲夫であり、第24号からは真栄城守定が名を連ねた。「発刊にあたって」（池宮正治）には、「地域の文化と歴史に関する広場と言った冊子にしたいと思う」とあるように、沖縄の論文から共同研究の成果、資料紹介やエッセイ、短信など多種多彩で、同時に沖縄島北部・宮古・八重山・奄美など多くの地域が頻繁に登場する重要資料である。
●推薦＝安里　進・大田静男

月刊文化沖縄社 発行〔1940年～1944年刊〕

月刊 文化沖縄 全４巻・別冊１

別冊＝解説（粟国恭子・近藤健一郎・世良利和・新城栄徳）・総目次（新城栄徳）・索引
Ｂ５判・Ａ５判・上製・総1,616頁
揃定価 107,800円（揃本体 98,000円＋税10%）
'15年12月刊〔復刻版〕

本誌は、1940年に創刊され、1944年１月まで沖縄で刊行された雑誌である。創刊当初の編集発行人は本山豊、同人は本山豊・石川文一・金城安太郎の三人である。同時代では唯一の総合文化雑誌を目指し創刊した。全38号を復刻。戦時下、1944年３月には首里に三二軍の司令部が置かれ、十・十空襲、1945年の沖縄戦で戦前に刊行された雑誌の多くも失われている。映画・演劇・舞踊・音楽といった芸能分野に本誌の特徴があるが、観光、移民事情、政治・経済、教育など、さまざまな領域に関わる記事を掲載していた。主要執筆者：新崎盛珍、島袋盛敏、島袋全発、尚順、須藤利一、宮尾しげを、山里永吉、山城正忠、ほか
●推薦＝仲程昌徳・阪井芳貴

八重山文芸協会／八重山文化社 発行
〔1946年～1950年刊〕

八重山文化 全3巻・別冊1

別冊＝解説（三木　健）・総目次・索引
Ｂ5判・Ａ5判・上製・総1,350頁
揃定価75,900円（揃本体69,000円＋税10%）
'15年7月刊〔復刻版〕

自治意識の高まりの中で活字文化の「黄金時代」を迎えた戦後の八重山で「地方文化の確立」を掲げて創刊した総合文化雑誌を復刻。戦後の混乱から復興へと向かい始めていた1946年5月、八重山文芸協会は旗揚げした。主な会員は、桃原用永、大濱信光、喜友名英文、村山秀雄、玻名城長輝ら20人余である。協会は活動の中心を『八重山文化』の発行に置き、会長に大濱、副会長に喜友名、編集長に村山を選出、会誌は小説や短歌、俳句などの文芸ものから時事評論や歴史ものなど、幅広い分野にまたがっている。八重山音楽協会、八重山演劇協会との連携、引揚者の活躍など、南の島でともされた5年間の出版文化の灯を掘り起こす。　●**推薦**＝砂川哲雄・仲程昌徳・近藤健一郎

沖縄文化協会 発行〔1961年～1983年刊〕

沖縄文化 全8巻

波照間永吉 解説
Ｂ5判・Ａ5判・上製・総4,608頁
揃定価165,000円（揃本体150,000円＋税10%）
'14年8月～11月配本完結〔復刻版〕

『沖縄文化』は、1947年8月に創設された沖縄文化協会の機関誌である。当誌は1953年の第27号で休刊となったが、1961年に復刊し、現在に至る。
沖縄文化協会は今日まで沖縄研究の柱として活動を進め、『沖縄文化』を通して沖縄研究の優れた成果を紹介し、多くの研究論文を収録してきた。それは「おもろさうし」研究をはじめ言語学、歴史学、人類学、考古学、宗教学、文学、芸術学と多岐に渡る。協会の協力のもと復刊第1号から第60号までを復刻し、沖縄文化研究の基礎資料として供するものである。
●**推薦**＝我部政男・仲程昌徳

おきなわ社 発行〔1950年～1955年刊〕

おきなわ 全6巻・別冊1

別冊＝解説（仲程昌徳・松下博文・粟国恭子・酒井直子）・総目次（新城栄徳）・索引
Ａ5判・上製・総2,538頁
揃定価105,600円（揃本体96,000円＋税10%）
'15年1月刊〔復刻版〕

1950年4月、「沖縄、日本、或いは海外にあって郷土の再建をひたすら祈り、各々その立場々々から力をつくしている人々の心の慰めとなり、力の泉たらんことを期して「おきなわ」が生れました」（本誌創刊号編集後記より）。気宇壮大な出版人・神村朝堅らの志のもと、この総合雑誌は在京のおきなわ社から6年間発行された。主要執筆者は、仲原善忠・金城朝永・比嘉春潮・奥里将建・東恩納寛惇・宮良当壮・島袋盛敏。本誌創刊時、論壇誌『世界』（岩波書店）では、戦後知識人が結集した平和問題懇談会メンバーが全面講和論の論陣を展開していた。
●**推薦**＝我部政男・高橋敏夫

琉球政府 発行〔1954年版～1971年版〕

琉球要覧 全14巻

Ｂ5判・Ａ5判・上製・総7,350頁
揃定価299,200円（揃本体272,000円＋税10%）
（各巻分売可。第1巻～第5巻定価24,200円、第6巻～第14巻定価19,800円）
'13年5月～'14年8月配本完結〔復刻版〕

米国民政府による琉球政府設立の3年後にあたる1955年、琉球政府は『琉球要覧』を刊行する。本資料は「行政白書」の役割をもち、内容は土地・気象・人口統計・労働力調査・消費者実態調査・輸出入統計・犯罪統計・火災統計の「総括」から始まり、「政治」「財政金融」「産業」「教育」「社会」「建設通信」「労働」「治安」「文化・観光」まで沖縄に関するあらゆる事項を網羅したデータベースであり、占領下沖縄を知るための基礎資料である。
●**推薦**＝原洋之介

琉球政府 発行〔1955年版～1972年版〕

琉球統計年鑑 全14巻

Ｂ5判・上製・総6,786頁
揃定価323,400円（揃本体294,000円＋税10%）
（各巻分売可。各巻定価23,100円（本体21,000円＋税10%））
'13年4月～'14年6月配本完結〔復刻版〕

琉球政府は1955年刊行の『琉球要覧』に続いて、1957年に『琉球統計年鑑』の刊行を始めた。統計の項目は土地、気象、人口、労働力、経済、諸産業、インフラ、貿易、通貨、金融、雇用、家計、教育、衛生、行政、治安、軍事等と当時の沖縄に関する統計データを主に、戦前の統計や諸外国の統計まで、『琉球要覧』では掲載されていない詳細な情報まで網羅した総合的統計年鑑である。また、途中から英語による表記も追加され、米国人でも閲覧が可能なようにされていた。『琉球要覧』とあわせて利用されたい。
●**推薦**＝原洋之介

琉球列島米国民政府 発行〔1957年～1970年〕

今日の琉球 全12巻・別冊1

大城立裕 解説
別冊＝解説（鳥山　淳）・総目次・索引
Ｂ5判・上製・総6,260頁
揃定価330,000円（揃本体300,000円＋税10%）
'13年7月～'14年5月配本完結〔復刻版〕

戦後沖縄を統治した米国民政府の広報宣伝誌。沖縄の知識層、指導層を対象とし、公共機関、琉米文化会館に配布された。米軍による強制的な土地接収に対する島ぐるみ闘争のさなかに創刊された本誌は、琉米親善を基調とし、米国占領下で築きあげられた経済的繁栄、資金援助、米国事情の紹介に努める一方、沖縄人の自発性、沖縄の伝統文化への関心を鼓舞し、占領政策のプロパガンダを担った。米軍統治を検証し、「復帰」後も変わらない構造的差別の歴史を問い直す沖縄・日本現代史の資料。
●**推薦**＝新崎盛暉・吉見俊哉

定価は消費税10%込

琉球諸島米国高等弁務官事務所 発行
〔1959年～1972年刊〕

守礼の光 DVD版 全5枚・別冊1

別冊＝解説（仲程昌徳）・総目次・索引
揃定価 192,500円（揃本体 175,000円＋税10%）
'12年5月～10月配本完結

『守礼の光』とは、米国統治下の沖縄で発刊された米国民政府の広報宣伝誌である。本誌は、沖縄住民に国内外のニュースを報じると共に、琉球文化の独自性を自覚させつつ日本志向を抑制し、軍政を円滑に推進する離日政策の狙いを持っていた。そのため、沖縄独特の文化面の記事内容が多く取り入れられ、琉米文化会館などを通して10万部近くもばら撒かれていたが、多くの沖縄県民は破棄したため図書館でも完全に揃っているところはなく、今回復刻される運びとなった。
●推薦＝大田昌秀・我部政明

沖縄県教育会／沖縄教育会 発行〔1906年～1944年〕

沖縄教育 全39巻・別冊1

編集＝『沖縄教育』復刻刊行委員会
別冊＝解説（藤澤健一・近藤健一郎・梶村光郎・三島わかな）・総目次・索引
Ｂ4判・Ａ5判・上製・総13,966頁
揃定価 627,000円（揃本体 570,000円＋税10%）
'09年11月～'15年6月配本完結〔復刻版〕

戦前期沖縄における教育会誌『沖縄教育』は、1906年3月、『琉球教育』の後継誌として刊行された。沖縄における「大和化」政策など、近代沖縄における教育と文化の史実を解き明かす上で最も重要な資料であることはもちろん、広く沖縄近代史の基礎的資料でもある。本誌は、散逸が著しい状態であったが、現存する原本をつぶさに調査し、全冊のうちおよそ半数強を発掘、復刻するに至ったものである。姉妹誌にあたる『島尻教育』と『八重山教育』の2冊ほかも付録として収録。
●推薦＝逸見勝亮・三木　健・屋嘉比収

うるま新報社 刊〔'45年7月～'51年9月刊〕

うるま新報 全6巻

新崎盛暉・丹野喜久子 解説
Ｂ4判・上製・函入・総1,962頁
揃定価 184,800円（揃本体 168,000円＋税10%）
各巻分売可。各巻定価 30,800円（本体 28,000円＋税10%）
'99年4月～9月配本完結〔縮刷版〕

『うるま新報』は、日本の無条件降伏（8月15日）の前月、7月25日創刊された。日米戦の中で、唯一地上戦の闘われた沖縄にあって、印刷機もなく、当初はガリ版印刷で発行、防空壕の中から活字をひろい集め、第6号から活字印刷・タブロイド判となった。当時の沖縄において、ニュース源は米軍政府からのものが多く、本土からはラジオ放送を傍受して記事にしたものが多い。また、各地の収容所で窮乏生活を余儀なくされていた県民にとっては唯一の情報源であった。当時の県民の姿を知る貴重な資料として復刻刊行。
●推薦＝小川政亮・我部政男・福島鑄郎・宮城悦二郎

琉球新報社 刊〔'51年9月～'56年12月刊〕

琉球新報 全27巻

新崎盛暉 解説
Ｂ4判・上製・総9,548頁
揃定価 831,600円（揃本体 756,000円＋税10%）
'03年10月～'07年10月配本完結〔縮刷版〕
（注）本紙は『うるま新報』（全6巻・弊社既刊）の継続後紙です。従って、縮刷版刊行に際して、巻数は第7巻から始まります。

本誌は、日本の無条件降伏の前月、1945年7月25日に創刊された『うるま新報』の継続改題紙である。戦後、アメリカ支配下に琉球政府を発足させた沖縄における最初の地元新聞であり、当時の沖縄県民の姿を映す貴重な資料である。弊社では、1951年9月10日（867号）から奄美大島日本復帰に至る1953年12月31日（1688号）までを第Ⅰ期、1955年6月までを第Ⅱ期、1956年12月までを第Ⅲ期として復刻し、戦後復興期の日本及び沖縄を知るための資料として提供する。
●推薦＝我部政男・門奈直樹

沖縄新民報・自由沖縄 全2巻

新崎盛暉 解説
Ｂ4判・上製・総642頁
揃定価 52,800円（揃本体 48,000円＋税10%）
'00年5月刊〔縮刷版〕

『沖縄新民報』は、1946年1月、九州各地に疎開していた沖縄出身者のための情報紙として、親泊政博によって福岡で創刊。『自由沖縄』は、1945年12月、沖縄人連盟の機関紙として、比嘉春潮を中心として、東京で創刊された。両紙は、沖縄が米軍占領下にあり、沖縄出身者の社会と完全に分断されている状況にあって、九州への疎開者や外地からの引揚者と結ぶ唯一のパイプであった。弊社では、『うるま新報』と共に、戦後日本の沖縄人社会を知る資料として、あるいは、占領下の日本を見なおす資料として復刻する。
●推薦＝我部政男

宮古民友新聞社・南西新報社ほか 刊
〔1945年～1953年刊〕

占領期・琉球諸島新聞集成 全16巻

新崎盛暉 監修
仲宗根將二・大田静男・弓削政己 解説
Ａ4判・上製・総6,080頁
揃定価 492,800円（揃本体 448,000円＋税10%）
'07年11月～'09年10月配本完結〔編集復刻版〕

奄美・沖縄・宮古・八重山の四諸島は、戦後初期の約8年間、琉球諸島として、共に米軍政下に置かれ、米軍はこれらの諸島を四群島別に統治していた。したがってこれらの地域は、この時期、社会的事情においてもかなりの地域差があり、政治的文化的諸活動において独自な歩みをしていた。こうした地域独自性を知る貴重な手がかりが、それぞれの地域で発行されていた新聞である。沖縄現代史を解明するために『宮古民友新聞』、『みやこ新報』、『南西新報』、『海南時報』、『奄美タイムス』の5紙を復刻刊行する。

『近代沖縄新聞集成DVD版』刊行委員会（新崎盛暉ほか）編集

近代沖縄新聞集成 DVD版 全10枚・別冊4

別冊＝収録新聞発行年月日・号数一覧
検索システムインストールＣＤ全４枚　付き
揃定価 522,500 円（第1、2、4、5、6 回配本）
'10年11月～'14年２月配本完結

沖縄戦は、県内で発行されていた史・資料のほとんどすべてを焼き払った。本集成は、戦前に沖縄で発行され、半世紀に及ぶ調査によって県内外から掘り起こされた全新聞を、沖縄・日本近代史の資料として提供する。
【内容】琉球新報（1898～1918年、1938～1940年）、**沖縄毎日新聞（1909～1914年）《第３回配本は、ＤＶＤでの販売中止》**、沖縄日報（1938～1940年）、沖縄新聞、沖縄朝日新聞、沖縄タイムス、沖縄新報、その他
●**推薦**＝有山輝雄・仲程昌徳・三木　健・宮城晴美

加藤哲郎・森　宣雄・鳥山　淳・国場幸太郎 編集・解説

戦後初期沖縄解放運動資料集 ＤＶＤ版 全１枚・別冊１

別冊＝『「島ぐるみ闘争」はどう準備されたか――沖縄が目指す＜あま世＞への道』森　宣雄・鳥山　淳 編著
揃定価 33,000 円（揃本体 30,000 円＋税10%）
'13年10月刊行

編集復刻版『戦後初期沖縄解放運動資料集』全３巻をＤＶＤ１枚に収録し再刊。書籍版は2010年に品切となった。軍政下の弾圧をのがれ秘密裡に進められた「島ぐるみ闘争」の準備活動を、当時の合法・非合法の運動資料、関係者のインタビュー記録、官憲がわの監視資料、関連記事・論文などにより総合的に明らかにした、画期的な歴史資料集総 1,234 頁を復刊。
［第１巻］米軍政下沖縄の人民党と社会運動（1947～58年）
［第２巻］沖縄の非合法共産党資料（1953～57年）
［第３巻］沖縄非合法共産党と奄美・日本（1944～63年）
●**推薦**＝新崎盛暉・冨山一郎

森　宣雄・鳥山　淳 編著／『戦後初期沖縄解放運動資料集 DVD版』別冊

「島ぐるみ闘争」はどう準備されたか ――沖縄が目指す＜あま世（ゆー）＞への道

1950年代、運動の中心的組織者の一人であった、故・国場幸太郎の足跡を中心に、運動を担った人々の姿を振り返り、その歴史的な意義を考える。●**執筆**＝国場幸太郎・新川　明・林　京子・由井晶子・新崎盛暉・加藤哲郎・長元朝浩・冨山一郎
●Ａ５判・並製・288 頁・定価 1,980 円／'13年10月刊

藤澤健一 編著／近藤健一郎・櫻澤　誠・高橋順子・田中萌葵・戸邉秀明 著

移行する沖縄の教員世界 ――戦時体制から米軍占領下へ

沖縄に「戦後」はあるのか？「平和国家」日本と同時代の沖縄。関係史料調査の成果を踏まえ、教員世界の変容から「戦前」と「戦後」の連続と断絶を縦横に描き出す、沖縄教育史研究の最前線。
●Ａ５判・並製・348 頁・定価 4,400 円／'16年10月刊

浜川　仁 解説・注釈／A. P. ジェンキンズ 翻刻・編集協力

アヘンとユートピア ――イギリス艦来琉（1816年）をめぐる考察と史料紹介

19世紀大英帝国の時代、琉球は自由貿易の波をどう乗り切ろうとしたか。H. J. クリフォードらの来琉の意味を、東アジアの近代総体のなかにさぐる。各訪琉記の原文翻刻を掲載。
●**推薦**＝春名　徹
●Ａ５判・上製・332 頁＋口絵 12 頁・定価 7,480 円／'19年４月刊

山口栄鉄 著

英人 バジル・ホールと大琉球 ――来琉二百周年を記念して

1816年９月16日、那覇港に姿を現した英軍艦船と琉球との友好的な交流を、著者の数々の業績を踏まえて多角的に紹介。かつて西欧中で起きた「琉球」大流行の軌跡を追う。
●四六判・並製・220 頁・定価 2,090 円／'16年３月刊

Ｈ・Ｊ・クリフォード 著／浜川 仁 訳・解説

クリフォード訪琉日記 ――もうひとつの開国

新発見資料の全訳（挿絵20点はカラー口絵）。1816年９-10月の訪琉日記著者のH・J・クリフォード英国海軍尉官は日本近代化の先駆けとなったキーパーソンであり、新資料発見者・訳者による解説はもうひとつの歴史評価の核。●**推薦**＝山口栄鉄・真栄平房昭　●四六判・並製・264 頁・定価 2,090 円／'15年10月刊

我部政男 著

日本近代史のなかの沖縄

沖縄は「遅れてきた日本」であったが、同時に、南方の国防の要でもあった。この沖縄を真の意味で日本にする事は大きな課題であり、国民国家への挑戦でもあった。そして「沖縄戦争」においてその限界が示される。第42回沖縄タイムス出版文化賞特別賞受賞。　●Ａ５判・上製・484 頁・定価7,700円／'21年７月刊

色川大吉　著・三木健 編

沖縄と色川大吉

民衆史の提唱者・色川大吉が考究し続けてきた多年に及ぶ沖縄論を、三木健が一冊にまとめ、色川による増補改訂を施し新たに世に送り出す。さらに沖縄の気鋭な論者たち10人による色川大吉についての論考を併録。
●Ａ５判・並製・344 頁・定価 2,530 円／'21年９月刊

沖縄秘密戦に関する資料

59ページをご参照ください。

久米島住民虐殺事件資料

62ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

民衆史の狼火を——追悼 色川大吉 69ページをご参照ください。

琉大文学 95ページをご参照ください。

旧外地・アジア近現代史

【満洲・蒙古】

満蒙文化協会ほか 刊〔大正９年～昭和18年刊〕

満　蒙　全121巻・別冊１

別冊＝総目次・執筆者索引
揃定価 2,359,500 円（揃本体 2,145,000 円＋税10%）

本誌は、旧植民地・満洲に関する基本的資料のひとつである。創刊当初より、満鉄の庇護の下、満鉄調査部の研究成果を毎号掲載し、天野元之助、大塚令三、田中忠夫等の筆者が多数登場する。また、文学、言語、家族、宗教、考古学等、汎く「満蒙」に関する論文、翻訳を載せている。復刻にあたっては、『満蒙』の前身誌『満蒙之文化』をも含め、全281号を３期に分けて収録、刊行。

●**推薦**＝石堂清倫・岡部牧夫・川村　湊・鈴木隆史・西村成雄・波多野太郎・丸山　昇

第Ⅰ期　全31巻〔第１巻～第31巻／大正９年～昭和２年〕
Ａ４判・Ａ５判・上製・総 14,222 頁
揃定価 613,800 円（揃本体 558,000 円＋税10%）
'93年12月～'96年５月配本完結〔復刻版〕

第Ⅱ期　全46巻〔第32巻～第77巻／昭和２年～昭和９年〕
Ａ５判・上製・総 19,784 頁
揃定価 871,200 円（揃本体 792,000 円＋税10%）
'96年８月～'99年12月配本完結〔復刻版〕

第Ⅲ期　全44巻・別冊１〔第78巻～第121巻／昭和10年～昭和18年〕
Ａ５判・上製・総 20,004 頁
揃定価 874,500 円（揃本体 795,000 円＋税10%）
'00年５月～'03年８月配本完結〔復刻版〕

〔誌名の変遷〕
『満蒙之文化』大正９年９月～大正12年３月
『満蒙』大正12年４月～昭和18年10月

■満州移民関係資料集成 第Ⅱ期
満州移住協会 編〔昭和11年～昭和20年刊〕

拓け満蒙・新満洲・開拓　全23巻・別冊１

別冊＝解説（岡部牧夫）・解題（小林弘二）・総目次
Ｂ５判・Ａ５判・上製・総 11,864 頁
揃定価 556,600 円（揃本体 506,000 円＋税10%）
'98年４月～'00年10月配本完結〔復刻版〕

弊社では、満洲移民に関する立案計画から実施に至る文書類を中心にして、「満州移民関係資料集成」全40巻を刊行した。これに続き、満洲移民に重要役割を果たした満州移住協会の機関誌を全号収集し、第Ⅱ期として刊行する。昭和11年４月創刊の『拓け満蒙』から、２回誌名を変更し、昭和20年１月までの間、移民の実態の変化、分村・分郷移民の具体的姿、そして農民の生の声などが満載されている。本誌は協会の「宣伝誌」ではあるが、基本資料の一つである。

●**推薦**＝安孫子麟・池田浩士・川村　湊・君島和彦・田中　学

ジャパン・ツーリスト・ビューロー大連支部 発行
〔昭和９年～昭和19年刊〕

旅行満洲 全26巻・別冊１

別冊＝解説（高　媛・田島奈都子・岩間一弘）・総目次・索引
Ｂ５判・上製・総約13,500頁
揃定価715,000円（揃本体650,000円＋税10%）
'16年12月～'19年８月配本完結〔復刻版〕

本誌は昭和９年にジャパン・ツーリスト・ビューロー大連支部より刊行された旅行雑誌である。『観光東亜』、『旅行雑誌』とタイトルを変え、昭和19年８月まで刊行が確認できている。その内容は多様で、巻頭には毎号10頁程のグラビア頁が設けられ、観光地案内、宿泊施設、土産、時刻表などの観光情報はもちろんのこと、スキーや狩猟、温泉などのレジャー情報も豊富である。また、漫画や文芸作品、芸術、歴史に関する記事も多く掲載されており、総合文化雑誌としての側面も強い。
●**推薦**＝荒山正彦・西原和海・三橋　勇

■配本一覧

第１回配本（１・２巻）	１巻１号～３第８号	定価55,000円	'16年12月刊
第２回配本（３～５巻）	３巻９号～４第９号	定価82,500円	'17年４月刊
第３回配本（６～８巻）	４巻10号～５第９号	定価82,500円	'17年８月刊
第４回配本（９～11巻）	５巻10号～６第９号	定価82,500円	'17年12月刊
第５回配本（12～14巻）	６巻10号～７第６号	定価82,500円	'18年４月刊
第６回配本（15～17巻）	７巻７号～８巻５号	定価82,500円	'18年８月刊
第７回配本（18～20巻）	８巻６号～９巻５号	定価82,500円	'18年12月刊
第８回配本（21～23巻・別冊）	９巻６号～10巻５号	定価82,500円	'19年４月刊
第９回配本（24～26巻）	10巻６号～11巻８号	定価82,500円	'19年８月刊

満洲開拓関係雑誌集成
全11巻・別冊１

別冊＝解題（風間秀人）・総目次
Ａ５判・Ｂ５判・上製・総5,798頁
揃定価242,000円（揃本体220,000円＋税10%）
'15年４月～'16年２月配本完結〔編集復刻版〕

「満洲国」で移民政策を担った満洲拓植公社等の機関誌を収録。満洲拓植公社員による論考、業務紹介等、公社員を対象に編集した雑誌『偕拓』（満洲拓植公社発行、1937／12～40／7）、満洲移民に関する訓令・法令等を漏らさず収録した内部資料『開拓月報』（満洲帝国政府開拓総局発行、40／1～41／3）、移民の同志的結束と自主的・実践的創造の場を任務とした第一次『開拓協和』（40／10～41／3）、及び「開拓綜合指導誌」をめざした開拓総局・満拓公社・協和会中央本部の三者共同編集による第二次『開拓協和』（41／11～44／3）。「満洲開拓」の実態を明らかにし、満洲移民史の欠落を補うための重要資料。
●**推薦**＝蘭　信三・白木沢旭児・白取道博

■十五年戦争極秘資料集　補巻㊷

東京大学薬学図書館薬史学文庫所蔵
「北支関係・満洲関係」綴 全3巻

折原　裕 解説
Ｂ５判・上製・総876頁
揃定価59,400円（揃本体54,000円+税10%）
'21年７月～11月配本完結〔復刻版〕

本史料は興亜院の命を受け、刈米達夫が日中戦争下の北支地域と満洲の漢薬市場調査を行った際の復命書及び関連文書である。
昭和14年12月から翌年１月にかけて刈米達夫は厚生省の豊田武技手を伴い、北支地域で生産された漢薬の集散地である北京、天津、済南、徐州、石家庄などの漢薬問屋を視察した。昭和15年12月にも満洲国の漢薬市場調査を行った。本史料には北支と満洲の漢薬の生産、流通過程を記した数多くの文書が収められている。
阿片の生産、流通に関する史料がほとんど残されていない状況に鑑み、本史料が広く研究者に向けて公刊されることは大きな意義がある。
●**推薦**＝津谷嘉一郎

白取道博 編・解題

満蒙開拓 青少年義勇軍関係資料 全7巻

Ｂ５判・上製・総2,980頁
揃定価154,000円（揃本体140,000円＋税10%）
'93年４月～７月配本完結〔復刻版〕

中国東北部を入植地とする移民は、1932年以降数次にわたる試験移民を経て、37年度から「20ヶ年100万戸送出計画」に基き本格化する。数え年16～19歳の男子を対象とする「満蒙開拓青少年義勇軍」は、38年から45年まで、満洲移民の主流となり、軍事・治安上の役割を補完し続け、その終焉は、多くの人々の心身の摩滅と破壊を伴った。「満蒙開拓青少年義勇軍編成ニ関スル建白書」ほか50編の資料を収録。
●**推薦**＝岡部牧夫・上笙一郎・佐藤秀夫・逸見勝亮

興亜会・亜細亜協会 刊〔明治13年～明治19年刊〕

興亜会報告・亜細亜協会報告 全2巻

黒木彬文・鱒澤彰夫 共編・解説
Ａ４判・上製・総632頁
揃定価61,600円（揃本体56,000円＋税10%）
'93年９月刊〔復刻版〕

明治初期、日本の近代化の過程には欧米列強に対抗するため、アジア諸国の事情収集、特に言語の習得が急務であった。興亜会は明治13（1880）年成立、自由民権運動の影響の下、日本で最初の「アジア主義」組織であった。会は明治16年には亜細亜協会と改名、明治33年に東亜同文会に吸収合併された。本書は、興亜会（亜細亜協会）のこれまでに発見された関連資料全ての復刻版であり、日中関係史、日朝関係史、中国語教育史等の重要な基本資料である。
●**推薦**＝伊東昭雄・波多野太郎・松本三之介

定価は消費税10％込

鹿地亘資料調査刊行会 編

日本人民反戦同盟資料 全12巻・別巻1

別巻＝解題・解説（井上　學）・総目次・関連年表
Ａ４判・上製・総4,900頁
揃定価500,500円（揃本体455,000円＋税10%）
'94年５月～'95年12月配本完結〔編集復刻版〕

日中戦争期に敢えて中国側に投じ、日本人兵士の反戦運動を組織し、指導した鹿地亘の残した資料の集大成。反戦運動に参加した兵士の手紙、鹿地亘の周辺にいた中国人文学者の手紙など、これまで未整理、未発表の資料を多数収録する。日本の戦争に反対し、生命をかけて反戦のために闘った日本人の貴重な反戦闘争の記録として、研究者必備の資料である。なお、別巻として、全収録資料の総目次、関連年表、解題・解説を付す。
●**推薦**＝犬丸義一・大江志乃夫・藤原　彰・小島晋治・丸山　昇・王　曉秋

興農合作社関係資料 DVD版 全２枚・別冊１

別冊＝解説（福井紳一）・総目次
揃定価110,000円（揃本体100,000円＋税10%）
'10年９月刊

日本帝国主義の傀儡国家「満洲国」政府は、農業経済の疲弊を打破するため金融合作社（1934年）、農事合作社（1937年）、そして両者を統合した興農合作社を1940年に設立し、農民（漢族、満族、朝鮮族、モンゴル族）の組織管理を行った。過酷な搾取から農民を救済する協同組合の一面もあった農事合作社の地方機関誌には、佐藤大四郎ら北満型合作社運動の詳細が、また興農合作社中央会機関誌『興農』には、「満洲」農村の実態を知る貴重なデータのほか、多数の論文、文芸作品が掲載されている。
●**推薦**＝西田　勝

植民地文化学会 編

近代日本と「満州国」

本書は、1992年から1996年まで５年間にわたり開催された、日本と中国の「被害と加害」の歴史を文化的側面から検証するシンポジウム「日本帝国主義と《満州国》の文化」の報告をまとめたものである。「満州国」研究者、文学研究者必携の一冊。
●Ａ５判・上製・592頁・定価6,600円／'14年７月刊

岡村敬二 著

「満洲国」資料集積機関概観

戦前期、「満洲国」の図書館・官庁資料室等の活動や蔵書目録の一覧、戦後の接収後の資料収蔵の変遷過程、そして現在中国の図書館に保存されている資料の現況と、その検索ツールズについての集成。
●Ａ５判・上製・258頁・定価5,280円／'04年６月刊

植民地文化研究会 編

《満洲国》文化細目

本書は、「満洲国」で出版された書籍460点、同国居住者によって書かれ日本で出版された書籍105点についての個別の書誌（刊行年月日、発行者、頁数、定価、所蔵先など）と解題の集大成。
●Ａ５判・上製・850頁・定価7,480円／'05年６月刊

満洲泰阜分村――70年の歴史と記憶編集委員会 編
長野県泰阜村 発行

満洲泰阜（やすおか）分村――七〇年の歴史と記憶

本書は開拓団員20数名に上る生の声、研究者の学術論考、移民・引揚・帰国支援関連の村役場資料、丹念に作成された年表と名簿、さらに『満州泰阜分村―後世に伝う血涙の記録』を一部再録した労作。
●Ａ５判・上製・1,040頁・定価8,800円／'07年10月刊

天野弘之・井村哲郎 編

満鉄調査部と中国農村調査 ――天野元之助中国研究回顧

新たに発見された天野博士・福島正夫氏・野間清氏３名による鼎談記録と、「海南島旅日誌」「文革期中国訪問の記録」の三点を収録。天野元之助の生涯を辿る好著！
●**推薦**＝田島俊雄・原　宗子
●四六版・上製・416頁・定価4,180円／'08年８月刊

齊藤俊江 著

長野県飯田下伊那の満洲移民関係資料目録

長野県の飯田下伊那地域における満洲移民関係の役場史料・個人資料を、悉皆的調査によって可能な限り収集整理。文献に加え音声・写真・映像資料も目録化。移民研究、日本近現代史、歴史社会学、メディア研究など多様な分野で活用できる。
●Ｂ５判・並製・144頁・定価1,100円／'20年６月刊

定価は消費税10％込

【朝鮮・韓国】

水野直樹 編

朝鮮治安関係資料集成
全10巻・別冊1

第Ⅰ期 全2巻
A4判・上製・総806頁
揃定価61,600円（揃本体56,000円+税10%）
'18年8月刊〔編集復刻版〕

第Ⅱ期 全4巻
A4判・上製・総1,257頁
揃定価123,200円（揃本体112,000円+税10%）
'22年7月～11月配本完結〔編集復刻版〕

第Ⅲ期 全4巻・別冊1
別冊＝解説（水野直樹）・資料一覧
A4判・上製・総約1,265頁
揃定価123,200円（揃本体112,000円+税10%）
'23年2月～5月配本完結予定〔編集復刻版〕

朝鮮に対する植民地支配において日本の当局は治安維持を最も重視し、警察・軍・司法機関など諸機関は治安状況に関わる各種資料を作成した。本資料集成には、1920年代から1945年までに朝鮮総督府警務局・法務局・学務局、朝鮮軍、高等法院（最上級裁判所）が作成した文書類を収録したが、韓国で多く公開されている個別事件や動向に関するものは除いた。朝鮮総督府の取締りがどのようなものであったのかに加えて、取締まられた朝鮮人の動向を浮かび上がらせる資料群である。

第Ⅰ期は総督府朝鮮情報委員会、警務局、出版物検閲にあたった警務局図書課等がおもに1920年代に作成した全34の資料を収録。朝鮮半島内だけでなく、国外での活動に対して目を光らせ、同時に外国からの朝鮮統治評に対しても注意を払っていたことが伺える。

第Ⅱ期は1930年頃から日中戦争開戦前までの時期に、独立運動や「思想問題」を扱った高等法院検事局や朝鮮軍等の資料35点を収録。治安維持法の下での取締りや朝鮮人の活動がどのようなものであったのかを浮かび上がらせる。

第Ⅲ期は日中戦争開戦以降の資料を中心に、「朝鮮刑事政策資料」や「朝鮮警察要報」といった重要資料を含めた43点の資料を収録。従来の取締り対象に加えて、動員対象となった朝鮮民衆への取締りが強化されていたことが伺える。

今日の日韓・日朝関係を考える中で基礎資料となることを願い刊行するものである。

朝鮮総督府 帝国議会説明資料
全17巻

A4判・上製・総5,240頁
揃定価588,500円（揃本体535,000円＋税10%）
'94年4月～'98年6月配本完結〔編集復刻版〕

朝鮮総督府が、帝国議会答弁のため作成した『帝国議会説明資料』は、現在その大部分が散佚又は焼却され、その全容を把握することさえ不可能に近い。弊社では内外の研究者・各機関の協力を得て、現在収集可能なものの全てを網羅し、復刻刊行した。その分量は、21,000頁を超えるため、四面付方式により復刻。大正6年から昭和20年までの植民地朝鮮の「治安状況」を中心とする民衆の動向など、植民地支配の全分野を含む、近現代史研究の基本資料である。

●**推薦**＝海野福寿・朴　慶植・水野直樹・宮田節子

朝鮮総督府 帝国議会説明資料
第4回配本（第18・19巻）

A4判・上製・総700頁
揃定価61,600円（揃本体56,000円＋税10%）
'13年12月刊〔編集復刻版〕

朝鮮総督府が、帝国議会答弁のため作成した『帝国議会説明資料』は植民地朝鮮の「治安状況」を中心とする民衆の動向など、植民地支配の全分野を含む近現代史研究の基本資料であるが、現在その大部分が散佚又は焼却され、その全容を把握することは不可能に近い。弊社ではこれまで、収集可能なものを収録し1994年に第1、2回配本、98年に第3回配本を刊行してきた。今回復刻する第4回配本の資料群はこれまでの欠落を補う貴重資料である。

●**推薦**＝水野直樹

海野福寿 編・解説

外交史料 韓国併合 上・下

A5判・上製・函入・総806頁
揃定価52,800円（揃本体48,000円＋税10%）
'03年11月刊

本史料集は、「韓国併合」に関して「歴史の共通認識という国際共通財を創りだす出発点」として編まれたものである。日本の韓国植民地化過程（1904～10年）に締結された日韓旧条約の日本側の政府関係史料を中心に400点余を収録。日韓外交関係の基本史料である。【内容】上＝論点／日韓議定書／第一次日韓協約／韓国通信機関委托ニ関スル取極書／第二次日韓協約

下＝第三次日韓協約／韓国司法及監獄事務委托ニ関スル覚書・韓国警察事務委託ニ関スル覚書／韓国併合ニ関スル条約／年表

●**推薦**＝宮田節子

滝尾英二 編・解説

植民地下 朝鮮における ハンセン病資料集成 全8巻

Ａ５判・上製・函入・総2,927頁
揃定価111,650円（揃本体101,500円＋税10%）
'01年11月～'03年７月配本完結〔編集復刻版〕

今日、日本政府のハンセン病対策が、多くの患者の人権を侵害してきた事実は明らかになりつつあるが、戦前、朝鮮で植民地政策の一環として、強制隔離・強制収容はもとより日本国内以上に過酷な強制労働と懲罰としての断種が強行され、ついに療養所の日本人園長が患者によって刺殺される事態にまで至ったことは知られていない。本集成は、諸刊行物や小鹿島更生園の年報、雑誌・新聞などの諸資料によって、その問題のありかを浮かび上がらせるものである。
●**推薦**＝秋定嘉和・海野福寿

朝鮮憲兵隊歴史 全6巻

松田利彦 解説
Ａ４判・上製・総1,580頁
揃定価198,000円（揃本体180,000円＋税10%）
'00年10月刊〔復刻版〕

本書は、防衛庁防衛研究所図書館所蔵の資料「朝鮮憲兵の起源及び沿革概要」「朝鮮憲兵隊歴史」を収録した。韓国併合の直前、1910年６月、日本政府は韓国政府から警察権を奪い、韓国駐箚憲兵隊が韓国人民を支配・統合する「武断政治」を開始する。この憲兵隊による植民地統治の方式は、その後の日本の植民地各地に「輸出」され、原型となるに至る。本資料は、この間の資料の空白を埋めるのに極めて重要である。
●**推薦**＝海野福寿・水野直樹

朝鮮総督府警務局 編

朝鮮の治安状況 大正13年12月

宮本正明 解題
Ｂ５判・上製・396頁
定価22,000円（揃本体20,000円＋税10%）
'06年７月刊〔復刻版〕

植民地下朝鮮の警察の元締めである朝鮮総督府警務局は、朝鮮の民衆を支配する治安維持対策として、個々の民族運動についての調査や各道警察部の報告を整理統合し、「治安状況」と題して定期的に作成していた。本復刻版はこの「治安状況」の大正13年12月のものであるが、特に「関東震災ノ民心ニ及ホシタル影響」など、大正12年の関東大震災に関連する報告を含んでいることに特徴がある。（原題＝「治安状況　大正13年12月」）

河合和男・金　早雪・羽鳥敬彦・松永　達 共著

国策会社・東拓の研究

本書は、1908年、朝鮮に設立された東拓（東洋拓殖株式会社）の多面的な事業活動を総体的に把握し、それを通じて、国策会社・東拓の全体像や歴史的意義に迫ろうとした共同研究書である。
●Ａ５判・上製・328頁・定価8,580円／'00年１月刊

山田寛人 著

植民地朝鮮における朝鮮語奨励政策
——朝鮮語を学んだ日本人

植民地下の朝鮮で、日本人を対象としたさまざまな朝鮮語試験が行われていた。朝鮮総督府による、教師や警察官などを対象とした朝鮮語奨励政策の実態を、幅広い資料群の分析を通して考察した書。
●Ａ５判・上製・268頁・定価5,280円／'04年６月刊

在日コリアンの経済活動

31ページをご参照ください。

十五年戦争極秘資料集

59ページをご参照ください。

十五年戦争重要文献シリーズ

62ページをご参照ください。

朝鮮戦争下 公安関係資料——光永源槌資料

68ページをご参照ください。

在日朝鮮人関係資料集成〈戦後編〉

69ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

【中国・その他】

岡田英樹 監修

華文大阪毎日 全18巻・別冊1

原本提供　西原和海・毎日新聞社
別冊＝解説（岡田英樹・関智英・羽田朝子）・総目次・索引（牛耕耘）
Ｂ５判・上製・総約7,800頁
揃定価498,300円（揃本体453,000円+税10%）
'22年５月～'24年１月配本完結予定〔復刻版〕

1938年11月に創刊され、終戦と同時に消えた幻の雑誌『華文大阪毎日』は、大阪毎日新聞社・東京日日新聞社が中国語圏に向けて発行した、中国語による総合雑誌である。
日中戦争が長期化するなか、中国大陸の一般市民を読者とした本誌は、日本帝国の国策プロパガンダであると同時に、大陸という「市場」の要請にこたえるべく、一般読者の声を広く取り入れ、多彩な誌面を展開した。1930年代後半から戦争末期にいたる日中の文学者、政治家、文化人、行政官らの作品や情報、中国各地の風俗、生活を伝える豊富なグラビアを掲載する本誌は、中国近現代史の空白を埋める待望の基礎資料である。
●**推薦**＝張　泉・大久保明男・松重充浩

三好　章 編・解説

根岸佶（ただし）著作集 全5巻

Ｂ５判・上製・総2,634頁
揃定価121,000円（揃本体110,000円＋税10%）
各巻分売可。各巻定価24,200円（本体22,000円＋税10%）
'15年８月～'17年９月配本完結〔編集復刻版〕

中国研究者、根岸佶は明治34年に上海に渡り、東亜同文書院創立期の若き教授として活躍した。大正６年には東京高等商業学校（現一橋大学）教授となって後進の指導育成にあたり、その生涯で多くの研究書を残した。根岸の中国研究は、現在の中国を研究、理解するためにも大きな示唆を与えるものであることを確信し、本著作集を刊行する次第である。
『支那ギルドの研究』『中国のギルド』『上海のギルド』『支那買辦制度』『買辦制度の研究』『華僑襍記』『中国社会に於ける指導層』『支那特別関税会議の研究』ほか多数収録。

旧外地「工場名簿」集成 全21巻

堀　和生 解説
Ａ５判・Ａ４判・Ｂ４判・上製・総6,832頁
揃定価423,500円（揃本体385,000円＋税10%）
'10年11月～'13年２月配本完結〔編集復刻版〕

本資料集成は、日本の植民地支配・占領下の台湾、朝鮮、樺太、関東州朝鮮、満洲国、華北における「工場名簿」45点を収録した。各「工場名簿」には、工場名、住所、経営者名、主要生産品、職工数、開業年月等が掲載されており、具体的な経営実態を知ることができる。戦前期日本の植民地の工業発展をめぐっては近代化論と収奪論が激しく対立しているが、本資料は、1930年代日本帝国の工業構造、戦前期東アジアの社会経済の研究活性化に資する貴重資料である。
●**推薦**＝柳沢　遊・やまだあつし

修文書館 発行〔明治23年～明治24年刊〕

上海新報 全2巻

解説（髙綱博文）・総目次付き
Ａ４判・上製・総796頁
揃定価52,800円（揃本体48,000円＋税10%）
'11年７月刊〔復刻版〕

『上海新報』は、上海における最初の日本語新聞として、明治23年６月より翌年５月まで全52号が刊行された。発行元は修文書館、長崎出身の松野平三郎が週刊紙として創刊した。上海に最も早く進出した三井物産が後援し、創刊目的も「日清間の通商貿易を奨励誘導する」とある。上海の商況や物価、清国内各都市の通商情報のほか、中国人の風俗、上海日本人居留民社会の様子、小説、英・日・中三国対照会話等の記事が掲載され総合誌の役割も果たした。近代日中関係史の第一級・稀覯資料である。
●**推薦**＝陳　祖恩

天野元之助 著

中国農業経済論 全3巻

Ａ５判・上製・函入・総2,200頁
揃定価30,800円（揃本体28,000円＋税10%）
'84年11月刊〔復刻版〕

本書は、天野元之助博士の戦前における中国農村実態調査の集大成というべき『支那農業経済論』上巻（昭和15年刊）・中巻（昭和17年刊）、及びその「下巻」にあたる『中国農業の諸問題』上・下巻（昭和27・28年版）の改訂復刻版である。氏は新中国成立後も前記２著を常に手元におき、誤植を訂正しつつ内容を補充し、中国農村社会の学問的研究に全生涯をかけた。本復刻版は、天野博士の手元の補充訂正版をそのまま復刻し、今日の研究者に提供するものである。

■十五年戦争極秘資料集　補巻㉟
興亜院政務部・大東亜省 刊
〔昭和14年～昭和17年・昭和18年～昭和20年〕

情　報 全9冊・別冊1

別冊＝解題（三好　章）・総目次
Ｂ４判・上製・函入・総3,160頁
揃定価149,600円（揃本体136,000円＋税10%）
'10年1月～11月刊〔復刻版〕

1938年に設立された興亜院は、日中戦争下における対中国政策、占領地統治政策を統括する機関である。『情報』はその内部資料で、翌年興亜院政務部より全76号が発行された。アジア太平洋地域へと戦争が拡大したのち大東亜省より同じ誌名で発行されたが、39号までが現在確認されている。情報収集活動の重点を「防共」に置き、重慶国民政府、中国共産党、汪精衛政権の関係情報を多く収め、占領地各連絡部からの現地情報も報告されている。日中戦争史研究をさらに深めるための有用な資料である。
●推薦＝本庄比佐子・森　久男

■十五年戦争極秘資料集　補巻㊵

特調班月報・通訊 全4冊

解題（三好　章）・総目次付き
Ｂ４判・Ａ４判・上製・函入・総1,280頁
揃定価70,400円（揃本体64,000円＋税10%）
'11年7月～10月刊〔復刻版〕

『特調班月報』（1939年～42年）、『通訊』（1940年～44年）は、上海日本総領事館特別調査班（特調班、のち上海日本大使館特別調査班）が編集発行した、日中戦争下のマル秘扱い中国情報誌である。両誌は、中国「奥地」（国民党、共産党の支配地域）はじめ中国各地で刊行された新聞雑誌の論説・記事から編集されているが、『特調班月報』は論説を、『通訊』は記事を主に収録している。現在では入手困難なこれら新聞類により、当時の中国国内情勢、日本の対中認識の検証が深められるであろう。
●推薦＝本庄比佐子

藤田佳久 編著

東亜同文書院 中国調査旅行記録

1901年、日中間の貿易実務担当を養成するために、上海に誕生した東亜同文書院。書院生が行った調査旅行の膨大な記録から、テーマごとに一部を収録、解題を付す。

第1巻『中国との出会い』　●Ａ５判・上製・函入・284頁・定価2,990円／'94年6月刊【取扱図書】
第2巻『中国を歩く』　●Ａ５判・上製・函入・848頁・定価8,250円／'95年8月刊【取扱図書】
第3巻『中国を越えて』　●Ａ５判・上製・函入・690頁・定価6,600円／'98年11月刊【品切】
第4巻『中国を記録する』　●Ａ５判・上製・函入・580頁・定価6,820円／'02年3月刊【品切】
第5巻『満州を駆ける』　●Ａ５判・上製・函入・608頁・定価8,800円／'11年2月刊

■愛知大学東亜同文書院大学記念センター叢書
石田卓生 著

東亜同文書院の教育に関する多面的研究

1901年、上海に日本の高等教育機関として設立された東亜同文書院について、その歴史と教育活動の展開を実証的に解明。旧植民地、中国語教育、近代日本関係史研究に必備の書。
●推薦＝藤田佳久
●Ａ５判・上製・510頁・定価7,700円／'19年3月刊

反帝同窓会 編／井上　學 解題

反帝新聞

アジア唯一の帝国主義国内で、反帝国主義・民族独立の旗を掲げ、侵略戦争に反対し、国際的な反戦運動に取組んだ日本反帝同盟の機関誌紙・パンフレット類を収録。
●Ｂ５判・上製・518頁・定価30,800円／'84年10月刊〔復刻版〕

初期コミンテルンと東アジア研究会 編

初期コミンテルンと東アジア

東アジアの社会主義運動とコミンテルンの関係は如何にして始まったのか。モスクワ・アルヒーフを駆使した7編の論文により、日本、朝鮮、中国、モンゴルとコミンテルンとの接点が初めて明かされる。
●Ａ５判・上製・312頁・定価4,715円／'07年2月刊

松村高夫著／杉原　達 解説

日本帝国主義下の植民地労働史

本書は、1966年から2006年にわたって発表された、日本帝国主義と植民地労働史に関する6編の論文を集成したものである。今後の東アジア各国との関係を捉え直す上でも貴重な研究書。
●Ａ５判・上製・384頁・定価6,380円／'07年5月刊

井上　學 著

日本反帝同盟史研究
——戦前期反戦・反帝運動の軌跡

反戦・反帝国主義運動に正面から取り組んだ「日本反帝同盟」研究の集大成！　多くの資料や当事者からの聞き書き等を駆使して、1920年・30年代の活動の足跡を明らかにする。
●推薦＝伊藤　晃
●Ａ５判・上製・528頁・定価9,350円／'08年4月刊

佟岩・浅野慎一 監訳

中国残留日本人孤児に関する調査と研究 上・下

本書は、関亜新・張志坤著『日本遺孤調査研究』（社会科学文献出版社、2005年刊）の全訳。政府の档案（個々人の詳細な人事資料）から3千8百余人を抽出し分析、聞き取りも実施。
●推薦＝井出孫六
●Ａ５判・上製・函入・総956頁・揃定価33,000円／'08年12月刊

定価は消費税10%込

李　紅衛 著

清水安三と北京崇貞学園
——近代における日中教育文化交流史の一断面

戦前、宣教師として中国に渡り、「崇貞学園」を創設した清水安三（桜美林大学創設者）の諸活動と思想形成を、档案館等の新資料や卒業生からの聞き取りをもとに解明。
●**推薦**＝阿部　洋・樽松かほる
●**Ａ５判・上製・348頁・定価5,280円／'09年2月刊**

戦前期中国在留日本人統計

57ページをご参照ください。

台湾教育〈大正期〉

88ページをご参照ください。

【台湾・南洋・東南アジア・西アジア】

満鉄東亜経済調査局 発行〔昭和14年～昭和20年〕

新亜細亜　全19巻・別冊1

別冊＝解題（臼杵　陽）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総10,020頁
揃定価459,800円（揃本体418,000円＋税10%）
'11年12月～'13年9月配本完結〔復刻版〕

本誌は、1939年から1945年まで、満鉄東亜経済調査局が発行した雑誌である。中心となった大川周明が、創刊の辞及び毎号巻頭言を執筆している。創刊の辞では「国民は亜細亜のことに関して無関心である」とし、「西南亜細亜並びに南洋諸島に関する知識の普及に努める」とある。地理的には西アジア、東南アジアからオセアニアまで、また内容的には政治・経済・宗教・民族・美術・文学と幅広く、イスラーム関連の記事に力を入れているのも大きな特徴である。当時の日本のアジア認識を知るための必須の資料である。
●**推薦**＝大塚健洋・倉沢愛子・中島岳志・山内昌之

南洋群島文化協会 発行〔昭和10年～昭和18年〕

南洋群島　全26巻・別冊1

別冊＝解説（仲程昌徳）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総10,018頁
揃定価457,600円（揃本体416,000円＋税10%）
'09年6月～'11年2月配本完結〔復刻版〕

かつて「海の生命線」と称された島々——南洋群島。多くの沖縄出身者を含む日本人移民たちは、原野を拓き、産業を興し、約10万人の町を築いた。本誌は、南洋庁の宣伝雑誌という一面はあるが、南方の委任統治領における日本人の動向や生活の実態を具体的に知る上で最も貴重な資料である。誌面には南洋庁長官などの論説、視察記事、経済・産業、民族・民俗に関する研究報告に加えて、随筆や紀行文、日本人移民による文芸作品も掲載されている。
戦前期ミクロネシア文化圏で刊行された唯一の総合文化雑誌。
●**推薦**＝石川友紀・今泉裕美子・須藤健一・山口洋兒

■十五年戦争極秘資料集　補巻㊽

台湾総督府第六十回帝国議会説明資料　全5冊

河原　功 解題
Ｂ５判・上製・総2,068頁
揃定価104,500円（揃本体95,000円＋税10%）
各冊分売可。各冊定価20,900円（本体19,000円＋税10%）
'18年9月～'19年6月配本完結〔復刻版〕

本書は、台湾総督府が帝国議会での説明のために作成した資料の復刻である。残存数が少なく実態が不明な中、わずかに所在が確認できた第57回・第58回・第60回帝国議会の説明資料を収録。第60回帝国議会開催の1931年は、霧社事件のため石塚英蔵総督が引責辞任した年であり、満洲事変を受けて中国本土の排日運動が活発化するなど、台湾にとって波乱の時期に当たる。第59回議会で霧社事件と植民地統治に関する厳しい質疑を受けた総督府が、再度の質疑に向けて綿密に準備した本資料は、日本の台湾支配の歴史の空白を埋める貴重なものである。

■十五年戦争極秘資料集　補巻㊿

台湾議会設置関係書類

若林正丈 解説
Ｂ５判・上製・412頁
定価27,500円（揃本体25,000円＋税10%）
'20年8月刊〔復刻版〕

植民地下の台湾で1923年12月に起きた「治安警察法違反事件（治警事件）」に関連した、台湾議会設置請願運動に関する総督府の内部資料を復刻。同運動は帝国日本統治下の台湾において立法権を総督から台湾の「日本国民」の手に移すよう訴えたもので、大正デモクラシーと第一次大戦後の民族自決の影響を強く受け、林献堂、蔡培火、蔣渭水らが中心となり、また、矢内原忠雄、田川大吉郎、清瀬一郎らの協力も得て、台湾最大の大衆運動となった。台湾のアイデンティティの所在を考えるうえで原点に位置する運動と言える。台湾近現代史の重要資料。
●**推薦**＝河原　功

定価は消費税10％込

河原　功 編・解題

資料集 終戦直後の台湾 全3巻

Ｂ5判・上製・総1,146頁
揃定価82,500円（揃本体75,000円＋税10%）
'15年5月刊〔編集復刻版〕

本資料集は、終戦前後に台湾総督府総督官房秘書官、外務省管理局総務部南方課長を務めた斎藤茂氏が収集・記録した1945、6年の資料を「台湾情報」「布告・通牒・覚書・要望・検討事項」「中華民国（台湾省行政長官公署）からの通告・通達・命令」「成田一郎総務長官の帰台に関する件」「非日本人の台湾への帰還・邦人の台湾引揚げ」等に分類し、復刻したものである。終戦直後の混乱期における台湾の様子を知ることのできる資料で日本に現存するものは貴重であり、台湾史のみならず、広く東アジア研究に供するものである。
●**推薦**＝園部逸夫・何　義麟・斎藤　毅

台湾引揚者関係資料集 全7巻・付録2

河原　功 解題
付録＝『台湾引揚史』『琉球官兵顚末記』
Ｂ4判・Ａ5判（付録）・上製・総2,522頁
揃定価187,000円（揃本体170,000円＋税10%）
'11年11月～'12年4月配本完結〔編集復刻版〕

敗戦後まもなく、台湾からの引揚者は日本各地で引揚者の相互支援活動を開始し、他地域からの引揚者団体とともに、1948年「引揚者団体全国連合会」を結成、翌月には『全国引揚者新聞』を創刊した。1950年には台湾協会を設立し、後継紙といえる『台湾協会報』を発行、以後紙名を変えながら台湾引揚者に関する情報を発信し続けた。戦後60余年を経た現在、台湾引揚当事者の追跡調査が困難になりつつあるなか、本資料集はその足跡を辿るための重要かつ貴重な資料である。
●**推薦**＝浅野豊美・斎藤　毅・陳　培豊・春山明哲

旧制台北高等学校同窓会誌

『蕉葉会報』 全3巻

河原　功 解題
Ｂ5判・上製・総1,074頁
揃定価66,000円（揃本体60,000円+税10%）
'22年6月刊〔復刻版〕

2022年に創立100周年を迎える旧制台北高等学校。日本の敗戦に伴う中華民国の台湾接収で廃校となり、校地・校舎は現在の台湾師範大学に継承された。台湾師範大学の図書館には、当時の資料を集めた「台北高等学校資料室」が置かれている。
開校当初から日本・台湾のエリートが集まり、卒業生は日本・台湾の政財界・教育・医療・文学などの広い分野で足跡を残した。
同窓会誌『蕉葉会報』は戦後の1961年5月に創刊、2013年6月の最終107号まで発行され、卒業生を通じた日台交流の様子を明らかにすると同時に、当時の旧制高校の生活習慣や学問の様子がうかがえる内容となっている。
●**推薦**＝阿部　洋・川平朝清・園部逸夫・蔡　錦堂

旧外地「工場名簿」集成

50ページをご参照ください。

台湾出版警察報

56ページをご参照ください。

植民地文化研究　植民地文化学会 編・発行（第６号までは植民地文化研究会）

資料と分析の研究論文誌【取扱図書】

Ａ５判・並製【既刊分合計定価 48, 400 円（合計本体 44, 000 円＋税10%）】

創刊号―特集・「満洲国」文化と台湾①
232 頁・定価 2, 200 円／'02年 6 月刊

第 2 号―特集・「満洲国」文化と台湾②
240 頁・定価 2, 310 円／'03年 7 月刊

第 3 号―特集・「満洲国」文化と台湾③
240 頁・定価 2, 310 円／'04年 7 月刊

第 4 号―特集・「満洲国」文化と台湾④
248 頁・定価 2, 310 円／'05年 7 月刊

第 5 号―特集・「満洲国」文化と台湾⑤
240 頁・定価 2, 310 円／'06年 7 月刊

第 6 号―特集・「満洲国」文化と台湾⑥
240 頁・定価 2, 200 円／'07年 7 月刊

第 7 号―特集・「満洲国」文化と台湾⑦
256 頁・定価 2, 420 円／'08年 7 月刊

第 8 号―特集・朝鮮・台湾・「満洲」
272 頁・定価 2, 530 円／'09年 7 月刊

第 9 号―特集・インドネシア・朝鮮・「満洲」・台湾
232 頁・定価 2, 200 円／'10年 7 月刊

第10号―特集・植民地主義と女性
264 頁・定価 2, 420 円／'11年 7 月刊

第11号―特集・植民地解放後の東アジア
272 頁・定価 2, 530 円／'12年 7 月刊

第12号―特集・日中戦争の勃発と東アジア
240 頁・定価 2, 310 円／'13年 7 月刊

第13号―特集・「在日」とは何か
232 頁・定価 2, 200 円／'14年 7 月刊

第14号―特集・内なる植民地
248 頁・定価 2, 310 円／'15年 7 月刊

第15号―特集・内なる植民地　再び
232 頁・定価 2, 200 円／'16年 7 月刊

第16号―特集・内なる植民地　三たび
232 頁・定価 2, 200 円／'17年 7 月刊

第17号―特集・テロとは何か。植民地の産物？
240 頁・定価 2, 310 円／'18年 7 月刊

第18号―特集・引揚げとは何か？
240 頁・定価 2, 310 円／'19年 7 月刊

第19号―特集・植民地としての女性
248 頁・定価 2, 310 円／'20年 7 月刊

第20号―特集・引揚げ再考
248 頁・定価 2, 310 円／'21年10月刊

第21号―特集・シベリア出兵から100年
232 頁・定価 2, 200 円／'23年 2 月刊

定価は消費税10％込

戦時下統制関係資料

荻野富士夫 編・解説

文部省思想統制関係資料集成 全11巻

Ａ４判・上製・総4,620頁
揃定価302,500円（揃本体275,000円＋税10%）
'07年12月～'08年12月配本完結〔編集復刻版〕

本資料集成は、これまで顧みられなかった戦前文部省の治安機能に焦点をあて、主に1930年代以降の教育・学術・思想の領域における「統制」から「動員」への流れを明らかにするものである。
具体的には、大学・高校などの学生思想運動の取締・思想善導から出発した教育方策・原理が、教育全般・学術研究の統制・動員に拡張され、「教学錬成」の施風を巻き起こし、戦争遂行体制の主導役となりつつ、教育の自壊に至る軌跡を、文部省学生部・思想局・教学局作成の資料を中心に全50点を収録し解説を付して刊行する。
●**推薦**＝纐纈　厚・逸見勝亮・前田一男・松尾尊兊

情報局関係極秘資料 全8巻

荻野富士夫 解説
Ａ４判・上製・総2,730頁
揃定価264,000円（揃本体240,000円＋税10%）
'03年５月～９月配本完結〔編集復刻版〕

戦前の日本の情報機関の創設は、昭和７年外務省に「情報委員会」が設置され、その後、昭和11年「同盟通信社」と「内閣情報委員会」の設立に始まる。のち、「内閣情報委員会」は「内閣情報部」「情報局」と改組発展し、十五年戦争をになう重要な情報・宣伝機関となる。この間の情報局等の刊行物は膨大な量と種類があるが、その全容は未だはっきりしない。本書は、内閣情報委員会・内閣情報部および情報局の刊行物のうち、極秘（あるいは秘）扱いのものを出来る限り収集し、復刻。日本近現代史・メディア史の基本資料。
●**推薦**＝有山輝雄・内川芳美・山本武利

廣畑研二 編・解説

戦前期警察関係資料集 第Ⅰ期 全４巻

Ａ４判・上製・総1,366頁
揃定価123,200円（揃本体112,000円＋税10%）
'06年10月刊〔編集復刻版〕

戦前期の社会運動に対する警察認識を示す歴史的資料を編集復刻。第１巻は、水平社綱領改正を指標として、第二次綱領を採択した1926年５月の第５回大会までの初期水平運動に関する資料。第２巻は、日露国交回復交渉前後に外事警察体制が整えられ、ロシアの極東戦略を警戒して作られた外事関係資料。第３巻は、1928年の昭和天皇即位大礼の警衛資料。第４巻は、知事交替時に作成された「知事事務引継書」のうち京都府と大阪府の資料を収録。新発見資料多数収録。
●**推薦**＝秋定嘉和・荻野富士夫

廣畑研二 編・解説

戦前期警察関係資料集 第Ⅱ期 岡山県特高警察資料 全４巻

Ａ４判・上製・総1,906頁
揃定価132,000円（揃本体120,000円＋税10%）
'12年11月刊〔編集復刻版〕

岡山県は社会運動史において戦前から重要な活動家を輩出してきたことで有名であるが、本資料集はその岡山県の一警察官が警察部在職中に、自ら編集に携わった特高警察関係資料を編集復刻したもので、岡山県の特高事務25年間のうち初期10年間（1920～1929年）の内容を通覧することができる。
一地方警察官所蔵資料の範疇にとどまらず、内務省警保局、警視庁など中枢機構の新資料も多く収録した本資料集は、大逆事件以降の特高警察体制がどのように全国に構築されていったのかを示す貴重資料群である。
●**推薦**＝秋定嘉和・加藤哲郎

荻野富士夫 編・解題

特高警察関係資料集成 第Ⅰ期 全30巻・別冊１

別冊＝『特高警察関係資料解説』（分売可。定価27,500円）
Ａ４判・上製・総14,300頁
揃定価852,500円（揃本体775,000円＋税10%）
'91年６月～'95年３月配本完結〔編集復刻版〕

本書は、特高警察に関する厖大な資料の中から、今日重要と思われるものを整理・復刻したものである。これまでにほとんど知られていなかった米騒動、1920年代の社会運動、3・15事件関係等の資料群も収録し、12のテーマに分け、編年体により編集。権力の弾圧・抑圧の幅と奥行きを示すことにより、特高警察体制の全体像を提示する。従来公刊されてきた外事警察や出版警察、在日朝鮮人運動関係の復刻版・資料集等の欠落を補完するものである。
●**推薦**＝今井清一・奥平康弘・松尾尊兊・由井正臣・渡部　徹

定価は消費税10％込

荻野富士夫 編・解題

特高警察関係資料集成 第Ⅱ期 全8巻

Ａ４判・上製・総3,208頁
揃定価220,000円（揃本体200,000円＋税10%）
'04年6月～12月配本完結〔編集復刻版〕

『特高警察関係資料集成　第Ⅰ期　全30巻　別冊１』は、1995年に配本を完結した。本書は、前回収録できなかった資料、また新たに発掘された資料を、第Ⅰ期と同様に12のテーマに分類し、かつ「資料番号」も継承して編集。米国議会図書館所蔵の、いわゆる米軍没収資料の中から、ＭＯＪ4231及び4232を中心に、また外務省外交史料館所蔵、国立公文書館に移管された旧中野警察学校所蔵資料等も収録した。
●**推薦**＝伊藤　晃・加藤哲郎・田中真人

台湾総督府警務局保安課図書掛 編〔昭和５年～昭和７年刊〕

台湾出版警察報 全5巻・別冊1

別冊＝解説（河原　功）・発禁図書新聞リスト
Ｂ５判・上製・総2,444頁
揃定価105,600円（揃本体96,000円＋税10%）
'01年2月刊〔復刻版〕

戦前の台湾にも、新聞・雑誌・単行本に対する検閲とその結果を示す月間報告書があった。日本国内では『出版警察報』がすでに復刻刊行されているが、今回発見された『台湾出版警察報』は、第６号（昭和５年１月）から第35号（昭和７年６月）の短期間とはいえ、極めて価値の高い資料である。とくに、矢内原忠雄著『帝国主義下の台湾』は、1930年１月９日付けで発売頒布禁止の処分になっていることが、本書第７号で証明された。
●**推薦**＝若林正丈・呉　密察

内務省警保局 編〔昭和３年～昭和19年刊〕

出版警察報 全40巻・補巻1・付録1

付録＝出版警察関係資料　解説（由井正臣・赤澤史朗・北河賢三・豊沢　肇）・総目次
Ａ５判・上製・函入・総27,950頁
揃定価522,500円（揃本体475,000円＋税10%）
'82年4月配本完結〔復刻版〕

『出版警察報』（全149号）は、昭和初期から敗戦まで、内務省警保局の手により編纂、配布された書籍雑誌を中心とするあらゆる出版物の取締状況、発禁および注意処分、新聞記事の差止通牒調、主要新聞雑誌の記事内容、外国の出版事情など、およそ公に印刷されたものすべてにわたり国家としての取組み方を細大もらさず記録しマル秘文書とした唯一月報形式の資料である。
●**推薦**＝家永三郎・大久保利謙・奥平康弘・小田切秀雄・中村尚美・松浦総三・渡部　徹

内務省警保局 編〔昭和10年～昭和15年刊〕

出版警察資料 全15巻・付録1

付録＝出版警察関係資料　解説（由井正臣・赤澤史朗・北河賢三・豊沢　肇）・総目次
Ａ５判・上製・総8,538頁
揃定価161,700円（揃本体147,000円＋税10%）
'82年9月刊〔復刻版〕

旧内務省警保局による出版物の取締状況を報ずる『出版警察報』は、「概況」「資料」「思潮」によって構成されているが、昭和10年６月から昭和15年６月まで「思潮」だけ分離して『出版警察資料』として刊行された。第１号から第47号までの全号を復刻する。
出版統制（新聞・雑誌・単行本および1935年以後はレコードまで含まれた）研究に欠かせない資料のひとつである。
●**推薦**＝家永三郎・大久保利謙・奥平康弘・小田切秀雄・中村尚美・松浦総三・渡部　徹

内務省警保局 編〔昭和５年～昭和10年刊〕

出版警察概観 全3巻・付録1

付録＝出版警察関係資料　解説（由井正臣・赤澤史朗・北河賢三・豊沢　肇）・総目次
Ａ５判・上製・函入・総2,462頁
揃定価82,500円（揃本体75,000円＋税10%）
'88年4月刊〔復刻版〕

『出版警察概観』は、旧内務省警保局のマル秘資料で、第二次大戦敗戦までのいわゆる昭和前期のマス・メディア統制、とくにそのうちの出版統制研究には、欠くことのできない重要資料である。
『出版警察概観』は、『出版警察報』で取扱われている毎月ごとの出版警察概況を、年単位でまとめたもので、各種の統計をはじめ出版警察の年次的な傾向をみるには大変便利である。
●**推薦**＝家永三郎・大久保利謙・奥平康弘・小田切秀雄・中村尚美・松浦総三・渡部　徹

外務省 編

外務省警察史 全53巻・別冊1

別冊＝解題（荻野富士夫）・総目次
Ａ４判・上製・総18,790頁
揃定価1,366,200円（揃本体1,242,000円＋税10%）
'96年6月～'01年12月配本完結〔復刻版〕

外務省警察（領事館警察ともいう）は、日本帝国主義の植民地政策の中で、「大東亜治安体制圏」の担い手として、不平等条約にもとづく領事裁判権を盾に、「領事警察権」の行使を既成事実化し、大陸進出・侵略の先兵的役割を持っていた。
朝鮮民族独立運動の取締り、中国民衆の抗日運動の監視など特高警察的機構をもった外務省警察の記録は、昭和19年タイプ刷りで一応完成した。本復刻版は、その全体を原本のまま復刻、日本近代史の基本資料として公刊。
●**推薦**＝海野福寿・荻野富士夫・木坂順一郎・副島昭一

内務省警保局 編〔昭和10年～昭和17年刊〕

外事警察概況 全8巻

石堂清倫 解題
A5判・上製・函入・総4,220頁
揃定価104,500円（揃本体95,000円＋税10%）
'87年9月刊〔復刻版〕

戦前日本の内務省警保局による諜報活動は、対ソ・中を中心に、『外事警察報』に掲載され、各年度毎に『外事警察概況』に集約・刊行された。外事警察関係の各種統計表約250点を含んだ、近現代史研究必備の資料である。とくに「ゾルゲ事件」を始めとする戦前期の大日本帝国の対外情報活動を刻明に記録したものとして第一級の価値をもつ。

内務省警保局 編〔大正13年～昭和19年刊〕

外事警察報 全67巻・別冊1

別冊＝解説（石堂清倫）・総目次・索引
A5判・上製・函入・総約42,000頁
揃定価1,089,000円（揃本体990,000円＋税10%）
'87年5月～'89年2月配本完結〔復刻版〕

戦前の日本帝国主義国家権力を維持するための諜報活動は、内務省警保局が担当し、国内に対しては特高警察が、国外に対しては外事警察がその任にあたり、在日外国人の行動だけでなく、海外における共産主義運動、主にソヴェト連邦及び中国における運動の情報蒐集につとめた。『外事警察報』は、これら蒐集した資料を整理し、極秘のうちに少数者に頒布した月刊誌である。これを年毎に集約し、概況を述べたものが『外事警察概況』であり、本誌の姉妹誌である。
●**推薦**＝石堂清倫・奥平康弘・尾崎秀樹・菊地昌典

内務省警保局 編〔大正10年～昭和14年〕

外事警察報 補巻 全8巻・別冊1

別冊＝解題（荻野富士夫）・総目次・索引
A5判・上製・総2,764頁
揃定価141,900円（揃本体129,000円＋税10%）
'00年9月刊〔復刻版〕

1999年8月、警察大学校の旧蔵資料が国立公文書館に移管公開された。その中には、内務省警保局の刊行物が多数含まれ、弊社が10年以上前に復刻刊行した『外事警察報』の欠号を補うことが可能となった。今回公開された29号分を、全8巻として復刻し、あわせて新たに「解題」を付し刊行する。特に、今回公開された中には、創刊号（大正10年2月）から第23号（大正13年5月）までが含まれ、本書の刊行の経緯を知ることが出来る。

内務省警保局 編〔昭和13年～昭和19年刊〕

外事月報 全11巻

荻野富士夫 解説
A5判・上製・総4,500頁＋表多数
揃定価181,500円（揃本体165,000円＋税10%）
'94年6月刊〔復刻版〕

内務省警保局刊行の社会運動関係の定期刊行物のうち、月報形式のものは『特高月報』が有名で、すでに復刻版（昭和5～19年・政経出版社）が刊行されている。しかし、同誌は昭和10年10月に『特高外事月報』と改題し、また昭和13年8月に『特高月報』と誌名をもどすが、同時に、『外事月報』を分離刊行する。

弊社では、日本国内外の永年の調査により、昭和19年9月分までの月報を収録した。十五年戦争中の外国人迫害問題等の基本資料。
●**推薦**＝石堂清倫・今井清一・木坂順一郎・茶園義男

内務省警保局 編〔昭和10年～昭和19年刊〕

外事警察資料 全4巻

荻野富士夫 解説
A5判・上製・総1,400頁
揃定価66,000円（揃本体60,000円＋税10%）
'94年6月刊〔復刻版〕

内務省警保局刊行の外事警察関係の定期刊行物は、『外事警察報』（月報）、『外事警察概況』（年報）、それに『外事月報』などがあり、既に弊社より復刻刊行されている。『外事警察資料』は、これらに対して、不定期刊行物で、第1輯（昭和10年11月、「フリーメーソンリー」）から、第30輯（昭和19年3月、「中国の命運」）までが確認されている。警保局外事課は、中ソの国際的共産主義運動のみならず、エスペラント運動や藍衣社の運動にも関心をもっていた。
●**推薦**＝石堂清倫・今井清一・木坂順一郎・茶園義男

内務省警保局 編〔昭和11年～昭和13年刊〕

海外よりの 左翼宣伝印刷物集 全3巻

石堂清倫 解題
A5判・上製・函入・総1,634頁
揃定価30,800円（揃本体28,000円＋税10%）
'84年11月刊〔復刻版〕

「国際通信」「太平洋労働者」「海上通信」等は、アメリカ共産党日本人部の刊行物である、コミンテルン第7回大会の方針の紹介を中心に、外国から指導的論文を日本に送り込むことが主要な目的であった。

本書は内務省警保局が収拾した資料を、年1回刊行する形で出版されたものの復刻版である。今日なお不明部分の多い昭和10年代の日本共産党史研究にとって不可欠の資料であり、また、『社会運動の状況』『特高月報』を補うものである。

■十五年戦争極秘資料集　補巻㉕
満洲国国務院総務庁弘報処 発行〔昭和12年～昭和20年〕

宣撫月報 全8冊・別冊1

別冊＝解説（山本武利）・総目次・索引
Ｂ４判・上製・函入・総2,436頁
揃定価159,500円（揃本体145,000円＋税10%）
'06年1月～'07年3月刊〔復刻版〕

『宣撫月報』は1936（康徳３）年、「満洲国」の中央宣撫小委員会が発行、満洲国の宣伝担当職員に配布された内部資料である。各地方の「弘報宣伝実施工作」「特別治安工作」等報告・宣伝資料は詳細で、満洲国内各民族の支配・統治についての考え方や手法が、率直かつつぶさに記録されている。映画・演劇・放送も「宣撫工作」の有効な手段として動員され、この点においても見逃せない。一部未見のものを除き、第２巻第１号（1937年１月）から通巻73号までの計58号分を復刻収録する。
●推薦＝荻野富士夫・佐藤卓己・西田　勝

■十五年戦争極秘資料集　補巻㉙

陸軍省『調査彙報』全5冊・別冊1

別冊＝解説（松野誠也）・総目次
Ａ４判・上製・函入・総1,536頁
揃定価83,600円（揃本体76,000円＋税10%）
'07年9月～'08年5月刊〔復刻版〕

『調査彙報』は、1928年６月の第１号から1936年12月の第53号まで陸軍省が発行、内部配布したマル秘調査報告書である。現在、号外等を含め79冊が確認できているが、本書では内９冊が未収録である。社会運動の高揚、とりわけ共産党による反戦・反軍闘争が活発化した1920年代半ば、陸軍にとって一般兵士たちの動静掌握、統制・管理は極めて重要な課題であった。国内における反戦・反軍運動や右翼の動向、兵士の思想状況、海外の動向等、陸軍中央の社会情勢認識、軍隊内統制を伝える貴重な資料である。
●推薦＝吉田　裕

戦時期早稲田大学学生読書調査報告書 全1巻

和田敦彦 解説
Ｂ５判・上製・総354頁
揃定価22,000円（揃本体20,000円＋税10%）
'21年12月刊〔復刻版〕

本書は愛知大学教授・綜合郷土研究所所長であった川越淳二が早稲田大学在学中の昭和17年に行なった早稲田大学生の読書傾向調査の詳細な報告書である。第二次大戦下、文部省や図書館の事業において読書教育、読書指導という積極的な読書への統制が強まっていき、読ませるべき推薦図書の選択や、それらを読む読書会の全国的な組織化が進む。こうした動きと並行して、児童や青少年の読書の実態をとらえる読書傾向調査が盛んに行われていく。
今回弊社では具体的な調査手順や調査紙、結果データが含まれた一次資料を、翻刻を沿えて復刻。戦時下の学生の読書事情に加えて、この時期の調査の実態を明かすうえでの貴重な資料である。
●推薦＝新藤雄介

荻野富士夫 著

特高警察関係資料解説

『特高警察関係資料集成』全30巻の完結を期に、同集成の解題、および『外事月報』『外事警察資料』『社会運動の状況（大正15年・昭和２年版）』の解題を収録。特高警察に関する資料解題の集大成。
●Ｂ５判・上製・函入・400頁・定価27,500円／'95年3月刊

朝鮮治安関係資料集成

48ページをご参照ください。

映画検閲時報

80ページをご参照ください。

一九二〇年代社会運動関係警察資料

82ページをご参照ください。

定価は消費税10%込

十五年戦争極秘資料集　全30集　B５判・上製・函入／揃定価 253,000 円（揃本体 230,000 円＋税10%）（分売可）

高崎隆治 編・解説
①大東亜戦争ニ伴フ我カ人的国力ノ検討
200 頁・定価 3,850 円／'87年 1 月刊

武富登巳男 編・解説
②ババル島事件関係書類
100 頁・定価 2,750 円／'87年 1 月刊

大城将保 編・解説
③沖縄秘密戦に関する資料
204 頁・定価 3,850 円／'87年10月刊

岡部牧夫 編・解説
④満洲事変における憲兵隊の行動に関する資料
394 頁・定価 5,500 円／'87年12月刊

北 博昭 編・解説
⑤東京裁判 大山文雄関係資料
232 頁・定価 3,850 円／'87年12月刊

宮田節子 編・解説
⑥高等外事月報
550 頁・定価 10,450 円／'88年 3 月刊

原田勝正 編・解説
⑦大東亜縦貫鉄道関係書類
200 頁・定価 3,850 円／'88年 3 月刊

姫田光義 編・解説
⑧重慶中国国民党在港秘密機関検挙状況
400 頁・定価 7,150 円／'88年 5 月刊

大江志乃夫 編・解説
⑨支那事変 大東亜戦争間動員概史
500 頁・定価 13,200 円／'88年 7 月刊

清水勝嘉 編・解説
⑩戦争栄養失調症関係資料
290 頁・定価 4,400 円／'88年 5 月刊

茶園義男 編・解説
⑪俘虜ニ関スル諸法規類聚
420 頁・定価 7,150 円／'88年11月刊

北 博昭 編・解説
⑫軍律会議関係資料
250 頁・定価 3,850 円／'88年11月刊

井上久士 編・解説
⑬華中宣撫工作資料
300 頁・定価 4,950 円／'89年11月刊

吉田 裕 編・解説
⑭思想彙報（上・下）
総 1,174 頁・定価 19,800 円／'90年 7 月刊

宮田節子 編・解説
⑮朝鮮軍概要史
258 頁・定価 6,050 円／'89年 4 月刊

内海愛子 編・解説
⑯俘虜取扱に関する諸外国からの抗議集
532 頁・定価 10,450 円／'89年 2 月刊

山中 恒 編・解説
⑰在満軍法会議處刑特殊犯罪集
170 頁・定価 3,300 円／'89年 2 月刊

粟屋憲太郎・吉見義明 編・解説
⑱毒ガス戦関係資料
600 頁・定価 10,450 円／'89年 8 月刊

春山明哲 編・解説
⑲台湾島内情報・本島人の動向
190 頁・定価 4,400 円／'90年 2 月刊

北 博昭 編・解説
⑳海軍法務資料　馬場東作綴（ばばとうさくつづり）
330 頁・定価 4,950 円／'88年12月刊

清水勝嘉 編・解説
㉑戦時下国民栄養の現況調査報告書
320 頁・定価 5,500 円／'90年 2 月刊

茶園義男 編・解説
㉒満州移民拓務局原資料
410 頁・定価 8,250 円／'90年 2 月刊

北 博昭 編・解説
㉓国民義勇隊関係資料
180 頁・定価 3,850 円／'90年 6 月刊

武富登巳男 編・解説
㉔久留米師団召集徴発雇用書類
226 頁・定価 4,400 円／'90年 7 月刊

春山明哲 編・解説
㉕台湾霧社事件軍事関係資料
418 頁・定価 19,800 円／'92年 1 月刊

岡部牧夫 編・解説
㉖初期の満州国軍に関する資料
17頁＋表 9 ＋地図 4・定価 20,350 円／'92年 1 月刊

北 博昭 編・解説
㉗陸海軍省法務局長巡察報告
248 頁・定価 4,950 円／'90年 9 月刊

宮田節子 編・解説
㉘朝鮮思想運動概況
312 頁・定価 15,400 円／'91年 9 月刊

田中 明・松村高夫 編・解説
㉙七三一部隊作成資料
362 頁・定価 15,400 円／'91年 8 月刊

藤原 彰 編・解説
㉚外邦兵要地図整備誌
364 頁＋地図18・定価 20,350 円／'92年11月刊

定価は消費税10%込

十五年戦争極秘資料集　補巻

上製・函入／刊行中
【既刊分合計定価 2, 133, 780 円（揃本体 1, 939, 800 円＋税10%）（分売可）】

内藤裕史 編・解説
①毒ガス戦教育関係資料
B 5 判・542 頁　定価 19, 800 円／'96年12月刊

吉見義明・松野誠也 編・解説
②毒ガス戦関係資料Ⅱ
A 4 判・400 頁　定価 19, 800 円／'97年 2 月刊

荻野富士夫 編・解説
③思想彙報Ⅱ
B 5 判・838 頁　定価 16, 500 円／'97年 4 月刊

金子 俊 編・解説
④戦時下国民栄養の現況調査報告書（昭和18年）
B 5 判・428 頁　定価 16, 500 円／'98年 6 月刊

野田勝久 編・解説
⑤第一次上海事変における第九師団軍医部「陣中日誌」
B 5 判・448 頁　定価 19, 800 円／'98年 6 月刊

北 博昭 編・解説
⑥盧溝橋事件期支那駐屯憲兵隊 重松関係文書
B 5 判・220 頁　定価 9, 900 円／'98年 6 月刊

海野福寿 編・解説
⑦韓国併合始末 関係資料
B 5 判・286 頁　定価 10, 450 円／'98年11月刊

北 博昭 編・解説
⑧軍隊警察の対立と憲兵司令部 重松関係文書Ⅱ
B 5 判・230 頁　定価 9, 900 円／'98年11月刊

野田勝久 編・解説
⑨南方地域現地自活教本
B 5 判・204 頁　定価 9, 350 円／'99年 7 月刊

北 博昭 編・解説
⑩戦後の皇軍 重松憲兵少佐綴
B 5 判・254 頁　定価 9, 900 円／'99年 7 月刊

倉橋正直 編・解説
⑪二反長音蔵・アヘン関係資料
B 5 判・164 頁　定価 9, 350 円／'99年 7 月刊

金子 俊 編・解説
⑫東亜諸民族の死亡に関する衛生統計的調査
B 5 判・360 頁　定価 13, 200 円／'99年12月刊

永島勝介・安冨 歩 編・解題
⑬関東軍参謀部作成 総動員関係調査資料
B 5 判・200 頁　定価 9, 350 円／'00年 1 月刊

北 博昭 編・解説
⑭軍律法廷審判例集
B 5 判・134 頁　定価 9, 350 円／'01年 5 月刊

野田勝久 編・解説
⑮南方方面海軍資料
B 5 判・244 頁　定価 10, 450 円／'01年 5 月刊

早川紀代 編・解説
⑯陸軍に於ける花柳病
B 5 判・232 頁　定価 10, 450 円／'02年 5 月刊

内藤裕史 編・解説
⑰毒ガス戦教育関係資料Ⅱ
B 5 判・208 頁　定価 9, 350 円／'02年12月刊

北 博昭 編・解説
⑱十五年戦争末期国内憲兵分遣隊報告
B 5 判・222 頁　定価 9, 900 円／'02年12月刊

髙綱博文 編・解説
⑲日本占領下上海における日中要人インタビューの記録
A 4 判・162 頁　定価 10, 450 円／'02年12月刊

松野誠也 編・解説
⑳満洲国軍ノ現況
B 5 判・16 頁＋図表多数　定価 19, 800 円／'03年10月刊

倉橋正直 編・解説
㉑ベンゾイリン不正輸入事件関係資料
A 4 判・176 頁　定価 9, 350 円／'03年10月刊

茶園義男 編・解説
㉒終戦後の法令 制定・改正・廃止 経過一覧
A 4 判・230 頁　定価 10, 780 円／'04年 2 月刊

常石敬一 解説
㉓陸軍軍医学校防疫研究報告 全 8 冊・別冊 1
B 4 判・総 3, 876 頁　定価 177, 100 円／'04年 5 月刊

福島幸宏 編・解説
㉔山東出兵時における「第三師団特種研究記事」
B 5 判・656 頁 折込図表16点 定価 30, 800 円／'05年 5 月刊

山本武利 解説
㉕宣撫月報 全 8 冊・別冊 1
B 4 判・総 2, 436 頁　定価 159, 500 円／'06年 1 月刊

北 博昭 編・解説
㉖五・一五事件期憲兵司令部関係文書
B 5 判・356 頁　定価 13, 200 円／'06年 8 月刊

松村高夫・松野誠也 編・解説
㉗関東軍化学部・毒ガス戦教育演習関係資料
A 4 判・366 頁　定価 22, 000 円／'06年12月刊

清水 寛 編
㉘資料集成 戦争と障害者 第Ⅰ期　全 7 冊
A 4 判・総 2, 532 頁　定価 154, 000 円／'07年 2 月刊

松野誠也 編・解説
㉙陸軍省『調査彙報』 全 5 冊・別冊 1
A 4 判・総 1, 678 頁　定価 83, 600 円／'07年 9 月刊

小林 茂 解説
㉚外邦測量沿革史 草稿 全 4 冊・別冊 1
A 4 判・総 1, 444 頁　定価 124, 300 円／'08年 6 月刊

藤野 豊 解説
㉛大同保育隊報告
B 5 判・470 頁　定価 16, 500 円／'08年 7 月刊

岡田靖雄 解説
㉜戦場心理の研究　全 4 冊
B 5 判・総 998 頁　定価 35, 200 円／'09年 2 月刊

芳井研一 解説
㉝満洲事変日誌記録　全 3 冊
B 5 判・総 654 頁　定価 39, 600 円／'09年 2 月刊

定価は消費税10％込

「合作社事件」研究会 編・解説
㉞「合作社事件」関係資料
全２冊
A４判・総690頁　定価44,000円／'09年11月刊

三好 章 解題
㉟情 報　全９冊・別冊１
B４判・総3,160頁　定価149,600円／'10年１月刊

芳井研一 解説
㊱南満州鉄道株式会社
帝国議会説明資料・別冊
A４判・254頁　定価13,200円／'10年３月刊

中野 良 解説
㊲陸軍経理学校五十年史　全３冊
B５判・総1,380頁　定価39,600円／'11年１月刊

小林 茂・渡辺理絵 解説
㊳研究蒐録 地図　全３冊
B５判・総1,580頁　定価59,400円／'11年２月刊

芳井研一 解説
㊴東京時事資料月報
A４判・350頁　定価13,200円／'11年３月刊

三好 章 解題
㊵特調班月報・通訊　全４冊
B４判・A４判・総1,280頁　定価70,400円／'11年７月刊

塚﨑昌之 解説
㊶大阪府特高警察関係資料
――昭和二〇年
A４判・270頁　定価22,000円／'11年12月刊

北 博昭 編・解説
㊷憲兵隊が記す日中開戦時の
国内状況
B５判・290頁　定価20,900円／'13年４月刊

北 博昭 編・解説
㊸内外地憲兵隊にみる検閲錬成
B５判・412頁　定価22,000円／'14年４月刊

古川隆久 編・解説
㊹戦時下政治行政活動史料
1941-1945　全３冊
B５判・総1,392頁・定価62,700円／'15年４～８月刊

北 博昭 編・解説
㊺海軍軍法会議判例類集
B５判・200頁・定価20,900円／'15年７月刊

北 博昭 編・解説
㊻陸軍軍法会議判例類集
全２冊
B５判・総942頁・定価41,800円／'15年11月～'16年１月刊

粟屋憲太郎・中村 陵 編・解説
㊼総力戦研究所関係資料集
全９冊・別冊１
A４判・総約3,626頁・定価168,300円／'16年２月～'18年２月刊

河原 功 解説
㊽台湾総督府第六十回帝国
議会説明資料　全５冊
B５判・総約2,070頁・定価104,500円／'18年９月～'19年６月刊

松野誠也 編・解説
㊾迫撃第五大隊毒ガス戦関係資料
A４判・218頁・定価22,000円／'19年８月刊

若林正丈 解説
㊿台湾議会設置関係書類
B５判・412頁・定価27,500円／'20年８月刊

沖田恭祐 解説
(51)海軍兵学校第三十七期クラス会誌
『海軍生活の思い出』
B５判・468頁・定価20,900円／'20年12月刊

折原 裕 解説
(52)東京大学薬学図書館薬史学文庫所蔵
「北支関係・満洲関係」綴　全３巻
B５判・876頁・定価59,400円／'21年７月～11月刊

常石敬一 解説
(53)陸軍軍医学校防疫研究報告
第９冊・補遺
B４判・212頁・定価22,000円／'22年８月刊

以後新資料発見次第、逐次刊行予定

定価は消費税10％込

十五年戦争重要文献シリーズ　全 20 集

上製・函入
揃定価 209, 000 円（揃本体 190, 000 円＋税10%）（分売可）

高崎隆治 編・解説
①軍医官の戦場報告意見集
B 5 判・200 頁　定価 3, 300 円／'90年 3 月刊

山中徳雄 編・解説
②『集報』――南京日本人収容所新聞
B 5 判・150 頁　定価 2, 750 円／'90年 3 月刊

③中華民国よりの掠奪文化財総目録
B 5 判・422 頁　定価 8, 250 円／'91年 1 月刊

北 博昭 編・解説
④興亜青年勤労報国隊 東朝義（あずまあさよし）記録
B 5 判・297 頁　定価 6, 050 円／'91年 1 月刊

北 博昭 編・解説
⑤火焔樹――東南アジア強制労働下の機関誌
B 5 判・286 頁　定価 6, 050 円／'91年 8 月刊

纐纈　厚 編・解説
⑥軍紀・風紀に関する資料
B 5 判・164 頁　定価 4, 950 円／'92年 3 月刊

北 博昭 編・解説
⑦支那駐屯憲兵隊関係盧溝橋事件期資料
B 5 判・300 頁　定価 8, 250 円／'92年 7 月刊

茶園義男 編・解説
⑧俘虜情報局・俘虜取扱の記録（付）海軍兵学校『国際法』
B 5 判・420 頁　定価 16, 500 円／'92年 7 月刊

茶園義男 編・解説
⑨ＧＨＱ（マ元帥）処刑命令書（上・下）
B 5 判・803頁　定価 30, 800 円／'92年12月刊

北 博昭 編・解説
⑩昭和十年前後期 支那駐屯軍憲兵部文書
B 5 判・266 頁　定価 9, 900 円／'92年11月刊

金　英達 編・解説
⑪朝鮮徴兵準備読本
B 5 判・120 頁　定価 4, 950 円／'93年 5 月刊

飛田雄一 編・解説
⑫特殊労務者の労務管理
B 5 判・300 頁　定価 8, 250 円／'93年 5 月刊

藤田富士男 編・解説
⑬大東亜舞台芸術研究所関係資料
B 5 判・140 頁　定価 4, 950 円／'93年 6 月刊

北 博昭 編・解説
⑭満州建設勤労奉仕隊関係資料
B 5 判・626 頁　定価 19, 800 円／'93年 9 月刊

小川 博 編・解説
⑮『中国人日本留学史稿』
B 5 判・230 頁　定価 6, 050 円／'93年 9 月刊

北 博昭 編・解説
⑯興亜学生勤労報国隊関係資料
B 5 判・598 頁　定価 18, 700 円／'94年 1 月刊

井村哲郎 編・解説
⑰興亜院刊行図書・雑誌目録
B 5 判・300 頁　定価 8, 250 円／'94年 6 月刊

吉浜 巌 編・解説
⑱久米島住民虐殺事件資料
B 5 判・210 頁　定価 7, 150 円／'94年 7 月刊

北 博昭 編・解説
⑲学生義勇軍関係資料
B 5 判・325 頁　定価 16, 500 円／'94年12月刊

北 博昭 編・解説
⑳二・二六事件 警察秘録
B 5 判・380 頁　定価 17, 600 円／'95年 2 月刊

定価は消費税10％込

十五年戦争重要文献シリーズ　補集①～③

上製・函入
揃定価 109,450 円（揃本体 99,500 円＋税10%）

大滝英征 解題

補集①原子爆弾災害調査報告　全５冊

Ｂ５判・総 1,794 頁　定価 67,650 円／'11年８月～11月刊

渋谷一夫・北林雅洋 解説

補集②唯研ニュース

Ａ４判・424 頁　定価 20,900 円／'12年２月刊

岸和田仁 解説

補集③輝（かがやきごう）　号〔ブラジル「勝ち組」広報誌〕

Ｂ５判・180 頁　定価 20,900 円／'12年７月刊

以後新資料発見次第、逐次刊行予定

定価は消費税10%込

戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史

■十五年戦争極秘資料集　補巻㊾
松野誠也 編・解説

迫撃第五大隊毒ガス戦関係資料

Ａ４判・上製・四面付 218 頁
定価 22,000 円（揃本体 20,000 円＋税10%）
'19年８月刊〔編集復刻版〕

日本軍の毒ガス戦研究の第一人者である編者所蔵の迫撃第五大隊作成資料のうち、毒ガス兵器使用の決定的証拠となる「戦闘詳報」を中心に復刻。中国北部に展開した北支那方面軍所属の迫撃第五大隊が、1938年から39年にかけて山西省内で糜爛性ガスを用いた毒ガス戦の実態と、同隊の組織・戦闘や作戦行動などを把握できる貴重な資料である。本書により、近代日本の軍事史研究、戦争責任研究のさらなる進展が期待される。
●**推薦**＝山田　朗

西山勝夫 編・解説

十五年戦争陸軍留守名簿資料集

①留守名簿　関東軍防疫給水部　全２冊

Ａ４判・上製・モノクロ刷・総約 800 頁
揃定価 39,600 円（揃本体 36,000 円+税10%）
'18年８月～11月配本完結〔編集復刻版〕

③留守名簿　北支那防疫給水部　全１冊

Ａ４判・上製・カラー刷・総 240 頁
揃定価 36,300 円（揃本体 33,000 円+税10%）
'19年７月刊〔編集復刻版〕

④留守名簿　南方軍防疫給水部　全１冊

Ａ４判・上製・カラー刷・総 418 頁
揃定価 59,400 円（揃本体 54,000 円+税10%）
'20年10月刊〔編集復刻版〕

⑤留守名簿　関東軍軍馬防疫廠　全１冊

Ａ４判・上製・カラー刷・総 408 頁
揃定価 59,400 円（揃本体 54,000 円+税10%）
'21年９月刊〔編集復刻版〕

②留守名簿　関東軍防疫給水部復七名簿

Ａ４判・上製・カラー刷・総約 460 頁
今夏刊行予定

中国において細菌戦、人体実験を試み、七三一部隊と通称された関東軍防疫給水部本部。各部隊、隊員の戦後の復員までの実態を伝える貴重資料を「十五年戦争・陸軍留守名簿資料集」として順次復刻する。2011年度以降、厚生労働省から国立公文書館に移管された膨大な留守名簿には、全隊員の実名・本籍・兵歴・留守担当者の住所氏名等が記録されている。各巻とも西山勝夫による解説と共に、記載されている全氏名を翻刻した氏名目次、将校や技師といった特筆すべき階級・職種にある隊員の兵歴表を収録。

本書は、かつて森村誠一が『悪魔の飽食』で描いた日本軍細菌戦部隊の実態解明に資するだけでなく、医学・医療分野における戦争加担の検証という喫緊の課題に新たな地平を切り拓くものである。

①は関東軍防疫給水部本部、即ち満洲第七三一部隊を含む関東軍防疫給水部（通称満洲第六五九部隊）全体の留守名簿であり、その中には約 3,000 名の氏名・兵歴等が記載されている。

③は北京に本部を置き、華北地域を中心に活動した北支那防疫給水部の留守名簿を復刻。当初はモノクロ画像のみの公開であったが、本書の制作の過程でカラー画像が公開されたため、復刻版も本書からカラー刷とした。

④は東南アジア地域で活動した南方軍防疫給水部の留守名簿を復刻。南方軍防疫給水部の留守名簿は調製地や時期の違いにより、３種類の簿冊が存在する。

⑤は満洲第一〇〇部隊と称された関東軍軍馬防疫廠の留守名簿を復刻。満洲第一〇〇部隊は七三一部隊と同様日本軍の細菌戦において中心的な役割を果たしたと見られており、日本軍細菌戦部隊の実態解明のためには、決して無視することはできない。また、国立公文書館所蔵の原本には留守名簿と共に「復七名簿」が綴じられており、本復刻版でも共に収録した。「復七名簿」は1947年の復員省令第７号を根拠に編纂されたソ連地区からの未帰還者の状況調査のために調製された名簿である。

また、今後②として『留守名簿　関東軍防疫給水部復七名簿』を刊行予定。関東軍防疫給水部の復七名簿として編まれた本簿冊と留守名簿を相互に検討することで、より正確な七三一部隊の実像に近づくことが可能になる。

■十五年戦争極秘資料集　補巻㊼

総力戦研究所関係資料集

全９冊・別冊１

別冊＝解説（粟屋憲太郎・中村　陵）・総目次
Ａ４判・上製・総 3,626 頁
揃定価 168,300 円（揃本体 153,000 円＋税10%）
'16年２月～'18年２月配本完結〔編集復刻版〕

極東国際軍事裁判（東京裁判）において検察側がその役割に注目し、一般的戦争準備段階の立証審議で取り上げたことにより関心が寄せられてきた「総力戦研究所」（1940年10月～1945年３月）。しかしこれまで資料的制約により、その研究対象は一部にならざるを得なかった。

今回、国際検察局文書（ＩＰＳ文書）を中心とした膨大な諸資料から、総力戦研究所作成資料の丹念な抽出・編集を行い、これまでほとんど明らかにされてこなかった開戦以降の諸資料を多数収録した。総力戦研究所の全貌を迫る第一級資料である。
●**推薦**＝纐纈　厚・安達宏昭

■十五年戦争極秘資料集　補巻㊶

海軍兵学校第三十七期クラス会誌『海軍生活の思い出』全1巻

沖田恭祐 解説
B5判・上製・総468頁
定価20,900円（本体19,000円+税10%）
'20年12月刊行〔復刻版〕

海軍兵学校で卒業に際し、卒業期毎に結成された親睦団体「クラス会」が中心となり発行した同窓会誌が「クラス会誌」である。多くは戦後に刊行されたため、海軍兵学校やその後の海軍生活の回想が多く、今後の海軍史研究、海軍社会の実態把握のためには欠かせない史資料であろう。その中でも本書で復刻する海軍兵学校第37期クラス会誌は、確認でき得る限り最古のものである。特に、海軍兵学校第37期は井上成美、大川内伝七、小沢治三郎、草鹿任一といった戦史でもよく目にする人物が在籍し、彼らが「級外秘」であるクラス会誌ゆえに記した、彼らしか知り得ない戦時中の内情が赤裸々に語られており、戦史研究の上でも非常に貴重な資料である。　●**推薦**＝古川隆久

■十五年戦争重要文献シリーズ　補集①

原子爆弾災害調査報告 全5冊

大滝英征 解題
B5判・上製・函入・総1,794頁
揃定価67,650円（揃本体61,500円+税10%）
'11年8月～11月刊〔復刻版〕

本書は、日本学術会議 原子爆弾災害調査報告書刊行委員会が、1951年から53年にかけて刊行した、広島と長崎に投下された原子爆弾災害に関する報告書の復刻版である。原本は、『原子爆弾災害調査報告書 総括編』（1951年）、『原子爆弾災害調査報告集』第1分冊および第2分冊（1953年）の3冊で構成されている。今日、福島第一原発で不幸にも繰り返された放射能禍の悲劇にどのように向き合うべきかを考えるための原点として、示唆に富む記録であると確信する。
●**推薦**＝西田　勝・矢吹　晋

■十五年戦争極秘資料集　補巻㉓

陸軍軍医学校防疫研究室 編〔昭和14年～昭和19年〕

陸軍軍医学校防疫研究報告 全8冊・別冊1

別冊＝解説（常石敬一）・総目次
B4判・上製・函入・総3,876頁
揃定価177,100円（揃本体161,000円+税10%）
'04年5月～'05年12月刊〔編集復刻版〕

本書は、戦前の「七三一部隊」「一〇〇部隊」等を統轄する陸軍軍医学校防疫研究室による研究、『陸軍軍医学校防疫研究報告』（石井四郎主幹）第1号～第900号のほぼ全容を復刻収録した。原本は米国議会図書館所蔵の同『報告』全8リール及び山中恒氏所蔵本の、一部欠号を除く約800号分である。米国内での書込みも貴重な記録としてそのまま留めた。旧日本陸軍の人体実験の真相に迫り、日本の医学界と七三一部隊の関係、医学界の戦争加担をさらに解明するための基本的かつ重要な資料である。
●**推薦**＝常石敬一・内藤裕史・西山勝夫・松村高夫・吉見義明

■十五年戦争極秘資料集　補巻㊸

陸軍軍医学校防疫研究報告 第9冊・補遺　全1巻・別冊1

別冊＝解説（常石敬一）・総目次〈改訂版〉
B4判・上製・総212頁
揃定価22,000円（揃本体20,000円+税10%）
'22年8月刊〔編集復刻版〕

戦前の「七三一部隊」「一〇〇部隊」等を統轄していた陸軍軍医学校防疫研究室（石井四郎主幹）による研究、『陸軍軍医学校防疫研究報告』。弊社はそのうち「第2部」と銘打たれた報告書の第1号から第900号のほぼ全容を十五年戦争極秘資料集 補巻㉓『陸軍軍医学校防疫研究報告』全8冊として復刻刊行した。
それから15年余りが経ち、散逸していた号や、当時未見であった「陸軍軍医学校防疫研究報告 第1部」と銘打たれた報告書が複数発見されたため、待望の補遺巻となる本書を刊行する。
関係機関の『南方軍防疫給水部業報』、『関東軍防疫給水部研究報告』と併せて全29編を収録。

艦内新聞集成 全11巻

寺田近雄 解説
B5判・上製・総4,850頁
揃定価302,500円（揃本体275,000円+税10%）
'13年12月～'16年12月配本完結〔復刻版〕

戦前期、旧日本海軍の遠洋航海などの際に乗組員によって発行された『艦内新聞』は公式記録からは見えない、軍人の時局感覚や海軍の体質を知ることのできる貴重資料である。紙面は、時事ニュースや寄港地情報、艦内行事の案内などから、漫画や川柳、投稿記事などバラエティに富んでいる。艦内の乗組員のために少部数発行されたものであるため、残存するものは非常に少ない。当集成には昭和7年～16年の間に出された「浅間」「勝力」「五十鈴」「日向」「陸奥」「出雲」「榛名」「磐手」「愛宕」「蒼龍」の艦内新聞を収録。
●**推薦**＝辻田文雄・戸高一成

茶園義男 編・解説

大東亜戦争俘虜関係外交文書集成 全3巻

B5判・上製・函入・総1,146頁
揃定価66,000円（揃本体60,000円+税10%）
各巻分売可。各巻定価22,000円（各巻本体20,000円+税10%）
'93年9月～'96年1月配本完結〔復刻版〕

敗戦時、日本国内外に収容されていた連合国俘虜は、12万3千余の多きにのぼる。戦後、これらの俘虜の多くは故国に送還されたが、彼らが受けた処遇についての「宣誓供述書」が多数残され、戦後の戦犯裁判に重要な意味を持つことになる。例えば、BC級戦犯裁判の横浜法廷では、その8割が俘虜不法取扱いによる被告である。これは、日本人の国際法に対する無知が引き起こした罪過への告発でもあった。弊社では、外務省外交史料館に所蔵されている俘虜関係外交文書を整理し、全3巻として復刻刊行する。

信　友　全３巻・別冊１

内海愛子・山川　暁・豊川　慎 編・解題
別冊＝解題・総目次・索引・年表
Ｂ５判・上製・総約 1,300 頁
揃定価 71,500 円（揃本体 65,000 円+税10%）
'22年２月刊〔復刻版〕

スガモプリズンに収容されていたキリスト教徒たちのグループ、「信友会」の機関紙を復刻。塀の中から戦後日本はどう見えていたのか私たちはその声に応えられてきたのか。
本誌は収容者間の情報共有誌であったのみならず、戦犯・キリスト者としての立場から、過去の戦争をかえりみつつ、講和問題、再軍備問題、戦争責任問題など、戦後日本に対して鋭く切り込んだ論説が数多く掲載されている。
弊社はすでに、『すがも新聞』の復刻を行ったが、『信友』は永らくその存在も知られていなかった。キリスト教戦犯たちの苦悩と投げかけを広く世に問うため、ここに復刻版として刊行する。
●**推薦**＝小塩海平・岡田泰平・若井和生

「すがも新聞」編集部 編〔昭和23年～昭和27年刊〕

すがも新聞 DVD版　全１枚・別冊１

別冊＝解題（内海愛子）・総目次・年表
画像数 808 点
定価 22,000 円（揃本体 20,000 円＋税10%）
'13年９月刊

「すがも新聞」編集部は スガモプリズンに収容されていたＢＣ級戦犯たちの獄中紙である。同紙は東京裁判が結審して間もない1948年６月５日に創刊され、サンフランシスコ条約発効を目前にした1952年３月29日付193号まで、ワラ半紙にガリ版で印刷された。米軍管理下の獄中で、ＢＣ級戦犯らの思想と心情、当時の様子を伝える数少ない貴重資料である。
弊社ではこの「すがも新聞」を1985年に復刻したが、その後品切れとなっていた。再版を望む多くの声に応え、新しくＤＶＤ版として復刊する次第である。

飯塚浩二 編集／飯田　進 解説

巣鴨プリズン三部作

Ａ５判・上製・函入・824 頁
定価 16,500 円（揃本体 15,000 円＋税10%）
'13年８月刊〔編集復刻版〕

本書は、戦後にＢＣ級戦犯としてスガモプリズンに収監された囚人たちが獄中から寄せた手記や日記を編集して刊行された『われ死ぬべしや』、『壁あつき部屋』、『あれから七年』を１冊にまとめて復刻したものである。戦後、いわゆる逆コースの流れは朝鮮戦争をきっかけにさらに加速することとなるが、そのような状況下で平和を希求したものたちの生の声が、本書ではまざまざと描かれている。戦争体験者や関係者、歴史研究者のみならず、戦争を知らない世代にもおすすめする１冊である。

戦犯裁判の実相　全２巻

（上巻）巣鴨法務委員会 編
（下巻）茶園義男・重松一義 共著
Ｂ５判・上製・総 980 頁
揃定価 33,000 円（揃本体 30,000 円＋税10%）
（上巻）22,000 円（本体 20,000 円＋税10%）
（下巻）11,000 円（本体 10,000 円＋税10%）／'96年１月刊

ＢＣ級戦犯裁判の全法廷における被告と裁判内容を伝える唯一の資料。蘭領印度地区、米国関係、仏領印度支那、英領地区（以上、上巻）、中国、豪軍、比軍マニラ（以上、下巻）の各地におけるケース別起訴理由、被告の所属・階級・判決・弁護人名を記載。
上巻は、1952年スガモプリズン内のＢＣ級戦犯の手によってガリ版にて刊行、槙書房によって活字化された。下巻は、上巻に未収録の地域を補い、解説と上巻の正誤表及び解題を付す。
●**推薦**＝重松一義・茶園義男・福岡千代吉

清水勝嘉 著

生物兵器防御研究

新たな生物兵器の脅威に対する防御研究の最新知見を網羅した本格的研究書。大量破壊兵器である核、生物及び化学兵器についての防御研究を体系立てて記述し、研究の新たな方向性を提示している。
●Ａ４判・上製・344 頁・定価 19,800 円／'05年４月刊

川村一之 著

七三一部隊1931-1940
——「細菌戦」への道程

小説「黒死病」（『黒死病——加藤秀造小説集』所収）で描かれたペスト蔓延による都市封鎖は実際に存在した。小説にも細叙された「満洲」における七三一部隊の「細菌戦」への道程の実態について、一次資料や現地中国の資料を典拠に、丹念に迫る。
●Ａ５判・上製・248 頁・定価 3,950 円／'22年12月刊

西田　勝 編

黒死病——加藤秀造小説集

ペスト菌の蔓延で都市封鎖！「北満」で七三一部隊が行なった細菌戦予行演習の実態を描き出す戦後文学の忘れられた遺産！
作家の「満洲」と「シベリア抑留」実体験から生み出された秀作３編を収録。
●四六判・並製・308 頁・定価 3,135 円／'21年４月刊

小林英夫・兒島俊郎 編・解説／林　道生 訳

七三一細菌戦部隊・中国新資料

「悪魔の所業」といわれる人体実験を含む関東軍731及び100部隊に関する遼寧省档案館所蔵の資料。写真及び原文を全面復刻し、翻訳文・解説を付す。原本資料名「侵華日本軍細菌戦部隊保存資料」。
●Ｂ５判・上製・函入・360 頁・定価 13,200 円／'95年10月刊

定価は消費税10％込

中国　吉林人民出版社 発行【取扱図書】

「七三一部隊」罪行鉄証
——特移扱・防疫文書編集

本書は、中国吉林省档案館（公文書館）所蔵の旧日本軍関東憲兵隊作成の「特移扱」文書及び731部隊が新京（現在の長春）農安で実施した「防疫」に関する文書140点をカラー印刷し収録したもの。

● A 4 判・上製・528 頁・定価 27,500 円／'03年 9 月刊

中国　黒龍江人民出版社 発行【取扱図書】

「七三一部隊」罪行鉄証
——関東憲兵隊「特移扱」文書

本書は、中国黒龍江省档案館（公文書館）所蔵の旧日本軍関東憲兵隊が作成した捕虜取扱いに関する極秘書類51件を収録する。資料は全てカラー印刷にて収録。他に詳細な解説及び関係年表を付す。

● A 4 判・上製・394 頁・定価 16,500 円／'01年12月刊

高杉晋吾 解題／原題＝細菌戦用兵器ノ準備及ビ使用ノ廉デ起訴サレタ元日本軍軍人ノ事件ニ関スル公判書類

公判記録　七三一細菌戦部隊

侵略された民衆の側が、侵略した日本人の側を裁いた記録である本書は、「悪魔の所業」といわれる関東軍731部隊の生体実験の状況をなまなましく伝えている。

● 推薦＝家永三郎
● 四六判・並製・738 頁・定価 8,250 円／'93年 6 月再刊〔復刻版〕

茶園義男 編・著

シンガポール英軍法廷 華僑虐殺事件起訴詳報

「南京大虐殺」同様に、日本軍の犯罪行為として東京裁判において裁かれた「シンガポール華僑虐殺事件」（昭和17年２月18日～３月３日）の起訴状・証拠書類・宣誓陳述書などの公判資料を収録。

● A 4 判・上製・309 頁・定価 17,600 円／'95年 9 月刊

定価は消費税10％込

戦後史

■戦後学生運動・学園闘争叢書 1
社会主義学生同盟マルクス・レーニン主義派機関紙（誌）

赤　光（しゃっこう） 全3巻・別冊1

別冊＝総 目次・索引・附『赤光』第1号
付録『マルクスレーニン主義』1・2号、『理論戦線』3号、『希望』創刊号
1・2巻＝B5判上製・各巻約450頁、3巻＝A3上製・242頁
揃定価58,300円（揃本体53,000円＋税10%）'20年10月刊〔復刻版〕

1960年代、少数派ながら反権力闘争に大きな影響力を持った日本マルクス・レーニン主義者同盟（ML派）。同派は日大、東大全共闘の運動を中心的に指導したのみならず、中国の文化大革命をいち早く評価するなど豊かな思想的営為により、今日なお示唆に富む一定の成果を挙げた。本書はもはや幻となっていた同派機関紙『赤光』をほぼ全号復刻し、60年代運動史研究の基礎資料として呈するものである。50年ぶりの復刻を可能にしたのは、小林健作氏の所蔵原本に依るところが大きい。創立時幹部の唯一の生き残りである鈴木迪夫氏の序文を付す。
●推薦＝菅　孝行

■戦後学生運動・学園闘争叢書 2

情　況〈第1次〉 全36巻・別冊1

別冊＝解説（高橋順一）・回想（古賀　暹・菅原秀宣）・総目次・索引
A5判・上製・総約17,000頁
揃定価712,800円（揃本体648,000円＋税10%）
'21年12月～'23年11月配本完結予定〔復刻版〕

1968年8月、古賀暹によって新左翼系月刊誌『情況』が創刊された。知識人と運動家との懇請による多彩な執筆陣を抱えたその誌面には、全共闘運動や国内社会運動が特集され、さらには革命中国やソヴィエトなど世界史的視野も含めて〈1960～70年代〉当時の社会運動の多面的広がりを反映させている。また、それら同時代の運動を土台に、〝近代〟自体を問い直すメディアとして、運動・闘争の中心的役割を果たした。
敗戦後からの社会運動をめぐっては近年盛んに研究が進められている。最新研究の重要資料のひとつとして本誌を復刻刊行する。
●推薦＝菅　孝行・最首　悟・池田浩士・仲里　効・パトリシア スタインホフ・松井隆志・白井　聡・黒川伊織

『「三鷹事件」裁判関係資料集』刊行会 編

「三鷹事件」裁判関係資料集 全3枚・別冊1　DVD―ROM版

別冊＝解説（落合雄三・松村高夫）・資料目録
揃定価132,000円（揃本体120,000円＋税10%）
'10年1月刊

1949年7月、国鉄中央線三鷹駅構内で7両編成の無人電車が暴走し、死者6名、重軽傷者20名を出す大惨事となった。警察当局は国鉄労働組合の共産党員数名と非党員竹内景助を逮捕・起訴した。裁判では、党員被告全員は無罪。竹内は1審で無期懲役、2審で死刑、無罪を主張した最高裁でも上告を棄却される。そして1967年再審の機運が高まる中、竹内は獄死する。本資料集は、今なお謀略性、不可解さを残す事件をあらためて検証するため、裁判記録と救援活動を主とした資料を収録したものである。
●推薦＝阿部三郎・伊部正之・大石　進

戦後社会運動未公刊資料集刊行委員会 編

戦後日本共産党関係資料 全40リール・別冊1・付録1

〔35ミリポジティブ・ロールフィルム〕
別冊＝解題・解説（井上　學・井上敏夫・来栖宗孝・由井　格）
付録＝収録資料目録
揃定価660,000円（揃本体600,000円＋税10%）
'07年12月～'08年12月配本完結〔マイクロフィルム版〕

日本共産党の戦後再建初期から、1950年1月6日付のコミンフォルム機関紙に掲載された論評「日本の情勢について」をめぐる党の分裂、1955年7月の6全協をへて1958年の第7回党大会に至るまでの党の内実を示す8000余点の原資料を収録。中央部重要会議（「党拡大強化促進委員会」等）の資料、また、全国の地方組織の機関紙・誌・ビラ等を多数含む「水野資料」は、これまで目にふれることのなかった、全党組織の動きを示す貴重な資料であり、共産党史研究、政治史研究等に不可欠の資料である。
●推薦＝伊藤　晃・加藤哲郎

井上敏夫・井上　學・渡部富哉 編・解説・解題

朝鮮戦争下　公安関係資料 ――光永源槌（みつながげんづち）資料 全5巻・別冊1

B5判・上製・総2,006頁
揃定価110,000円（揃本体100,000円＋税10%）
'11年4月刊〔編集復刻版〕

本資料集は、弊社刊行のマイクロフィルム版『戦後日本共産党関係資料』、復刻版『特審月報』とともに、朝鮮戦争期に展開された日本共産党とそれを監視し弾圧する公安機関双方の活動を克明に解き明かす。原資料は、山口県地方公安調査局調査官を務めた光永源槌氏の遺した職務資料。1952年～55年間の、朝鮮戦争、日本共産党「50年問題」、在日朝鮮人運動に関する、山口県を中心とした詳細かつ貴重な史資料136点を復刻。
●推薦＝加藤哲郎

法務府特別審査局 刊〔1950年～1952年刊〕

特審月報 全7巻・別冊1

別冊＝解説（荻野富士夫）・総目次
Ａ５判・上製・総3,244頁
揃定価154,000円（揃本体140,000円＋税10%）
'08年11月～'09年４月配本完結〔復刻版〕

本誌は、現在の公安調査庁の前身・法務府特別審査局（戦前の特高警察と思想検察の流れを汲む）の内部資料である。敗戦後日本の民主化・非軍事化に逆行する「逆コース」のなかで、特別審査局は主には日本共産党の、そして在日朝鮮人団体、学生運動、平和団体、労働組合のほか軍国主義団体などの対象組織内部にスパイを送り込み、諜報活動をおこなった。戦後治安体制の一翼を担った特審局の実態を明らかにする貴重資料である。
●推薦＝小田中聰樹・加藤哲郎・小林知子

朴　慶植 編

在日朝鮮人関係資料集成〈戦後編〉全10巻

小林知子・宮本正明・長澤　秀・金　栄・高柳俊男 解題
Ａ４判・上製・函入・総4,100頁
揃定価308,000円（揃本体280,000円＋税10%）
各巻分売可。各巻定価30,800円（本体28,000円＋税10%）
'00年６月～'01年２月配本完結〔編集復刻版〕

朴慶植氏は『在日朝鮮人関係資料集成』（三一書房）を刊行後、「戦後編」の資料を収集し、構成・目次まで作成されていた。氏の突然の死（98年２月）によって中断したこの作業は、在日朝鮮人運動史研究会が引きつぎ、遺族の了解を得て全10巻で刊行することとなった。①②在日本朝鮮人連盟関係、③在日本大韓民国居留民団関係、④在日朝鮮統一民主戦線関係、⑤在日朝鮮人職業名鑑・文化年鑑、⑥教科書・教育関係雑誌、⑦都立朝鮮人学校関係、⑧～⑩朝鮮人刊行新聞・雑誌。解放直後のこれまで見ることができなかった貴重資料多数を含む。
●推薦＝　・姜　徳相・宮田節子・山田昭次

藤井忠俊研究会 編纂

藤井忠俊著作集 全2巻

第１巻『季刊現代史』の挑戦
第２巻 戦争と民衆史

Ａ５判・上製・総1,238頁
各巻定価7,480円（本体6,800円+税10%）
'21年１月刊

『国防婦人会』『兵たちの戦争』『在郷軍人会』を世に問い、現代史の会を主宰、松本清張らとともにアカデミズムによらず民衆史の立場から、新しい現代史研究を構築した藤井忠俊。
まぼろしの季刊誌『季刊現代史』所収の論考のすべて、そして同誌最終号を復刻。
さらに、「近代日本の戦争動員とそのイデオロギー」「村と戦場 近現代の兵士の実像」、鹿野政直との対談、名著『国防婦人会』についての「自著を語る」、松本清張関連の論考から、健康・公衆衛生についての藤井の初期の論考をも網羅的に収録。著作目録、特集記事一覧、年譜付。
●推薦＝駒込　武

三木　健 編

民衆史の狼火を ――追悼 色川大吉

『明治精神史』を著し、戦後日本に「民衆史」「自分史」のジャンルを開拓し、2021年９月に96歳で生涯を終えた色川大吉。民衆史の巨星を悼む声を75編集成。また、巻末には上野千鶴子による特別寄稿を収録。雄大な色川山脈の入り口として、ここに発刊する。
●四六判・並製・194頁・定価1,980円／'22年５月刊

国際調査団報告書／藤目ゆき 編・解説〔1952・53年刊〕

国連軍の犯罪 ――民衆・女性から見た朝鮮戦争

虐殺・細菌兵器使用・性暴力等々、朝鮮戦争時の国連軍による戦争犯罪の実態を国際民主法律家協会・国際科学委員会・国際婦人調査団のそれぞれの報告により明らかにする。
●推薦＝林　哲
●四六判・並製・356頁・定価3,300円／'00年９月刊〔復刻版〕

飯田　進 著

昭和の闇を生きて ――BC級戦犯最後の生き証人

戦犯裁判、スガモ・プリズンでの日々、そして薬害。数々の苦難や理不尽と向き合わざるをえなかった著者が、それでもなぜ未来に希望を見いだそうとするのか。戦争を知らない世代に向けて送る、戦後思想の潮流・思索の記録。　●推薦＝内海愛子
●四六判・上製・300頁・定価1,980円／'13年４月刊

飯田　進 著

顔のない国 ――戦後の虚妄と国の品位喪失を問う

現代日本の政治には倫理と品位が欠如しているという。その根源は……。ＢＣ級戦犯の一人として収監されていたスガモ・プリズンで、朝鮮戦争勃発のニュースを耳にしたところから本書ははじまる。
●四六判・上製・184頁・定価1,760円／'01年５月刊

ベトナム通信社 編〔1967年～1974年刊〕

ベトナム通信

戦後市民運動の原点であるベ平連運動の京都での機関誌『ベトナム通信』全65号に座談会「京都ベ平連をめぐって」（飯沼二郎・小田 実・北沢恒彦・鈴木正穂・鶴見俊輔）、総目次・索引を付して復刻。
●Ｂ５判・上製・函入・740頁・定価13,200円／'90年７月刊〔復刻版〕

夕刊 新大阪

４ページをご参照ください。

戦争孤児関係資料集成 第Ｉ期 愛児の家史料

19ページをご参照ください。

定価は消費税10%込

戦争孤児関係資料集成 第Ⅱ期 関西編 東光学園資料ほか	19ページをご参照ください。
土地が哭いている――農地改革と農地法八十条	31ページをご参照ください。
新都市	32ページをご参照ください。
今日の琉球	41ページをご参照ください。
守礼の光　ＤＶＤ版	42ページをご参照ください。
うるま新報	42ページをご参照ください。
琉球新報	42ページをご参照ください。
沖縄新民報・自由沖縄	42ページをご参照ください。
占領期・琉球諸島新聞集成	42ページをご参照ください。
沖縄と色川大吉	43ページをご参照ください。
資料集 終戦直後の台湾	53ページをご参照ください。
台湾引揚者関係資料集	53ページをご参照ください。
旧制台北高等学校同窓会誌『蕉葉会報』	53ページをご参照ください。
海軍兵学校第三十七期クラス会誌『海軍生活の思い出』	65ページをご参照ください。
【戦後文化運動雑誌叢書】	93ページをご参照ください。

教育

幼児教育資料アーカイブ③
太田素子ほか 編集・解説

幼小接続資料集成 全7巻・別冊1

Ａ4判・Ａ5判・Ｂ5判（一部2面付）・上製・総約4,800頁
別冊＝解説（太田素子・小玉亮子・福元真由美・浅井幸子・大西公恵）
揃定価162,800円（揃本体148,000円+税10%）
'21年4月～'22年2月配本完結〔編集復刻版〕

戦後から2010年代にいたるまで、さまざまに試みられた幼児教育と小学校教育との連携と実践の記録を、「幼小接続」という視点から本格的に集成するはじめての試みである。
本集成は、全国各地で試みられる幼小接続への取り組みから、お茶の水女子大学、神戸大学などの付属学校園、そして成城学園、玉川学園、和光学園など私立校における実践記録を「幼小接続」という課題に焦点を絞って集成。さらにGHQ/SCAPによって進められたIFEL（教育指導者講習）による幻の雑誌『幼年教育』全号、坂本彦太郎、羽仁説子らの構想を伝える論考を編集、復刻した。
「幼小接続」の連携・強化を進め、そのスムーズな移行をすすめてゆくために不可欠な基礎資料である。 ●**推薦**＝汐見稔幸・無藤　隆

幼児教育資料アーカイブ④

子供の教養 全10巻・別冊1

別冊＝解説（福元真由美）・総目次・索引
Ａ4判（4面付）・上製・総約3,800頁
揃定価277,750円（揃本体252,500円+税10%）
'22年10月～'23年4月配本完結予定〔復刻版〕

新中間層の教育要求に応え、母親教育を通じて家庭の再編を試みた郊外型幼稚園の戦前・戦後を伝える『子供の教養』、ついに復刻！　大正新教育の影響が色濃い1929年から、戦中の中断を経て、1953年に至るまで226号もの長期にわたり発刊されたものの、現在では大学・専門図書館にもほとんど所蔵されていない本誌の全容を、ほぼ完全なかたちで復刻する。
1930年代から戦後につながる、高崎能樹、武南高志、佐藤瑞彦、赤井米吉、上澤謙二らの、育児を通じた「個性本位」の啓蒙誌『子供の教養』は、都市部に於ける幼児教育の実情と近代家族の在り方、児童文化研究に新たな光をあてるだろう。
●**推薦**＝太田素子・広井多鶴子

幼児教育資料アーカイブ②
湯川嘉津美 編・解説

戦前期愛育会関係資料集成 全11巻

協力　母子愛育会
Ｂ5判（一部2面付）・上製・総約4,500頁
揃定価242,000円（揃本体220,000円＋税10%）
'20年5月～12月配本完結〔編集復刻版〕

1934年、皇太子誕生記念の下賜金を基に設立された恩賜財団愛育会は、三田谷啓、倉橋惣三、青木誠四郎ら、児童養護、幼児教育、医療衛生、心理学、社会事業など多方面の第一人者が横断的に協力し、全国的な母子保護運動を展開した。本集成は同会の協力を得て、その創立期から終戦までの活動を一望する機関紙誌、冊子等の基礎資料を提供する。稀覯資料である『愛育新聞』、そして雑誌『愛育』を中心に、こども愛育展覧会、愛育村事業、乳幼児死亡率や精神発達検査の関連冊子、事業概要など多岐にわたる。戦時下における「母性」、こども観を伝える本集成は、幼児教育、児童保護の専門家はもとより、教育社会学、こども学研究にも、新しい知見をもたらす重要資料である。　●**推薦**＝網野武博・宍戸健夫

幼児教育資料アーカイブ①

関西連合保育会雑誌 全2巻

湯川嘉津美 解説
Ｂ5判・上製・総1,052頁
揃定価39,600円（揃本体36,000円＋税10%）
'19年8月刊〔復刻版〕

『関西連合保育会雑誌』は、1897年に京都・大阪・神戸3市の保育会によって結成され、戦前期の保育界を牽引した京阪神連合保育会の機関誌『京阪神連合保育会雑誌』の後継誌である。長く入手困難な状況が続いたが、大阪市立愛珠幼稚園と大阪市教育センターの協力により復刻が実現。1928年の第51号から38年の第55号までに加え、戦前・戦後の関連資料を可能な限り収録した本誌は、戦前、戦後の保育界の実情、とりわけ現場の保育者による研究成果や問題提起、新しい試みをみることのできる、幼児教育史研究の空白を埋める必見の資料である。

橋本美保・遠座知恵 編・解説

大正新教育 学級・学校経営重要文献選 全Ⅱ期・全10巻

Ａ5判・上製・各巻約340頁・総4,026頁
揃定価198,000円（揃本体180,000円＋税10%）
'19年7月～'20年5月配本完結〔編集復刻版〕

いわゆる大正新教育の担い手は、現場の教員を中心とする「実際家」たちであった。「学校経営」「学級経営」を唱導し、各学校・学級を基盤とする草の根の改革を実践した彼らの取り組みは、今日議論される「カリキュラム・マネジメント」の源流として有益な知見をもたらす。本書は北澤種一、木下竹次、及川平治、清水甚吾、野村芳兵衛、池田小菊はじめ多くの教育者、「実際家」の論考から48点を精選・復刻。第Ⅰ期は高等師範学校附属小学校における実践を、第Ⅱ期は師範学校附属小学校・公立校・私立校における実践を収録。アクティブ・ラーニングの日本における最初期の試みの数々。
●**推薦**＝天笠　茂・佐藤　学

西山　伸・山本義隆 解説

東京帝国大学農学部 学徒動員関係史料 全4巻

B5判・上製・各巻約330頁・総1,144頁
揃定価79,200円（揃本体72,000円＋税10%）
'19年10月～'20年2月配本完結〔復刻版〕

本史料は、戦況悪化による「根こそぎ動員」期（1944-45）に、東京帝国大学農学部によって文部省、厚生省、陸海軍、満洲、獣医学校等と交わされた分書類をまとめた「昭和十九年度学徒動員関係書類」を復刻するものである。「大学専門学校理科系学徒ノ動員ニ関スル件」「農業関係専門学校ニ於ケル動員措置ニ関スル件」「科学研究要員トシテ勤労動員除外ノ件」など、146に分類された文書類は、科学研究要員としての動員除外、食糧増産のための勤労動員など、東京帝大農学部が担わされた特殊な事情をはじめて明らかにし、戦争遂行と学術研究の在り方を再考する画期的な史料である。原史料は、学生運動当時、東大闘争全学共闘会議代表であった、科学史家の山本義隆氏が保存、東京大学文書館に寄贈したものである。　●**推薦**＝加藤陽子・米田俊彦

日本教育学会／精神文化学会 発行〔昭和6年～昭和19年刊〕

教育修身研究 全20巻・別冊1

別冊＝解説（竹中暉雄）・総目次
B5判・上製・総約11,700頁
揃定価508,200円（揃本体462,000円＋税10%）
'18年3月～'20年2月配本完結〔復刻版〕

『教育修身研究』（1941年『教育修身公民研究』に改題）は、文部省師範学校中学校高等女学校教員検定試験（文検）の「教育」「修身」「公民」科目の受験雑誌である。試験問題解説と模範解答、文検に関する情報、合格体験記等を収録するほか、読者との交流座談会、予試・本試合格電報を実施し、働きながら難関突破をめざす受験生に「心の灯火」として親しまれた。編集者の島為男らは戦争拡大の流れに沿う文検の設問に批判を加え、時局批判的な論説を掲げるなど戦時下における苦渋の実践をこころみた。教育学、教育思想研究の貴重な資料。
●**推薦**＝寺﨑昌男・船寄俊雄・松下良平

台湾教育会 発行〔大正2年～大正15年〕

台湾教育〈大正期〉 全31巻・別冊1

別冊＝総目次・索引〔大正・昭和期〕
（ＰＤＦデータ付き）
A5判・B5判・上製・総16,314頁
揃定価772,200円（揃本体702,000円＋税10%）
'14年1月～'16年10月配本完結〔復刻版〕

『台湾教育』は植民地下台湾で刊行されていた教育雑誌である。内容は教育論説、教授法、教材の紹介、行事、台湾総督府の公報などであるが、文芸、時事ニュース欄もあり、単なる機関誌に留まらない。時代を経るごとに比較対象として朝鮮・満洲での教育記事も掲載されている。本誌明治期（第1～128号）は既にひるぎ社より復刻版が刊行されているため、弊社では大正期（第129号）から復刻する。台湾教育行政の空白を埋める第一級の資料である。
●**推薦**＝陳　雪玉・河原　功・春山明哲・又吉盛清

水原克敏 編・解題

戦後改革期文部省実験学校資料集成〈第Ⅰ期〉 全9巻

A4判・上製・総3,994頁
揃定価247,500円（揃本体225,000円＋税10%）
'15年6月～'16年5月配本完結〔編集復刻版〕

戦後改革期における文部省の動向が分かる資料を含む、「東京高等師範」「東京学芸大学第一～第三師範」「千葉師範」「長野師範」「奈良女子高等師範」の各附属小学校（一部中学校・高等学校）が報告した資料を収録。カリキュラム史、教育実践史研究に必須の資料であり、これらによって戦後改革期の文部省が、実験学校を中心にどのような新しい学校教育を創ろうとしていたのか、その内実を把握することができる。戦後改革の教育実践・カリキュラム開発そして教育課程行政の研究に新たな知見を創出したい。

水原克敏 編・解題

戦後改革期文部省実験学校資料集成〈第Ⅱ期〉 全6巻

A4判・上製・総2,504頁
揃定価165,000円（揃本体150,000円＋税10%）
'17年3月～8月配本完結〔編集復刻版〕

〈第Ⅰ期〉に続き、〈第Ⅱ期〉を刊行。第Ⅱ期では昭和26年学習指導要領改訂以降、昭和33年改訂に至る過程の文部省初等教育実験学校の研究報告書及び研究発表要項を収録した。当時としてはかなり詳細に実験データをとりながら成果を検証し研究課題を析出するなど、信頼性の高い実験研究を行っていたことがうかがえる。この時期の実験学校の成果は戦後改革期の経験主義教育から系統主義教育への転換を示すもので、教科内容の系統性を確保して能率的で効果的な教育を目指していたことが確認できる。

水原克敏 編・解題

戦後改革期文部省実験学校資料集成〈第Ⅲ期〉 全3巻

A4判・上製・総1,228頁
揃定価82,500円（揃本体75,000円＋税10%）
'18年5月刊〔編集復刻版〕

〈第Ⅲ期〉は、「初等教育実験学校報告書」1～12（1961～65年発行）を収録。戦後逆コースの中で道徳教育を復活させた1958年小中学校学習指導要領改訂は、道徳教育特設と特別教育活動等による人間形成重視、系統主義カリキュラムと科学技術教育による「能率化・効率化」の二大方針を打ち出し、小学校は1961年度から実施された。唐突に特設された道徳教育はカリキュラムと教育方法の開発が急がれ、同「報告書」の半数を道徳教育と特別教育活動が占める。また、「能率化・効率化」の言葉が頻繁に登場するのも「報告書」の大きな特徴である。

東京府教育会 発行〔明治21年～明治31年刊〕

東京府教育会雑誌
全９巻・別冊１

別冊＝解説（白石崇人）・総目次・関連年表
Ａ５判・上製・総4,128頁
揃定価180,400円（揃本体164,000円＋税10%）
'16年９月～'17年11月配本完結〔復刻版〕

本誌は明治21年に発足した東京府教育会の機関誌で、東京府の教員や地域住民がそれぞれ知力と人脈を駆使し、協働して教育の改良上進に取り組んだ軌跡が豊富に記されている。具体的には、地域の公私立学校の実践・実態や、教員・教育関係者の論説、教員人事の動向など、当時の東京府内の教育事実を示す記事が数多く収録されている。
第１～102号（明治21～31年）までの内、新発見の第１～５号を含む78号分を復刻。
●**推薦**＝梶山雅史・渡部宗助

山本瀧之助 編〔明治44年～大正８年刊〕

良　民 全９巻・別冊１

別冊＝解説（多仁照廣）・総目次
Ａ５判・上製・総4,356頁
揃定価165,000円（揃本体150,000円＋税10%）
'98年10月刊〔復刻版〕

雑誌『良民』は、編集を山本瀧之助、挿絵を竹久夢二、そして出版元を河本亀之助の３人によって、明治44年２月創刊された。「地方青年」であった３人は、「大正デモクラシー」の生成期の時代相をとらえ、今日においてもなお、近代日本の青年・壮年層の形成過程を知る貴重な資料を提供している。『山本瀧之助日記』（全４巻）の編者の解説を付し、広島県沼隈郡の山本家に残る唯一の原本をもとに、本書は復刻された。教育史、とくに近代社会教育史の資料である。
●**推薦**＝大濱徹也・小川利夫・金原左門

中央報徳会・日本青年館ほか 発行
〔大正５年～昭和20年刊〕

『帝國青年』『青年』
全48リール・別冊１

別冊＝解説（多仁照廣）・総目次・索引
揃定価1,100,000円（揃本体1,000,000円＋税10%）
'06年７月～'07年１月配本完結〔マイクロフィルム版〕

本誌は中央報徳会の機関誌として、同青年部より発行された。後に誌名を『青年』と変え、発行所も日本青年館・大日本連合青年団・大日本青年団・大日本青少年団本部と変遷しつつ、当時の青年の修養・覚悟・態度等を論じ、戦時体制下には、農村青年と戦争について指導性を発揮する記事を掲載するなど、青年団活動の情報を提供し、かつ当時の青年層に大きな影響を与えた。
近代日本の社会教育史の歩みを体現する、５万頁に及ぶ本誌を、㈶日本青年館の協力によりマイクロフィルム版にて刊行。
●**推薦**＝上野景三・小里貞利・菅原亮芳・渡邊洋子

戦後新教育・「実力の検討」実践資料集 全４巻

須田将司 解説
Ｂ５判・上製・総2,836頁
揃定価107,800円（揃本体98,000円＋税10%）
'13年６月刊〔編集復刻版〕

戦後新教育の「花形」と言われた「社会科」。戦前以来の報徳教育を土台に形作られた神奈川県足柄上郡福沢小学校の「福沢プラン」は、社会科の創設・推進者の一人であった石山脩平をはじめ多数の研究者が関わり、全国から注目を集めた。当資料集は、戦前期の資料から1946年段階の井上喜一郎校長による草稿メモ類、そして1948年以降に福沢小学校作成『実力の検討シリーズ』等を収録した。社会科に留まらず、多様なテーマを含み独自の教育論を模索していった同校の歩みを通覧できる貴重な資料群である。
●**推薦**＝影山清四郎・梶山雅史

旧制成城高等学校尋常科地理自学書集

萩原真美 解題
Ａ５判・上製・函入・426頁
定価19,800円（揃本体18,000円＋税10%）
'14年８月刊〔編集復刻版〕

旧制成城高等学校の母体となった成城小学校は、日本で最初にドルトンプランを採用した学校のひとつである。当時、画一的な授業が中心の日本では「自由」と「協同」の原理によるドルトンプランは画期的であり、大正自由教育運動のなかで注目された。
本書は、これに基づき旧制成城高等学校教員の仲原善忠と小薗榮によって執筆された地理科のオリジナルのテキスト（自学書）を４冊収録した。ドルトンプランによる教育の実態を物語る貴重な資料であると同時に、生徒が自主的に学習に取り組むための示唆に富む参考資料としても重要である。

梶山雅史 編・著

近・現代日本教育会史研究

「教育会」は明治10年代各地で校長をはじめ学校関係者、地方有力者で構成された、戦前日本の最大の教育団体。第二の教育行政機構として翼賛的機能を果たした同会が解散する戦後初期の研究成果を収録した点が本書の大きな特徴である。
●**Ａ５判・上製・530頁・定価7,260円／'18年３月刊**

鳥居和代 著

青少年の逸脱をめぐる教育史
――「処罰」と「教育」の関係

青少年への働きかけが備えていた実質を、1922年少年法の成立過程から、1920～30年代設立の校外教護、補導機関の取組み、総力戦体制下の勤労青少年輔導政策の展開を通して考察する。
●**Ａ５判・上製・288頁・定価6,380円／'06年11月刊**

定価は消費税10%込

野中正孝 編・著
東京外国語学校史
——外国語を学んだ人たち

「東京外国語学校」（現・東京外国語大学）の知られざる実像、近代日本の国際化を担ったその出身者たちの忘れられた活動の軌跡を、残された関係資料を克明に調査し精細に明す大著。
● **推薦**＝寺﨑昌男
● A 5 判・上製・函入・1, 620 頁・定価 10, 780 円／'08年11月刊

湯川次義 著
近代日本の女性と大学教育
——教育機会開放をめぐる歴史

戦前日本における女性への大学教育機会の開放をめぐる史的展開に着目し、その理念・制度構想・門戸開放の実態を考察し、性に基づく大学教育機会の差別がどのように克服されたかを究明した書。
● A 5 判・上製・732 頁・定価 9, 350 円／'03年 4 月刊

㈶日本青年館 発行【取扱図書】
田澤義鋪選集
（たざわよしはる）

青年団の育ての親である田澤義鋪の著作の中から「政治教育講話」「青年団の使命」など主要なものを収録し、青年団の発達、政治教育の普及に腐心した田澤の精神を凝縮した貴重な文献。1969年刊。
● A 5 判・上製・函入・1, 140 頁・定価 5, 500 円／'89年 5 月再版

多仁照廣 著
山本瀧之助の生涯と社会教育実践

近代化を支えた無名の若者たちの全国組織化、青年団運動をリードし「青年の父」「青年団の母」と称された山本瀧之助（1873～1931年）の生涯を紹介する。
● A 5 判・上製・264 頁・定価 3, 850 円／'11年11月刊

多仁照廣 著
㈶日本青年館発行【取扱図書】
若者仲間の歴史

日本の民衆社会がもつ最大の集団エネルギーである「若者仲間」、無名の人々の関係史を、近世から近代への社会変遷の中で実証的にとらえた書。日本図書館協会選定。
● 四六判・上製・268 頁・定価 2, 420 円／'84年10月刊

新聞学院『学報』	2ページをご参照ください。
児童と宗教	8ページをご参照ください。
成功	16ページをご参照ください。
占領期報徳運動資料集成	16ページをご参照ください。
教化運動	26ページをご参照ください。
力行世界	36ページをご参照ください。
戦前期ブラジル移民日本語読本	36ページをご参照ください。
ハワイ日本語学校教科書集成	37ページをご参照ください。
アメリカ日系二世と越境教育	39ページをご参照ください。
文教時報	40ページをご参照ください。
沖縄教育	42ページをご参照ください。
清水安三と北京崇貞学園	52ページをご参照ください。
文部省思想統制関係資料集成	55ページをご参照ください。
赤光	68ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

記録映画	78ページをご参照ください。
家庭科学〈戦前編〉	79ページをご参照ください。
学園評論	94ページをご参照ください。
学生評論・季刊大学・大学	95ページをご参照ください。
処女の友	98ページをご参照ください。
明治漢文教科書集成	105ページをご参照ください。

【学校新聞】

帝國大學新聞社 刊〔大正12年～昭和23年刊〕

帝國大學新聞　全 17 巻・別冊 1

別冊＝記事・執筆者索引
「帝国大学新聞の歴史」（殿木圭一）
Ａ４判・上製・函入・総 7,746 頁
揃定価 330,000 円（揃本体 300,000 円＋税10%）
'84年４月～'85年５月配本完結〔復刻版〕

本紙は東京帝国大学の学生新聞として学内記事、学問・研究動向を報道したが、単なる学内新聞にとどまらず、日本のジャーナリズム全体のなかで特異な位置を占め、思想・学術動向に少なからざる影響を及ぼした。また、第二次大戦の暗黒の時代状況下においても、時代への静かな抵抗を試みた新聞の１つである。

●**推薦**＝石堂清倫・伊藤　隆・内川芳美・扇谷正造・大河内一男・小田切秀雄・勝本信之助・千葉雄次郎・辻　清明・寺﨑昌男・殿木圭一・野沢隆一・樋口恵子・平岡敏男・福武　直

東京大学新聞社 刊〔昭和24年～昭和45年刊〕

東京大学新聞　全 11 巻・別冊 1

別冊＝記事・執筆者索引
Ａ４判・上製・函入・総 4,276 頁
揃定価 220,000 円（揃本体 200,000 円＋税10%）
'85年６月～'86年５月配本完結〔復刻版〕

戦後東京大学における学生新聞は、『帝国大学新聞』のあとを受け、昭和24年『東京大学学生新聞』としてスタートする。その後、昭和32年『東京大学新聞』となり今日まで継続刊行されている。

今回の縮刷版の刊行は、昭和24～45年までであり、戦後日本の激動期を最もビビッドに反映した学生運動とその中で揺れ動く大学の姿を克明に記録している。

●**推薦**＝天野勝文・伊藤成彦・内川芳美・江副浩正・伴野文夫・樋口恵子

三田新聞学会 刊〔大正６年～昭和46年刊〕

三田新聞　全 14 巻・別冊 1

別冊＝記事・執筆者索引
Ａ４判・上製・函入・総 5,154 頁
揃定価 286,000 円（揃本体 260,000 円＋税10%）
'87年５月～'88年２月配本完結〔復刻版〕

『三田新聞』は、日本における最初の学生新聞であり、大正デモクラシーの所産ともいうべき資料である。創刊号の一面中央に、福沢諭吉の「慶応義塾は一所の学塾として……」を掲げ、同紙の創刊の言葉には「三田輿論を喚起し、慶応義塾の一報道機関たるべし」と述べられている。以後、50余年、「東洋創始」のスローガンを常に紙面にかかげ、三田新聞会によって継続・発行されてきた。

●**推薦**＝阿利資之・石川忠雄・加藤　寛・佐藤公偉・寺尾　誠・富田正文

成城学園新聞部 発行〔昭和４年～昭和24年刊〕

成城学園時報　全２巻・付録１・別冊１

別冊＝解説（青柳恵介）・総目次・索引
付録＝『成城文化史』（分売可。定価 11,000 円）
Ｂ４判（付録Ａ５判）・上製・総 824 頁
揃定価 72,600 円（揃本体 66,000 円＋税10%）
'17年５月刊〔復刻版〕

大正15年に開校した旧制成城高等学校では、昭和４年に『成城学園時報』が創刊された。既に刊行されていた校友会雑誌『城』の部報欄を独立させ、学園全体の機関新聞とするのが本紙の主旨であった。紙面は学園行事の報告、運動部の試合結果や活動内容紹介の記事をはじめ、教師や卒業生の投稿、学生が書いた政治・文化評論等、多様な記事が収載されており、当時の学生生活の様子を生き生きと伝えている。また文面は本格的で、学生の文章表現能力の高さを垣間見ることもできる。成城学園創立百周年を記念して復刻。
●推薦＝岩田一正・木村　元

大倉高等商業学校新聞部ほか 刊〔昭和３年～昭和53年〕

大倉高商新聞・東京経済大学新聞　全５巻 別冊１

別冊＝解説（橋谷　弘）・総目次・索引
Ａ３判・上製・函入・総 1,506 頁
揃定価 110,000 円（揃本体 100,000 円＋税10%）
'10年１月刊〔復刻版〕

本紙は、大倉喜八郎によって開校された大倉商業学校から大倉高等商業学校に昇格後の1928年４月に創刊された。当時としても、全国高等商業学校の中で発行されていた、数少ない学生新聞の１つであった。論文や文化欄の寄稿者には、学外の著名な知識人も多く、戦後、東京経済大学となった後も、学園内外の動向を敏感に捉え、報道し続けた。大学の歴史を克明に記録するとともに、激動の時代を映し出す貴重な資料である。『大倉高商新聞』から『東京経済大学新聞』にいたる50年の軌跡。
●推薦＝石井寛治・有山輝雄

一橋新聞発行所 刊〔大正13年～昭和35年刊〕

一橋（いっきょう）新聞　全７巻・別冊１

別冊＝記事・執筆者索引
Ｂ４判・上製・函入・総 2,592 頁
揃定価 170,500 円（揃本体 155,000 円＋税10%）
'88年10月～'89年２月配本完結〔復刻版〕

東京商科大学＝一橋大学は、戦前・戦後にわたって、日本経済・政治の担い手を輩出してきた。一方、学問と学園の自由を追究し、官僚主義に抗してきた歴史をもつ。『一橋新聞』は、数ある大学新聞の中でも、社会科学の総合大学にふさわしい立場から、時代の動きを最も批判的に受けとめようと努めた新聞のひとつであり、激動の近・現代史の証言というべき重要資料である。
●推薦＝伊東光晴・滝沢正樹・増田四郎・水田　洋・山田欣吾・山村喜晴

小樽高等商業学校編纂部 刊〔大正14年～昭和55年刊〕

小樽商科大学新聞『緑丘』全３巻

記事・執筆者索引付き
Ｂ４判・上製・函入・総 1,200 頁
揃定価 82,500 円（揃本体 75,000 円＋税10%）
'92年３月刊〔復刻版〕

本紙は、大正14（1925）年６月５日、小樽高等商業学校編纂部によって創刊され、大学名の変遷と共に数度改題しながらも、昭和55年まで、学内外の動きを敏感に捉え報道しつづけてきた。創刊の年の10月に起きた「軍教反対事件」は、小樽高商の名を全国に知らしめるとともに、本紙の存在意義を一気に高めることとなった。本紙は、小樽商大の歴史を語るにとどまらず、広く時代の移り変わりを映し出し、日本近現代史の貴重な資料として活用できる。
●推薦＝野口正二郎・藤井栄一・松本忠司

小樽商科大学 編纂・発行〔昭和36年刊〕

緑丘五十年史

本書は、小樽商科大学の創立50周年を記念して刊行された。明治44年、小樽高等商業学校として、全国の官立商業学校の第５番目として開校され、小樽経済専門学校を経て、90余年の歴史をもつ。
●Ｂ５判・上製・286 頁・定価 7,150 円／'01年４月刊

定価は消費税10％込

【近代社会教育史料集成】

■近代社会教育史料集成❸
㈶日本青年館 発行【取扱図書】

大日本青年團史

Ａ５判・上製・函入・総776頁
定価15,400円（揃本体14,000円＋税10%）
'89年６月刊〔復刻版〕

戦前、日本の社会教育の中心は青年団であり、政策的にも重視されてきた。その意味で日本の社会教育を語るとき、青年団の歴史はさけて通れない。
本書は、昭和17年に日本の青年団の歴史を初めて体系づけた唯一のものである。内容は、江戸時代初期の若連中から説きおこし、大正期の大日本連合青年団の統一、大日本青年団、そして昭和16年の大日本青少年団へ再編成する前までを記録している。
歴史学・教育学・政治学・民俗学研究に極めて有用な書である。

■近代社会教育史料集成❹
㈶日本青年館 発行〔昭和45年刊〕

大日本青少年団史

Ａ５判・上製・函入・総1,072頁
定価19,800円（揃本体18,000円＋税10%）
'96年４月刊〔復刻版〕

戦前の青少年団の活動記録は、昭和16年までを『大日本青年團史』に詳述し、昭和17年から20年までは『大日本青少年団史』にまとめられた。
戦時下の昭和16年１月、大日本青年団・大日本連合女子青年団・大日本少年団連盟（ボーイスカウト）・帝国少年団協会の四団体が統合され「大日本青少年団」が結成された。その数１千５百万の青少年が組織され、戦時下の後方援護、食料増産、民間防衛などに従事、敗戦までの国家総力戦体制にまきこまれていく過程を記録。

■近代社会教育史料集成❷／日本青年館発行〔昭和６年刊〕
岡田洋司 解題

山本瀧之助全集

近代日本の青年・壮年層の社会教育の上で、重要な役割を果たした山本瀧之助（1873～1931）の著作・論文のエッセンスの集大成。近代日本の農村青年の自己形成史を知る上で貴重な書である。
● Ａ５判・上製・函入・1,220頁・定価22,000円／'85年12月刊〔復刻版〕

定価は消費税10％込

生活・文化・芸術・映画

産業組合中央会 刊〔大正14年～昭和24年刊〕

家の光　全138巻・補巻1

揃定価 2,706,000円（揃本体 2,460,000円＋税10%）

第Ⅰ期　全25巻〔第1巻～第25巻〕

菊判・上製・総 11,388頁
揃定価 495,000円（揃本体 450,000円＋税10%）
'93年11月～'95年12月配本完結〔復刻版〕

第Ⅱ期　全25巻〔第26巻～第50巻〕

菊判・上製・総 12,888頁
揃定価 495,000円（揃本体 450,000円＋税10%）
'96年5月～'97年5月配本完結〔復刻版〕

第Ⅲ期　全52巻〔第51巻～第102巻〕

菊判・上製・総26,440頁
揃定価 1,102,000円（揃本体 920,000円＋税10%）
'97年8月～'99年11月配本完結〔復刻版〕

第Ⅳ期《都市版》全36巻〔第103巻～第138巻＋補巻1〕

菊判・上製・総 18,730頁
揃定価 704,000円（揃本体 640,000円＋税10%）
'00年2月～'01年8月配本完結〔復刻版〕

解説（古桑　実）は第103巻に収録

本誌は、現在のＪＡ全中の前身である産業組合の機関誌。農村が慢性的貧困にあえぎ、小作争議が急増するなか、農村生活の向上と自立、相互扶助・協同に基づく「共存同栄」社会の実現を謳った。「一家一冊万能雑誌」と称されたように、内容は修養・解説・農業・婦人・子供等多岐に亘る。近代日本の基底をなした農村の歴史を明らかにする重要資料として、地方文化史、女性史研究にも資するものである。

●**推薦**＝井出孫六・川野重任・佐藤喜春・竹部喜代子・樋口恵子・宮崎礼子・矢口光子

記録映画作家協会 発行〔1958年～1964年〕

記録映画　全6巻・別冊1

別冊＝解説（阪本裕文・佐藤　洋）・総目次・索引
Ｂ5判・上製・総 2,694頁
揃定価 165,000円（揃本体 150,000円＋税10%）
'15年12月～'16年5月配本完結〔復刻版〕

『記録映画』（1960年まで「教育映画作家協会」発行）は当時唯一の「記録／教育映画」専門誌でありながら、映画監督はじめ技術者・作家・芸術家等、多ジャンルの表現者が寄稿している。1964年3月に終刊となったが、全65冊に記された言葉と写真には、映画や教育の問題に限られない、立ち戻って考えるに足る豊かな源泉がある。ドキュメンタリー映画のみならず、教育映画・劇映画・テレビドキュメンタリー・文学・美術・写真など、様々な領域の諸動向の線は、その全てが何らかの形で『記録映画』という点を通過していたことが分かるだろう。

●**推薦**＝川本博康・マーク ノーネス・松本俊夫

記録映画作家協会 発行〔1955年～1964年刊〕

記録映画作家協会会報
全2巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（阪本裕文・佐藤　洋）・総目次・索引
付録＝「定例総会議案書」ほか
Ｂ5判（付録Ｂ4判）・上製・総 1,386頁
揃定価 82,500円（揃本体 75,000円＋税10%）
'17年5月刊〔復刻版〕

本誌は、記録映画作家協会（1955年から1960年まで「教育映画作家協会」）が1955年3月から現在も刊行している会報である。復刻版では第1号から第96号（1955～1964年）までと、協会が作成・配布したビラ類、定例総会議案書、また前身にあたる記録教育映画製作協議会が作成した資料も可能な限り収集し収録した。

協会発足当初の様子から、作家協会内部の労働運動に関わる議論や上映会・研究会の情報、『記録映画』終刊後の状況などを詳細に把握することができる。

日本美術新報社 発行〔昭和16年～昭和18年刊〕

旬刊美術新報

全6巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（飯野正仁）・目録
付録＝『戦時記録版 日本画及工芸』
Ａ4判（付録Ｂ5判）・上製・総2,758頁
揃定価187,000円（揃本体170,000円＋税10%）
'17年5月～11月配本完結〔復刻版〕

本誌は、1941年7月の「第一次美術雑誌統合」時に創刊され、1943年10月の「第二次美術雑誌統合」時に廃刊した美術雑誌である。月に三回発行の旬刊雑誌という性格上、他誌がとりあげないような小さな情報も丁寧に拾われており、アジア・太平洋戦争下における日本の美術界の状況を詳細に知る上で貴重な資料である。

発行者・猪木卓爾は、1944年2月に『戦時記録版　日本画及工芸』誌を会員制により創刊し、「戦時下に於ける美術誌の矜持」を示した。

●**推薦**＝青木　茂・丹尾安典

ソヴェト文化社 発行〔昭和21年～昭和24年刊〕

ソヴェト文化　全2巻・別冊1

別冊＝解説（吉田則昭）・総目次・索引
Ｂ5判・上製・総640頁
揃定価50,600円（揃本体46,000円＋税10%）
'16年7月刊〔復刻版〕

本誌は、1945年12月、ソヴェト研究者協会が設立され、翌年5月に同協会が中心となって日ソ文化連絡協会（会長・土方与志）が生まれたことで、両者共同編集によって発行された雑誌である。

内容は文化活動の紹介、論考記事が大半を占める。占領期におけるこの『ソヴェト文化』が文化受容に果たした役割を検討することは、戦後日本における対ソ認識形成の端緒を知る上で、たいへん有益である。

●**推薦**＝谷川建司・土屋礼子・メリニコワ　イリーナ

北星商事ほか 発行〔昭和25年～昭和29年刊〕

ソヴェト映画　全4巻・別冊1

別冊＝解説（フィオードロワ　アナスタシア）・総目次・索引
Ｂ5判・上製・総1,406頁
揃定価105,600円（揃本体96,000円＋税10%）
'16年7月刊〔復刻版〕

本誌は、1950年代前半に発行された日本で唯一のソビエト映画専門誌である。その誌面には、世界映画史に軌跡を残したソビエト映画や、当時のソビエト映画界に関する情報、戦前の日本でソビエト映画の宣伝に携わってきた文化人の証言など、20世紀のロシア文化と、日本におけるその受容を考える上で貴重且つ稀有な資料が揃っている。また本誌は、1950年代初頭の日本で台頭した左翼運動の重要な記録でもある。そこには、戦後の日本でマルクス主義を支持し、その普及に努めた人々の文化や政治に対するあらゆる見解が凝縮されている。

●**推薦**＝谷川建司・土屋礼子・メリニコワ　イリーナ

三好十郎著作集　全12巻・別冊1

別冊＝解説（山口謙吾）・回想（三好まり）・総目次
Ａ5判・上製・総7,730頁
揃定価211,200円（揃本体192,000円＋税10%）
'14年11月～'16年4月配本完結〔復刻版〕

本著作集は、1960年から66年まで、ガリ版で全63巻・附録として刊行されたものを復刻したものである。

孤高の劇作家、三好十郎が生涯にわたり書き残したもの――戯曲、詩、小説、評論、随筆、書簡、ノート他を最も詳細に知ることのできる重要資料である。

国家主義、社会主義、宗教といったイデオロギーを前提としない道を選んだ三好の発する言葉を再読する意義は、今日において極めて大きい。

●**推薦**＝宍戸恭一

文化普及会 刊〔大正12年～昭和5年刊〕
森本厚吉 主宰

文化生活　全17巻・別冊1

別冊＝解説（石川寛子）・総目次・索引
Ａ5判・上製・総7,822頁
揃定価280,500円（揃本体255,000円＋税10%）
'97年6月～'98年1月配本完結〔復刻版〕

1923年5月、森本厚吉は、かつて21年に有島武郎・吉野作造らと創設した文化生活研究会と一線を画し、「文化生活運動」を現実化するために文化普及会を設立。文化アパートメント建築・女子文化高等学院設立などの実践活動とともに、より生活学の色濃い機関誌として本誌『文化生活』を創刊する。（このとき文化生活研究会の『文化生活』は、巻号は継承するものの誌名を変える。）近代教育史・女性史・家政学・住居学研究に必須の資料である。

●**推薦**＝小川信子・佐藤全弘・西川祐子・ヘンリー　スミス

家庭科学研究所 刊〔昭和9年～昭和19年刊〕

家庭科学〈戦前編〉　全12巻・別冊1

別冊＝解説（竹中はる子）・総目次・索引
菊判・Ｂ5判・上製・総6,698頁
揃定価232,100円（揃本体211,000円＋税10%）
'99年5月～'12月配本完結〔復刻版〕

本誌は、十五年戦争下、大日本連合婦人会と大日本連合女子青年団の合同施設として作られた家庭科学研究所の機関誌である。

家事全般についての高度な研究雑誌として食物・洗濯・住居・家計・育児・医事・教育・作法などを対象とし、家庭生活の科学化・合理化を探究した。国民更生運動とも連動して刊行された本誌は、戦争下の日本人の生活及び生活観の変遷を辿れる貴重資料であり、家政史・女性史研究に必須の文献である。

●**推薦**＝高橋信孝・丹羽雅子・宮本美沙子・吉川弘之

清水勝嘉 著

昭和戦前期　日本公衆衛生史

Ｂ５判・上製・函入・768頁
定価26,400円（揃本体24,000円＋税10%）
'97年７月再刊

本書は、前著『日本公衆衛生史　昭和前期編』の全面改訂版である。昭和13年、国民保健の向上と国民生活安定のために厚生省が設置された。しかし、その真の目的は軍部による「健兵健民方策」の要請を満たすことにあり、衛生行政が超国家主義的な長期総力戦体制の一翼を担うことにあった。昭和戦前期のこうした公衆衛生活動の特異性を、多数の資料を駆使し明らかにする好著である。
〈目次抜粋〉公衆衛生行政／急性伝染病対策／性病（花柳病）対策／国民の栄養問題／学校保健／人口政策／健民運動

日本民藝協会 発行〔昭和14年～昭和21年刊〕

月刊民藝・民藝　全12巻・別冊１

別冊＝解説（水尾比呂志・尾久彰三・杉山享司・村上豊隆・白土慎太郎）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総4,930頁
揃定価198,000円（揃本体180,000円＋税10%）
'08年７月～12月配本完結〔復刻版〕

『月刊民藝』は、日本民藝協会の機関誌として、昭和14（1939）年４月に創刊、同17年１月から『民藝』と改称されて同21（1946）年７月発行の第70号まで刊行された。ただし、第69号は未見である。
本資料によって、世界の生活文化史上稀有な事跡と考えられるべき民藝運動の、戦時下の実情を知る場を拡げるとともに、それを現在の生活文化に照応させて在り様在り方を検証するよすがともなり得るだろう。
●**推薦**＝大城立裕・鶴見俊輔・水尾比呂志

日本民藝協会ほか 発行〔昭和６年～昭和26年刊〕

工　藝　ＤＶＤ―ＲＯＭ電子版

構成＝ＤＶＤ―ＲＯＭ　全３枚
　　検索システムＣＤ　１枚・別冊１
別冊＝解説（水尾比呂志）・総目次・索引
総約14,000頁
揃定価308,000円（揃本体280,000円＋税10%）
'10年１月刊

本誌は、民芸研究の創始者・柳宗悦が監修し、ほぼすべての編輯に携わった、民芸分野の啓蒙的研究誌である。各号ごとに主題を定め、挿絵や写真のみならず、漆や手織物といった実物を貼り込むなど、戦前から戦後を通じて、民芸運動の理論と実践の場となった。
全120冊、総約14,000頁に及ぶ、雑誌『工藝』の全貌がＤＶＤによってオールカラーでよみがえる。号数、発行年月からの検索だけでなく、主題・標題・執筆者・挿絵からの詳細なキーワード検索機能も付加。
●**推薦**＝大原謙一郎・鶴見俊輔

内務省警保局 編〔大正14年～昭和19年刊〕

映画検閲時報　全40巻

牧野　守 解題
Ａ５判・上製・函入・総23,200頁
揃定価572,000円（揃本体520,000円＋税10%）
'85年１月～'86年５月配本完結〔復刻版〕

『映画検閲時報』は月報形式であり、毎月「査閲フイルムノ部」「制限ノ部」「輸出フイルムノ部」「附録」に分類され、映画の題名、巻数、製作者、および検閲の内容、制限事項等が記録されている。
弊社既刊『出版警察報』（全40巻）が出版物に対する検閲記録であるのに対して、本書は、戦前期に製作された全映画についての唯一の全体的な検閲記録である。映画関係者のみならず、日本近現代史の研究者にも貴重な資料である。
●**推薦**＝家永三郎・内川芳美・佐藤忠男・篠田正浩・冨士田元彦

〔昭和11年～昭和13年刊〕

映画創造　全２巻

解題（冨士田元彦）・総目次付き
菊判・上製・函入・総1,110頁
揃定価19,800円（揃本体18,000円＋税10%）
'86年６月刊〔復刻版〕

プロキノ（日本プロレタリア映画同盟）は、昭和４（1929）年２月創立、「プロレタリア映画生産発表のために闘ふ」をスローガンに、製作上映運動を積極的に推し進めた、戦前の日本映画史における最も戦闘的な集団であった。プロキノは昭和８年以降、権力の弾圧のため活動不能に追いこまれ、その２年後、合法的な理論活動の場として創刊されたのが、『映画創造』であり、岩崎昶、今井正、戸坂潤、中条百合子らの寄稿が見られる。全12号を収録。
●**推薦**＝北川鉄夫・佐藤忠男・祖父江昭二

東京音楽学校学友会 発行〔明治43年～大正11年刊〕

音楽　ＤＶＤ版　全４枚・別冊１

別冊＝総目次・索引
揃定価264,000円（揃本体240,000円＋税10%）
'13年１月刊

雑誌『音楽』は、東京音楽学校（現・東京藝術大学）学友会が発行していた月刊誌である。楽譜、詩歌、評論、講義、戯曲翻訳、公演や国内外の音楽情報などを多数収録し「音楽総合情報誌」として充実していった。音楽関係者に限らず、大熊信行、白鳥省吾、富田砕花、柳沢健など多くの大正文化人が寄稿したのも特徴のひとつだ。日本人の西洋式音楽創作の足跡が刻まれた本誌は、近代日本において西洋の伝統文化をどのように眺め、取り組み、取り入れようとしてきたかをひも解くための一次資料である。
●**推薦**＝細川周平

東京演芸画報社・演芸倶楽部 刊〔昭和２年～昭和18年刊〕

演芸画報 昭和編 全68巻

Ｂ６判・上製・函入・総30,038頁
揃定価1,196,800円（揃本体1,088,000円＋税10%）
'90年４月～'94年１月配本完結〔復刻版〕

『演芸画報』は、東西の大小劇場の、とくに歌舞伎を中心に、その舞台写真、劇評、評論、脚本、考証、談話、芸談等を掲載した総合演芸雑誌である。本誌の創刊は明治40年、以後戦時下に雑誌統合されるまで、37年間刊行され続け、その冊数は440を数える。本誌は、歌舞伎を中核としながら、ひろく新派、新劇、邦楽、人形浄瑠璃、落語、講談、活動写真、大道芸まで、当時の芸術・娯楽を網羅している。弊社では、大正期に刊行された169冊および昭和期に刊行された202冊を復刻する。
●推薦＝有光次郎・倉橋　健・千田是也・北條秀司・南　博

東京演芸画報社・演芸倶楽部 刊

演藝画報 DVD版 全37枚

揃定価1,309,000円（揃本体1,190,000円+税10%／各巻分売可）
　明治編　DVD全６枚　揃定価161,700円
　大正編　DVD全15枚　揃定価623,700円
　昭和編　DVD全16枚　揃定価523,600円
'22年12月刊〔復刻版〕

近代日本演劇史・文化史を体現する総合演芸雑誌の復刻版を、小社既刊の大正編・昭和編に三一書房刊の「明治編」を加えて待望のDVD化。
『演藝画報』は、東西の大小劇場の、とくに歌舞伎を中心に、その舞台写真、劇評、評論、脚本、考証、談話、芸談等を掲載した総合演芸雑誌である。本誌の創刊は明治40年、以後戦時下に雑誌統合されるまで、37年間刊行され続け、その冊数は440を数える。本誌は、歌舞伎を中核としながら、ひろく新派、新劇、邦楽、人形浄瑠璃、落語、講談、活動写真、大道芸まで、当時の芸術・娯楽を網羅している。
●推薦＝有光次郎・倉橋　健・千田是也・北條秀司・南　博

小山内薫・土方与志ほか 編〔大正13年～昭和５年刊〕

築地小劇場 全63冊・別冊1・付録1

付録＝ポスター４枚・プログラム75枚
Ａ５・菊判・並製・函入・総約4,000頁
揃定価95,700円（揃本体87,000円＋税10%）
'86年７月刊〔復刻版〕

大正13年、小山内薫、土方与志の手で築地小劇場が創設され、日本の新劇運動の幕が開かれた。それは劇場と劇団とが一体となったまさに画期的な運動であり、演劇を愛する若者たちのむせかえるような活気がみなぎった。その機関誌『築地小劇場』は、今日、近代演劇史の研究家にとって貴重な文献であるばかりでなく、近代演劇の原点として、芝居を志す人、そしていま、舞台に情熱を傾ける人必読の資料である。当時の上演ポスター（色刷り）、プログラムを付す。
●推薦＝飯沢　匡・千田是也・滝沢　修・松本克平・水品春樹・山本安英

『築地小劇場』ポスター・プログラム

日本の新劇の青春期を象徴する「築地小劇場」の面影を今に蘇えらせる、ポスター４枚と公演プログラム75枚を当時のままの姿で復刻。〈ポスター〉「役の行者」「マクベス」「桜の園」「夜の宿」〈プログラム〉「空気饅頭」「大塩平八郎」「マクベス」「国性爺合戦」ほか全75枚
●実物大・函入・揃定価13,200円／'86年７月刊〔復刻版〕

調査研究動員本部 刊〔昭和20年４月刊〕
清水勝嘉 解説

戦時国民生活最低基準ニ関スル答申書

本書は、十五年戦争末期、内閣の委嘱により調査研究動員本部が調査した、「戦時国民生活ニ関スル調査研究」の一部である。高橋亀吉、羽仁説子らの学者・文化人を動員し、最低生活基準を示す。
●Ｂ５判・上製・函入・228頁・定価4,400円／'97年10月刊〔復刻版〕

週刊案内新聞

２ページをご参照ください。

昭和10年全国商店街調査資料

32ページをご参照ください。

『町会』『町と生活』

33ページをご参照ください。

家庭雑誌

96ページをご参照ください。

処女の友

98ページをご参照ください。

農家経済調査簿

104ページをご参照ください。

定価は消費税10%込

労働・社会運動

プロレタリア科学研究所 発行・編輯

何を読むべきか 全7巻

新藤雄介 解説
A5判・上製・総2,832頁
揃定価154,000円（揃本体140,000円+税10%）
'22年1月～2月配本完結〔復刻版〕

本誌は1932年11月にプロレタリア科学研究所にて発行・編輯、白揚社から発売された書評誌である。発行元と誌名は共に変遷し、1934年12月には「知識」と「生きた新聞」の二誌に分立した。「『何を』、『如何に』読むべきかを、プロレタリア科学運動の立場から、労働者や農民大衆に伝へることが目的」とし、文学誌上におけるブルジョア迎合的な文学論やファシズム文献を批判しプロレタリア諸運動にまつわる文献を紹介する。誌上で公表された販売部数から、全国の運動の理論武装に実際に活用された様子がうかがえる。
戦前期の青少年の読書・学習傾向に目が向けられる昨今の研究動向に対し、「何を読んできたのか」を示す資料として貴重である。
●推薦＝有山輝雄

安全第一協会 発行〔大正6年～大正8年刊〕

安全第一 全4巻・別冊1

別冊＝解説（堀口良一）・総目次・索引
A5判・上製・総2,092頁
揃定価77,000円（揃本体70,000円+税10%）
'07年10月刊〔復刻版〕

近代日本の産業革命期、多数の工場労働者が生み出され、それにともない様々な問題が生じた。初期の労働事情については『職工事情』に詳しいが、安全の問題はどうであったのか。工場法施工の翌年に創刊された本誌は、単に労働災害防止だけにとどまらない幅広い視点から、社会の安全化を図ろうとした日本で最初の社会安全運動の記録であり、現在に至る安全・安心社会への取り組みの原点である。社会政策史、近代史の基本資料として復刻。
●推薦＝玉井金五・村上陽一郎

福田狂二ほか 編〔大正12年～昭和6年・9年刊〕

進　め 全12巻・別冊1

別冊＝解説（田中真人）・総目次・索引
B5判・B4判・上製・函入・総4,280頁
揃定価264,000円（揃本体240,000円+税10%）
'89年9月～'90年2月配本完結〔復刻版〕

本誌は、第一次世界大戦後の労働運動・社会運動の高揚期に創刊された社会運動機関誌である。その執筆陣は豊富で、堺利彦・荒畑寒村・山川均ら社会主義者、アナキストの中浜鉄、共産党の徳田球一ほか麻生久・鈴木文治・浅沼稲次郎・山川菊栄そして小川未明・小牧近江・前田河広一郎など多彩を極めている。大正デモクラシーの高揚とともに生成・発展し、やがてその終焉とともに思想的位相を大きく変質させていった本誌は、社会運動史資料の宝庫といえよう。
●推薦＝小松隆二・斎藤　勇・渡辺悦次・渡部　徹

内務省警保局 編

社会運動の状況 大正15年版 昭和2年版 全2巻

荻野富士夫 解題
A4判・上製・総812頁
揃定価55,000円（揃本体50,000円+税10%）
'94年12月刊〔復刻版〕

内務省警保局刊行の社会運動関係の定期刊行物のうち、年報形式のものは『社会運動の状況』があり、復刻版（昭和3～17年・三一書房刊）が刊行されている。しかし、『社会運動の状況』として一冊にまとめられ活版印刷にされるのは、昭和4年以降であり、それ以前は、社会主義運動・労働運動・農民運動・水平運動・在留朝鮮人・無産政党運動などに分かれて謄写版印刷で刊行されていた。
弊社では、日本大学法学部図書館・山岡文庫所蔵本の発掘により、大正15年、昭和2年の2年分を復刻刊行した。

廣畑研二 編・解説

一九二〇年代 社会運動関係警察資料 全12リール・別冊1

別冊＝解説（廣畑研二）・総目録・索引
揃定価220,000円（揃本体200,000円+税10%）
'03年11月刊〔マイクロフィルム版〕

本マイクロフィルム版に収録した115点の文書は、1920年代の国内外での社会運動取り締りに関する警察資料である。文書の資料源は内閣書記官室（13点）、内務省警保局（4点）、警視庁警視総監室（98点）であり、新発見文書が多数含まれている。これらの文書の中には、内務省警保局『大正十四年中ニ於ケル労働運動ノ状況』のように、『社会運動ノ状況』のシリーズのうち発掘が待望されてきた「大正14年版」3分冊も含まれている。本資料群は、戦前期警察資料の空白を補うものとして貴重である。
●推薦＝荻野富士夫

映像で見る 賀川豊彦とその時代

DVD-Video　全１枚・別冊１

別冊＝解説（鈴木裕子・加山久夫）
定価 8,800 円（揃本体 8,000 円＋税10%）
'09年12月刊

【収録内容】全97分
『灯をともした人々―大正十年・川崎・三菱大争議の記録』
（1921年撮影・1958年再編集、22分）
『A DAY WITH KAGAWA』
英語版（無声・1938年、49分）
日本語版（1988年再編集、20分）
『賀川豊彦氏の一日』（無声・1956年、6分）

堀口良一 著

安全第一の誕生
――安全運動の社会史〔増補改訂版〕

日本において、「安全第一」という概念がいかに誕生し、浸透していったのか。その運動の思想と活動を蒲生俊文（1883～1966年）に焦点をあて、実証的に解き明かす。

● Ａ５判・上製・418 頁・定価 2,970 円／'15年３月刊

琴坂守尚 編・解説

磯野小作争議・小樽港湾争議 資料集

1927年におこった「労農共闘」の典型といわれるこの２つの争議は、わが国労働運動史上注目すべきものであり、小林多喜二をして数多くの作品を生ましめ、革命家たらしめた。

● Ｂ５判・上製・函入・282 頁・定価 8,800 円／'90年７月刊〔復刻版〕

労働週報社 刊〔大正11年～大正12年刊〕
藤田富士男 解説

労働週報

労働組合同盟会共同機関紙。平沢計七ほか編。各地の労働争議・小作争議をつぶさに報道した、当時唯一の労働者のための報道機関紙。

● 推薦＝鎌田　慧
● Ｂ４判・上製・函入・202 頁・定価 17,600 円／'98年10月刊〔復刻版〕

賀川豊彦 著・画／義根益美 解説

空中征服――賀川豊彦、大阪市長になる

眠れない真夏の夜、貧困者支援をおこなう伝道師であり、労働争議の指導者であった賀川豊彦が、貧民窟で見た夢は……。ユーモアに満ちた挿絵と、ＳＦ仕立てで痛快に綴る、大正期のベストセラー。

● 四六判・並製・280 頁・定価 1,980 円／'09年４月刊〔復刻版〕

渡部　徹 解説／堀切利高 編・解題〔大正８年～大正10年刊〕
大正労働文学研究会 発行【取扱図書】

日本労働新聞

本紙は、大正８年３月、岩出金次郎により労資協調を標榜し創刊された月刊の労働運動評論紙である。社会主義運動史・労働運動史研究上で、きわめて高い史料的価値をもっている。全28号を収録。

● Ａ４判・上製・函入・272 頁・定価 13,200 円／'83年10月刊〔復刻版〕

飯田　進 著

青い鳥はいなかった
――薬害をめぐる一人の親のモノローグ

著者は、1963年「子どもたちの未来をひらく父母の会」を創設した。本書は、障害児の親の会運動の葛藤を痛恨の思いをこめて語る。

● 四六判・上製・320 頁・定価 2,200 円／'03年７月刊

佐々木敏二・小田切明徳 編集

山本宣治写真集

民衆と自由と平和を愛し、無産階級の解放運動に身を投じた山本宣治の生涯と人柄を辿る写真集。1979年に生誕90周年・没後50周年を記念して刊行されたものの増補改訂版。

● Ｂ５判・上製・106 頁・定価 4,180 円／'02年２月刊

岡田洋司 著

大正デモクラシー下の〝地域振興〟
――愛知県碧海郡における
非政治・社会運動的改革構想の展開

本書は、第一次世界大戦後から昭和恐慌期にかけて、愛知県碧海郡一帯で展開した〝地域振興〟の動きを解明し、この時期の農村社会＝地域社会の民衆の意識・行動を検証する。

● Ａ５判・上製・函入・444 頁・定価 9,900 円／'99年10月刊

岡林伸夫 著

ある明治社会主義者の肖像
［山根吾一覚書］

『渡米雑誌』主幹山根吾一――片山潜・西川光次郎・幸徳秋水・堺利彦・木下尚江・石川三四郎・山路愛山といった著名な名前に囲まれて登場する――の人物像。その生涯を数少ない資料から描き出す。

● 四六判・上製・356 頁・定価 4,180 円／'00年３月刊

瀬戸口勝義 著

「我が職業は普通選挙なり」
――中村太八郎とその周辺

中村太八郎（1868―1935）は、日本の普通選挙権獲得運動の基礎を築き、生涯を「貧者弱者労働者小作人及婦人」のために捧げた。本書は、埋もれたその生涯を運動を闘った人々とともに描き出す。

● 四六判・上製・316 頁・定価 3,520 円／'01年１月刊

定価は消費税10％込

ひろば	95ページをご参照ください。
評伝 賀川ハル	101ページをご参照ください。

近現代文学

渥美孝子 翻刻・解説

宮本百合子裁判資料
――「手記」と「聴取書」

四六判・上製・528頁
定価 6,600円（揃本体 6,000円＋税10%）
'20年11月刊

宮本百合子の治安維持法裁判の弁護資料として鈴木義男弁護士によって裁判資料中から謄写されて残された『治安維持法違反（一）宮本ユリ』を翻刻。率直に綴られた手記などからは百合子の作家としての覚悟が窺える。また、特高によって検挙された被疑者の司法処分に関わる聴取書などの残存はごく稀なため、本資料は治安維持法裁判の司法「処理」の過程を具体的に示すものとして価値が高い。百合子研究、プロレタリア文学研究には必携資料であるほか、治安維持法研究にも大きく貢献しよう。
●**推薦**＝荻野富士夫・中川成美

与謝野寛・晶子 主宰〔昭和５年～昭和27年刊〕

冬　柏　全26巻・別冊１

別冊＝総目次・索引
Ａ５判・上製・総約15,300頁
揃定価 517,000円（揃本体 470,000円＋税10%）
'17年10月～'20年1月配本完結〔復刻版〕

『明星』終刊後、晩年の与謝野寛・晶子が最も力を注いだのが雑誌『冬柏』であった。寛が1935年、晶子が1942年に没して後、平野万里、田中悌六、近江満子らが二人の遺志を引き継ぎ、戦後の1952年まで刊行された。
収録内容は、短歌を中心に現代詩・小論・随筆・漢詩・絵画等幅広い。また、巻末の「消息」欄は、寛・晶子をはじめ新詩社同人の活動や動向が詳細に記されていて貴重である。
『明星』とならび、寛・晶子研究にとってはもちろん、短歌および短歌史、文学史研究に欠かせない重要資料である。
●**推薦**＝太田　登・澤　正宏・馬場あき子・今川英子

改造社 発行〔昭和８年～昭和19年刊〕

文　藝　全60巻・別冊１

別冊＝解説（山下真史）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総31,286頁
揃定価 1,051,600円（揃本体 956,000円＋税10%）
'11年６月～'15年１月配本完結〔復刻版〕

『文藝』は、満洲事変を境に思想弾圧が強化されプロレタリア文学が壊滅するなか、新たな文芸復興の機運を背景として、『文學界』にひと月遅れて創刊され、『新潮』とならぶ昭和10年代の代表的文芸雑誌となった。創作、評論を中心とし、海外文学も積極的に紹介したが、太平洋戦争開戦後の文芸雑誌に対する一層の監視下、戦時色が際立つ誌面となり、1944年軍部の圧力により廃刊に至った。同時期に刊行された『文學界』（弊社より復刻版既刊）とあわせて、昭和戦前・戦中期の文壇状況を研究する上で必須の文芸雑誌である。
●**推薦**＝安藤　宏・太田哲男・川津　誠・木村一信

文藝春秋社 発行〔昭和11年～昭和19年刊〕

文學界　全42巻・別冊１

別冊＝解説（樫原　修・田中励儀）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総21,852頁
揃定価 693,000円（揃本体 630,000円＋税10%）
'08年９月～'11年１月配本完結〔復刻版〕

本誌は昭和８年に創刊された文芸雑誌の雄である。
創刊当時の編集同人は武田麟太郎、林房雄、小林秀雄、川端康成、深田久弥、広津和郎、宇野浩二の７名。創刊以来、個人主義と芸術主義を積極的に主張する立場を明確に掲げ、昭和10年代文学に主導的な、極めて大きな役割をはたした。弊社では、未復刻であった、３巻７号から戦前の終刊号となる11巻４号までを復刻し、文学空間を埋め江湖に提供する次第である。
●**推薦**＝池内輝雄・栗原　敦・紅野敏郎・長谷川啓

少年園 刊〔明治28年～明治43年刊〕

文　庫　全40巻・別冊１

別冊＝解題（関　肇）・総目次・索引
Ａ５判・Ｂ４判・上製・総25,510頁
揃定価 987,800円（揃本体 898,000円＋税10%）
'05年11月～'08年９月配本完結〔復刻版〕

『文庫』は、明治28年に創刊され、明治43年の終刊まで、全246冊が刊行された投書雑誌である。編集は河井酔茗・五十嵐白蓮・小島烏水・千葉亀雄らが当り、自由な自己表現を追究し、文学青年の「共和国」を形成した。内容は論説・紀行文・小説・詩・俳句・和歌・漢詩など多岐にわたり、とりわけ詩においては、横瀬夜雨、伊良子清白らの「文庫派」と呼ばれる詩人を輩出した。教育、歴史、思想・出版等の研究に欠くことのできない貴重雑誌である。
●**推薦**＝上笙一郎・紅野謙介・近藤信行・野山嘉正

日光社 発行〔大正13年～昭和２年刊〕

日　光 全10巻・別冊１

別冊＝解説（田中　綾）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総4,688頁
揃定価198,000円（揃本体180,000円＋税10%）
'16年10月～'17年６月配本完結〔復刻版〕

本誌は大正13年に創刊された短歌雑誌である。北原白秋、前田夕暮、古泉千樫、土岐善麿、川田順、釈迢空（折口信夫）、石原純らが編集同人として参加した。
当時の最有力誌『アララギ』の歌風に飽き足らない人々が発表の場を求めて集まり、自由で清新な誌上の雰囲気の中で互いに切磋琢磨し後世に名作を残していき、口語短歌運動の流れを勢いづけた。昭和期に活躍した女性歌人が多く参加したのも特徴のひとつである。
●**推薦**＝佐佐木幸綱・北原東代・山田　航

後藤宙外 主宰〔明治30年～明治31年刊〕

新著月刊 全15冊・別冊１

別冊＝解説（山本昌一）・総目次・索引
Ａ５判・並製・函入・総4,270頁
揃定価121,000円（揃本体110,000円＋税10%）
'88年10月～'89年４月配本完結〔復刻版〕

小説を中心とする月刊の文学雑誌。編集は後藤宙外、ほかに島村抱月、伊原青々園、水谷不倒、小杉天外ら東京専門学校（現在の早稲田大学）出身者が同人として関わった。寄稿はほかに広津柳浪、坪内逍遙、泉鏡花などで、自然主義文学の草創期を体現している。また、島崎藤村、薄田泣菫らが新体詩を発表していることも見逃せない。明治20年代、紅露逍鷗時代の継承と後進世代の小説台頭の機運形成に大いに寄与した雑誌、全15号を原本通り復刻。
●**推薦**＝清水　茂・畑　実・平岡敏夫・三瓶達司

田岡嶺雲・山県五十雄 主筆／少年園 発行
〔明治28年～明治30年〕

青年文 全４巻・別冊１

別冊＝解説（西田　勝）・総目次・索引
Ｂ５判・上製・総1,412頁
揃定価66,000円（揃本体60,000円＋税10%）
'03年12月刊〔復刻版〕

のちに反骨の文芸評論家として知られることになる田岡嶺雲（1870～1912）が友人の山県五十雄とともに責任編集した文芸投稿雑誌。発行所は五十雄の兄・山県悌三郎が経営する少年園。大学を卒業したばかりの嶺雲が、佐々醒雪・笹川臨風らと果敢な文芸批評を展開し、投書欄では若き日の徳田秋声も激しい社会批判を展開している。投稿雑誌の枠を越えた文芸批評誌として近代文学・近代史研究に必須の文献である。
●**推薦**＝槙林滉二・平出　隆

陽　其二・堀越修一郎ほか 編〔明治10年～明治31年刊〕

穎才（えいさい）新誌 全20巻・別冊１

別冊＝解説（上笙一郎）・総目次・索引
Ｂ５判・上製・総9,732頁
揃定価506,000円（揃本体460,000円＋税10%）
'91年12月～'93年12月配本完結〔復刻版〕

本誌は、自由民権運動のただ中に創刊された全国的規模の投稿雑誌の先駆である。明治初期・中期の青少年たちの文章・絵画・詩歌・書の晴舞台であった本誌は、「明治文学の幼稚園」と呼ばれるほど、のちに多くの作家・政治家・学者を輩出した。1870～90年代日本の、地方も含めた文化・社会状況を生々しく体現する第一級資料として近代思想史・教育史・文学史研究に提供するものである。
●**推薦**＝大久保利謙・上笙一郎・唐澤富太郎・佐藤秀夫・久木幸男・堀越克明・本田和子

石井研堂 主宰〔明治22年～明治28年刊〕

小国民 全16巻・別冊１

復刻版編集＝上笙一郎・上田信道
別冊＝解説（上笙一郎）・解題（上田信道）・総目次・索引／付＝『「小国民」綜覧（石井研堂編）』（1941年）
Ｂ６判・Ａ５判・上製・総7,980頁
揃定価316,800円（揃本体288,000円＋税10%）
'98年11月～'99年10月配本完結〔復刻版〕

本誌は、児童文学・児童文化の草創期に創刊された少年・少女向け児童総合雑誌の嚆矢である。のちに創刊された博文館の『幼年雑誌』と人気を二分したが、あくまで優位を保ち、多くの読者をとりこにした。執筆はほとんど石井研堂ひとりが行なったが、ほかにも幸田露伴・小山内薫・金田一京助・鈴木三重吉などが寄稿した。本復刻では、創刊から誌名が「少国民」に改まる1895年までを対象とし、児童文学史及び近代教育史・文学史研究に呈するものである。
●**推薦**＝勝尾金弥・本田和子・山口昌男・山住正己

貴司山治 主宰〔昭和10年～昭和12年刊〕

文学案内 全10巻・別冊１・付録１

別冊＝解題（浦西和彦）・総目次・索引
付録＝「小さい花束」／ハイネ・バルザック肖像写真／「文学新聞」（２号・８号）
菊判・上製・総3,452頁
揃定価154,000円（揃本体140,000円＋税10%）
'05年６月～10月配本完結〔復刻版〕

本誌は、大衆小説作家であり、プロレタリア文化運動の中心人物の一人として知られる貴司山治が主宰し、昭和10年10月に創刊された。文学好きの勤労大衆に創作の見本を示し、「生産・勤労の場面を描いた小説」を募集・掲載し、労働者の中から作家を養成することを目的とし、アジアの文学作品の紹介、全世界の労働者文学の現状を報告するなど、労働運動史・プロレタリア文学史・旧植民地文学史の研究者にとって貴重な資料である。全22号を復刻。
●**推薦**＝伊藤共治・浦田義和・黒古一夫・紅野敏郎

犬田　卯・鑓田研一ほか 主宰〔昭和２年～昭和8年刊〕

農　民 全５巻・別冊１

別冊＝解説（高橋春雄）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総 2,542 頁
揃定価 93,500 円（揃本体 85,000 円＋税10%）
'90年10月刊〔復刻版〕

シャルル・ルイ・フィリップの記念講演会をきっかけに農民文学運動が興隆した1920年代、本誌は犬田卯らが農民文芸会の機関誌として創刊した。大同団結をうたって都市のプロレタリア文学と一線を画しての農民自身による解放・文化創造を目的としたが、政府側の弾圧と運動内部の思想的対立によって幾度かの創廃刊を繰り返す。戦前の農民運動・農民文学運動研究に必須の重要資料として、付録の「農民リーフレット」「農民自治」をも合わせて復刻する。
●**推薦**＝小田切秀雄・住井すゑ・林　宥一

現代日本詩集
1927年～1944年　全５巻・別冊１

別冊＝解説（澤　正宏）・執筆者索引
Ａ４判・上製・総 1,770 頁
揃定価 137,500 円（揃本体 125,000 円＋税10%）
'09年12月～'10年５月配本完結〔編集復刻版〕

昭和戦前・戦中期にかけて、その年に活躍した詩人とその作品を紹介する「年鑑詩集」がほぼ毎年刊行されていた。有名無名を問わず多くの詩人を紹介するこの詩集は、まさに当時の「詩壇の縮図」ともいうべきものである。本資料集成には、1927年から1944年にわたって刊行された「年鑑詩集」22点が収録され、総1,100名にもおよぶ詩人のデータおよび3,800の作品が含まれている。
昭和戦前・戦中期における「現代詩アンソロジー」の集大成。
●**推薦**＝阿毛久芳・佐々木幹郎

エポツク社 発行〔大正13年～大正15年刊〕

ゲエ・ギムギガム・プルルル・ギムゲム
全10冊・別冊１

別冊＝解説（梅宮弘光・五十殿利治・澤　正宏・西田勝）・総目次・索引
Ｂ５判変形・並製・函入・総 258 頁
揃定価 33,000 円（揃本体 30,000 円＋税10%）
'07年７月刊〔復刻版〕

築地小劇場が開場した1924年６月、野川隆、橋本健吉（北園克衛）、玉村善之助ら若き詩人たちが「既成文壇への挑戦」を掲げて、様々な「言語実験」をちりばめた詩雑誌を創刊した。この『Ｇ・Ｇ・Ｐ・Ｇ』は震災後の状況を背景に出現した詩誌であり、日本のダダイズムの詩が最もピークに達した時に創刊され、日本のシュールレアリスムの詩がスタートしようとした年に終刊したことの意味は大きくて深い。
『マヴォ』に匹敵する幻の文芸雑誌、待望の復刻！
●**推薦**＝五十殿利治・澤　正宏

富士正晴・野間　宏・桑原静雄 主宰〔昭和７年～昭和17年〕

三　人 全６巻・別冊１

別冊＝解題（山田博光）・回想（荒木　傳、伊東幹治、大川公一、尾末奎司、北野昭彦、野間光子、平林　一、廣重　聰、冨士正夫）・総目次・索引
Ｂ５判・Ａ５判・上製・総 2,334 頁
揃定価 99,000 円（揃本体 90,000 円＋税10%）／'02年７月刊〔復刻版〕

本誌は、象徴派詩人・竹内勝太郎に師事した三高の３人の学生が創刊した詩雑誌である。同人誌『三人』には、富士正晴の後半生を予感させる詩生活第１作「神々の宴」や野間宏の戦後の文壇出世作『暗い絵』の原型となった初めての小説「車輪」など、目を瞠る多くの習作が収録されている。1942年、内務省の指示による同人雑誌統合をきらい、第28号で廃刊した。創刊号から終刊号までの全28号を復刻し、近代文学・思想研究者に提供するものである。
●**推薦**＝川村　湊・黒井千次・長谷川龍生

文芸時報社 刊〔大正14年～昭和５年刊〕

文芸時報 全３巻・別冊１

別冊＝解題（山内祥史）・総目次・索引
Ｂ４判・上製・函入・総 1,208 頁
揃定価 77,000 円（揃本体 70,000 円＋税10%）
'87年12月刊〔復刻版〕

本紙は、「文芸界に於ける唯一の文芸新聞」として創刊された文壇情報紙である。執筆者も当時の文壇を代表する、芥川龍之介・菊池寛を始めとする大型・中堅の作家・評論家を揃え、また1920年代後半の文壇の状況を舞台裏など様々な面から照射し、いきいきと映しだしている点でも貴重な資料である。美術を中心に芸術関係の記事が多いことも特色のひとつである。本紙の復刻は、文学史・近代史研究に新たな書き換えを迫るものとなろう。全150号を収録。
●**推薦**＝青山　毅・匠　秀夫・保昌正夫・森本　修

日本文学報国会 刊〔昭和18年～昭和20年刊〕

文学報国

解題（山内祥史）・解説（高橋新太郎）・総目次・索引付き
Ａ３判・上製・函入・総 160 頁
定価 19,800 円（揃本体 18,000 円＋税10%）
'95年２月再刊〔復刻版〕

本紙は、太平洋戦争下の昭和17年５月に、国策の周知徹底と宣伝普及のため情報局の指導により発足した日本文学報国会の機関紙である。その後期に同じ役割を果たした日本文芸中央会の機関紙『日本学芸新聞』（弊社にて復刻刊行済み）の後継紙でもある。言論の自由を完全に奪い去った後の文化統制下の知識人・文化人の状況を明らかにし、帝国主義戦争と文学とアジアの問題を考える重要な材料として復刻するものである。
●**推薦**＝尾崎秀樹・小田切進・久保田正文

文芸懇話会 刊〔昭和11年～昭和12年刊〕

文芸懇話会 全2巻・別冊1

別冊＝解説（高橋新太郎）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総1,516頁
揃定価58,300円（揃本体53,000円＋税10%）
'97年6月刊〔復刻版〕

本誌は、文壇・文学者のファシズム統合への道を拓いた官民合同の文学団体＝文芸懇話会の機関誌である。同会は1934年3月、内務省警保局長松本学が文化統制を目的に直木三十五らファッショ作家を抱え込んで創立、大衆文学・自由主義までの多くの作家を取り込むことに成功した。編集は交代制で、川端康成・菊池寛・室生犀星・吉川英治・徳田秋声・島崎藤村・佐藤春夫ら。国家の文化政策とそれに対峙する文学者とのせめぎ合いを明らかにする。
●**推薦**＝海野福寿・榎本隆司

武田麟太郎 主宰〔昭和11年～昭和13年刊〕

人民文庫 全26冊・別冊1

別冊＝解説（小田切秀雄）・総目次・索引
菊判・Ｂ６判・並製・総5,034頁
揃定価198,000円（揃本体180,000円＋税10%）
'96年6月刊〔復刻版〕

二・二六事件のまさに10日前に創刊された本誌は、内務省の後押しで文芸統制のために結成された文芸懇話会や一部にファッショ的傾向のある『日本浪漫派』などの文学の体制内化を厳しく糾弾し、被抑圧階級＝庶民に文学の起点を求めた。
反ファシズム・人民文学志向の文学雑誌として、苦悩する若い左翼文学者たちの戦前最後の砦となった本誌が、文学史上・近代史上に占める位置は重要である。
●**推薦**＝池田浩士・小田　実・長谷川啓・水上　勉

図書新聞社 刊〔昭和24年～昭和63年刊〕

図書新聞 全四期 全37巻・別冊4

解説＝矢口進也（第一期別冊に収録）
第１期 揃定価257,400円　全９巻・別冊１
第２期 揃定価257,400円　全９巻・別冊１
第３期 揃定価283,800円　全10巻・別冊１
第４期 揃定価269,500円　全９巻・別冊１
Ｂ４判・Ａ４判・上製・総15,962頁
'89年5月～'92年2月配本完結〔復刻版〕

『図書新聞』は、1949（昭和24）年6月、『日本読書新聞』編集長であった田所太郎によって創刊された。戦後の混沌のなかにも新しい日本創造の機運が大きく高まっていた頃に登場し、現在も引き続き刊行されている本紙は、戦後から現在にかけての日本の出版事情及び文化状況をそのまま伝える書評紙である。先行の書評紙『日本読書新聞』とともに、戦後の日本社会・思想界・文化界の状況を伝える貴重な資料である。
●**推薦**＝稲葉三千男・瀬戸内寂聴・布川角左衛門・野間　宏

㈱読書人 発行〔昭和24年～昭和58年刊〕

週刊 読書人 全Ⅲ期 全27巻

第Ⅰ期 揃定価277,200円　全９巻
第Ⅱ期 揃定価277,200円　全９巻
第Ⅲ期 揃定価277,200円　全９巻
Ｂ４判・上製・総11,524頁
'96年5月～'98年12月配本完結〔縮刷版〕

『日本読書新聞』『図書新聞』と共に、我が国の代表的書評紙の一角をなす『週刊読書人』は1958年5月に創刊され今日まで継続して刊行されている。本紙は、先行2紙がその創立者の個性や編集者の思想的傾向を強く出した紙面構成であるのに対し、どちらかといえば、出版界全体を俯瞰した紙面が多いことを特徴とする。戦後の出版史を知る上で、また戦後の日本の文化状況を知る上で貴重な資料である。前身紙『全国出版新聞』『読書タイムズ』も収録。
●**推薦**＝栗原　均・田村紀雄・服部敏幸・松本健一

坪田譲治・藤井真澄ほか 主宰〔大正８年～大正９年刊〕
近代文学資料保存会刊（1963年）の増補復刻版

黒　煙 全10冊・別冊1

別冊＝回想（坪田譲治、新井紀一、内藤辰雄、吉田金重）・解説（西田　勝）・総目次
菊判・並製・帙入・総578頁
揃定価38,500円（揃本体35,000円＋税10%）
'92年11月刊〔復刻版〕

本誌は小川未明の青鳥会を母胎にして生まれた新浪漫主義的・反資本主義的文学雑誌として出発したが、のちに社会的文芸雑誌としての傾向を強め、民衆芸術を主張し、労働文学の機関となった。執筆者に未明・譲治・真澄のほか、丹潔・内藤辰雄・吉田金重・伊藤松雄・渡平民・新井紀一・馬場孤蝶・大庭柯公・堺利彦など。
1963年3月に日本近代文学研究所＝編集、近代文学資料保存会＝発行によって一部不備のまま復刻されたものを新たな原本の発見によってほとんどを補って販売するものである。
【取扱図書】

武者小路実篤 主宰〔大正10年～大正13年刊〕

生長する星の群 全10巻・別冊1

別冊＝解説（田中榮一）・総目次・索引
Ａ５判・上製・函入・4,914頁
揃定価154,000円（揃本体140,000円＋税10%）
'89年9月～'90年4月配本完結〔復刻版〕

「白樺」派と「新しき村」の人々を総動員した本誌は、個性豊かな武者小路実篤の大山脈を知る手掛りとなろう。各々の個性が花開くかのような「白樺」派の面々による翻訳の数々、岸田劉生の愛らしい表紙画――大正期の文壇・文学史を多面的に研究する上で不可欠の文献。雑誌『新しき村』と合併・改題した『人間生活』もあわせて全39冊を合本し復刻。
●**推薦**＝今井信雄・紅野敏郎・渡辺貫二

定価は消費税10％込

中里介山 主宰〔昭和10年～昭和11年刊〕

峠 全7冊・別冊1

別冊＝解説（伊藤和也）・総目次・索引
菊判・並製・函入・総1,050頁
揃定価19,800円（揃本体18,000円＋税10%）
'87年8月刊〔復刻版〕

本誌は、「大菩薩峠」で知られる作家・中里介山の「純粋個人雑誌」である。やはり介山の編集による『隣人の友』（大正15年創刊）とともに、介山とその周辺を辿るには必須の文献である。
〈第1号の内容〉
峠といふ字／わが元旦／著作道徳及著作権論（第一）／五日の旅／続日本武術神妙記／背景画家オツルナーの心境（創作）／紅雪記（長篇小説）／交遊録（其一）／わが古今人物観（其一）／漢詩提唱／李白（其一）／大菩薩峠脚本（東海道白根山連幕の巻終）／聖徳太子の研究／編輯餘録

荻原井泉水 主宰〔明治44年～昭和19年刊〕

層　雲 全97巻

A5判・上製・総38,722頁
揃定価1,817,200円（揃本体1,652,000円＋税10%）
'96年6月～'02年9月配本完結〔復刻版〕
第Ⅰ期〔明治・大正期〕全47巻（揃定価827,200円）
第Ⅱ期〔昭和戦前期〕全50巻（揃定価990,000円）

本誌は、形式をきらい、内在的・主観的立場から句を生み出すために、季語無用・定型破壊を掲げた自由律俳句の舞台となった俳句雑誌である。創刊時には新傾向運動の河東碧梧桐を戴いたが、碧梧桐が去ったあとは、自由律俳句の牙城として野村朱鱗洞・芹田鳳車・尾崎放哉・種田山頭火・栗林一石路などの俳句作家を輩出した。
近代文学史上、また近代俳句史上、重要な位置を占める本誌を復刻し、研究機関・研究者諸氏に呈する。
●推薦＝金子兜太・佐佐木幸綱・坪内稔典・夏石番矢・山下一海

貴司山治研究会 編

貴司山治全日記 DVD版 全4枚・別冊1

別冊＝『貴司山治研究』（解説＝伊藤　純・浦西和彦・鳥羽耕史・中川成美・森　久男・安岡健一、解題＝貴司山治研究会、分売可・定価7,700円（本体7,000円＋税10%））
検索システムインストールディスクCD（1枚）付き
揃定価315,700円（揃本体287,000円＋税10%）
'11年1月刊

貴司山治はプロレタリア文学運動のなかで、多くの作品を生み、一貫して芸術の大衆化の問題を追究し続けた。創作活動を軸に、労働運動の「同伴者」としての立場を貫くが、1937年治安維持法違反による3度目の検挙ののち「完全転向」、戦争末期に京都で開拓に従事し、敗戦直後は開拓農民運動に参加、その後も多くの大衆小説を発表する。本資料は、1919年から71年までの日記と関連資料を完全デジタル化し、人名検索機能を付した。プロレタリア文学研究の新たな一頁を開く。
●推薦＝佐藤卓己・鶴見俊輔・ノーマ フィールド

趙　夢雲 編・著

「日本近代文学における上海」研究文献目録
1840年―1945年

本書は1840年から1945年までの間に日本人によって発表された上海を舞台とする小説、随筆、従軍記、詩及び上海に関する人文・社会関係の資料等を年表形式で網羅した。当時の社会情勢や文芸事象を付し、日本と上海との関係を通覧することもできる。
●A5判・上製・函入・260頁・定価6,380円／'14年2月刊

宮嶋資夫 著／西田　勝 解説〔1916年刊〕
法政大学西田研究室 編【取扱図書】

坑　夫

発行と同時に「残忍」な個所があるという理由で発売禁止となり紙型も押収されたため稀覯本となっている本書は、日本プロレタリア文学の先駆的作品である。序文＝堺　利彦・大杉　栄
●四六判・並製・200頁・定価2,220円／'92年7月刊〔復刻版〕

文学時標社 刊〔昭和21年刊〕

文学時標

敗戦直後に創刊された本誌は、文学者の戦争責任を問い、様々な立場の人々との連帯を目差した、文学史上重要な存在である。回想（小田切秀雄・小田切進・佐々木基一）・解説（伊藤成彦）・総目次・索引付き。
●B5判・上製・90頁・定価2,220円／'86年11月刊〔復刻版〕

大和田茂 著

社会文学　一九二〇年前後
――平林初之輔と同時代文学

「民衆」が歴史の表舞台に初めて登場し、労働運動が花開いた1920年前後の軍縮と「デモクラシー」の時代、文学は何を表現したのか。知られざる文学史の一面を鮮明に照射した意欲作。
●四六判・上製・344頁・定価3,080円／'92年6月刊

田岡嶺雲 著／西田　勝 解説〔1910年刊〕
西田　勝・平和研究室 発行【取扱図書】

病中放浪

1906年7月から1909年11月までに書かれたエッセイを集めた、嶺雲最後の著作集。手記や書簡の形式で文明評論を展開。序＝大町桂月ほか、跋＝斎藤弔花、装丁＝小杉未醒、挿画＝小川芋銭。
●四六判・並製・函入・250頁・定価3,850円／'00年6月刊〔復刻版〕

田岡嶺雲・小川芋銭 著／西田　勝 解説〔1908年刊〕
西田　勝・平和研究室 発行【取扱図書】

有聲無聲

老荘の世界に遊んだ芋銭の27枚の漫画と自賛、それらに嶺雲の1907年夏から歳末までに書かれた、鋭い文明批評を潜めたエッセイを加えた画文集。
●四六判・並製・函入・158頁・定価2,200円／'00年6月刊〔復刻版〕

定価は消費税10%込

平沢計七 著／西田　勝 解説〔1919年刊〕 西田　勝・平和研究室 発行【取扱図書】 創作 労働問題	労働運動の天才的指導者・平沢計七が生前に残した唯一の小説戯曲集。本書の序で予言したとおり、関東大震災の混乱のさなかに軍警によって虐殺（亀戸事件）された平沢の真骨頂を示す。 ●四六判・並製・函入・288頁・定価6,600円／'03年10月刊
『安成貞雄文芸評論集』編集委員会 編・著 安成貞雄（やすなりさだお）——その人と仕事	「高等幇間」を自称、大正文壇の三奇人のひとりとして知られ、論壇の鬼才と謳われ、社会主義文芸評論家にしてエンサイクロペディスト＝安成貞雄（1885～1924）の全貌を浮かび上がらせる。 ●Ａ５判・並製・228頁・定価2,750円／'04年７月刊
犯罪科學	14ページをご参照ください
精神分析〈戦前編〉	15ページをご参照ください。
成功	16ページをご参照ください。
検証 藤村操	17ページをご参照ください。
愛生〈戦前編〉	23ページをご参照ください。
万寿果	23ページをご参照ください。
日系アメリカ文学雑誌集成	37ページをご参照ください。
黒死病——加藤秀造小説集	66ページをご参照ください。
三好十郎著作集	79ページをご参照ください。
映画創造	80ページをご参照ください。
明治漢文教科書集成	105ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

社会文学　日本社会文学会 編・発行

年２回（'00年まで年１回）発行の研究論文集
Ａ５判・並製【既刊分合計定価 111,320 円（本体 101,200 円＋税10%）】

創刊号―特集・民権と文学
168 頁・定価 1,650 円／'95年11月再刊

第２号―特集・女性解放と文学
182 頁・定価 1,650 円／'97年10月再刊

第３号―特集・天皇制と文学
164 頁・定価 1,650 円／'97年２月再刊

第４号―特集・核と文学
183 頁・定価 1,650 円／'90年７月刊

第５号―特集・言論の自由と文学
218 頁・定価 1,980 円／'04年３月再刊

第６号―特集・環境と文学
160 頁・定価 1,980 円／'92年７月刊

第７号―特集・近代文学研究のパラダイム
206 頁・定価 1,980 円／'93年７月刊

第８号―特集・関東大震災と文学
156 頁・定価 1,980 円／'94年７月刊

第９号―特集・戦争と文学
196 頁・定価 1,980 円／'95年７月刊

第10号―特集・文学における社会性
120 頁・定価 1,980 円／'96年７月刊

第11号―特集・ジェンダーの探求
172 頁・定価 1,980 円／'97年６月刊

第12号―特集・第二次世界大戦と文学者
182 頁・定価 1,980 円／'98年６月刊

第13号―特集・ポストコロニアリズムへの視点
156 頁・定価 1,980 円／'99年６月刊

第14号―特集・中野重治
198 頁・定価 1,980 円／'00年６月刊

第15号―特集・「女」と行為主体
160 頁・定価 1,980 円／'01年６月刊

第16号―特集・読むことの倫理
204 頁・定価 1,980 円／'01年12月刊

第17号―特集・海峡
212 頁・定価 1,980 円／'02年８月刊

第18号―小特集・文学へどう向き合うか
180 頁・定価 1,980 円／'03年１月刊

第19号―特集・幻想としての〈地方〉
196 頁・定価 1,980 円／'03年９月刊

第20号―特集・二つの帝国の狭間で
196 頁・定価 1,980 円／'04年６月刊

第21号―特集・帝国の周縁
206 頁・定価 1,980 円／'05年４月刊

第22号―小特集・現代文化の臨界点
144 頁・定価 1,760 円／'05年６月刊

第23号―特集・記憶と文学
186 頁・定価 1,980 円／'06年２月刊

第24号―特集・詩
196 頁・定価 1,980 円／'06年６月刊

第25号―特集・〈働くこと〉と〈戦争すること〉
176 頁・定価 1,980 円／'07年２月刊

第26号―特集・「在日」文学
252 頁・定価 1,980 円／'07年６月刊

第27号―特集・アジアの女性表現
196 頁・定価 1,980 円／'08年２月刊

第28号―特集・文学の〈今〉を問う
168 頁・定価 1,980 円／'08年７月刊

第29号―特集・環「日本海」文学の可能性
180 頁・定価 1,980 円／'09年２月刊

第30号―特集・女性文学は、いま
198 頁・定価 1,980 円／'09年６月刊

第31号―特集・テクストの中の「戦争」
171 頁・定価 1,980 円／'10年２月刊

第32号―特集・日露戦争と文学
194 頁・定価 1,980 円／'10年６月刊

第33号―特集・一九五〇年代文学の可能性を探る
219 頁・定価 1,980 円／'11年２月刊

定価は消費税10％込

第34号―特集・詩的言語の可能性
184 頁・定価 1,980 円／'11年 6 月刊

第35号―特集・「種蒔く人」と秋田
186 頁・定価 1,980 円／'12年 2 月刊

第36号―特集・〈3・11〉以降の社会と文学
176 頁・定価 1,980 円／'12年 8 月刊

第37号―特集・転向点・1933
210 頁・定価 1,980 円／'13年 2 月刊

第38号―特集・大量死に立ち向かう
150 頁・定価 1,980 円／'13年 7 月刊

第39号―特集・関東大震災90年とアナキズム文学
216 頁・定価 1,980 円／'14年 2 月刊

第40号―特集・沖縄
162 頁・定価 1,980 円／'14年 7 月刊

第41号―特集・グローバルアジアと社会文学
192 頁・定価 1,980 円／'15年 3 月刊

第42号―特集・歴史の岐路
212 頁・定価 1,980 円／'15年 8 月刊

第43号―特集・貧困×ジェンダー×戦争
166 頁・定価 1,980 円／'16年 2 月刊

第44号―特集・震災後の文学は可能か
174 頁・定価 1,980 円／'16年 8 月刊

第45号―特集・日本とアメリカ
166 頁・定価 1,980 円／'17年 2 月刊

第46号―特集・「労働文学」成立百年
166 頁・定価 1,980 円／'17年 7 月刊

第47号―特集・戦後の詩と文化運動を問い直す
128 頁・定価 1,980 円／'18年 2 月刊

第48号―特集・井上ひさし
162 頁・定価 1,980 円／'18年 8 月刊

第49号―特集・ジャーナリズムとデモクラシー
190 頁・定価 1,980 円／'19年 3 月刊

第50号―特集・現代沖縄文学のたくらみ
188 頁・定価 1,980 円／'19年 8 月刊

第51号―特集・歴史学と文学
220 頁・定価 1,980 円／'20年 3 月刊

第52号―特集 1・三・一独立運動、五・四運動百年
特集 2・文学研究のサバイバルのために
214 頁・定価 1,980 円／'20年 8 月刊

第53号―特集・文学教育の未来
198 頁・定価 1,980 円／'21年 3 月刊

第54号―特集・権力化する社会と文学の希望
220 頁・定価 1,980 円／'21年 8 月刊

第55号―特集・文学から読み解く感染症
152 頁・定価 1,980 円／'22年 3 月刊

第56号―特集・東北・民主主義（デモクラシー）の源流
200 頁・定価 1,980 円／'22年 8 月刊

第57号―特集・沖縄「返還」50年
132 頁・定価 1,980 円／'23年 3 月刊

定価は消費税10％込

【戦後文化運動雑誌叢書】

■戦後文化運動雑誌叢書①
南風書房 発行／北川晃二 編〔昭和21年～昭和24年刊〕

午　前　全5巻・別冊1

解説（狩野啓子・長野秀樹・深野　治）・回想（北川晃二・伊藤桂一・大西巨人・風木雲太郎・都筑　均・那珂太郎・星加輝光・眞鍋呉夫）・総目次・索引
Ａ5判・上製・総2,104頁
揃定価99,000円（揃本体90,000円＋税10%）
'04年6月刊〔復刻版〕

本誌は昭和21年福岡の出版社・惇信堂が南風書房という発行所を立ち上げて、北川晃二を編集長として刊行した商業文芸誌である。敗戦直後で東京が未だ完全に機能していなかったことや、惇信堂が良質の紙を持っていたことなど、いくつかの条件が重なり、中央での出版ではなかったにもかかわらず、三島由紀夫、庄野潤三、中村真一郎、三好達治らにも作品発表の場を提供するなど、高い水準を保っていた。戦後直後の日本の状況をも伝える貴重資料。全25号。
●**推薦**＝大西巨人・紅野敏郎

■戦後文化運動雑誌叢書②
三帆書房 発行／大西巨人ほか 編〔昭和21年～昭和23年刊〕

文化展望　全3巻・別冊1

別冊＝解説（赤塚正幸・大西巨人・狩野啓子）・総目次・索引
Ｂ4判並製・Ｂ5判上製・総666頁
揃定価30,800円（揃本体28,000円＋税10%）
'04年6月刊〔復刻版〕

『文化展望』は、敗戦直後の福岡で新しい文化への欲求の発露として昭和21年に発行された。その創刊号には太宰治の「15年間」が掲載され、坂口安吾、野間宏なども作品を発表している。「この時代における新しいジエネレイシヨンの役割をいつも念頭に置」き、「絶えず〝第一義〟を目指して努力する」ことを掲げ、戦後の新しい時代への第一歩を模索しその答えを発信している。全13号。
●**推薦**＝大西巨人・紅野敏郎

■戦後文化運動雑誌叢書③

鵬・ピオネ・藝術前衛
全2巻・別冊1

別冊＝解説（赤塚正幸・麻生　久・出海溪也）・総目次・索引
菊判・上製・総886頁
揃定価38,500円（揃本体35,000円＋税10%）
'04年6月刊〔復刻版〕

戦後という未知の時代を迎えるにあたり、自らの位置を詩によって築こうと集った若き詩人たちの軌跡を辿る資料。『鵬』（第6号から『ＦＯＵ』に改題）〔昭和20年10月～昭和24年9月（全17号）〕発行＝鵬同人社（北九州八幡）編集人＝岡田芳彦／『ピオネ』〔昭和24年3月～同年6月（全3号）〕発行＝詩郷社
編集人＝出海溪也／『藝術前衛』（『鵬』『ピオネ』の合併改題誌）〔昭和25年2月～12月（全3号）〕付録＝『日本前衛詩集』『世界前衛詩集』発行＝藝術前衛グループ　編集人＝出海溪也
●**推薦**＝大西巨人・紅野敏郎

■戦後文化運動雑誌叢書④
九州サークル研究会 発行〔1958年～1961年刊〕

サークル村　全3巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（松下博文・坂口　博・井上洋子）・回想（小日向哲也・うえだひろし・加藤重一・河野信子）・総目次・索引
付録＝「労働藝術」（創刊号）／「地下戦線」（全五号）／「炭砿長屋」（全五号）
Ａ5判・Ｂ5判・上製・総1,904頁
揃定価71,500円（揃本体65,000円＋税10%）　'06年6月刊〔復刻版〕

九州全県と山口県の地域や職場のサークル相互の交流と連帯を目的として1958年9月に創刊された〈サークル交流誌〉。発行主体は九州サークル研究会。創刊時の編集委員は上野英信、木村日出夫、神谷国善、田中巌、谷川雁、田村和雅、花田克己、森一作、森崎和江。会員は数十のサークルに所属する200余名であった。1959年に模索された〈全国サークル交流誌〉の提案と計画作成に大きな衝撃を与えた関連三誌と併せて復刻。敗戦後、集団の戦後思想史を形成したサークル運動の実相を伝える。
●**推薦**＝有馬　学・池田浩士・上野千鶴子・鶴見俊輔

■戦後文化運動雑誌叢書⑤
人民戦線社 発行／中西伊之助 編〔1945年～1949年刊〕

人民戦線　全5巻・別冊1

別冊＝解題（勝村　誠・秦　重雄）・総目次・索引
Ａ5判・上製・総1,700頁
揃定価74,800円（揃本体68,000円＋税10%）
'06年10月刊〔復刻版〕

多様な知識人や作家に誌面を提供した本誌は、敗戦直後の労働組合運動、総選挙、食糧危機問題、女性の権利等を論じる一方で、多彩な文芸作品と批評を幅広く掲載し、エスペラントの普及にもつとめた。1949年7月の第33号を以って終刊となるが一貫して「日本人民による民主主義の実現をはかるために、全ての民主主義諸勢力を結集して民主人民戦線をつくる必要がある」という理念を貫いた。
●**推薦**＝高柳俊男・西田　勝

■戦後文化運動雑誌叢書⑥
大阪朝鮮詩人集団機関誌〔昭和28年～昭和38年刊〕

ヂンダレ・カリオン　全3巻・別冊1

別冊＝解説（宇野田尚哉・細見和之）・鼎談（金　時鐘・鄭　仁・梁　石日）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総922頁
揃定価39,600円（揃本体36,000円＋税10%）
'08年11月刊〔復刻版〕

ここに復刻する『ヂンダレ』『カリオン』『原点』『黄海』は、在日朝鮮人文化運動・在日朝鮮人文学・サークル詩運動といった観点から今後詳細に検討されるべき資料であり、オルグされた側がオルグした側の意図を超えて自己主張を始めるという、そのダイナミズムが特に重要である。50年代という在日朝鮮人にとってはとりわけ困難の多かった時代に、詩をもってその時代と真摯に向きあった若き詩人たちの言葉をいかに汲み取るかが、我々の課題であろう。
●**推薦**＝金　時鐘・梁　石日・鵜飼　哲・米谷匡史

■戦後文化運動雑誌叢書⑦

東京南部サークル雑誌集成
全3巻・付録1・別冊1

別冊＝解説・解題（道場親信・浜賀知彦）・回想（浅田石二・桂川　寛・丸山照雄・望月新三郎）・総目次・索引
付録＝「松川報告詩集、松川構成詩」「東京文学新聞」ほか
Ｂ５判・上製・総1,864頁
揃定価74,800円　　'09年７月刊〔編集復刻版〕

敗戦後、労働者らを主体とするサークル運動が全国各地で展開され、多くの雑誌や詩集を生み出した。本資料集成は東京南部におけるサークル運動を中心に、浜賀知彦氏によって蒐集された膨大な資料を復刻。戦後史研究の空白を埋める貴重な資料群。
第１巻＝『詩集下丸子』『京浜文学新聞』『くらしのうた』『石ツブテ』『文学南部』『京浜のうたごえ』『下丸子通信』『南部文学通信』／第２巻＝『突堤』（第13号～第19号）／第３巻＝『突堤』（第20号～第24号）『南部のうた』「版画集」「京浜絵の会」「生活版画集」
●**推薦**＝小関智弘・坪井秀人・西川祐子・ハリー　ハルトゥーニアン

■戦後文化運動雑誌叢書⑧
綜合文化協会機関誌／真善美社　発行〔昭和22年～昭和24年〕

綜合文化　全3巻・別冊1

別冊＝解説（鳥羽耕史）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総1,318頁
揃定価52,800円（揃本体48,000円＋税10%）
'09年10月刊〔復刻版〕

本誌は1947年7月から49年１月にかけて真善美社より刊行された。戦時下における花田清輝、中野秀人らの〈文化再出発の会〉と、加藤周一、中村真一郎、福永武彦らの〈マチネ・ポエティーク〉のグループとの合流によってはじめられ、そこに安部公房、野間宏など若き作家が集い、野心的な誌面を創出した。ここは敗戦後に解放された文学・思想空間における世代間の交流と論争の場であり、前衛芸術運動の拠点でもあった。「戦後文学」もう一つの起点。
●**推薦**＝池田浩士・高良留美子・鶴見俊輔・成田龍一

■戦後文化運動雑誌叢書⑨
新女性社　刊〔昭和25年～昭和31年〕

新女性　全16巻・別冊1

別冊＝解題（伊藤康子）・総目次・索引＋DVD－ROM（全号表紙画像及び総目次・索引データ）付き
Ａ５判・上製・総9,496頁
揃定価407,000円（揃本体370,000円＋税10%）
'10年６月～'11年12月刊〔復刻版〕

本誌は、ＧＨＱ占領政策が右旋回し、新憲法下で再出発した女性運動も冷戦激化の影響を大きく受けた時代のなかで、性差別や政治弾圧事件、生活や職場の問題、平和擁護の闘いなど、懸命に生きる女性たちの姿を記録した。女性たちの生活の経験を綴った「真実の記」は本誌の特徴である。また、新作映画、献立、洋裁などの娯楽記事、松田解子、佐多稲子、野間宏らによる文芸・教養記事などの誌面づくりにも努めた。戦後女性史、近代史の重要資料である。
●**推薦**＝犬丸義一・坪井秀人・橋本宏子・藤目ゆき

■戦後文化運動雑誌叢書⑩
人民文学社　発行〔昭和25年～昭和30年刊〕

人民文学　全15巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（道場親信・鳥羽耕史）・解題（鳥羽耕史）・回想（柴崎公三郎）・総目次・索引＋ＤＶＤ（表紙画像データ、総目次索引PDFデータ）
付録＝『別冊文学の友』／『小林多喜二～人と作品』
Ａ５判・上製・総6,750頁
揃定価281,600円　　'10年11月～'11年11月刊〔復刻版〕

敗戦後、各地で文化運動が勃興しサークル雑誌が誕生するなか、本誌は1950年、『新日本文学』を離れた江馬修、藤森成吉らにより創刊された。安部公房、野間宏、労働者作家の小林勝、春川鉄男、さらに金時鐘、松田解子ら在日朝鮮人、女性の執筆者も多い。誌面には、占領から単独講和の激動下における〈人民〉の、東アジアとの連帯、現状変革のまなざし、文学活動が浮かびあがる。共産党の50年分裂を色濃く反映しながらも、1950年代の時代と文化を考察するうえで貴重な雑誌である。後継誌『文学の友』も併せて復刻。
●**推薦**＝加納実紀代・島村　輝・坪井秀人・成田龍一

■戦後文化運動雑誌叢書⑪
学園評論社　発行〔昭和27年～昭和31年刊〕

学園評論　全9巻・付録1・別冊1

別冊＝解題（中西直樹）・総目次・索引
付録＝『わだつみに誓う―京大天皇事件の記録』／『もう黙ってはいられない―東大事件はこれからもおこる』／『日本学生詩集―ささやくように』／『水爆よりも平和を』／『世界の学生運動の新しい方向―第九回国際学連評議会報告・勧告集』
Ａ５判・上製・総4,230頁　　揃定価187,000円
'11年７月～'12年７月配本完結〔復刻版〕

占領から単独講和・日米安保条約へ、そして朝鮮戦争、レッドパージの嵐のなかで、学生たちは各地で反戦平和運動、社会運動を展開した。このようななかで創刊された本誌（のち『学生生活』と改題）は、全学連ときわめて密接に関わりながら、全国各地の学生が編集に携わった。誌面には、学生運動、大学自治と学問の自由等のテーマのほか、評論や小説、広く学生生活全般に関わる記事が掲載され、また主要大学の男子学生に限られない多様な若者の声も収められた。1950年代学生運動史の貴重な資料として復刻刊行する。
●**推薦**＝宇野田尚哉・西山　伸

定価は消費税10％込

■戦後文化運動雑誌叢書⑫
琉球大学文芸部（琉大文藝クラブ）発行〔1953年～1978年刊〕

琉大文学　全5巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（我部　聖）・総目次・索引
Ａ5判・上製・総2,556頁
揃定価105,600円（揃本体96,000円＋税10%）
'14年4月～11月配本完結〔復刻版〕

1953年7月、米軍の強い取締りの中『琉大文学』は創刊された。誌面で多くの同人がペンネームを使用していたのは、名前を秘することが必要な時代であったからだ。同人にとって、「米軍統治下の現実といかに立ち向かうか」が文学・思想上の大きな問題であった。「島ぐるみ闘争」、ベトナム戦争、そして高度経済成長に突き進む日本「本土」との間で「復帰」に向かう時代状況と切り結びながら文学表現を試みてきた。同誌と同時期に足跡を残した『前衛地帯』『沖縄文学』『サチュリコン』『原点』とともに復刻する次第である。
●**推薦**＝小森陽一・新城郁夫・仲程昌徳・目取真俊

■戦後文化運動雑誌叢書⑬
河北新報社　発行〔昭和21年～昭和25年刊〕

東北文学　全8巻・別冊1

別冊＝解説（高橋秀太郎）・総目次・索引
Ａ5判・上製・総4,134頁
揃定価159,500円（揃本体145,000円＋税10%）
'16年9月～'17年1月配本完結〔復刻版〕

本誌は1946年1月に仙台の河北新報社より創刊された総合文芸誌である。久板栄二郎、日比野士朗が編集人を務めた。創刊号では武者小路実篤が巻頭を埋めた他、以降寄稿者として太宰治、壺井栄、舟橋聖一、石坂洋次郎、飯田蛇笏、室生犀星、青野季吉、桑原武夫、大池唯雄、白鳥省吾、草野心平ら多くの疎開作家、東北出身者が名を連ねる。文学作品だけでなく、他地域の文学状況や最新の文学事情について鼎談や記事を載せ今後の文学展望を示し、東北出身の新人作家の発掘に努める等、「新しい文学」を東北から発信していく強い意欲を持ち続けた。
●**推薦**＝安藤　宏・石川　巧・澤　正宏・山田有策

■戦後文化運動雑誌叢書⑭
全国銀行従業員組合連合会／銀行労働研究会　発行
〔1951年～1964年刊〕

ひろば　全10巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（鈴木貴宇）・総目次・索引
付録＝『月刊ひろば』第1号～第4号、『ひろば』第313・500・1096号〔終刊号〕ほか
Ｂ5判・上製・総約4,800頁　　揃定価275,000円
'18年6月～'19年5月配本完結〔復刻版〕

敗戦後の民主化を牽引した労働運動のなかで、銀行の労働組合が横断的に結集した全国銀行従業員組合連合会（全銀連）は、戦前にはなかったホワイトカラーの労働運動を代表するものである。
全銀連・青婦人対策部が発行した『ひろば』は、女性労働者の切実な問題――賃金格差、お茶くみ、結婚退職「慣行」、生休産休育休等をとりあげ、仲間たちの生活記録、交流・議論の場となった。さらに他産業労働者の支援、反戦・平和、安保条約反対等、職場をこえて繋がろうとする志と気力溢れる誌面は、全銀連解散後も続いた。本復刻版は1964年300号までを収録。
●**推薦**＝志賀寛子・遠藤公嗣・熊沢　誠・水溜真由美

■戦後文化運動雑誌叢書⑮
学生書房・帝国大学新聞社出版部・大学文化社ほか　発行

学生評論・季刊大学・大学　全10巻・別冊1

別冊＝『戦後学生雑誌と学生運動』（定価2,750円）
　　解説（中西直樹）・総目次・索引
Ａ5・Ｂ5判・上製・総4,032頁
揃定価222,200円（揃本体202,000円＋税10%）
'20年2月～12月配本完結〔復刻版〕

本資料は、戦後の代表的な学生雑誌『学生評論』および総合学術文化雑誌『季刊大学』『大学』の復刻である。1946年、終戦直後の荒廃のさなかに再刊された『学生評論』には、大学の自由と自治を求めた学生たちの論考・投稿に加え、卒業後の職場報告、紀行文、生活、恋愛など多彩な実情を伝える記事が並ぶ。羽仁五郎、日高六郎、丸山真男ら当時第一級の知識人を執筆陣に擁する『季刊大学』『大学』と併せ読むことで、GHQ占領下での日本国憲法発布、二・一ゼネスト、サンフランシスコ講和と目まぐるしく変転する時代の知的状況が浮き彫りに。
●**推薦**＝西山　伸

定価は消費税10％込

【社会文学雑誌叢書】

■社会文学雑誌叢書❶
堺　利彦・大杉　栄ほか 主宰〔明治36年～明治42年刊〕

家庭雑誌　全6巻・付録1・別冊1

別冊＝解題（鈴木裕子）・総目次・索引
付録＝第6巻第3・4号
菊判・並製・函入・総2,550頁
揃定価52,800円（揃本体48,000円＋税10%）
'83年1月刊〔復刻版〕

堺利彦が由分社より創刊した『家庭雑誌』は、西村渚山、大杉栄、深尾韶、堀保子等の編集の手を経ながら、一貫して家庭の中から社会主義を発展させ、かつ家庭の近代化をはかることを目的とした啓蒙雑誌である。その誌上では新しい家庭のあり方、夫婦のあり方、戦争の問題等がユーモアを交え、温かくかつ鋭く論じられている。日本近代史研究のみならず、女性問題・家族問題研究の大きな手がかりとなるものである。総54冊を収録。
●**推薦**＝小田　実・向坂逸郎・西田　勝・樋口恵子

■社会文学雑誌叢書❾
堺　利彦 主宰〔大正4年～大正10年刊〕

新社会　全7巻・別冊1

別冊＝解題（堀切利高）・総目次・索引
Ａ5判・上製・函入・総3,500頁
揃定価82,500円（揃本体75,000円＋税10%）
'82年7月刊〔復刻版〕

本誌は、『へちまの花』を改題して売文社から創刊された社会主義理論誌である。大逆事件以来隠忍を強いられてきた、堺利彦を中心とする明治の社会主義者たちが、第一次世界大戦後の状況の変化から復活した、その運動の中軸となったのがこの『新社会』である。総合啓蒙雑誌的な性格からマルクス主義理論誌の性格を強めてゆき、特にロシア革命の紹介、資本論の解説等、当時の社会主義運動に果たした役割は大きい。誌名は『新社会』『新社会評論』『社会主義』と変遷するが、本復刻版にはこれら全62冊を収録している。
●**推薦**＝近藤真柄・向坂逸郎・隅谷三喜男・西田　勝・山川振作

■社会文学雑誌叢書❿
高畠素之 主宰〔大正8年刊〕

国家社会主義

解題（田中真人）・総目次・索引付き
Ａ5判・上製・函入・総272頁
定価5,280円（揃本体4,800円＋税10%）
'84年2月刊〔復刻版〕

『新社会』の中心人物の一人高畠素之は、堺利彦・荒畑寒村らと袂を分かち売文社の名を引き継ぎ『国家社会主義』（全4号）を刊行した。
日本マルクス主義学の第一人者を自他共に認じ、のちに『資本論』を日本で最初に完訳する高畠をはじめとし、遠藤友四郎、尾崎士郎ら国家社会主義者は、マルクス経済学説に立脚して日本国体の上に社会主義を実現することを主張した。のちに猛威をふるう昭和ファシズムの先駆けともいうべき本誌は、近代史・思想史研究に必須の資料である。全4号を合本し復刻。
●**推薦**＝伊藤　隆・都築久義

■社会文学雑誌叢書⓫
茅原華山 主宰〔大正5年刊〕

洪水以後　全1巻・別冊1

別冊＝解題（福田久賀男）・総目次・索引
Ｂ5判・上製・函入・総598頁
揃定価19,800円（揃本体18,000円＋税10%）
'84年3月刊〔復刻版〕

本誌は、大正デモクラシーの総合誌『第三帝国』が分裂したのち、茅原華山が後継誌として発刊した総合雑誌である。14号という短命にもかかわらず、広津和郎の初期文芸評論が毎号載るなど、文学研究の上からも貴重な資料であるだけでなく、大正デモクラシーの息吹きをいきいきと伝える資料として、近代史研究にも見逃せない稀覯雑誌である。全14号を合本し復刻。
●**推薦**＝小田切秀雄・渋川　驍

■社会文学雑誌叢書⓬
大杉　栄 主宰〔大正7年刊〕

文明批評

付録＝跋（荒畑寒村・西田　勝）・解題（堀切利高）・総目次
菊判・上製・函入・総152頁
定価5,060円（揃本体4,600円＋税10%）
'84年3月刊〔復刻版〕

大正5（1916）年11月の葉山日蔭茶屋事件で、社会的にもそして運動仲間からも全くの孤立状態にあった大杉栄の再生の第一声ともいえる思想文芸雑誌。全2号分を合本し復刻。
第三次『近代思想』の観を呈している本誌は、荒畑寒村、山川均らも寄稿している。出色というべきは、大杉による大山郁夫・吉野作造らの民本主義批判、伊藤野枝による宮本百合子論及び社会文学として特筆すべき佳作「転機」が掲載されており、日本文学史を語る上で欠かすことのできない重要資料である。

■社会文学雑誌叢書⓮
内藤民治 主宰〔大正６年～大正10年刊〕

中　外 全11巻・別冊１

別冊＝解説（岩井忠熊・堀切利高）・総目次・索引
Ｂ５判・上製・函入・総7,148頁
揃定価242,000円（揃本体220,000円＋税10%）
'88年５月～12月配本完結〔復刻版〕

本誌は『改造』『解放』に先駆けた大正デモクラシー期の進歩的総合雑誌で、自由主義的雑誌の中では最も発行部数が多かった。軍国主義者や国家主義者が筆を執る一方、編集部は一貫して平和優先と民主主義を標榜し、当時公然と本名を名乗って執筆することが不可能だった社会主義者、そして女性作家・女性解放論者にも積極的に誌面を提供している。一方、「創作」欄も充実しており、大正期文学研究の宝庫といえる。発禁号及び復刊号を含めた全22号を収録。
●**推薦**＝江口朴郎・西田　勝・松尾尊兊・三國一朗

■社会文学雑誌叢書⓯
茅原華山 主宰〔大正５年～大正６年刊〕

日本評論 全４巻・別冊１

別冊＝解説（茅原　健）・総目次・索引
Ｂ５判・Ａ５判・上製・函入・総2,470頁
揃定価71,500円（揃本体65,000円＋税10%）
'89年６月刊〔復刻版〕

大正デモクラシーの気運が高揚する中で、自らの思潮的命題を「第三帝国」という言葉に託した逸民華山。その『第三帝国』そして『洪水以後』の後継誌が本誌である。華山のもとに集まった、当時の知識人を総動員しての内容は、大正デモクラシー期の思潮の１つと言えよう。また自由律俳句にその発表場所を提供していることも見逃せない。小川未明・岩野泡鳴・金子洋文等の脂ののりきった文学作品の数々が、興味を増す。全17号のうち欠号３号を除く14号を合本。
●**推薦**＝太田雅夫・松尾尊兊・福田久賀男

■社会文学雑誌叢書⓰
生方敏郎 主宰〔大正５年～大正６年刊〕

文芸雑誌 全２巻

解説（福田久賀男）・総目次・索引付き
Ａ５判・上製・函入・1,034頁
揃定価27,500円（揃本体25,000円＋税10%）
'89年９月刊〔復刻版〕

本誌は、大正文壇の裏面史を垣間見せると共に、投稿雑誌として重要な研究資料である。特に、サンボリズムの竹内勝太郎、新感覚派の川端康成をはじめとして、久保栄、近藤憲二等、次代をになう個性がしのぎをけずる投稿欄は見逃せない。後に戦時体制に抵抗していった生方敏郎の文壇への大きな貢献がここにある。生方敏郎そして『文芸雑誌』を見ることで、文学界の大きな流れをつかむことができる。まさに近代文学研究者にとって必読の書である。
●**推薦**＝鶴見俊輔・山敷和男

■社会文学雑誌叢書⓱
加藤一夫 主宰〔大正８年刊〕

労働文学

解説（大和田茂）・総目次・索引付き
Ａ５判・上製・函入・総258頁
定価8,800円（揃本体8,000円＋税10%）
'89年12月刊〔復刻版〕

本誌は、加藤一夫が「労働者の思想や感情を発表する」ことを目的に創刊した文芸雑誌である。ロシア革命や米騒動に象徴される労働運動の高揚を背景に、藤井真澄の『黒煙』とともに1910～20年代労働文学の拠点としての役割を担った。
トルストイアンで人道主義者であった加藤が翌年、自由人連盟を結成してアナキズム運動に身を投じてゆく過程で見せる重要なターニングポイントを明らかにする資料としても貴重である。
●**推薦**＝伊藤信吉・祖父江昭二

■社会文学雑誌叢書⓲
加藤一夫 主宰〔大正14年～昭和２年刊〕

原　始 全３巻・別冊１

別冊＝解説（紅野敏郎・小松隆二）・総目次・索引
Ａ５判・上製・函入・総1,256頁
揃定価33,000円（揃本体30,000円＋税10%）
'90年５月刊〔復刻版〕

本誌は、自由人連盟の設立にかかわったころの加藤一夫が思索の生活の発露を求めた個人雑誌として出発した。２年目からは文芸を重要な柱として多くの寄稿者を得、第３巻からは「無産階級文芸雑誌」と銘打って、アナーキスト系文芸雑誌としての性格をはっきりと打ち出していった。古田大次郎や朴烈・金子文子らへ深い思いを寄せた本誌は、大杉栄死後のアナーキスト陣営の中心として文芸における「アナ・ボル」論争で先陣を切る役割も果たした。
●**推薦**＝奥野健男・山極圭司

女性史・女性文学・ジェンダー

処女会中央部 発行〔大正７年～大正11年刊〕

処女の友 全５巻・別冊１

別冊＝解題（渡邊洋子）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総 3,054 頁
揃定価 99,000 円（揃本体 90,000 円＋税10%）
'14年11月刊〔復刻版〕

1918（大正７）年11月、処女会中央部によって創刊された、尋常小学校を卒業した後、農山漁村で生活する女性、都市部の紡績工場などで働く女性を読者対象にした教育、啓蒙雑誌である。処女会中央部は、「処女会の父」と呼ばれ、内務省に嘱託勤務をしていた天野藤男の尽力により、地方で女子の修養のために活動していた婦女団体の連絡機関として同年設立された。巡廻講演、職業紹介などの身の上相談が主な事業内容であった。大正期の農山漁村での女子教育の必要性はどのような現実で求められたのか。総力戦体制、国策「大陸の花嫁」に繋がった女子教育の前史としても重要な資料である。
●**推薦**＝橋本紀子・辻　智子

東京連合婦人会 発行〔昭和３年～昭和17年〕

連合婦人 全９巻・付録１・別冊１

別冊＝解説（後藤明日香）・総目次・索引
付録＝『昭和十四年婦人年鑑』東京連合婦人会 発行
　　『沿革史』大日本連合婦人会 発行
Ａ４判・Ｂ５判・上製・総 3,842 頁
揃定価 220,000 円（揃本体 200,000 円＋税10%）
'12年12月～'13年10月配本完結〔復刻版〕

1923（大正12）年の関東大震災を機縁に大同団結した東京市内外の婦人団体30有余（第１号発刊時）は、東京連合婦人会に集合した。その連絡機関誌の本誌は、婦選獲得同盟、日本基督教婦人矯風会など、政治的主張の明確な団体の連絡提携の機能を果たした。委員長の吉岡彌生、副委員長の守屋東をはじめ、教育者や女性活動家の多彩な論評・時評が掲載され、当時の婦人問題を浮き彫りにしている。昭和戦前期の外交・経済・思想の非常時局面を伝える誌面は、ジェンダー研究の宝庫である。
●**推薦**＝加納実紀代・酒井シヅ・吉岡博光

大日本婦人会 発行〔昭和17年～昭和20年〕

日本婦人 全５巻・別冊１

別冊＝解説（小山静子）・総目次・索引
Ｂ５判・Ａ５判・上製・総 1,686 頁
揃定価 88,000 円（揃本体 80,000 円＋税10%）
'11年11月刊〔復刻版〕

本誌は、戦時下の成人女性のほとんどを統合・網羅した最大の官製女性団体「大日本婦人会」の機関誌として、国のために戦う兵士の妻、母として銃後を守る役割を女性たちに説き、総力戦体制に女性たちを動員した。前線の兵士の活躍や戦況、各地の大日本婦人会支部の活動、銃後家庭の衣食住、育児情報を伝え、わずかながら文芸記事も掲載された。この時期社会で活躍した知識層女性たちも多く執筆している。女性たちが銃後をどのように担ったのか、「戦争と女性」という問題を考える上で貴重な資料である。
●**推薦**＝一ノ瀬俊也・木村涼子・佐藤卓己

鈴木裕子 編・解説

日本女性運動資料集成 全10巻・別巻１

Ａ５判・上製・函入・総 8,604 頁
定価 各巻 16,500 円（揃本体 15,000 円＋税10%）
'93年11月～'98年12月配本完結

女たちの近代を女たち自身の運動によって記録する、女性史研究にとって待望の基本資料集。ビラ・パンフ、運動体の機関誌類をはじめ、官憲側の資料、一般紙誌を駆使して、自由民権期以降敗戦までの激動の時代を生きた女たちの実像に迫る。女性労働運動・無産婦人運動・廃娼運動・婦選運動・職業婦人運動、翼賛運動について多数の資料を提供、全編にわたり戦争協力の問題を取り上げた。
●**推薦**＝上野千鶴子・落合恵子・金森トシエ・加納実紀代・
　　住井すゑ・高橋喜久江・土井たか子・松尾尊兊・
　　もろさわようこ・米田佐代子

改造社 発行〔大正11年～大正13年刊〕

女性改造〈戦前編〉 全12巻・別冊１

別冊＝解説（尾形明子・鈴木裕子）・総目次・索引
Ａ５判・上製・総 7,224 頁
揃定価 264,000 円（揃本体 240,000 円＋税10%）
'07年６月～'08年12月配本完結〔復刻版〕

1922年、「不当なる忍従を強いられ、奴隷として待遇されつつある幾百万姉妹解放のために」（創刊号巻頭言）本誌は誕生した。

社会主義色の濃い総合雑誌として成功していた『改造』の姉妹誌として文学・評論・科学分野での豪華な執筆陣を擁し、1920年代のフェミニズムの旗手である女性たちが多数執筆した。

高踏的な女性解放雑誌として一時代を画した『女性改造』の戦前分を復刻し、女性史・文学史・近代思想史研究に資するものである。
●**推薦**＝石月静恵・佐藤卓己・成田龍一

婦選獲得同盟 刊〔昭和２年～昭和16年刊〕

婦　選 全19巻・別冊１

別冊＝解説（松尾尊兊・兒玉勝子）・総目次・索引
Ａ４判・Ａ５判・Ｂ５判・上製・総7,572頁
揃定価324,500円（揃本体295,000円＋税10%）
'92年12月～'94年12月配本完結〔復刻版〕

本誌は、婦選運動の中核となって参政権・公民権・結社権の獲得を目指した婦選獲得同盟の機関誌として創刊された。婦選運動は各層の女性を結集し1930年には第１回全国婦選大会開催にいたるが、ファッショ時代の到来とともに活動の比重を母子保護法制定・選挙粛正等の活動に比重を移し次第に体制側に組み込まれてゆく。戦前女権運動の最も大きなうねりを築いた活動の軌跡を刻む資料。

●**推薦**＝伊藤康子・土井たか子・縫田燁子・バーバラ モロニー・もろさわようこ

奥むめお 主宰〔大正12年～昭和16年刊〕

婦人運動 全30巻・別冊１

別冊＝解説（鈴木裕子）・総目次・索引
Ａ５判・Ｂ５判・上製・総9,938頁
揃定価330,000円（揃本体300,000円＋税10%）
'90年６月～'91年12月配本完結〔復刻版〕

本誌は、1923年、奥むめおが若い職業婦人たちとともにつくった職業婦人社の機関誌である。誌名は『職業婦人』、『婦人と労働』、そして『婦人運動』と変遷する。1941年に廃刊されるまで、19年の間、常に生活者であり労働者である女性の立場にたち、「婦人消費組合協会」、「婦人セツルメント」、「働く婦人の家」を設立するなど、女性の連帯を求めた運動の記録として今日の女性問題に多くの示唆を与えている。女性史、社会運動史の研究に不可欠の資料。

●**推薦**＝一番ケ瀬康子・兒玉勝子・中村紀伊・松尾尊兊・丸岡秀子

全関西婦人連合会 刊〔大正13年～昭和12年刊〕

婦　人 全24巻・別冊１

別冊＝解説（藤目ゆき）・総目次・索引
Ｂ５判・上製・総9,860頁
揃定価528,000円（揃本体480,000円＋税10%）
'96年５月～'97年12月配本完結〔復刻版〕

本誌は、西日本全域の中産階級の女性を中心に300万人もの会員を擁し、戦前では世界でも最大規模の女性団体であった全関西婦人連合会の機関誌である。職業婦人団体・基督教婦人矯風会のほか官製・半官製女性団体をも含めた連合体であった同会は、女性運動の統合をもくろむ体制側の意図を越え、大正デモクラシーの風を受け、女性差別的な法律の改正・廃娼運動など女性問題に取り組み、とくに婦選運動では西日本の一大拠点として大きな役割を果たした。

●**推薦**＝石月静恵・上野千鶴子・小山仁示・宋　連玉・松尾尊兊

廓清会 刊〔明治44年～昭和20年刊〕

廓（かく）清（せい） 全33巻・別冊１

別冊＝解説（竹村民郎）・総目次・索引
Ｂ５判・上製・総16,500頁
揃定価544,500円（揃本体495,000円＋税10%）
'95年11月刊〔復刻版〕

明治44（1911）年の吉原遊廓の大火の後、明治政府は、遊廓再興に反対する声を裏切って復活を許可した。本誌は、これを契機に結成され以降30年間、底辺女性の救済を訴え続けた廃娼運動体＝廓清会の機関誌である。その内容は、島田三郎・安部磯雄・山室軍平ら運動推進者の思潮、悲惨な娼妓の生涯・検梅制度・業者と警察の結託等遊廓の実態報告、そして運動の経過・資料統計を常に掲載するなど、まさに廃娼運動史の宝庫と言える。新たに発見された第35巻第３・４合併号も含め、15年ぶりに再復刻。

●**推薦**＝一番ケ瀬康子・高橋喜久江・竹村民郎・松井やより

伊藤秀吉 著〔昭和６年刊〕

紅燈下の彼女の生活
日本廃娼運動史

四六判・上製・函入・解題（高橋喜久江）付き
『紅燈下の彼女の生活』＝694頁　定価8,800円
『日本廃娼運動史』＝610頁　定価7,700円
'95年11月再刊〔復刻版〕

吉原遊廓大火（明治44年）の後、公娼廃止を目指して設立された廓清会は、婦人矯風会とともに明治―大正―昭和期の公娼廃止運動の重要な支柱であった。

この廓清会の中心的人物である伊藤秀吉が著した本書は、その視点に多少の時代的制約があることは免れないにせよ、男女の民主主義者・キリスト者の良心が貫かれている。両書によって多くの人が、買売春の歴史と同時に廃娼を目指した人々の苦闘の歴史を知り、その根源を考える上で恰好の書。

●**推薦**＝高橋喜久江・吉見周子

買売春問題資料集成〈戦前編〉
全31巻・別冊１

別冊＝解説（第Ⅰ期＝ゆのまえ知子・秋定嘉和／第Ⅱ期＝藤野　豊）・総目次・索引
Ａ４判・Ｂ５判・上製・総11,500頁
揃定価836,000円（揃本体760,000円＋税10%）
第Ⅰ期＝'97年４月～'98年４月配本完結
第Ⅱ期＝'02年10月～'04年２月配本完結〔編集復刻版〕

戦前期70年に及ぶ公娼制度をめぐる廃娼運動と存娼運動との攻防。そして良質の兵士増産のために性病管理＝買売春管理に腐心し、国際的な人身売買批判への対応に苦慮した、国家の性管理政策。廃娼運動関係資料中心の第Ⅰ期に引き続き、買売春管理政策と貸座敷業者側の機関紙類などに重点を置いた第Ⅱ期を刊行。さまざまな視点から考察されている買売春問題研究に必須の資料群・全945点。

●**推薦**＝江原由美子・小倉襄二・高橋喜久江・竹村民郎・もろさわようこ・浅野千恵・小野沢あかね・大日方純夫・酒井シヅ

定価は消費税10％込

性暴力問題資料集成〈第Ⅰ期〉
全25巻・別冊1

別冊＝解説（藤目ゆき）・総目次
Ａ４判・Ｂ５判・上製・総9,814頁
揃定価660,000円（揃本体600,000円＋税10%）
'04年7月～'06年12月配本完結〔編集復刻版〕

廃娼運動・存娼運動・買売春管理の資料を網羅した『買売春問題資料集成〈戦前編〉』に続く、戦後日本の性暴力／買売春問題を俯瞰する資料集成。占領期、米軍兵士による性暴力、警察と業者が占領軍に女性を提供した「慰安」機関・ＲＡＡ協会、ＧＨＱの公娼廃止命令下の各自治体の買売春取締条例、売春女性を処罰の対象としたまま成立した売春防止法――1945～60年までの再編成された女性の売買の様相を700余点の資料群によって浮かび上がらせる。
●**推薦**＝高里鈴代・高橋喜久江・角田由紀子・宮本潤子・吉見周子

性暴力問題資料集成〈第Ⅱ期〉
全11巻

藤目ゆき 解説
Ａ４判・上製・総3,930頁
揃定価302,500円（揃本体275,000円＋税10%）
'09年12月～'10年12月配本完結〔編集復刻版〕

【内容】第26巻＝1955年、全国性病予防自治会の協力のもとでおこなわれた、業者・従業婦を対象とする全国的調査の項目及び結果、そして東京の赤線のうち洲崎・向島・北品川の３カ所の業者アンケート記録183点を収録。／第27巻～第36巻＝売春女性の保護と、生活苦やＤＶなどに苦しむ女性たちの支援をおこなった神奈川県婦人相談所の資料。1950年から60年までの「身上調査票」「婦人相談票」「婦人保護台帳」など、2800件近くの事例によって様々な困難を抱えた女性の実態が浮かび上がる。
●**推薦**＝戒能民江・小野沢あかね・横田千代子・後藤弘子

荻野美穂・松原洋子・斎藤　光 編・解説

性と生殖の人権問題資料集成
全35巻・別冊1

別冊＝解説（荻野美穂・松原洋子・斎藤　光）・総目次・索引
Ａ４判・上製・総12,250頁
揃定価962,500円（揃本体875,000円＋税10%）
'00年6月～'03年2月配本完結〔編集復刻版〕

19世紀末から20世紀半ばまで、戦前戦後を通しての約80年間の性と生殖をめぐり繰り広げられた様々な動きを、500点の書籍・パンフレット・公文書など貴重資料であとづける初の資料集成。
〈収録内容〉
産児調節運動編――第１～14巻（解説＝荻野美穂）
優生問題・人口政策編――第15～26巻（解説＝松原洋子）
性科学・性教育編――第27～35巻（解説＝斎藤　光）
●**推薦**＝市野川容孝・川村邦光・柘植あづみ・成田龍一・樋口恵子・廣嶋清志

古川　誠・赤枝香奈子 編・解説

戦前期　同性愛関連文献集成
全3巻

Ａ４判・上製・総1,080頁
揃定価82,500円（揃本体75,000円＋税10%）
'06年9月刊〔編集復刻版〕

「衆道」「男色」「鶏姦罪」「硬派」「美少年」などのキーワードに表されるオルタナティブな性愛の様相だけでなく、「同性心中」「エス」「男装」やスター的存在への憧憬も含めた女性たちの親密な関係をも包括した資料を収録。性的マイノリティとしての同性愛者、そして家父長制下における女性たちの親しいつながりが、どのようなまなざしで見つめられ、扱われたのか――。近代日本における、同性愛をめぐるさまざまな言説を収集した待望の資料集成。
●**推薦**＝氏家幹人・川村邦光

太田武夫（典礼）主宰〔昭和11年～12年刊〕

性科学研究〈改題 性教育〉 全2巻

解説（斎藤　光）・総目次・索引付き
Ａ５判・上製・総1,468頁
揃定価49,500円（揃本体45,000円＋税10%）
'01年6月刊〔復刻版〕

産児調節運動家の医師で性科学者のパイオニアである太田典礼が主宰した性科学雑誌。性風俗、性教育、大学生への性意識・体験調査、性の歴史研究、性犯罪、生殖科学、売春の歴史、性病、産児調節・堕胎・恋愛論まで、広く性全般を網羅し「真面目な性科学の確立と普及」を目的とした。性教育普及会を発足させ、途中「性教育」と改題、刊行の意図をより鮮明に打ち出し、早くからの性教育の必要性を訴え、老人の性も含めた多様な性へのアプローチを行った。
●**推薦**＝赤川　学・舘かおる

廃娼雑誌社 発行／竹村民郎 解説〔明治23年～明治24年刊〕

廃　娼

東京や群馬など各地で廃娼運動が盛り上がっていた1890年に創刊された本誌は、草創期廃娼運動の各地の状況を克明に伝える貴重資料。佐々城豊寿、島田三郎、巌本善治らが廃娼論を展開している。
●菊判・上製・函入・326頁・定価9,900円／'93年5月刊〔復刻版〕

上毛青年社 発行／片野真佐子 解説〔明治22年～明治29年刊〕

上毛之青年　全2巻・別冊1

群馬県西上州の「上毛青年会」の機関誌。同会は日本の廃娼運動をリードし、県議会で廃娼令をかちとるも廃娼運動が再燃するや一度は終刊した本誌を再刊した。廃娼運動の先駆の貴重な記録である。
●Ａ５判・上製・総1,234頁・定価39,600円／'93年5月刊〔復刻版〕

定価は消費税10％込

相馬黒光 著／鈴木裕子 解説〔昭和15年刊〕
明治初期の三女性
——中島湘煙・若松賤子・清水紫琴

「男女の対等な人間関係を希求し、その啓蒙と実現につとめた近代史上の第１世代であり、この世の改革を目指した人生の戦士」（山口玲子氏）であった３人の啓蒙的女性の生涯を描く。
●四六判・上製・函入・332頁・定価3,960円／'85年３月刊〔復刻版〕

松田解子 著／土井大助 解題〔1935年刊〕
辛抱づよい者へ

プロレタリア詩人・作家＝松田解子が世に問うた初めての著書であり、厳しい検閲による伏せ字・空白にもかかわらず、発禁にされた詩集。60年ぶりに伏せ字箇所、切り取り部分を組み起こして復刻。
●四六判・並製・144頁・定価1,650円／'95年７月刊〔復刻版〕

藤目ゆき 著
性の歴史学
——公娼制度・堕胎罪体制から売春防止法・優生保護法体制へ

日本近現代史を性と生殖の視点から照射し、底辺の女性から大日本帝国のフェミニストたちまで、日本女性のあゆみを鋭く描きだす。これまでの女性史の常識を問い直す待望の著。
●Ａ５判・並製・448頁・定価5,280円／'97年３月刊

藤野　豊 著
性の国家管理——買売春の近現代史

国家による買売春管理を性病予防の観点から解き明かし、存娼派＝業者側の論理も明らかにしながら、買売春の近現代史を照射する。これまでの買売春史の書き換えを迫る意欲作。
●Ａ５判・並製・304頁・定価3,080円／'01年10月刊

岩田三枝子 著
評伝 賀川ハル
——賀川豊彦とともに、人々とともに

本書は、夫・豊彦を支えながらも一キリスト者、一女性、そして一市民社会活動家として生きた賀川ハルの人生を辿りながら、その活動と思想を体系化することにより、歴史的意義と今日的意義の一端を明らかにしたものである。
●Ａ５判・上製・604頁・定価6,380円／'18年９月刊

村田静子・大木基子 編
福田英子（ひでこ）集

女性自由民権運動家として、後年は社会主義者として一貫して女性の自由と解放を求めた先駆的フェミニスト・福田（景山）英子の全貌を明らかにする著作集。著作・関連記事・資料・書簡・年表を所収。
●Ａ５判・上製・函入・672頁・定価17,600円／'98年２月刊

金子幸子 著
近代日本女性論の系譜

一夫一婦論・母性保護論争・主婦論・自発的母性論・産児制限論・身の上相談にみる女性論などを検討することで、明治から昭和戦前期にかけての近代日本の女性論の系譜を辿った意欲作。
●Ａ５判・上製・296頁・定価4,180円／'99年１月刊

加藤シヅエ 著／船橋邦子 訳
ふたつの文化のはざまから
——大正デモクラシーを生きた女

マーガレット・サンガーに師事し、産児調節運動の先駆者として行動した加藤シヅエが、1935年、38歳で著わした自叙伝。原本は日本国内の言論弾圧を避けるため英文で書かれた。
●四六判・上製・318頁・定価2,200円／'94年７月刊

地の塩	11ページをご参照ください。
女子青年界	11ページをご参照ください。
婦人新報	11ページをご参照ください。
近代日本の女性と大学教育	74ページをご参照ください。
家庭科学〈戦前編〉	79ページをご参照ください。
新女性	94ページをご参照ください。
ひろば	95ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

【女性文学】

日本女性詩集 1930年～1943年
全2巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（澤　正宏）・総目次・索引
Ａ4判・Ａ5判・上製・総1,162頁
揃定価77,000円（揃本体70,000円＋税10%）
'14年7月刊〔編集復刻版〕

当資料集は昭和戦前・戦中期に女性の作品のみを集めた詩集、及び関連する雑誌群を収録した。昭和初期は女性詩人への評価が低く、女性詩集はあまり作られなかった。しかし満洲事変がおきた1931年から戦時色が強くなるにつれて女性の戦争協力体制も強化され、女性詩は「母性の文学」として隆盛をみせるようになる。また「銃後のつとめ」として学生の詩集も刊行された。
当時の女性詩人がおかれた状況を俯瞰することができ、また戦時体制にどう組み込まれていったのかをうかがえる、近現代文学史・女性史研究のための貴重資料である。
●**推薦**＝宮崎真素美

叢書『青鞜』の女たち
全20巻（総21冊）

函入・総7,720頁
揃定価165,000円（揃本体150,000円＋税10%）
（各巻分売可）
'03年9月刊〔編集復刻版〕

今、女性史は「忘れられてきた歴史」としてあらゆる分野で注目されている。雑誌『青鞜』も近代日本の女性解放史の重要な指標としてだけでなく、その現代的意味もあわせて関心をあつめている。本叢書は、その同人たち及び『青鞜』周辺の女たちひとりひとりへのアプローチを試みるため、1910～20年代に活躍した女性たちを選び、その代表的著書20点を集め、解説を付して復刻したものである。
●**推薦**＝瀬戸内寂聴・羽田澄子・米田佐代子

女子文壇社 刊〔明治38年～大正2年刊〕

女子文壇 全54巻・別冊1

別冊＝解説（渡邊澄子）・総目次・索引
菊判・上製・総24,210頁
揃定価1,089,000円（揃本体990,000円＋税10%）
'02年6月～'05年8月配本完結〔復刻版〕

日本最初の女性文学雑誌・フェミニスト雑誌『青鞜』に先立つこと6年、20世紀初頭に10年にわたって若い女性たちの自己表現への渇望を存分に汲み上げた投稿雑誌。文壇への登竜門であるばかりでなく、のちに広く社会に影響を与えた女性たちを輩出した。大正デモクラシー前夜に開花した10代の女性たちの熱い思いがあふれる本誌は、女性文化の原点ともいうべき可能性を秘めた資料であり、近代教育史・女性史・女性文化研究に大きく寄与するものである。
●**推薦**＝阿木津英・飯田祐子・上笙一郎・竹盛天雄・米田佐代子

『女子文壇』執筆者名・記事名データベース
全1枚（DVD）・解説ブックレット

監修・解説＝金子幸代
定価22,000円（揃本体20,000円＋税10%）
'11年10月刊

明治38年、『青鞜』に先立ち刊行された『女子文壇』（大正2年終刊）は、全国各地の若い女性たちに表現活動の場を提供した、明治期を代表する女性文芸投稿雑誌である。本資料は、無名の地方の投稿者（誌友）に焦点をあて、「短篇小説」「新体詩」「短歌」「俳句」「美文」「消息文」「雑文」などのジャンル別に、執筆者名、その居住地、掲載号と頁数、作品名、入賞の有無等、本文を除く個々の情報を完全データベース化したものである。本誌『女子文壇』（弊社既刊）と併せて活用されたい。

山田美妙 主宰〔明治20年～明治24年刊〕

以良都女（いらつめ） 全5巻・別冊1

別冊＝解題（山田有策）・総目次・索引
Ａ5判・Ｂ5判・上製・函入・総2,100頁
揃定価66,000円（揃本体60,000円＋税10%）
'83年1月刊〔復刻版〕

『以良都女』は当初、女子教育を論じ、婦徳を高め、その地位の向上を期すると共に、言文一致の文体を世にひろめることを主としていたが、14号からは編集人となった山田美妙の活躍によって小説・翻訳・新体詩・評論などすべてに美妙の独り舞台の感を呈した。また、婦人雑誌として『女学雑誌』とともに先駆的な役割を果たし、投書雑誌としてものちの『文庫』と並称されるような役割を果たした。全84号を収録。
●**推薦**＝岡　保生・前田　愛・三好行雄・山田有策

西川文子・木村駒子・宮崎光子 主宰
〔大正２年〜大正５年刊〕

新真婦人 全６巻・付録１・別冊１

別冊＝解説（岡野幸江）・総目次・索引
菊判・上製・総 4,112 頁
揃定価 132,000 円（揃本体 120,000 円＋税10%）
'94年10月刊〔復刻版〕

『新真婦人』は、1913（大正２）年５月、新真婦人社の機関誌として創刊された。初期の女性社会主義者西川文子、木村駒子、宗教家宮崎光子らの主宰による、明確に女性問題・女性解放を見据えた評論雑誌である。男性中心社会を糾弾する筆は厳しく、また執筆者も多彩で大正デモクラシー期の女性運動の息吹を十分に伝えており、新真婦人社を単なる青鞜社の対抗者あるいは亜流としてきた女性史・近代史に書替えを迫る内容をもつ。
●推薦＝天野　茂・井手文子・小田切秀雄・渡邊澄子

長谷川時雨 著〔昭和16年〜昭和17年刊〕

長谷川時雨全集 全５巻・付録１

付録＝解説（尾形明子）
Ｂ６判・上製・函入・総 2,272 頁
揃定価 52,800 円（揃本体 48,000 円＋税10%）
'93年９月刊〔復刻版〕

戦前期、脚本家・小説家・評伝作家として第一線で活躍した女性文学者長谷川時雨（1879〜1941年）の著作集の復刻版。本書は、時雨の没後に刊行されたが、岡田八千代・上村松園らをはじめとする編集者・装丁者のそうそうたる顔ぶれは、時雨の幅広く温かい交流を表している。
第１巻＝小説、第２巻＝女性伝、第３巻＝美人伝、第４巻＝随筆ほか、第５巻＝戯曲ほか、で構成されている。
●推薦＝紅野敏郎・佐多稲子

神近市子 主宰〔昭和９年〜昭和12年刊〕

婦人文芸 全10巻・別冊１

別冊＝解説（黒澤亜里子）・総目次・索引
菊判・上製・函入・総 6,362 頁
揃定価 165,000 円（揃本体 150,000 円＋税10%）
'87年４月〜７月配本完結〔復刻版〕

女性文芸雑誌『女人芸術』『火の鳥』が相次いで終刊になった昭和10年代、女性の表現の場として求められたのが本誌である。
主宰者・神近市子がジャーナリスト・翻訳家・評論家としてすぐれた女性解放思想家・実践者であっただけに、本誌は単なる文芸雑誌に終わらず、フェミニズムをはっきりと意識した雑誌となっている。女性史・昭和文学研究に新しい示唆を与えるものとして全37号を復刻する。
●推薦＝佐多稲子・田中和子・渡邊澄子

ビアトリス社 刊〔大正５年〜大正６年刊〕
解説（岩田ななつ）・総目次・索引付き

ビアトリス

『青鞜』廃刊直後に創刊された本誌は『女子文壇』『青鞜』に連なる、女性に開放された自己表現の場であった。執筆者は平塚らいてう・岡本かの子・吉屋信子など。近代女性史・文学史の貴重文献。
●菊判・上製・650 頁・定価 19,800 円／'03年６月刊〔復刻版〕

吉屋信子 主宰〔大正14年刊〕

黒薔薇（くろしょうび）

若い女性に圧倒的な支持を得ていた、フェミニスト作家の先駆・吉屋信子が自ら創刊した個人雑誌。性差別社会を撃ち、同性愛を堂々と謳った本誌は、吉屋の真骨頂を示す最重要資料。
●推薦＝駒尺喜美
●四六判・上製・630 頁・定価 22,000 円／'01年10月刊〔復刻版〕

渡邊澄子 著

青鞜の女・尾竹紅吉（こうきち）伝

青鞜社での在籍期間わずか九カ月。そのとき紅吉18歳。『青鞜』を『青鞜』たらしめた天性のフェミニストは、自由恋愛と性差別の桎梏に苦悩もした、女の近代を体現した存在だった。初の本格的評伝。
●四六判・上製・380 頁・定価 3,850 円／'01年３月刊

岩田ななつ 著

文学としての『青鞜』

『青鞜』の本質は文学にある――女性による女性のための文学雑誌として登場した『青鞜』の小説及び作家たちに焦点を当て、『青鞜』の文学史上での役割を再評価する意欲作！
●四六判・上製・280 頁・定価 1,980 円／'03年４月刊

岩田ななつ 編・解題

青鞜文学集

日本最初のフェミニスト雑誌として知られる『青鞜』（平塚らいてう他主宰、1911年〜16年刊）。その出発点であった「女性と文学」にこだわって全52冊から小説を中心に珠玉の20点を選び収録。
●Ａ５判・並製・256 頁・定価 2,200 円／'04年９月刊

金子幸代 編・解説

鷗外女性論集

1890年代に入り、論壇・文壇に登場した女性を性の枠組みに関係なく評価し、創作の中では自ら道を切り拓く女性を描いた森鷗外の、女性に関する評論や創作をまとめたアンソロジー。
●Ａ５判・並製・344 頁・定価 3,080 円／'06年４月刊

定価は消費税10％込

農業史

京都帝国大学農林経済学教室 調査・作成〔昭和２年～８年〕

農家経済調査簿

ＤＶＤ―ＲＯＭ版　全６枚・別冊１　揃定価 308,000 円
マイクロフィルム版　全 63 リール・別冊１
揃定価 831,600 円

別冊＝解説（野田公夫・水田隆太郎）・復刻「農家経済調査簿記入上の心得」・収録農家一覧
'06年11月刊

京都帝国大学農学部農林経済学教室が昭和２年～８年にかけて行なった近畿５府県の104世帯に対する、総314冊、総頁数15万頁の生活経済調査簿をＤＶＤ版とマイクロフィルム版にて復刻。

各冊の構成は財産台帳・農家の概況・日誌・現物整理帳であり、付録として農具表・家具家財表を収録。日誌には、各農家の家族の労働の役割と時間、現物出納と現金出納が克明に記録されている。農家経営と消費生活が一体となった戦前農家の厖大な記録。

●推薦＝岩本純明・大門正克・香月洋一郎・小山静子・野本京子・細谷　昂

古瀬伝蔵 編〔大正11年～昭和15年刊〕

農政研究　全 38 巻

Ａ５判・上製・函入・総 28,000 頁
揃定価 506,000 円（揃本体 460,000 円＋税10%）
'85年３月～'86年２月配本完結〔復刻版〕

大正11年５月創刊の本誌は、古瀬伝蔵を編集者として、当時の農業問題に幅広い論陣を張った。執筆者には、政治家、学者、行政家、教育家、新聞記者、農業指導者らが登場し、大正・昭和初期の激動する農村問題を各号に特集を組み入れながら、極めてユニークな農政誌として昭和15年12月まで刊行された。

本誌は、農村政治史・思想研究の第一級資料であり、農政史研究のみならず、日本近代史研究の資料としても活用されんことを望む。

●推薦＝近藤康男・鈴木正幸・田中　学

■日本近代農政史料集成❻～❽

東北振興計画集覧　全３巻

本書は、昭和９年12月、内閣総理大臣の諮問機関として勅令によって設置された「東北振興調査会」において論議された恒久的東北開発策としての国段階、県段階の東北振興計画を収録している。

●Ｂ５判・上製・函入・総 2,340 頁・揃定価 41,800 円／'85年７月刊〔復刻版〕

■日本近代農政史料集成❶❺～❶❽
大日本地主協会機関誌〔大正14年～昭和８年刊〕

農政時報　全４巻・別冊１

別冊＝解説（清水洋二）・総目次

『農政時報』は、大正末から昭和初期の農業恐慌に直面した地主層のうち、近畿地方を中心とする地主が「解明的」な土地解決をめざし設立した大日本地主協会の機関誌で全九五号を刊行。

●Ａ５・Ｂ５判・上製・函入・総 2,494 頁・揃定価 66,000 円／'87年６月刊〔復刻版〕

■日本近代農政史料集成❶❾～❷❶

岐阜県小作争議資料集成　全３巻

第１巻＝『岐阜県下ニ於ケル小作紛争ニ関スル調査復命書』〈上〉／第２巻＝同上〈下〉／第３巻＝『小作問題紛擾編』『岐阜県ニ於ケル農業争議ノ状況』を収録。解説（森武麿）付。

●Ｂ５判・上製・函入・総 1,584 頁・揃定価 41,800 円／'87年９月刊〔復刻版〕

愛知県立安城農林学校同窓会機関誌〔大正14年～昭和18年刊〕

流　芳　全８巻・別冊１

別冊＝解題（『流芳』復刻版刊行会）・総目次・索引

本誌は「農聖」山崎延吉の指導の下、多くの人材を県内外に送り出した安城農林学校の同窓会誌で、地域社会の中心的な担い手、また農政の中堅をつくる教育機関として大きな役割を果たした。

●Ａ５判・上製・函入・総 5,602 頁・揃定価 88,000 円／'87年８月刊〔復刻版〕

占領期報徳運動資料集成

16ページをご参照ください。

土地が哭いている

31ページをご参照ください。

家の光

78ページをご参照ください。

処女の友

98ページをご参照ください。

定価は消費税10％込

中国語・中国文学・漢文

加藤国安 編・解説

明治漢文教科書集成

〔全Ⅲ期〕 全７巻・別冊２

別冊１＝第Ⅰ期・第Ⅱ期解説
別冊２＝第Ⅲ期解説・総索引
Ａ４判・上製・総3,254頁
揃定価213,400円（揃本体194,000円＋税10%）
'13年11月～'15年９月配本完結〔編集復刻版〕

本集成は明治期に刊行された漢文教科書を年代で３期に分け、儒教主義復古から教科書検定までの期間を第Ⅰ期「初学漢文教科書編」（収録資料明治10～20年刊）、日本の漢文教育史上もっとも内容的に充実した国民教育が実施された教科書検定下の第Ⅱ期「中等漢文教科書編」（同24～34）、国語調査委員会発足後の第Ⅲ期「多様な漢文教科書編」（同32～44）とした。

本集成が近代日本教育史における漢文の苦闘と変遷を実見することのできる貴重資料であることは自明であるが、国内外から広く収集された作品群は東アジア漢文傑作選としても価値がある。 ●**推薦**＝石川忠久・鈴木貞美・辻本雅史

木村　淳 編・解説

明治漢文教科書集成 補集

〔全Ⅱ期〕 全６巻・別冊２

別冊１＝補集Ⅰ解説
別冊２＝補集Ⅱ解説・総索引
Ａ４判・上製・総2,318頁
揃定価181,500円（揃本体165,000円＋税10%）
'17年12月～'18年11月配本完結〔編集復刻版〕

本集成は、加藤国安編『明治漢文教科書集成』全Ⅲ期の増補版として、その全体像をより詳細に把握するために編んだものである。補集Ⅰ「明治初期の「小学」編」、補集Ⅱ「模索期の教科書編」として、明治10年～38年に刊行された全20種の教科書を収録する。当時の漢文教科書の全体を俯瞰し、修身や歴史の領域にもまたがる漢文科目の実態に迫る基本資料。
●**推薦**＝加藤国安

中国書籍総目録

総142冊・補巻１

補巻＝中国雑誌所蔵目録（'49年～'65年）
Ａ５判・Ｂ５判・上製・総86,946頁
揃定価2,717,000円（揃本体2,470,000円＋税10%）
'81年６月～'07年４月配本完結〔復刻版〕

本書は、1949年から2003年までの中華人民共和国建国後の出版物を網羅し、全書籍の編著者、発行年月、出版社、頁数、定価を詳細に記録し、社会科学、自然科学はもちろんのこと、児童読物、教科書、少数民族の出版物、外国の翻訳図書、さらに新聞、雑誌の出版状況を全て収録している（原書名＝全国総書目）。

各年度に「書名索引」及び「少数民族文字図書目録」「叢書目録」付き。1991年版よりＩＳＢＮ番号、全国出版社名目録が付く。
●**推薦**＝波多野太郎

人民日報索引 全32巻・付録１

付録＝人民日報社論索引
Ｂ５判・上製・函入・総16,000頁
揃定価286,000円（揃本体260,000円＋税10%）
'83年12月刊〔復刻版〕

『人民日報』は1946年５月15日創刊され今日まで継続している、中国共産党中央委員会機関紙である。『人民日報索引』は『人民日報』の記事を各分野に分類してあり、膨大な量の新聞を検索するためには必要不可欠のものである。本復刻版は、1946年５月15日から48年６月14日までの『晋冀魯豫人民日報』を含む、1979年までの索引の集大成である。また、一部分ではあるが、《人名索引》が付いているのも重宝である。
●**推薦**＝阪本楠彦

六角恒廣 編・解題

中国語辞典集成 全16巻

Ａ４判・上製・総5,503頁
揃定価422,400円（揃本体384,000円＋税10%）
'03年６月～'04年８月配本完結〔編集復刻版〕

明治から昭和戦前期の間で中国語学習に使用された、今日入手困難な辞・字典を36点収録。
〈収録内容〉
第１回配本――『日華語学辞林』『井上 支那語辞典』など９点を収録
第２回配本――『日華新辞典』『註音対訳 華語辞典』など５点を収録
第３回配本――『支那語中辞典』『新時文辞典』など10点を収録
第４回配本――『日台新辞典』『日満会話辞典』など12点を収録
●**推薦**＝波多野太郎

波多野太郎 編・解題

中国語学資料叢刊 全20巻
〔全5篇〕

A4判・上製・総12,286頁
揃定価522,500円（揃本体475,000円＋税10%）
各篇定価104,500円（本体95,000円＋税10%）
'84年7月～'87年5月配本完結〔復刻版〕

本書は、日本人が明治以来、終戦までに著した中国語の研究書・課本・参考書等を網羅的に収録したものである。
第1篇「白話研究篇」
第2篇「燕語社会風俗・官話翻訳古典小説・精選課本篇」
第3篇「尺牘篇」
第4篇「尺牘・方言研究篇」
第5篇「公文研究・日語中譯・聲音研究篇・補遺」
●**推薦**＝太田辰夫・奥水　優

波多野太郎 編・解題

中国文学語学資料集成 全20巻
〔全5篇〕

A4判・上製・総9,210頁
揃定価412,500円（揃本体375,000円＋税10%）
各篇定価82,500円（本体75,000円＋税10%）
'88年4月～'90年6月配本完結〔復刻版〕

第1篇　日中両国の優れた中国文学・語学研究の古典的名著、および欧米語による中国語辞典計24冊を収載。
第2篇　『海南語読本』を含む中国各地の方言研究書等30冊を収載。
第3篇　『社会小説北京』を含む中国文学・語学の研究書等27冊を収載。
第4篇　今日まで、未だ解明されていない「俗曲」「曲本」類の基本資料合計95点を収録。他に、語学資料31冊を収載。
第5篇　会話教科書等の資料と中国文学、語学研究書39点を収録し復刻。

波多野太郎 編・解題

中国語文資料彙刊 全20巻
〔全5篇〕

A4判・上製・総8,818頁
揃定価484,000円（揃本体440,000円＋税10%）
各篇定価96,800円（本体88,000円＋税10%）
'91年11月～'95年11月配本完結〔復刻版〕

『中国語学資料叢刊』、『中国文学語学資料集成』に続く、日中両国の中国文学・語学研究の成果を収録。
第1篇「金瓶梅」ほか17点収録。
第2篇「南曲譜」ほか27点収録。
第3篇「照世盃」ほか22点収録。
第4篇「詩家法語」ほか21点収録。
第5篇「小曲・曲本」ほか41点収録。

六角恒廣 編・解題

中国語教本類集成
第Ⅰ期（第1集～第5集）・全20巻

A4判・上製・総9,238頁
各集揃定価93,500円（揃本体85,000円＋税10%、各集＝全4巻）
'91年4月～'95年4月配本完結〔復刻版〕

明治初年以降、日本における中国語教育において使用された、教科書・辞典・文法書等の教本類を収集し、中国語教育史研究の資料として復刻刊行。現在の中国語および日本語教育にも必備の参考書。
〈収録内容〉第1集――一般学習書（1）24点の文献を収載
第2集――一般学習書（2）33点の文献を収載
第3集――英仏語版・時文・商業文30点を収載
第4集――文法書・発音・辞典類23点を収載
第5集――台湾語・試験問題集ほか27点を収載

六角恒廣 編・解題

中国語教本類集成
第Ⅱ期（第6集～第10集）・全15巻

A4判・上製・総6,012頁
各集揃定価66,000円（揃本体60,000円＋税10%、各集＝全3巻）
'96年5月～'98年5月配本完結〔復刻版〕

第Ⅱ期では、戦争語学とまで言われた過去の中国語の戦時期の会話書をはじめ、昭和期の新しい傾向を示す小説や語法書、さらには講義録、学習誌、軍用語など中国語教育史研究のための資料を収録。
〈収録内容〉第6集―日露戦争期の会話書など18点を収載
第7集―小説・時文・翻訳語法書など24点を収載
第8集―講義録を中心に7点の資料を収載
第9集―講座・ラジオテキスト・学習誌27点を収載
第10集―実務用語・警務・軍用語など32点を収載

六角恒廣 編・解題

中国語教本類集成
補集・全5巻

B5判・上製・総1,522頁
揃定価99,000円（揃本体90,000円＋税10%）
'98年12月刊〔復刻版〕

補集は江戸時代唐話篇として、特に享保の時期（1716～1735年）に刊行された、主として岡島冠山の手によって編纂された教本を収録。『唐詩選唐音』を加えた6点を全5巻にまとめ完結。
〈収録内容〉1　唐話纂要（5巻5冊）～岡島冠山編
2　唐譯便覧（5巻5冊）～岡島冠山編
3　唐話使用（6巻6冊）～岡島冠山編
4　唐音雅俗語類（5巻5冊）～岡島冠山編
5　唐詩選唐音（1巻1冊）～李攀龍編
6　經學字海便覧（7巻7冊）～岡島冠山編

北京図書館 編印〔1959年刊〕

中国社会主義経済建設文献目録 全3巻

Ｂ５判・上製・函入・総2,420頁
揃定価49,500円（揃本体45,000円＋税10%）
'84年12月刊〔復刻版〕

本書は1959年北京図書館により編集発行された『十年来我国社会主義経済建設成就資料目録』（初稿）の復刻版である。本目録は、1949―58年の10年間に刊行された経済建設に関する書籍、および新聞・雑誌に掲載された論文を網羅し、項目別に分類整理し、専門分野の研究者にとって非常に便利な目録となっている。言うまでもなく、この期間は、中国社会主義の草創期であり、文献・論文の刊行数も厖大であるが、今日までにこのような分類目録は正式には刊行されていない。研究者必携の工具書。

鱒澤彰夫 編

紅衛兵新聞目録

毛沢東の指導のもと、文化大革命初期に中国全土を席巻した青年層を主体とした大衆運動組織＝紅衛兵の機関誌「紅衛兵新聞」の総目録。1966年８月から68年末まで刊行された2,183種を収録。
●推薦＝矢吹　晋
●Ａ４横判・上製・602頁・定価30,800円／'05年３月刊

波多野太郎 編・解題

中文資料叢刊 補遺

本編は、弊社既刊の『中国語学資料叢刊』『中国文学語学資料集成』『中国語文資料彙刊』に未収録の資料、官話應酬新篇（渡俊治）、支那語自習完璧（東亜実進社）ほか８種を収録。
●Ａ４判・上製・348頁・定価26,400円／'03年10月刊〔編集復刻版〕

何　旭 著

『談藪（だんそう）』研究

散佚してしまった文言小説集『談藪』について、類書より余すところなく網羅して106条を拾い出し、これに分析、考証、比較、註釈を加えたものである。中国文学史における貴重な研究書。
●Ａ５判・上製・578頁・定価8,250円／'10年１月刊

中嶋幹起 著

呉語の研究――上海語を中心にして

〈文部省科学研究費補助金「研究成果刊行費」出版物〉

本書は、著者が、1978年以来、中国の呉語方言圏各地を踏査し、採集した口語資料をもとに、当該方言の音韻と語彙の整理・分析を行ない、中国語学研究のひとつの成果として公刊されたものである。
●Ｂ５判・上製・函入・752頁・定価27,500円／'83年２月刊

六角恒廣 著

近代日本の中国語教育

本書は、近代日本の中国語教育をふり返り、今日の中国語教育のための礎を作ろうとの意図によって書かれた。中国語の学校、テキスト、教師等の問題を中心に、戦前の「支那語教育」全般にメスを入れる。
●Ｂ６判・並製・280頁・定価1,650円／'96年２月再刊

那須　清 著

旧外地における中国語教育

本書は、旧「外地」（中国）における中国語教育の歴史を、教科書および制度等について検討し、また北京にあった無名の中国語学校である支那語研究舎についても論述する。詳細な関連年表を付す。
●Ａ５判・並製・130頁・定価2,200円／'92年１月刊

折戸洪太 著

中国における社会主義経済理論の展開

本書は、マルクス主義経済学、社会主義経済理論が中国へどのように伝播し、それが社会主義建設のなかでどのように展開されたかを跡づけ、伝播・展開に関わった人々にも言及している。
●Ａ５判・並製・212頁・定価2,200円／'05年１月刊

六角恒廣 著

中国語教育史論考

著者の退官記念論文集。近代日本の中国語教育史を戦前と戦後に分けて論述。また、日清戦争後、植民地統治のために中国（閩南）語等を教授した台湾協会学校（後の拓殖大学）についても言及。
●Ａ５判・並製・184頁・定価2,200円／'89年３月刊

六角恒廣 著

中国語教育史稿拾遺

日本における中国語教育史の研究が発足して半世紀になる。その間、著者は多くの著書を刊行している。本書は、最近執筆した論稿を整理しまとめて刊行する。
●四六判・上製・296頁・定価3,080円／'02年２月刊

六角恒廣 著

中国語書誌

明治初年から戦前までの、日本における中国語教科書・辞典類について、詳細な解題を記す。その数150点の書誌解題。弊社刊行の『中国語教本類集成』と、あわせてご利用されたい。
●Ａ５判・並製・250頁・定価2,750円／'94年８月刊

定価は消費税10％込

六角恒廣 著

中国語関係書書目〔増補版〕

明治以降の近代日本における中国語教育に使用された教科書を全て収録。旧版（1867—1945）につづき、増補版では2000年までを発行年月日の順に配列している。
● A 5 判・並製・181 頁・定価 2,200 円／'01年12月刊

那須　清 編

北京同学会の回想

北京同学会は、明治36年支那語研究舎として北京に開設、6 回校名を変え、昭和22年廃校。この専門学校出身の中国語教師・研究者は多く、戦後の中国語教育に大きな足跡を残した。
● A 5 判・並製・300 頁・定価 3,080 円／'95年11月刊

波多野太郎 著

波多野太郎博士 覆印語文資料提要

中国語学及び文学に関する資料収集についての第一人者・波多野太郎博士編纂の『中国語学資料叢刊』『中国文学語学資料集成』『中国語文資料彙刊』等に収載の全文献の解題と索引。
● B 5 判・並製・382 頁・定価 5,500 円／'96年 2 月刊

東京外国語大学Ａ・Ａ言語文化研究所 発行
李　範文・中嶋幹起 編・著

電脳処理 西夏文雑字研究

世界に先駆けて開発された西夏文字のコンピューター処理により、ロシアのコズロフ探検隊収集品、西夏文刊本『雑字』を分析し、漢語拼音検字索引・西夏字音検字索引などを作成。国際共同研究の成果。
● A 4 判・上製・函入・408 頁・定価 19,800 円／'97年 7 月刊

東京外国語大学Ａ・Ａ言語文化研究所 発行
中嶋幹起・今井健二・高橋まり代 編・著

電脳処理 西夏文字諸解対照表（稿）

今日までの西夏文字の諸家の研究を、コンピューター処理によって対照表とし、様々な分類法によっても検索可能とした。西夏文字の秘密を解き明かす有力な手がかりとなる、画期的な研究工具書。
● A 4 判・上製・函入・866 頁・定価 27,500 円／'98年 7 月刊

中嶋幹起 編／今井健二・高橋まり代 協力

清代中国語 満洲語辞典

清代に編纂された『御製増訂清文鑑』（全32巻＋補編 4 巻）をコンピューター処理し、「現代中国語索引」と「満洲語索引」を付す。満洲語学、中国語学、東洋史学の基本工具。
● B 5 判・上製・函入・2,168 頁・定価 41,800 円／'99年 5 月刊

東京外国語大学Ａ・Ａ言語文化研究所 発行
史　金波・中嶋幹起・大塚秀明・今井健二・高橋まり代 編・著

電脳処理《文海宝韻》研究

1909年ロシアのコズロフがチベットから入手した書籍巻物の中に、『雑学』と共に、『文海宝韻』（写本）も含まれていた。本書は史金波教授との共同研究の成果。『文海宝韻』の全文の復刻。
● A 4 判・上製・函入・911 頁・定価 40,700 円／'00年 5 月刊

東京外国語大学Ａ・Ａ言語文化研究所 発行
中嶋幹起・今井健二・高橋まり代 編・著

電脳処理 西夏文献《文海》反切法解析

「写本」である『文海宝韻』の研究と平行して、「刻本」である『文海』の研究を開始し、西夏文字の字形と音韻の反切の記述についての研究が急務となった。本書は、西夏文字の理想型を追求する。
● A 4 判・上製・函入・749 頁・定価 29,700 円／'00年 5 月刊

東京外国語大学Ａ・Ａ言語文化研究所 発行
中嶋幹起・今井健二・高橋まり代 編・著

電脳処理 西夏文字字素分析

西夏文字は漢字をヒントに作られたとはいえ、字形は極めて複雑である。今まで漢字の扁旁、四角号碼、あるいは画数によっていた発想を転換し、チベット語の文字を手掛りに、新しい分析方法を追求。
● A 4 判・上製・函入・1,192 頁・定価 49,500 円／'00年 5 月刊

東京外国語大学Ａ・Ａ言語文化研究所 発行
中嶋幹起 著

海南島方言基礎語彙集（はいなんとう）

著者は、『閩語東山島方言基礎語彙集』『福建漢語方言基礎語彙集』など閩方言に関する研究があり、本書はその延長線上にある。閩方言のひとつの異種として、ユニークな形態を残す。
● B 5 判・上製・321 頁・定価 16,500 円／'02年 5 月刊

東京外国語大学Ａ・Ａ言語文化研究所 発行
清格爾泰 編・著

契丹小字釋読問題（きったん）

編著者の清格爾泰（Qinggeertai）教授は、『契丹小字研究』（1985）を著し、その後、ＡＡ研に留学、拓本資料を提示するとともに、各研究者のこれまでの契丹文字解読の諸見解を吟味する。
● A 4 判・上製・422 頁・定価 27,500 円／'02年 5 月刊

定価は消費税10％込

【中国共産党史資料叢書】

■中国共産党史資料叢書❸

新中華報（刷新版） 全２巻

Ａ４判・上製・函入・総988頁
揃定価49,500円（揃本体45,000円＋税10%）
'86年３月刊〔復刻版〕

刷新版『新中華報』の前身は陝甘寧辺区政府機関紙『新中華報』であり、その後身は今日の『人民日報』の前身に当たる『解放日報』である。

刷新版『新中華報』は、抗日戦争における第２次国共合作の危機と破綻（二度の反共高潮）をはらむ時期の中国共産党中央機関紙として、その名と『紅色中華』（のち『新中華報』と改題）の後身という性格と全230号の影印本の存在は1950年代末から中国の党史家の論文によって知られていたが、今回、その全号を復刻刊行する。

●**推薦**＝宇野重昭・小島晋治・藤田正典

■中国共産党史資料叢書❹

闘　争（瑞金版） 全２巻

Ｂ５判・上製・函入・総1,280頁
揃定価30,800円（揃本体28,000円＋税10%）
'86年５月刊〔復刻版〕

『闘争』（1933年２月４日～1934年９月30日、全73期）は、博古、洛甫の握る中国共産党ソ区中央局機関紙であり、その紙名の如く党内闘争の経過と結果をあらわにする文献である。

だが、『闘争』の論客の多くは延安期にも活躍しており、中国共産党史における瑞金期、延安期の路線闘争問題は単純な図式では解明できず、様々な鍵と新たな謎が瑞金版『闘争』に見出される。本復刻版には、これまで未発見の、32、33、36、37、39期をも収録。

●**推薦**＝宇野重昭・小島晋治・藤田正典

■中国共産党史資料叢書❺

布爾塞維克（ボルシェビキ） 全７巻

Ｂ５判・Ｂ６判・上製・函入・総4,032頁
揃定価104,500円（揃本体95,000円＋税10%）
'86年10月刊〔復刻版〕

『布爾塞維克』は、中国共産党最初の中央機関誌『嚮導』の後身として1927年10月24日創刊され、『紅旗』創刊（1928年11月20日）を前に２巻１期（1928年11月１日）から月刊（のち隔月刊）の中央理論機関誌となり、５巻１期（1932年７月）まで全52期が、断続的に刊行された。中国共産党史における瞿秋白路線期の中央機関紙として、また、李立三路線形成期や王明路線初期の中央理論機関誌として、その党史研究上の資料価値は甚大である。

●**推薦**＝宇野重昭・小島晋治・藤田正典

解説・解題・総目次・索引シリーズ

■ジャーナリズム・新聞

甘利璋八 解説
『横浜毎日新聞』解説・総目次　全3巻
● A 4判・上製・1,830頁・揃定価66,000円／'93年1月刊

水野公寿 解説
『近事評論・扶桑新誌』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・206頁・定価2,200円／'90年10月刊

松尾章一 解説
『自由燈（じゆうのともしび）』解説・主要記事索引
● A 4判・上製・260頁・定価17,600円／'07年3月刊

門奈直樹・武内善信 解説
『牟婁（むろ）新報』第Ⅰ期 解説・執筆者索引
● A 5判・並製・136頁・定価2,200円／'02年10月刊

武内善信・中瀬喜陽 解説
『牟婁（むろ）新報』第Ⅱ期・第Ⅲ期 解説・執筆者索引
● A 5判・並製・140頁・定価2,200円／'06年1月刊

松野良一・大久保謙 解説
『新聞学院『学報』』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・約108頁・定価1,100円／'15年2月刊

門奈直樹 解説
『現代新聞批判』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・300頁・定価3,300円／'95年9月刊

赤澤史朗 解説
『言論報国』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・42頁・定価1,100円／'98年10月刊

荒瀬　豊 解説
『他山の石』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・86頁・定価1,100円／'87年9月刊

田中秀臣 解説
『サラリーマン』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・244頁・定価3,300円／'00年11月刊

河原　功 解題
『号外』解題・総目次・索引
● A 5判・並製・54頁・定価1,100円／'04年10月刊

尾崎秀樹 解説
『人物評論』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・66頁・定価1,100円／'96年11月刊

浦西和彦 解説
『夕刊 新大阪』解説・主要記事索引
● A 5判・並製・292頁・定価3,300円／'07年5月刊

茅原　健 編【取扱図書】
茅原華山年譜・著作目録稿
● B 5判・並製・216頁・定価5,500円／'84年10月刊

牛島秀彦 解説
『近きより』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・70頁・定価1,100円／'89年8月刊

■宗教

中西直樹 編・解題
『雑誌『國教』と九州真宗』解題・総目次・索引
● A 5判・並製・104頁・定価1,100円／'16年7月刊

下西　忠 解説
『遍路』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・86頁・定価1,100円／'16年3月刊

佐賀枝夏文 解説
『児童と宗教』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・156頁・定価2,200円／'13年12月刊

佐賀枝夏文 解説
『救済』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・104頁・定価1,100円／'01年10月刊

樽松かほる・影山礼子 解説
『地の塩』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・194頁・定価1,980円／'14年12月刊

定価は消費税10％込

武田清子 解説
『女子青年界』解説・総目次・索引
● A 5 判・上製・650 頁・定価 24,200 円／'94年 1 月刊

和田敦彦 解説
『救世』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・87 頁・定価 1,100 円／'12年 7 月刊

室田保夫 解説
『ときのこゑ』解説・総目次・執筆者索引　全 2 巻
● A 4 判・上製・総 636 頁・揃定価 44,000 円／'89年12月刊

五味百合子 解説
『婦人新報』解説・総目次・索引
● A 5 判・上製・658 頁・定価 19,800 円／'98年 6 月刊

門奈直樹 解説
『聖化』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・104 頁・定価 1,100 円／'90年11月刊

山口光朔 解説
『七一雑報』解説・総目次・索引
● A 4 判・上製・192 頁・定価 11,000 円／'89年 2 月刊

對馬路人 解説
『人類愛善新聞』解説
● A 5 判・並製・48 頁・定価 1,100 円／'13年11月刊

柏木隆法 解説
『無我の愛』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・226 頁・定価 5,500 円／'86年12月刊

鈴木範久 解説
『六合（りくごう）雑誌』解説・執筆者・作品名索引 付＝『創造者』第 1 号
● A 5 判・上製・358 頁・定価 11,000 円／'88年 2 月刊

武　邦保 解説
『上毛教界月報』解説・総目次・索引
● B 5 判・上製・200 頁・定価 3,300 円／'85年 3 月刊

坂口満宏 解題
『近代日本「平和運動」資料集成』解題・総目次・索引
● A 5 判・並製・92 頁・定価 1,100 円／'05年11月刊

■心理・医学

中馬充子 解説
『優生學』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・約 144 頁・定価 2,200 円／'15年 3 月刊

曾根博義 解説
『変態心理』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・154 頁・定価 3,300 円／'99年11月刊

斎藤　光 解説
『変態性慾』解説・総目次
● A 5 判・並製・46 頁・定価 550 円／'02年10月刊

馬場伸彦 解説
『犯罪科學』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・118 頁・定価 1,100 円／'08年 8 月刊

サトウタツヤ・曾根博義 解説
『精神分析』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・122 頁・定価 1,100 円／'08年 6 月刊

松原洋子 解説
『人性』解説・総目次・索引
● B 5 判・並製・118 頁・定価 2,200 円／'01年 6 月刊

藤野　豊 解説
『優生運動』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・86 頁・定価 1,100 円／'99年 6 月刊

■思想・哲学

三上敦史 解題
『成功』解題・総目次
● B 5 判・上製・358 頁・定価 8,800 円／'15年11月刊

■社会福祉

岩田正美 解説／養育院を語り継ぐ会 回想
『東京都養育院月報』解説・回想・総目次
● A 5 判・並製・122 頁・定価 1,100 円／'17年 4 月刊

清水　寛・室田保夫 解説
『東京市養育院月報』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・280 頁・定価 2,200 円／'09年12月刊

定価は消費税10％込

丹野喜久子 解説
『東京孤児院月報』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・114 頁・定価1,100円／'03年 6 月刊

室田保夫 解説
『獄事叢書』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・52 頁・定価1,100円／'98年 9 月刊

長谷川匡俊・土井直子 解説
『労働共済』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・72 頁・定価 1,100 円／'05年 7 月刊

元村智明 解説
『石川県之社会改良』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・60 頁・定価 1,100 円／'06年 6 月刊

寺脇隆夫 解説
『社会事業彙報』解説・事項索引
● A 5 判・並製・190 頁・定価 3,300 円／'12年 7 月刊

■人権

藤野　豊 解説
『近現代日本ハンセン病問題資料集成』〈戦前編・戦後編〉解説・総目次
● A 5 判・並製・192 頁・定価 2,200 円／'04年 1 月刊

藤野　豊 解説
『近現代日本ハンセン病問題資料集成』〈補巻 1 ～15〉解説・総目次
● A 5 判・並製・220 頁・定価 2,200 円／'07年 5 月刊

平田勝政 解説
『近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻16～19〉日本ＭＴＬ』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・156 頁・定価 1,980 円／'09年 5 月刊

『愛生』〈戦前編〉総目次・索引
● A 5 判・並製・238 頁・定価 3,300 円／'21年11月刊

蒲生俊宏 解説
『愛護』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・82 頁・定価 1,100 円／'06年 7 月刊

藤野　豊 解説
『更生』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・80 頁・定価 1,100 円／'88年 4 月刊

藤野　豊 解説
『初期水平運動資料集』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・102 頁・定価 1,100 円／'89年10月刊

蓮城寺秋幸 解説
『創立期水平社運動資料』解説・細目次
● A 5 判・並製・60 頁・定価 1,100 円／'94年 9 月刊

平山和彦・朝治 武・吉田栄治郎・のび しょうじ 解説
『民族と歴史』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・136 頁・定価 2,200 円／'97年11月刊

■法律・政治・経済・統計

『法律新聞』総目次 全 2 巻
● B 5 判・上製・1,260 頁・揃定価 27,500 円／'83年12月刊

高嶋雅明 解説
『通商公報』解説・総索引 全 4 巻
● B 5 判・上製・1,980 頁・揃定価 104,500 円／'97 年 8 月刊

高嶋雅明 解説
『日刊 海外商報』解説・総目次
● A 4 判・並製・202 頁・定価 3,300 円／'05年 5 月刊

岡田和喜 編・著
『中央銀行会通信録』解題・記事総索引
● B 5 判・上製・625 頁・定価 27,500 円／'98年 1 月刊

作道洋太郎・岡田和喜・高嶋雅明・本間靖夫 解説
『大阪銀行通信録』解説・総目次
● B 5 判・上製・724 頁・定価 20,900 円／'02年10月刊

原田政美 編・解説
『近代日本「市場」関係資料集』解説／近代日本「市場」関係資料目録（CD付）
● A 5 判・並製・104 頁・定価2,200 円／'11年 7 月刊

金澤史男 解説／酒田正敏 解題
『斯民』目次総覧〈新版〉
● B 5 判・上製・450 頁・定価 8,800 円／'01年 5 月刊

西田美昭・荻野富士夫 解題
『経済月報』解題・総目次
● A 5 判・並製・204 頁・定価 2,200 円／'02年11月刊

定価は消費税10％込

西　秀成・荻野富士夫・藤野　豊 著
『昭和大礼記録資料』解説
●B 5 判・並製・90 頁・定価 1, 650 円／'90年10月刊

畑　穣・楜澤能生 解説／楜澤能生・早坂啓造 解題
『小繋事件裁判資料集』解説・解題・各裁判記録細目次
●B 5 判・並製・256 頁・定価 5, 500 円／'13年 3 月刊

須田将司 解説
『教化運動』解説・総目次・索引
●A 5 判・並製・276 頁・定価 3, 300 円／'19年 9 月刊

■建築・都市・地理・民俗・観光

『風景』総目次・索引
●A 5 判・並製・142頁・定価 2, 200 円／'18年 4 月刊

初田香成 解題
『都市不燃化』解題・総目次・索引
●A 5 判・並製・94 頁・定価 1, 100 円／'14年11月刊

越澤　明 解説
『新都市』解説・総目次・索引
●B 5 判・並製・218 頁・定価 3, 300 円／'97年12月刊

堀田典裕 解説
『都市創作』解説・総目次・索引
●A 5 判・並製・76 頁・定価 1, 100 円／'05年 5 月刊

辻原万規彦・藤岡里圭 解題
昭和10年全国商店街調査資料　別巻＝解題・参考資料編
●A 5 判・上製・352 頁・定価 16, 500 円／'07年12月刊

吉原直樹 解説
『町会』『町と生活』解説・総目次・索引
●A 5 判・並製・138 頁・定価 1, 100 円／'08年 5 月刊

石田潤一郎 解説
『新建築』解説・総目次・索引
●A 5 判・並製・137 頁・定価 2, 200 円／'10年 2 月刊

橋爪紳也 監修／中島直人 解説
『都市美』監修の辞・解説・総目次・索引
●A 5 判・並製・68 頁・定価 1, 100 円／'07年11月刊

河原典史 解説
『京都地籍図』解説
●A 5 判・並製・28 頁・定価 1, 100 円／'09年 4 月刊

丸山　宏 解説
『古蹟』解説・総目次・索引
●A 5 判・並製・64 頁・定価 1, 100 円／'11年 1 月刊

丸山　宏 解説
『史蹟名勝天然紀念物』〈大正編〉解説・総目次・索引
●A 5 判・並製・90 頁・定価 1, 100 円／'03年 6 月刊

高木博志 解題
『史蹟名勝天然紀念物』〈昭和編〉解題・総目次・索引
●A 5 判・並製・202 頁・定価 2, 200 円／'08年11月刊

白幡洋三郎 解題
『國立公園』解題・総目次・索引
●A 5 判・並製・80 頁・定価 1, 100 円／'11年12月刊

田中　傑・中島直人・野村悦子・初田香成 解説
『東京地籍図』解説
●A 5 判・並製・130 頁・定価 1, 100 円／'12年12月刊

小林　茂 解説
『外邦測量沿革史　草稿』解説・総目次
●A 5 判・並製・67 頁・定価 1, 100 円／'09年 3 月刊

山形政昭 解説
『建築と社会』解説・総目次・索引
●A 4 判・上製・234 頁・定価 19, 800 円／'97年 7 月刊

『都市公論』総目次・索引
●A 5 判・並製・224 頁・定価 3, 300 円／'92年 2 月刊

■移民

和田敦彦 解説
『力行世界』『力行』『力行網』『渡米新報』解説・総目次・索引
●A 5 判・並製・428 頁・定価 3, 300 円／'13年 6 月刊

権並恒治 編集
『カナダ移民史資料』別冊（英文）
Historical Materials of Japanese Immigration to Canada
●B 5 判・上製・288 頁・定価 4, 400 円／'01年 2 月刊

定価は消費税10％込

柳田利夫 解説
『移民地事情』解説・総目次
●A 5判・並製・100頁・定価1,100円／'00年12月刊

篠田左多江・山本岩夫 共編・著
日系アメリカ文学雑誌研究――日本語雑誌を中心に
●B 5判・並製・262頁・定価3,300円／'98年12月刊

兒玉正昭 解説
『殖民協会報告』解説・総目次・索引
●A 5判・並製・82頁・定価1,100円／'87年2月刊

■沖縄

藤澤健一・近藤健一郎 解説
『文教時報』解説・総目次・索引
●A 5判・並製・308頁・定価3,300円／'17年9月刊

編集委員＝（代表）藤澤健一・近藤健一郎・櫻澤　誠・高橋順子・戸邉秀明・（編集協力）田中萌葵
『占領下の奄美・琉球における教員団体関係史料集成』解説・総目次・索引
●A 5判・並製・194頁・定価2,200円／'16年10月刊

高良倉吉 解説
『地域と文化』解説・総目次・索引
●A 5判・並製・56頁・定価1,100円／'17年7月刊

粟国恭子・近藤健一郎・世良利和・新城栄徳 解説
新城栄徳 総目次
『月刊 文化沖縄』解説・総目次・索引
●A 5判・並製・108頁・定価1,650円／'15年12月刊

三木　健 解説
『八重山文化』解説・総目次・索引
●A 5判・並製・102頁・定価1,100円／'15年6月刊

仲程昌徳・松下博文・粟国恭子・酒井直子 解説
新城栄徳 総目次
『おきなわ』解説・総目次・索引
●A 5判・並製・106頁・定価1,650円／'15年1月刊

鳥山　淳 解説
『今日の琉球』解説・総目次・索引
●A 5判・並製・198頁・定価2,200円／'14年5月刊

仲程昌徳 解説
『守礼の光』解説・総目次・索引
●A 5判・並製・152頁・定価3,300円／'12年11月刊

藤澤健一・近藤健一郎・梶村光郎・三島わかな 解説
『沖縄教育』解説・総目次・索引
●A 5判・並製・330頁・定価2,200円／'09年11月刊

■旧外地・アジア近現代史

『満蒙』総目次・執筆者索引
●A 5判・並製・360頁・定価3,300円／'03年8月刊

岡部牧夫 解説／小林弘二 解題
『拓け満蒙』『新満洲』『開拓』解説・解題・総目次
●B 5判・並製・80頁・定価2,200円／'98年4月刊

風間秀人 解題
『満洲開拓関係雑誌集成』解題・総目次
●A 5判・並製・128頁・定価1,650円／'15年4月刊

鹿地亘資料調査刊行会 編／『日本人民反戦同盟資料』別巻
日本人民反戦同盟資料　解説・解題・総目次
●A 4判・上製・346頁・定価38,500円／'95年12月刊

福井紳一 解説
『興農合作社関係資料』解説・総目次
●A 5判・並製・222頁・定価2,200円／'10年9月刊

三好　章 解題
『情報』解題・総目次
●A 5判・並製・87頁・定価1,100円／'10年1月刊

臼杵　陽 解題
『新亜細亜』解題・総目次・索引
●A 5判・並製・96頁・定価1,100円／'11年12月刊

仲程昌徳 解説
『南洋群島』解説・総目次・索引
●A 5判・並製・135頁・定価1,100円／'10年2月刊

岡部牧夫 解説
『満州移民関係資料集成』解説
●B 5判・並製・50頁・定価1,100円／'90年6月刊

定価は消費税10％込

■戦時下統制関係資料

河原　功 解説
『台湾出版警察報』解説・発禁図書新聞リスト
●A 5 判・並製・80 頁・定価 1,100 円／'01年 2 月刊

由井正臣・北河賢三・赤澤史朗・豊沢　肇 共編・著
出版警察関係資料 解説・総目次
●A 5 判・並製・196 頁・定価 1,980 円／'83年 1 月刊

荻野富士夫 解題
『外務省警察史』解題・総目次
●B 5 判・並製・174 頁・定価 3,300 円／'01年12月刊

石堂清倫 解説
『外事警察報』解説・総目次・索引
●A 5 判・上製・282 頁・定価 5,500 円／'89年 2 月刊

荻野富士夫 解題
『外事警察報 補巻』解題・総目次・索引
●A 5 判・並製・52 頁・定価 1,100 円／'00年 9 月刊

山本武利 解説
『宣撫月報』解説・総目次・索引
●A 5 判・並製・120 頁・定価 1,100 円／'06年 1 月刊

松野誠也 解説
陸軍省『調査彙報』解説・総目次
●A 5 判・並製・96 頁・定価 1,100 円／'07年 9 月刊

■戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史

粟屋憲太郎・中村　陵 解説
『総力戦研究所関係資料集』解説・総目次
●A 5 判・並製・94 頁・定価 1,320 円／'16年 2 月刊

常石敬一 解説
『陸軍軍医学校防疫研究報告』解説・総目次
●A 5 判・並製・100 頁・定価 1,100 円／'05年12月刊

常石敬一 解説
『陸軍軍医学校防疫研究報告』解説・総目次〈改訂版〉
●A 5 判・並製・131 頁・定価 1,650 円／'22年 8 月刊

内海愛子・山川　暁・豊川　慎 解題
『信友』解題・総目次・索引・年表
●A 5 判・並製・138 頁・定価 2,200 円／'22年 2 月刊

内海愛子 解題
『すがも新聞』解題・総目次・年表
●A 5 判・並製・106 頁・定価 2,200 円／'13年 9 月刊

■戦後史

『赤光』総目次・索引・附『赤光』第1号
●B 5 判・並製・156 頁+折込 2 頁・定価 2,200 円／'22年10月刊

高橋順一 解説／古賀　暹・菅原秀宣 回想
『情況』〈第1次〉解説・回想・総目次・索引
●A 5 判・並製・162 頁・定価 3,300 円／'22年 2 月刊

落合雄三・松村高夫 解説
『「三鷹事件」裁判関係資料集』解説・資料目録
●B 5 判・並製・100 頁・定価 2,200 円／'10年 1 月刊

『戦後日本共産党関係資料』収録資料目録
●A 4 横判・並製・328 頁・定価 5,500 円／'07年12月刊

井上　學・井上敏夫・来栖宗孝・由井　格 解題・解説
『戦後日本共産党関係資料』解題・解説
●A 5 判・並製・112 頁・定価 1,100 円／'08年 1 月刊

渡部富哉 解説／井上　學・井上敏夫 解題
『朝鮮戦争下 公安関係資料――光永源槌資料』解説・解題・収録資料目録
●B 5 判・並製・64 頁・定価 1,100 円／'11年 4 月刊

荻野富士夫 解説
『特審月報』解説・総目次
●A 5 判・並製・64 頁・定価 1,100 円／'08年11月刊

■教育

太田素子・小玉亮子・福元真由美・浅井幸子・大西公恵 解説
『幼小接続資料集成』解説
●B 5 判・並製・122 頁・定価 3,300 円／'22年 1 月刊

定価は消費税10％込

竹中暉雄 解説
『教育修身研究』解説・総目次
● B 5 判・並製・154 頁・定価 2, 200 円／'18年3月刊

『台湾教育』総目次・索引
● A 5 判・上製・746 頁・定価 20, 900 円／'16年10月刊

白石崇人 解説
『東京府教育会雑誌』解説・総目次・関連年表
● A 5 判・並製・218 頁・定価 2, 200 円／'17年11月刊

多仁照廣 解説
『良民』解説・総目次
● A 5 判・並製・82 頁・定価 1, 100 円／'98年10月刊

多仁照廣 解説
『帝國青年』『青年』解説・総目次・索引
● A 5 判・上製・540 頁・定価 5, 500 円／'07年 1 月刊

『帝國大學新聞』記事・執筆者索引
● A 4 判・上製・272 頁・定価 19, 800 円／'85年 5 月刊

『東京大学新聞』記事・執筆者索引
● A 4 判・上製・168 頁・定価 16, 500 円／'86年 5 月刊

『三田新聞』記事・執筆者索引
● A 4 判・上製・206 頁・定価 19, 800 円／'88年 2 月刊

青柳恵介 解説
『成城学園時報』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・206 頁・定価 2, 200 円／'17年 5 月刊

『一橋（いっきょう）新聞』記事・執筆者索引
● A 4 判・上製・126 頁・定価 16, 500 円／'89年 2 月刊

北河賢三 解説
『壮年團』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・84 頁・定価 1, 100 円／'85年 9 月刊

■生活・文化・芸術・映画

阪本裕文・佐藤　洋 解説
『記録映画』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・186 頁・定価 2, 200 円／'15年12月刊

阪本裕文・佐藤　洋 編・解説
『記録映画作家協会会報』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・158 頁・定価 2, 200 円／'17年 5 月刊

飯野正仁 編・解説
『旬刊美術新報』解説・目録
● B 5 判・並製・108 頁・定価 2, 200 円／'17年 5 月刊

吉田則昭 解説
『ソヴェト文化』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・54 頁・定価 1, 100 円／'16年 7 月刊

フィオードロワ・アナスタシア 解説
『ソヴェト映画』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・92 頁・定価 1, 650 円／'16年 7 月刊

山口謙吾 解説／三好まり 回想
『三好十郎著作集』解説・回想・総目次
● A 5 判・並製・86 頁・定価 1, 100 円／'15年 5 月刊

石川寛子 解説
文化普及会 刊
『文化生活』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・146 頁・定価 2, 200 円／'97年 6 月刊

竹中はる子 解説
『家庭科学』〈戦前編〉解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・106 頁・定価 1, 100 円／'99年12月刊

水尾比呂志・尾久彰三・杉山享司・村上豊隆・白土慎太郎 解説
『月刊民藝・民藝』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・112 頁・定価 1, 100 円／'08年 7 月刊

水尾比呂志 解説
『工藝』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・170 頁・定価 1, 100 円／'10年 1 月刊

『音楽』総目次・索引
● A 5 判・並製・156 頁・定価 2, 200 円／'13年 1 月刊

祖父江昭二 解説
『築地小劇場』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・88 頁・定価 1, 100 円／'86年 7 月刊

定価は消費税10％込

高原二郎・西川祐子 解説
文化生活研究会 刊
『文化生活』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・72 頁・定価 1,100 円／'95年12月刊

■労働・社会運動

堀口良一 解説
『安全第一』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・52 頁・定価 1,100 円／'07年10月刊

廣畑研二 解説
『一九二〇年代社会運動関係警察資料』
解説・総目録・索引
● A 5 判・並製・146 頁・定価 2,200 円／'03年11月刊

渡部　徹 解説
『社会運動通信』解説・総目次 記事・地方別索引　全 2 巻
● A 4 判・上製・総 1,136 頁・揃定価 55,000 円／'87年 1 月刊

■近現代文学

『冬柏』総目次・索引
● A 5 判・並製・264 頁・定価 2,200 円／'17年10月刊

山下真史 解説
『文藝』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・174 頁・定価 3,300 円／'15年 1 月刊

樫原　修・田中励儀 解説
『文學界』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・138 頁・定価 2,200 円／'09年 4 月刊

関　肇 解題
『文庫』解題・総目次・索引
● A 5 判・上製・334 頁・定価 19,800 円／'06年12月刊

田中　綾 解説
『日光』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・114 頁・定価 1,100 円／'16年10月刊

山本昌一 解説
『新著月刊』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・52 頁・定価 1,100 円／'89年 4 月刊

西田　勝 解説
『青年文』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・50 頁・定価 1,100 円／'03年12月刊

上　笙一郎 解説
『穎才新誌』解説・総目次・索引
● B 5 判・上製・750 頁・定価 22,000 円／'93年12月刊

上　笙一郎 解説／上田信道 解題
『小国民』解説・解題・総目次・索引 付＝『小国民』綜覧
● A 5 判・並製・288 頁・定価 3,300 円／'99年10月刊

浦西和彦 解題
『文学案内』解題・総目次・索引
● A 5 判・並製・82 頁・定価 1,100 円／'05年 6 月刊

高橋春雄 解説
『農民』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・92 頁・定価 1,100 円／'90年10月刊

澤　正宏 解説
『現代日本詩集』〔1927年～1944年〕解説・索引
● A 5 判・並製・100 頁・定価2,200 円／'10年 5 月刊

梅宮弘光・五十殿利治・澤　正弘・西田　勝 解説
『ゲエ・ギムギガム・プルルル・ギムゲム』
解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・72 頁・定価 1,100 円／'07年 7 月刊

山田博光 解題
『三人』解題・回想・総目次・索引
● A 5 判・並製・88 頁・定価 1,100 円／'02年 7 月刊

山内祥史 解題
『文芸時報』解題・総目次・索引
● A 5 判・並製・224 頁・定価 2,750 円／'87年12月刊

高橋新太郎 解説
『文芸懇話会』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・54 頁・定価 1,100 円／'97年 6 月刊

小田切秀雄 解説
『人民文庫』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・68 頁・定価 1,100 円／'96年 6 月刊

矢口進也 解説
『図書新聞』解説・記事・執筆者・書評索引　Ⅰ（'49～'59年）
● A 4 判・上製・430 頁・定価 19,800 円／'90年 2 月刊

定価は消費税10％込

『図書新聞』 記事・執筆者・書評索引 Ⅱ〔'60～'68年〕
● A 4 判・上製・400 頁・定価 19, 800 円／'91年 2 月刊

『図書新聞』 記事・執筆者・書評索引 Ⅲ〔'69～'79年〕
● A 4 判・上製・320 頁・定価 19, 800 円／'92年 2 月刊

『図書新聞』 記事・執筆者・書評索引 Ⅳ〔'80～'88年〕
● A 4 判・上製・400 頁・定価 22, 000 円／'93年 2 月刊

田中榮一 解説
『生長する星の群』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・54 頁・定価 1, 100 円／'90年 4 月刊

伊藤和也 解説
『峠』 解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・24 頁・定価 550 円／'87年 8 月刊

狩野啓子・長野秀樹・深野　治 解説
『午前』 解説・回想・総目次・索引
● A 5 判・並製・88 頁・定価 1, 100 円／'04年 6 月刊

赤塚正幸・大西巨人・狩野啓子 解説
『文化展望』 解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・50 頁・定価 1, 100 円／'04年 6 月刊

赤塚正幸・麻生　久・出海溪也 解説
『鵬』『ピオネ』『藝術前衛』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・78 頁・定価 1, 100 円／'04年 6 月刊

松下博文・坂口　博・井上洋子 解説
『サークル村』『労働藝術』『地下戦線』『炭砿長屋』
解説・回想・総目次・索引
● A 5 判・並製・86 頁・定価 1, 100 円／'06年 6 月刊

勝村　誠・秦　重雄 解題
『人民戦線』 解題・総目次・索引
● A 5 判・並製・58 頁・定価 1, 100 円／'06年10月刊

宇野田尚哉・細見和之 解説／金時鐘・鄭仁・梁石日 鼎談
『ヂンダレ・カリオン』解説・鼎談・総目次・索引
● A 5 判・並製・130 頁・定価 1, 100 円／'08年11月刊

道場親信 解説
『東京南部サークル雑誌集成』
解説・解題・回想・総目次・索引
● A 5 判・並製・142 頁・定価 1, 100 円／'09年 7 月刊

鳥羽耕史 解説
『綜合文化』 解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・76 頁・定価 1, 100 円／'09年10月刊

伊藤康子 解題
『新女性』解題・総目次・索引（DVD－ROM付）
● A 5 判・並製・252 頁・定価 2, 200 円／'10年 6 月刊

鳥羽耕史・道場親信 解説／鳥羽耕史 解題／柴崎公三郎 回想
『人民文学』解説・解題・回想・総目次・索引（DVD付）
● A 5 判・並製・222 頁・定価 2, 200 円／'10年 9 月刊

中西直樹 解題
『学園評論』 解題・総目次・索引
● A 5 判・並製・138 頁・定価 2, 200 円／'12年 1 月刊

中西直樹 著
戦後学生雑誌と学生運動
『学生評論』『季刊大学』『大学』『学園評論』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・274 頁・定価 2, 750 円／'20年 6 月刊

我部　聖 解説
『琉大文学』 解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・64 頁・定価 1, 100 円／'14年11月刊

高橋秀太郎 解説
『東北文学』 解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・70 頁・定価 1, 100 円／'16年 9 月刊

鈴木貴宇 解説
『ひろば』 解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・約290 頁・定価 2, 200 円／'18年10月刊

鈴木裕子 解題
堺　利彦 主宰
『家庭雑誌』 解題・総目次・索引
● 菊判・並製・70 頁・定価 1, 100 円／'83年 3 月刊

堀切利高 解題
『新社会』 解題・総目次・索引
● A 5 判・並製・138 頁・定価 1, 100 円／'82年 7 月刊

福田久賀男 解題
『洪水以後』 解題・総目次・索引
● A 5 判・並製・66 頁・定価 1, 100 円／'84年 3 月刊

岩井忠熊・堀切利高 解説
『中外』 解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・114 頁・定価 1, 100 円／'88年12月刊

定価は消費税10％込

茅原　健 解説
『日本評論』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・74 頁・定価 1,100 円／'89年 6 月刊

福田久賀男 解説
『文芸雑誌』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・102 頁・定価 1,100 円／'89年 9 月刊

紅野敏郎・小松隆二 解説
『原始』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・68 頁・定価 1,100 円／'90年 5 月刊

香内三郎・定村忠士 解説
『日本読書新聞』解説・記事・執筆者・書評索引
● A 4 判・上製・510 頁・定価 27,500 円／'88年 2 月刊

尾形国治 解説
『趣味』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・156 頁・定価 2,200 円／'86年12月刊

尾形国治 編・著
『新小説』解説・総目次・索引
● B 5 判・上製・452 頁・定価 16,500 円／'85年 1 月刊

西田　勝 解説
『天鼓』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・44頁・定価 550 円／'85年 9 月刊

西田　勝 解説
『火鞭（かべん）・ヒラメキ』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・40 頁・定価 550 円／'85年 9 月刊

堀切利高 解題
『近代思想』解題・総目次・索引
● 菊判・並製・80 頁・定価 1,100 円／'82年11月刊

浦西和彦 解題
『反響』解題・総目次・索引
● 菊判・並製・40 頁・定価 550 円／'85年 1 月刊

紅野敏郎・大和田茂 解説
『科学と文芸』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・96 頁・定価 1,100 円／'87年10月刊

吉田正信 解説
徳富蘇峰 主宰
『家庭雑誌』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・160 頁・定価 2,200 円／'87年 1 月刊

大津山国夫 解説
『新しき村』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・82 頁・定価 1,100 円／'88年 6 月刊

■女性史・女性文学・ジェンダー

渡邊洋子 解題
『処女の友』解題・総目次・索引
● A 5 判・並製・94 頁・定価 1,100 円／'14年11月刊

後藤明日香 解説
『連合婦人』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・202 頁・定価 2,200 円／'13年10月刊

小山静子 解説
『日本婦人』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・78 頁・定価 1,100 円／'11年11月刊

鈴木裕子 編・著・解説
日本女性運動資料集成 別巻＝索引
人名・団体名・執筆者名索引／日本女性運動史人名事典
● A 5 判・上製・556 頁・定価 16,500 円／'98年12月刊

尾形明子・鈴木裕子 解説
『女性改造』〈戦前編〉解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・94 頁・定価 1,100 円／'08年 6 月刊

松尾尊兊・兒玉勝子 解説
『婦選』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・310 頁・定価 3,300 円／'94年12月刊

鈴木裕子 解説
『婦人運動』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・206 頁・定価 2,200 円／'91年12月刊

藤目ゆき 解説
『婦人』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・336 頁・定価 3,300 円／'96年 5 月刊

竹村民郎 解説
『廓清』解説・総目次・索引
● B 5 判・上製・238 頁・定価 4,400 円／'85年10月刊

ゆのまえ知子・秋定嘉和・藤野　豊 解説
『買売春問題資料集成』〈戦前編〉解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・140 頁・定価 2,200 円／'02年10月刊

定価は消費税10％込

藤目ゆき 解説
『性暴力問題資料集成』解説・総目次
● A 5 判・並製・70 頁・定価 2, 200 円／'06年12月刊

荻野美穂・松原洋子・斎藤　光 解説
『性と生殖の人権問題資料集成』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・148 頁・定価 1, 100 円／'00年 6 月刊

斎藤　光 解説
『性科学研究』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・54 頁・定価 1, 100 円／'01年 6 月刊

佐々木敏二 解説
『性と社会』解説・総目次・索引
● 菊判・並製・62 頁・定価 1, 100 円／'83年12月刊

片野真佐子 解説
『上毛之青年』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・62 頁・定価 1, 100 円／'93年 5 月刊

澤　正宏 解説
『日本女性詩集 1930年～1943年』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・66 頁・定価 1, 100 円／'14年 7 月刊

渡邊澄子 解説
『女子文壇』解説・総目次・索引
● A 5 判・上製・492 頁・定価 19, 800 円／'05年 8 月刊

山田有策 解題
『以良都女（いらつめ）』解題・総目次・索引
● A 5 判・並製・70頁・定価 1, 100 円／'82年12月刊

岡野幸江 解説
『新真婦人』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・88 頁・定価 1, 100 円／'94年10月刊

尾形明子 解説
『輝ク』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・106 頁・定価 1, 100 円／'88年12月刊

黒澤亜里子 解説
『婦人文芸』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・100 頁・定価 1, 100 円／'87年 7 月刊

井手文子 解説
『青鞜』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・80 頁・定価 1, 100 円／'83年 6 月刊

紅野敏郎 解説
『女人藝術』解説・総目次・索引
● A 5 判・並製・162 頁・定価 2, 200 円／'87年 9 月刊

■ 農業史

清水洋二 解説
『農政時報』解説・総目次
● A 5 判・並製・110 頁・定価 1, 100 円／'87年 7 月刊

『流芳』復刻版刊行会 解題
『流芳』解題・総目次・索引
● A 5 判・並製・138頁・定価1, 100円／'87年8月刊

楠本雅弘 解説
『清明心（あかきこころ）』解説・資料編
● A 5 判・並製・126 頁・定価 1, 100 円／'82年 6 月刊

■ 中国語・中国文学・漢文

加藤国安 解説
『明治漢文教科書集成』第Ⅰ期・第Ⅱ期解説
● A 5 判・並製・240 頁・定価 2, 530 円／'13年11月刊

加藤国安 解説
『明治漢文教科書集成』第Ⅲ期解説・総索引
● A 5 判・並製・314 頁・定価 3, 300 円／'15年 9 月刊

木村　淳 解説
『明治漢文教科書集成』補集Ⅰ解説
● A 5 判・並製・246 頁・定価 2, 750 円／'17年12月刊

竹中憲一 編
中国雑誌所蔵目録
● B 5 判・上製・305 頁・定価 9, 350 円／'94年 7 月再刊

人民日報社論索引（'48～'58年）
● B 5 判・上製・108 頁・定価 2, 750 円／'83年12月刊

蜂屋亮子 解題
『紅旗週報』解題・総目次・索引
● B 5 判・並製・88 頁・定価 1, 100 円／'85年10月刊

定価は消費税10％込

執筆者・推薦者索引

＊目録本文の執筆者名・推薦者名を収載しています。

あ

相澤　仁　24
青木　茂　79
碧海純一　27
青柳恵介　76, 116
青山　毅　87
赤枝香奈子　100
赤川　学　100
赤澤史朗　3, 56, 110, 115
赤塚正幸　93, 118
赤松徹眞　2, 6, 7
秋定嘉和　24, 25, 49, 55, 99, 119
阿木津英　102
粟国恭子　40, 41, 114
浅井幸子　71, 115
浅井春夫　19
朝治　武　25, 112
浅田石二　94
安里　進　40
浅野慎一　51
浅野千恵　99
浅野豊美　53
朝野　洋　11
飛鳥井雅道　1
麻生　久　93, 118
安達宏昭　64
渥美孝子　85
安孫子麟　45
阿部三郎　68
阿部志郎　10, 19
阿部　洋　52, 53
天笠　茂　71
天野勝文　75
天野　茂　103
天野弘之　47
甘利璋八　1, 110
雨宮昭一　33
網野武博　71
阿毛久芳　87
新井紀一　88
新川　明　43
荒木　傳　87
新崎盛暉　41, 42, 43
荒瀬　豊　1, 3, 110
荒山正彦　32, 34, 46
蘭　信三　38, 46
阿利資之　75
有馬　学　93
有光次郎　81
有山輝雄　43, 55, 76, 82
粟屋憲太郎　59, 61, 64, 115
安在邦夫　2
安藤　宏　85, 95
飯沢　匡　81
飯田耕二郎　36, 38
飯田　進　66, 69, 83
飯田祐子　102
飯野正子　36, 38
飯野正仁　79, 116
家永三郎　3, 4, 56, 67, 80
池内輝雄　85
池田浩士　45, 68, 88, 93, 94
池田敬正　19, 20
石井寛治　29, 76
石川一雄　22
石川　巧　95
石川忠雄　75
石川忠久　105
石川友紀　52
石川寛子　79, 116
石田潤一郎　33, 113
石田卓生　51
石田頼房　32
石月静恵　98, 99
石堂清倫　45, 57, 75, 115
石原武政　32
石原　潤　35
出海溪也　93, 118
市野川容孝　14, 100
一ノ瀬俊也　98
一番ケ瀬康子　11, 23, 99
一柳廣孝　15
井手文子　103, 120
井出孫六　3, 51, 78
伊東昭雄　46
伊藤　晃　51, 56, 68
伊藤和也　89, 118
伊東幹治　87
伊藤共治　86
伊藤桂一　93
伊藤　純　89
伊藤信吉　97
伊藤　隆　30, 75, 96
伊藤　毅　34
伊藤成彦　75, 89
伊東光晴　76
伊藤康子　94, 99, 118
稲葉三千男　88
犬丸義一　3, 47, 94
井上敏夫　68, 115
井上寿一　26
井上順孝　13
井上久士　59
井上　学　33
井上　學　47, 51, 68, 115
井上洋子　93, 118
猪瀬直樹　3
伊部正之　68
今井健二　108
今井清一　26, 27, 55, 57
今井信雄　88
今泉裕美子　52
今川英子　85
井村哲郎　47, 62
色川大吉　2, 43
岩井忠熊　97, 118
岩田ななつ　103
岩田一正　76
岩田正美　18, 111
岩田三枝子　101
岩間一弘　46
岩本純明　104
岩本由輝　30
于　臣　31
上田音市　25
上田信道　86, 117
うえだひろし　93
上田正昭　25, 34
上野景三　73
上野千鶴子　93, 98, 99
鵜飼　哲　94
宇佐美英機　30
氏家幹人　100
牛島秀彦　110
艮　香織　19
臼杵　陽　52, 114
右田紀久恵　20
内川芳美　1, 55, 75, 80
内田青蔵　32
内田博文　22
内海愛子　59, 66, 69, 115
宇都榮子　18, 24
宇野重昭　109
宇野田尚哉　94, 118
梅宮弘光　87, 117
浦田義和　86
浦西和彦　4, 86, 89, 110, 117, 119
海野福寿　26, 48, 49, 56, 60, 88
江口朴郎　97

江副浩正 75
江連恭弘 22
榎本隆司 88
江原由美子 99
遠座知恵 71
遠藤公嗣 95
王 曉 秋 47
扇谷正造 75
大石　進 68
大内三郎 12
大浦克彦 29
大江志乃夫 47, 59
大門正克 104
大川公一 87
大河原礼三 12
大木基子 101
大久保明男 50
大久保謙 2, 110
大久保利謙 56, 86
大河内一男 75
大澤広嗣 6, 7, 9
大城立裕 41, 80
大城将保 59
太田　明 22
大田静男 40, 42
太田辰夫 106
太田哲男 85
太田　登 85
太田雅夫 3, 97
大田昌秀 42
太田素子 71, 115
大滝英征 63, 65
大竹　章 22
大谷栄一 7
大塚健洋 52
大塚秀明 108
大津山国夫 119
大友昌子 18, 19
大西公恵 71, 115
大西巨人 93, 118
大濱徹也 73
大原謙一郎 80
大原健士郎 14
大村英昭 7, 8
大和田茂 89, 97, 119
岡　保生 102
岡田和喜 29, 31, 112
岡田泰平 66
岡田英樹 50
岡田靖雄 15, 60
岡田洋司 77, 83
尾形明子 98, 103, 119, 120
尾形国治 119
岡野幸江 103, 120
岡林伸夫 83
岡部伊都子 17
岡部牧夫 45, 46, 59, 114
岡村敬二 47
岡本道雄 12
小川利夫 73
小川信子 79
小川晴久 16
小川　博 62
小川政亮 42
沖田恭祐 61, 65
沖田行司 37
荻野富士夫 17, 30, 55, 56, 57, 58, 60, 69, 82, 85, 112, 113, 115
荻野美穂 100, 120
尾久彰三 80, 116
奥平康弘 3, 55, 56, 57
奥野健男 97
小倉襄二 11, 24, 99
尾崎秀樹 3, 4, 57, 87, 110
小里貞利 73
尾末奎司 87
小田　晋 14
小田　実 69, 88, 96
小田切明徳 83
小田切進 87, 89
小田切秀雄 4, 56, 75, 87, 88, 89, 96, 103, 117
小田中聰樹 69
小玉亮子 71, 115
落合　功 16
落合恵子 98
落合雄三 68, 115
小野川文子 19
小野沢あかね 99, 100
大日方純夫 99
大見川正治 23
五十殿利治 87, 117
折戸洪太 107
折原　裕 46, 61

か

何　旭 107
何 義 麟 53
戒能民江 100
戒能通厚 30
影山清四郎 73
影山礼子 11, 110
風木雲太郎 93
笠原芳光 11, 12
風間秀人 46, 114
樫原　修 85, 117
梶村秀樹 27
梶村光郎 42, 114
梶山雅史 73
柏木隆法 111
片木　篤 32
鹿地亘資料調査刊行会 47, 114
片野真佐子 23, 100, 120
片山邦雄 28
勝尾金弥 86
香月洋一郎 104
「合作社事件」研究会 61
勝村　誠 93, 118
勝本信之助 75
桂川　寛 94
加藤一郎 26
加藤国安 105, 120
加藤重一 93
加藤秀一 14
加藤哲郎 30, 43, 55, 56, 68, 69
加藤　寛 75
加藤陽子 30, 72
金井英樹 25
「神奈川の部落史」編集委員会 24
金澤史男 26, 112
金森トシエ 98
金子幸子 101
金子幸代 102, 103
金子　俊 60
金子兜太 89
狩野啓子 93, 118
加納実紀代 94, 98
川平朝清 40, 53
我部　聖 95, 118
我部政明 42
我部政男 1, 40, 41, 42, 43
鎌田　慧 83
上笙一郎 46, 85, 86, 102, 117
蒲生俊宏 23, 112
茅原　健 4, 97, 110, 119
加山久夫 23, 83
唐澤富太郎 86
川井　勇 40
河合和男 49
川上　武 22
川島　真 37
川田悦子 22
川津　誠 85
川戸れい子 11
川野重任 78
河原　功 3, 52, 53, 56, 72, 110, 115
河原典史 33, 113
川村一之 66
川村邦光 100
川村　湊 45, 87
川本博康 78
姜 在 彦 1, 69
菅　孝行 68
姜 徳 相 69
菊地昌典 57

菊池正治 8, 9
菊池義昭 18, 19
木坂順一郎 56, 57
貴志俊彦 40
岸和田仁 38, 63
北　博昭 59, 60, 61, 62
北川勝彦 28
北河賢三 56, 115, 116
北川晃二 93
北川鉄夫 80
北沢清司 23
北根　豊 1
北野昭彦 87
北林雅洋 16, 63
北原糸子 34
北原理雄 32
北原東代 86
北山　修 15
木下　昭 38
君島和彦 45
金 時 鐘 94, 118
金 早 雪 49
金　　栄 69
金 英 達 62
木村一信 85
木村健二 28, 37, 38
木村　淳 105, 120
木村哲也 23
木村　元 76
木村涼子 98
牛 耕 耘 50
金原左門 73
楠　淳證 6, 7
楠本雅弘 120
久野　収 3
久保田正文 87
熊沢　誠 95
倉沢愛子 52
倉橋　健 81
倉橋正直 60
倉持史朗 24
栗原　彬 14
栗原　敦 85
栗原　均 88
来栖宗孝 68, 115
訓覇　浩 22
楜澤能生 30, 113
榑松かほる 11, 52, 110
黒井千次 87
黒川伊織 68
黒川みどり 25
黒木彬文 46
黒古一夫 86
黒澤亜里子 103, 120
桑尾光太郎 3
見城悌治 16
呉 密 察 56
小泉武栄 34
高　　媛 46
神美知宏 22
香内三郎 119
纐纈　厚 55, 62, 64
紅野謙介 85
紅野敏郎 85, 86, 88, 93, 97, 103, 119, 120
河野信子 93
幸野保典 37
高良留美子 94
古賀　暹 68, 115
国場幸太郎 43
小塩海平 66
越澤　明 32, 34, 113
小路田泰直 30
小島晋治 47, 109
児嶋草次郎 19
兒島俊郎 66
輿水　優 106
小関智弘 94
兒玉勝子 99, 119
兒玉正昭 37, 38, 114
谺　雄二 22
後藤明日香 98, 119
後藤弘子 100
後藤　靖 1
琴坂守尚 83
小林弘二 45, 114
小林　茂 35, 60, 61, 113
小林知子 69
小林英夫 66
小日向哲也 93
駒込　武 69
小松隆二 82, 97, 119
五味百合子 11, 111
小峯和茂 14
小森陽一 2, 95
小山静子 98, 104, 119
小山仁示 99
近藤健一郎 40, 41, 42, 43, 114
近藤俊太郎 7, 9
近藤信行 85
近藤真柄 96
近藤康男 104
権並恒治 37, 113

さ

蔡　錦堂 53
最首　悟 68
斎藤　勇 82
斎藤　毅 53
齊藤俊江 47
齊藤智朗 13
斎藤　光 14, 100, 111, 120
斎藤　眞 27
斎藤美奈子 22
酒井シヅ 98, 99
酒井直子 41, 114
阪井芳貴 40
佐賀枝夏文 8, 9, 110
栄原永遠男 34
坂口　博 93, 118
坂口満宏 7, 8, 11, 36, 38, 111
酒田正敏 26, 112
阪田安雄 37
阪本楠彦 105
阪本是丸 13
酒本知美 19
阪本裕文 78, 116
坂本義和 27
向坂逸郎 96
作道洋太郎 29, 112
櫻澤　誠 40, 43, 114
佐々木敏二 36, 37, 38, 83, 120
佐々木幹郎 87
佐佐木幸綱 86, 89
笹栗俊之 14
佐多稲子 94, 103
佐高　信 3, 4
定村忠士 119
佐藤公偉 75
佐藤卓己 58, 89, 98
佐藤忠男 80
サトウタツヤ（佐藤達哉）14, 15, 111
佐藤　久 35
佐藤秀夫 46, 86
佐藤全弘 79
佐藤　洋 78, 116
佐藤　学 71
佐藤喜春 78
澤　正宏 85, 87, 95, 102, 117, 120
澤山信一 20
ジェンキンズ　A．P． 43
汐見稔幸 71
史 金 波 108
志賀寛子 95
重松一義 19, 31, 66
宍戸恭一 79
宍戸健夫 71
篠田左多江 37, 114
篠田正浩 80
柴崎公三郎 94, 118
渋川　驍 96
渋沢栄一記念財団 31, 39
渋沢雅英 31
渋谷一夫 16, 63
島薗　進 8, 13

島村　輝　94
清水勝嘉　59, 66, 80, 81
清水　茂　86
清水　寛　18, 22, 23, 24, 111
清水洋二　104, 120
下西　忠　34, 110
姜 克 實　17
初期コミンテルンと東アジア研究会　51
植民地文化学会　47, 54
植民地文化研究会　47, 54
白井　聡　68
白石崇人　73, 116
白木沢旭児　46
白土慎太郎　80, 116
白取道博　46
白幡洋三郎　34, 113
白水繁彦　37
陣内秀信　33
新城郁夫　95
新城栄徳　40, 41, 114
新藤雄介　58, 82
新保　博　29
新谷恭明　16
末永國紀　33
菅原亮芳　16, 73
菅原秀宣　68, 115
杉井六郎　11, 12
杉原　薫　28
杉原四郎　3, 29
杉原　達　51
杉原泰雄　27
杉本秀太郎　33
杉山享司　80, 116
杉山博昭　18
鈴木晃仁　14
鈴木貞美　105
鈴木　淳　32
鈴木善次　14
鈴木隆史　45
鈴木貴宇　95, 118
鈴木則子　22
鈴木範久　12, 111
鈴木正幸　104
鈴木裕子　83, 96, 98, 99, 101, 118, 119
須田将司　16, 26, 73, 113
スタインホフ　パトリシア　68
須藤健一　52
ストーカー　ナンシー　13
砂川哲雄　41
住井すゑ　87, 98
スミス　ヘンリー　79
隅谷三喜男　96
関　智英　50
関　肇　85, 117
関井光男　14
関屋綾子　11
瀬戸内寂聴　88, 102
瀬戸口勝義　83
世良利和　40, 114
泉水英計　40
千田是也　81
副島昭一　56
曾根博義　14, 15, 111
園部逸夫　53
園部裕之　25
祖父江昭二　80, 97, 116
曽山　毅　34
宋 連 玉　99

た

高石史人　8, 9
高木四郎　26
高木博志　34, 113
高木〈北山〉眞理子　37
高崎隆治　59, 62
高里鈴代　100
高嶋雅明　2, 27, 28, 29, 37, 112
高杉晋吾　67
高綱博文　50, 60
高橋喜久江　11, 98, 99, 100
高橋秀太郎　95, 118
高橋順一　68, 115
高橋淳子　23
高橋順子　40, 43, 114
高橋新太郎　3, 4, 87, 88, 117
高橋敏夫　41
高橋信孝　79
高橋春雄　87, 117
高橋まり代　108
高橋康夫　33
高原二郎　117
高柳俊男　69, 93
高良倉吉　40, 114
滝尾英二　49
滝沢　修　81
滝澤民夫　12
滝沢正樹　76
匠　秀夫　87
武　邦保　111
竹内　洋　11, 16
武内善信　2, 110
武田清子　11, 111
武富登巳男　59
竹中憲一　120
竹中暉雄　72, 116
竹中はる子　79, 116
竹中正夫　12
竹部喜代子　78
竹村民郎　99, 100, 119
竹盛天雄　102
田島俊雄　47
田島奈都子　46
舘かおる　100
田中　明　59
田中　綾　86, 117
田中榮一　88, 118
田中和子　103
田中キャサリン　23
田中哮義　32
田中秀臣　3, 110
田中真人　25, 30, 56, 82, 96
田中正俊　27
田中　傑　34, 113
田中　学　45, 104
田中萌葵　40, 43, 114
田中励儀　85, 117
田辺聖子　4
多仁照廣　73, 74, 116
谷　昌恒　19
谷川惠一　2
谷川建司　79
谷川　穣　8
谷沢永一　4
玉井金五　82
玉村久二彦　19
田村紀雄　88
丹尾安典　79
丹野喜久子　19, 42, 112
千葉雄次郎　75
茶園義男　57, 59, 60, 62, 65, 66, 67
中馬充子　14, 111
張　泉　50
趙　夢雲　89
長　幸男　29
鄭　仁　94, 118
陳 雪 玉　72
陳 祖 恩　50
陳 培 豊　53
清格爾泰　108
塚﨑昌之　61
柘植あづみ　100
辻　清明　75
辻　智子　98
辻　誠　26
辻田文雄　65
辻原万規彦　32, 113
對馬路人　13, 111
辻本雅史　16, 105
津谷嘉一郎　46
土屋礼子　2, 79
都築久義　96
都筑　均　93
常石敬一　60, 61, 65, 115
角田由紀子　100
角山　栄　27

坪井秀人 14, 94
坪内稔典 89
坪田譲治 88
津曲裕次 23
鶴見和子 2
鶴見俊輔 4, 69, 80, 89, 93, 94, 97
出村　彰 11
寺尾　誠 75
寺﨑昌男 16, 72, 74, 75
寺田近雄 35, 65
寺脇隆夫 20, 112
田　　彤 31
土井大助 101
土井たか子 98, 99
土井直子 19, 112
佟　　岩 51
戸上宗賢 38
徳田靖之 22
利谷信義 26
戸髙一成 65
戸塚喜久 31
殿木圭一 75
鳥羽耕史 89, 94, 118
戸邉秀明 40, 43, 114
富田正文 75
冨山一郎 43
豊川　慎 66, 115
豊沢　肇 56, 115
鳥居和代 73
鳥山　淳 41, 43, 114

な

内藤辰雄 88
内藤裕史 60, 65
那珂太郎 93
中尾伸治 23
永岡正己 18, 20, 22
中川成美 85, 89
中川洋子 9
仲里　効 68
長澤　秀 69
中島岳志 52
中島直人 34, 113
中島三千男 30
中嶋幹起 107, 108
永島勝介 60
中瀬喜陽 2, 110
仲宗根將二 40, 42
中田　實 33
中西直樹 6, 7, 8, 9, 94, 95, 110, 118
中野次雄 26
中野　良 61
長野秀樹 93, 118
仲程昌徳 40, 41, 42, 43, 52, 95, 114
中村紀伊 99
中村民男 14
中村尚美 56
中村満紀男 23
中村政則 30
仲村優一 19
中村　陵 61, 64, 115
長元朝浩 43
中山和子 3
名嘉山リサ 40
那須　清 107, 108
夏石番矢 89
奈良岡聰智 16
成田龍一 94, 98, 100
鳴海邦碩 32
二井仁美 20, 24
西　秀成 30, 113
西尾　勝 33
西川祐子 79, 94, 117
西田正憲 34
西田　勝 47, 58, 65, 66, 86, 87, 88, 89, 90, 93, 96, 97, 117, 119
西田美昭 30, 112
西原和海 46
西村成雄 45
西村幸夫 32
西山勝夫 64, 65
西山　伸 72, 94, 95
西山康雄 32
丹羽雅子 79
縫田燁子 99
布川角左衛門 88
根川幸男 36
野口正二郎 76
野沢隆一 75
野世英水 9
野田勝久 60
野田公夫 104
野田正彰 24
野中正孝 74
ノーネス　マーク 78
のびしょうじ 25
野間　宏 87, 88
野間光子 87
野村悦子 34, 113
野本京子 104
野山嘉正 85

は

羽賀祥二 34
萩原　進 12
萩原真美 73
朴 慶 植 48, 69
橋爪紳也 33, 113
羽島知之 1
橋本紀子 98
橋本宏子 94
橋本美保 71
橋谷　弘 76
長谷川啓 85, 88
長谷川匡俊 8, 9, 18, 19, 20, 112
長谷川龍生 87
バゼル山本登紀子 37
秦　重雄 93, 118
畑　　実 86
畑　　穣 30, 113
波多野太郎 45, 46, 105, 106, 107, 108
蜂谷俊隆 24
蜂屋亮子 120
初田香成 32, 34, 113
初田　亨 33
服部一馬 1
服部敏幸 88
波照間永吉 41
羽鳥敬彦 49
羽田朝子 50
羽田澄子 102
馬場あき子 85
馬場伸彦 14, 111
浜賀知彦 94
浜川　仁 43
早川紀代 60
早坂啓造 30, 113
林　京子 43
林　千代 11
林　道生 66
林　宥一 87
林　行夫 6, 7, 9
原　　朗 30
原　武史 13
原　宗子 47
原洋之介 41
原口邦紘 36
原田勝正 59
原田政美 30, 112
ハルトゥーニアン　ハリー 94
春名　徹 43
春原昭彦 2
春山明哲 53, 59, 72
韓 晳 曦 12
韓 榮 恵 31
伴野文夫 75
樋口恵子 75, 78, 96, 100
久木幸男 86
飛田雄一 62
日比嘉高 36
姫田光義 59
平井廣一 36
平井美津子 19
平出　隆 86
平岩昭三 17

平岡敏男 75
平岡敏夫 86
平田勝政 22, 23, 112
平野龍一 26
平林　一 87
平山和彦 25, 112
広井多鶴子 71
廣川和花 23
廣重　聰 87
廣嶋清志 100
廣畑研二 55, 82, 117
フィオードロワ　アナスタシア 79, 116
フィールド　ノーマ 89
深野　治 93, 118
福井紳一 47, 114
福岡千代吉 66
福島栄寿 8
福島鑄郎 42
福島幸宏 60
福田久賀男 96, 97, 118, 119
福田陸太郎 37
福武　直 75
福元真由美 71, 115
冨士正夫 87
藤井栄一 76
藤井忠俊研究会 69
藤井淑禎 15
藤岡里圭 32, 113
藤澤健一 40, 42, 43, 114
藤田光寛 8
藤田貞一郎 30
藤田治彦 33
藤田富士男 62, 83
藤田正典 109
冨士田元彦 80
藤田佳久 51
藤野　豊 22, 23, 24, 25, 30, 99, 101, 111, 112, 113, 119
藤目ゆき 69, 94, 99, 100, 101, 119, 120
藤森照信 32, 33
藤原　彰 47
船寄俊雄 72
船橋邦子 101
古川孝順 20
古川隆久 30, 61
古川　誠 100
古桑　実 78
逸見勝亮 42, 46, 55
北條秀司 81
星加輝光 93
星名宏修 23
星埜由尚 35
保昌正夫 87
細井　勇 12, 19
細川周平 80
細見和之 94, 118
細谷　昂 104
堀田典裕 32, 113
堀　和生 50
堀切利高 2, 3, 17, 83, 96, 97, 118, 119
堀口良一 82, 83, 117
堀越克明 86
本庄比佐子 51
本庄　豊 19
本田和子 86
本間靖夫 29, 112

ま

マイグレーション研究会 38
前田　愛 102
前田一男 26, 55
真栄平房昭 43
牧野　守 80
槙林滉二 86
鱒澤彰夫 46, 107
増田四郎 76
又吉盛清 72
松井隆志 68
松井やより 99
松浦総三 3, 4, 56
松尾章一 2, 110
松尾尊兊 25, 27, 55, 97, 98, 99, 119
松岡弘之 23
マック　エドワード 36
松重充浩 50
松下博文 41, 93, 114, 118
松下良平 72
松田利彦 49
松永昌三 1
松永　達 49
松野誠也 58, 60, 61, 64, 115
松野良一 2, 110
松原洋子 15, 100, 111, 120
松村高夫 51, 59, 60, 65, 68, 115
松本克平 81
松本健一 88
松本三之介 46
松本忠司 76
松本俊夫 78
松山　巌 34
眞鍋呉夫 93
真鍋俊照 34
馬原鉄男 25
丸岡秀子 99
丸山照雄 94
丸山　昇 45, 47
丸山　宏 34, 113
満洲泰阜分村―70年の歴史と記憶編集委員会 47
三上敦史 16, 111
三瓶達司 86
三木　健 41, 42, 43, 69, 114
三國一朗 97
三島わかな 42, 114
水内俊雄 34
水尾比呂志 80, 116
水上　勉 88
水品春樹 81
水田珠枝 11
水田　洋 76
水田隆太郎 104
水溜真由美 95
水野直樹 48, 49
水野公寿 1, 110
水原克敏 72
三田千代子 38
道場親信 94, 118
三橋　勇 46
南　博 14, 81
宮城悦二郎 42
宮城晴美 43
宮城洋一郎 8
宮崎真素美 102
宮崎隆次 26
宮崎礼子 78
宮田節子 48, 59, 69
宮地正人 26
宮本潤子 100
宮本正明 49, 69
宮本又次 29
宮本美沙子 79
三好　章 50, 51, 61, 114
三好まり 79, 116
三好行雄 102
三輪公忠 36
武藤整司 17
無藤　隆 71
むのたけじ 3
村上勝彦 27, 28, 35
村上豊隆 80, 116
村上陽一郎 82
村田静子 101
室田　武 30
室田保夫 8, 11, 18, 19, 20, 24, 111, 112
目取真俊 95
メリニコワ　イリーナ 79
望月新三郎 94
元村智明 20, 112
本山幸彦 17
森　武麿 104
森　久男 51, 89
森　正人 34
森　宣雄 43
森崎和江 11, 93

森田　明　24
森長英三郎　26
森本　修　87
森本豊富　36
もろさわようこ　98, 99
モロニー　バーバラ　99
門奈直樹　1, 2, 3, 12, 42, 110, 111

や

屋嘉比収　42
八木田功　32
矢口進也　88, 117
矢口光子　78
矢沢康祐　1
安岡健一　89
安岡重明　29
安冨　歩　60
八束はじめ　33
柳沢　遊　28, 50
柳田利夫　28, 37, 114
矢吹　晋　65, 107
山泉　進　30
山内昌之　52
山形政昭　113
山川　曉　66, 115
山川振作　96
山極圭司　97
山口栄鉄　43
山口和雄　27
山口謙吾　79, 116
山口光朔　11, 12, 111
山口幸照　8
山口昌男　86
山口洋兒　52
山崎由可里　24
山敷和男　97
山下一海　89
山下　武　14
山下真史　85, 117
山住正己　86
山田　朗　19, 64
やまだあつし　50
山田寛人　49
山田欣吾　76
山田昭次　69
山田博光　87, 117
山田　誠　33
山田有策　95, 102, 120
山田　航　86
山中徳雄　62
山中　恒　59, 85
山内祥史　4, 87, 117
山村喜晴　76
山室徳子　11
山本岩夫　37, 38, 114
山本昌一　86, 117
山本武利　1, 4, 55, 58, 60, 115
山本安英　81
山本有造　38
山本義隆　72
山領健二　3
梁 石 日　94, 118
由井晶子　43
由井　格　68, 115
由井正臣　24, 30, 55, 56, 115
湯川嘉津美　71
湯川次義　74
弓削政己　40, 42
ゆのまえ知子　99, 119
横田千代子　100
芳井研一　60, 61
吉岡博光　98
吉川弘之　79
吉田栄治郎　25, 112
吉田金重　88
吉田久一　9, 10, 19
吉田則昭　79, 116
吉田正信　119
吉田司雄　14
吉田　裕　24, 58, 59
吉田　亮　36, 37, 39
吉永進一　6, 7
吉原直樹　33, 113
吉浜　巌　62
吉見周子　99, 100
吉見俊哉　41
吉見義明　59, 60, 65
義根益美　83
米田佐代子　98, 102
米田俊彦　26, 72
米谷匡史　94

ら

李 紅 衛　52
李 洙 任　31, 38
李 範 文　108
立命館大学日系文化研究会　38
龍谷大学アジア仏教文化研究センター　6, 7
林　哲　69
蓮城寺秋幸　25, 112
六角恒廣　105, 106, 107, 108

わ

若井和生　66
若林正丈　52, 56, 61
和田敦彦　11, 36, 58, 111, 113
和田　守　26
渡辺悦次　82
渡辺貫二　88
渡辺俊一　32
渡邊澄子　102, 103, 120
渡部宗助　73
渡部　徹　24, 25, 55, 56, 82, 83, 117
渡邊洋子　73, 98, 119
渡辺理絵　35, 61
渡部富哉　68, 115

書　名　索　引

あ

愛護 23
『愛護』解説・総目次・索引 112
愛国新聞 25
愛児の家史料 19
愛生〈戦前編〉 23
『愛生』〈戦前編〉総目次・索引 112
愛知県農地史【品切】
青い鳥はいなかった——薬害をめぐる一人の親のモノローグ 83
青森県農地改革史【品切】
清明心(あかきこころ)【品切】
『清明心』解説・資料編 120
秋田県農地改革史【品切】
新しき村〈大正期〉【品切】
『新しき村』解説・総目次・索引 119
アヘンとユートピア
——イギリス艦来琉（1816年）をめぐる考察と史料紹介 43
アメリカ日系二世と越境教育——1930年代を主にして 39
ある明治社会主義者の肖像［山根吾一覚書］ 83
安全第一 82
『安全第一』解説・総目次・索引 117
安全第一の誕生——安全運動の社会史〈増補改訂版〉 83
家の光 78
移行する沖縄の教員世界——戦時体制から米軍占領下へ 43
石川県農地改革史【品切】
石川県之社会改良 20
『石川県之社会改良』解説・総目次・索引 112
石つぶての中で【品切】
磯野小作争議・小樽港湾争議 資料集 83
一橋(いつきよう)新聞 76
『一橋新聞』記事・執筆者索引 116
伊藤証信とその周辺【品切】
移民地事情 37
『移民地事情』解説・総目次 114
移民の魁傑・星名謙一郎の生涯
——ハワイ・テキサス・ブラジル 38
以良都女(いらつめ) 102
『以良都女』解題・総目次・索引 120
岩手県農地改革史【品切】
浮田和民の思想史的研究——倫理的帝国主義の形成 17
埋もれた明治の青春——松岡荒村【品切】
うるま新報 42
映画検閲時報 80
映画創造 80
穎才(えいさい)新誌 86
『穎才新誌』解説・総目次・索引 117
英人バジル・ホールと大琉球
——来琉二百周年を記念して 43
映像で見る賀川豊彦とその時代　DVD版 83
江口きち資料集成〈塔影詩社蔵〉【品切】
エスニック学生組織に見る「祖国」
——フィリピン系アメリカ人ナショナリズムと文化 38
愛媛県農地改革概要【品切】
演芸画報〈大正編〉【品切】
演芸画報〈昭和編〉 81
演藝画報　DVD版 81
鷗外女性論集 103
大分県農地改革史【品切】
大倉高商新聞・東京経済大学新聞 76
大阪銀行通信録〈明治期〉〈大正期〉〈昭和期〉 29
『大阪銀行通信録』解説・総目次 112
大阪府写真帖 33
大阪府特高警察関係資料——昭和二〇年 61
岡山県農会三十年史【品切】
岡山県農地改革誌【品切】
岡山孤児院関係資料集成 19
おきなわ 41
『おきなわ』解説・総目次・索引 114
沖縄教育 42
『沖縄教育』解説・総目次・索引 114
沖縄新民報・自由沖縄 42
沖縄と色川大吉 43
沖縄秘密戦に関する資料 59
沖縄文化 41
小樽商科大学新聞『緑丘』 76
音楽　DVD版 80
『音楽』総目次・索引 116

か

海外各地在留本邦人 職業別人口表 37
海外日本実業者の調査 28
海外よりの左翼宣伝印刷物集 57
海軍軍法会議判例類集 61
海軍兵学校第三十七期クラス会誌『海軍生活の思い出』 61, 65
海軍法務資料 馬場東作綴(ばとうさくつづり) 59
外交史料　韓国併合　上・下 48
外事警察概況 57
外事警察資料 57
外事警察報 57
『外事警察報』解説・総目次・索引 115
外事警察報　補巻 57
『外事警察報　補巻』解題・総目次・索引 115
外事月報 57

開知新聞 13
外邦測量沿革史　草稿 35, 60
『外邦測量沿革史　草稿』解説・総目次 113
外邦兵要地図整備誌 59
外務省警察史 56
『外務省警察史』解題・総目次 115
火焔樹――東南アジア強制労働下の機関誌 62
顔のない国――戦後の虚妄と国の品位喪失を問う 69
科学と文芸【品切】
『科学と文芸』解説・総目次・索引 119
輝　号（かがやきごう） 38, 63
輝ク【品切】
『輝ク』解説・総目次・索引 120
香川県農地改革三年史【品切】
学園評論 94
『学園評論』解題・総目次・索引 118
各県産業組合史料集成【品切】
廓清（かくせい） 99
『廓清』解説・総目次・索引 119
学生義勇軍【品切】
学生義勇軍関係資料 62
学生評論・季刊大学・大学 95
核戦争の危機に文学者はどのように対するか【品切】
学徒勤労報国隊〈増補改訂版〉【品切】
歌集　巣鴨【品切】
華族財産関係資料【品切】
華中宣撫工作資料（かちゅうせんぶこうさく） 59
学校保健の近代 20
「合作社事件」関係資料 61
家庭科学〈戦前編〉 79
『家庭科学〈戦前編〉』解説・総目次・索引 116
家庭雑誌〈堺利彦 主宰〉 96
『家庭雑誌〈堺利彦 主宰〉』解題・総目次・索引 118
家庭雑誌〈徳富蘇峰 主宰〉【品切】
『家庭雑誌〈徳富蘇峰 主宰〉』解説・総目次・索引 119
加藤完治の世界【品切】
加藤時次郎【品切】
神奈川県農地改革史【品切】
神奈川の部落史 24
カナダ移民史資料 36
カナダ移民史資料Ⅱ 37
『カナダ移民史資料』別冊〈英文〉 113
華文大阪毎日 50
火鞭（かべん）・ヒラメキ【品切】
『火鞭・ヒラメキ』解説・総目次・索引 119
茅原華山（かやはらかざん）と同時代人 4
茅原華山年譜・著作目録稿 110
簡易生活【品切】
韓国併合始末 関係資料 60
関西連合保育会雑誌 71
関東軍化学部・毒ガス戦教育演習関係資料 60
関東軍参謀部作成 総動員関係調査資料 60
艦内新聞集成 65
岸田俊子研究文献目録　湘煙選集④【品切】
岸田俊子評論集　湘煙選集①【品切】
岸田俊子文学集　湘煙選集②【品切】
貴司山治研究 89
貴司山治全日記　DVD版 89
契丹（きったん）小字釋読問題 108
岐阜県小作争議資料集成 104
旧外地「工場名簿」集成 50
旧外地における中国語教育 107
救済 9
『救済』解説・総目次・索引 110
救世 11
『救世』解説・総目次・索引 111
旧制成城高等学校尋常科地理自学書集 73
旧制台北高等学校同窓会誌『蕉葉会報』 53
教育修身研究 72
『教育修身研究』解説・総目次 116
教界時言 8
教化運動 26
『教化運動』解説・総目次・索引 113
恐慌下の東北農村【品切】
京都大学新聞【品切】
『京都大学新聞』記事・執筆者索引【品切】
京都地籍図 33
『京都地籍図』解説 113
京都府農会史【品切】
京都府農地改革史【品切】
キリスト教社会福祉思想史の研究
――「一国の良心」に生きた人々【品切】
基督教青年 12
記録映画 78
『記録映画』解説・総目次・索引 116
記録映画作家協会会報 78
『記録映画作家協会会報』解説・総目次・索引 116
近・現代日本教育会史研究 73
近現代日本ハンセン病問題資料集成〈戦前編〉 22
近現代日本ハンセン病問題資料集成〈戦後編〉 22
『近現代日本ハンセン病問題資料集成』
〈戦前編・戦後編〉解説・総目次 112
近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻１～５〉 22
近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻６～９〉 22
近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻10～12〉 22
近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻13～15〉 23
近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻16～19〉
日本ＭＴＬ 23
『近現代日本ハンセン病問題資料集成
〈補巻１～15〉』解説・総目次 112
『近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻16～19〉
日本ＭＴＬ』解説・総目次・索引 112
近事評論・扶桑新誌 1
『近事評論・扶桑新誌』解説・総目次・索引 110

近代沖縄新聞集成　DVD版　43
近代建築画譜　近畿編　33
近代思想【品切】
『近代思想』解題・総目次・索引　119
近代日本「市場」関係資料集　30
『近代日本「市場」関係資料集』解説／
　近代日本「市場」関係資料目録（CD付）　112
近代日本女性論の系譜　101
近代日本と「偽満州国」【品切】
近代日本と「満州国」　47
近代日本の女性と大学教育　74
近代日本の中国語教育　107
近代日本「平和運動」資料集成【品切】
『近代日本「平和運動」資料集成』解題・総目次・索引　111
金融雑誌の展開　31
空中征服――賀川豊彦、大阪市長になる　83
クラルテ【品切】
クリフォード訪琉日記――もうひとつの開国　43
久留米師団召集徴発雇用書類　59
久米島住民虐殺事件資料　62
黒薔薇　103
軍医官の戦場報告意見集　62
軍紀・風紀に関する資料　62
軍隊警察の対立と憲兵司令部 重松関係文書Ⅱ　60
群馬県農地改革誌【品切】
軍律会議関係資料　59
軍律法廷審判例集　60
荊逆星霜史【品切】
経済月報　30
『経済月報』解題・総目次　112
経済発展過程の研究【品切】
警鐘　25
ゲエ・ギムギガム・プルルル・ギムゲム　87
『ゲエ・ギムギガム・プルルル・ギムゲム』
　解説・総目次・索引　117
月刊　文化沖縄　40
『月刊　文化沖縄』解説・総目次・索引　114
月刊民藝・民藝　80
『月刊民藝・民藝』解説・総目次・索引　116
研究蒐録　地図　35, 61
原始　97
『原始』解説・総目次・索引　119
原子爆弾災害調査報告　63, 65
検証　藤村操――華厳の滝投身自殺事件　17
現代新聞批判　3
『現代新聞批判』解説・総目次・索引　110
現代知識　教化講習録　8
現代ドイツ法社会学入門【品切】
現代日本詩集 1927年～1944年　87
『現代日本詩集』〔1927年～1944年〕解説・索引　117
建築と社会【品切】
『建築と社会』解説・総目次・索引　113
憲兵隊が記す日中開戦時の国内状況　61
言論報國　3
『言論報国』解説・総目次・索引　110
五・一五事件期憲兵司令部関係文書　60
興亜院刊行図書・雑誌目録　62
興亜会報告・亜細亜協会報告　46
興亜学生勤労報国隊関係資料　62
興亜青年勤労報国隊　東朝義記録　62
紅衛兵新聞目録　107
号外　3
『号外』解題・総目次・索引　110
紅旗週報【品切】
『紅旗週報』解題・総目次・索引　120
工藝　DVD-ROM 電子版　80
『工藝』解説・総目次・索引　116
交錯する国家・民族・宗教――移民の社会適応　38
皇室陵墓　35
紅色中華【品切】
洪水以後　96
『洪水以後』解題・総目次・索引　118
更生　24
『更生』解説・総目次・索引　112
荒村遺稿【品切】
高知県農地改革史【品切】
高等外事月報　59
紅燈下の彼女の生活　99
抗日朝鮮人の証言――回想の金突破【品切】
興農合作社関係資料　DVD版　47
『興農合作社関係資料』解説・総目次　114
公判記録　七三一細菌戦部隊　67
坑夫　89
黒煙　88
国策会社・東拓の研究　49
獄事叢書　19
『獄事叢書』解説・総目次・索引　112
黒死病――加藤秀造小説集　66
国民義勇隊関係資料　59
國立公園　34
『國立公園』解題・総目次・索引　113
国連軍の犯罪――民衆・女性から見た朝鮮戦争　69
呉語の研究――上海語を中心にして　107
古人今人　4
古蹟　34
『古蹟』解説・総目次・索引　113
午前　93
『午前』解説・回想・総目次・索引　118
国家学会雑誌〈明治期〉〈大正期〉〈昭和期〉　27
国家社会主義　96
小繋事件裁判資料集　DVD版　30
『小繋事件裁判資料集』解説・解題・各裁判記録細目次　113
子供の教養　71
子どもの人権問題資料集成〈戦前編〉　24

今日の琉球 41
『今日の琉球』解説・総目次・索引 114

さ

サークル村 93
『サークル村』『労働藝術』『地下戦線』『炭砿長屋』
解説・回想・総目次・索引 118
西園寺公望と明治の文人たち【品切】
最近に於ける朝鮮治安状況 昭和11年5月【品切】
埼玉県農地改革の実態【品切】
在日コリアンの経済活動 31
在日朝鮮人関係資料集成〈戦後編〉 69
在満軍法会議處刑特殊犯罪集 59
佐賀県農地改革史【品切】
雑誌『國教』と九州真宗 7
『雑誌『國教』と九州真宗』解題・総目次・索引 110
番紅花【品切】
『番紅花』解題・総目次・索引【品切】
サラリーマン 3
『サラリーマン』解説・総目次・索引 110
山東出兵時における「第三師団特種研究記事」 60
三人 87
『三人』解題・回想・総目次・索引 117
GHQ（マ元帥）処刑命令書 62
時局新聞 3
静岡県農地制度改革誌【品切】
史蹟名勝天然紀念物〈大正編〉 34
『史蹟名勝天然紀念物』〈大正編〉解説・総目次・索引 113
史蹟名勝天然紀念物〈昭和編第Ⅰ期～第Ⅳ期〉 34
『史蹟名勝天然紀念物』〈昭和編〉解題・総目次・索引 113
思想彙報 59
思想彙報Ⅱ 60
七一雑報 12
『七一雑報』解説・総目次・索引 111
実業家とブラジル移住 39
児童と宗教 8
『児童と宗教』解説・総目次・索引 110
支那事変大東亜戦争間 動員概史 59
支那駐屯憲兵隊関係盧溝橋事件期資料 62
渋沢栄一記念財団の挑戦 31
渋沢栄一と中国――一九一四年の中国訪問 31
「島ぐるみ闘争」はどう準備されたか 43
島根県農地改革誌【品切】
清水安三と北京崇貞学園
――近代における日中教育文化交流史の一断面 52
斯民 26
『斯民』目次総覧〈新版〉 112
社会運動通信【品切】
『社会運動通信』解説・総目次・記事・地方別索引 117
社会運動の状況〈大正15年版・昭和2年版〉 82
社会事業 18
社会事業彙報 20
『社会事業彙報』解説・事項索引 112
『社会福利』総目次・索引【品切】
社会文学 創刊号～第57号 91
社会文学 一九二〇年前後――平林初之輔と同時代文学 89
赤光 68
『赤光』総目次・索引・附『赤光』第1号 115
上海新報 50
週刊案内新聞 2
週刊たいまつ 2
週刊東日 2
週刊読書人 88
週刊南米 36
重慶中国国民党在港秘密機関検挙状況 59
十五年戦争極秘資料集 第1集～30集 59
十五年戦争極秘資料集 補巻 第1集～53集 60
十五年戦争重要文献シリーズ ①～⑳ 62
十五年戦争重要文献シリーズ 補集①・②・③ 63
十五年戦争末期国内憲兵分遣隊報告 60
十五年戦争陸軍留守名簿資料集 64
終戦後の法令 制定・改正・廃止 経過一覧 60
自由燈 2
『自由燈』解説・主要記事索引 110
『集報』――南京日本人収容所新聞 62
出版警察概観 56
出版警察関係資料 解説・総目次 115
出版警察関係資料集成【品切】
出版警察資料 56
出版警察報 56
趣味【品切】
『趣味』解説・総目次・索引 119
守礼の光 DVD版 42
『守礼の光』解説・総目次・索引 114
旬刊美術新報 79
『旬刊美術新報』解説・目録 116
湘煙日記 湘煙選集③【品切】
情況〈第1次〉 68
『情況』〈第1次〉解説・回想・総目次・索引 115
小国民 86
『小国民』解説・解題・総目次・索引 付＝『小国民』総覧 117
少年園【品切】
『少年園』解説・総目次・索引【品切】
情報 51, 61
『情報』解題・総目次 114
情報局関係極秘資料 55
上毛教界月報【品切】
『上毛教界月報』解説・総目次・索引 111
上毛之青年 100
『上毛之青年』解説・総目次・索引 120
昭和十年前後期 支那駐屯軍憲兵部文書 62
昭和10年全国商店街調査資料 32

昭和10年全国商店街調査資料
　　別巻＝解題・参考資料編　113
昭和初期政党政治関係資料【品切】
『昭和青年』『昭和』　13
昭和戦前期 日本公衆衛生史　80
昭和大礼記録資料　30
『昭和大礼記録資料』解説　113
昭和の闇を生きて　69
初期コミンテルンと東アジア　51
初期社会主義思想論　17
初期水平運動資料集　25
『初期水平運動資料集』解説・総目次・索引　112
初期の満州国軍に関する資料　59
殖民協会報告【品切】
『殖民協会報告』解説・総目次・索引　114
植民地下　朝鮮におけるハンセン病資料集成　49
植民地朝鮮における朝鮮語奨励政策
――朝鮮語を学んだ日本人　49
植民地文化研究　創刊号～第21号　54
女子青年界　11
『女子青年界』解説・総目次・索引　111
女子文壇　102
『女子文壇』解説・総目次・索引　120
『女子文壇』執筆者名・記事名データベース　102
処女の友　98
『処女の友』解題・総目次・索引　119
女性改造〈戦前編〉　98
『女性改造』〈戦前編〉解説・総目次・索引　119
女流作家の真髄【品切】
資料集 終戦直後の台湾　53
資料集成 戦争と障害者〈第Ⅰ期〉　24, 60
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅰ期〉　6
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅱ期〉　6
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅲ期〉　6
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅳ期〉　6
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅴ期〉　7
資料　平民社の女たち【品切】
新亜細亜　52
『新亜細亜』解題・総目次・索引　114
シンガポール英軍法廷華僑虐殺事件起訴詳報　67
新建築　33
『新建築』解説・総目次・索引　113
新社会　96
『新社会』解題・総目次・索引　118
『新小説』解説・総目次・索引　119
新女性　94
『新女性』解題・総目次・索引（DVD-ROM付）　118
新真婦人　103
『新真婦人』解説・総目次・索引　120
人性【品切】
『人性』解説・総目次・索引　111
清代中国語 満洲語辞典　108
新中華報〈刷新版〉　109
新著月刊　86
『新著月刊』解説・総目次・索引　117
人道【品切】
『人道』解説・総目次【品切】
新都市　32
『新都市』解説・総目次・索引　113
人物評論　4
『人物評論』解説・総目次・索引　110
新聞学院『学報』　2
『新聞学院『学報』』解説・総目次・索引　110
辛抱づよい者へ　101
人民戦線　93
『人民戦線』解題・総目次・索引　118
人民日報索引　105
人民日報索引　第1巻【品切】
人民日報社論索引　120
人民文学　94
『人民文学』解説・解題・回想・総目次・索引（DVD付）　118
人民文庫　88
『人民文庫』解説・総目次・索引　117
信友　66
『信友』解題・総目次・索引・年表　115
人類愛善新聞　13
『人類愛善新聞』解説　111
すがも新聞【品切】
すがも新聞　DVD版　66
『すがも新聞』解題・総目次・年表　115
巣鴨プリズン三部作　66
巣鴨プリズン・シベリア日本新聞【品切】
進め　82
『進め』解説・総目次・索引【品切】
聖化　12
『聖化』解説・総目次・索引　111
性科学研究　100
『性科学研究』解説・総目次・索引　120
成功　16
『成功』解題・総目次　111
政治の陥穽と文学の自律【品切】
成城学園時報　76
『成城学園時報』解説・総目次・索引　116
西廂記罕見版本考【品切】
青少年の逸脱をめぐる教育史　73
聖書におけるエコロジーと人権　12
精神分析〈戦前編〉　15
『精神分析』解説・総目次・索引　111
生長する星の群　88
『生長する星の群』解説・総目次・索引　118
青鞜【品切】
『青鞜』解説・総目次・索引　120
青鞜の女・尾竹紅吉伝　103
青鞜文学集　103

性と社会〈『産児調節評論』改題〉【品切】
『性と社会』解説・総目次・索引 120
性と生殖の人権問題資料集成 100
『性と生殖の人権問題資料集成』解説・総目次・索引 120
青年学校論〈増補改訂版〉【品切】
青年文 86
『青年文』解説・総目次・索引 117
性の国家管理——買売春の近現代史 101
性の歴史学 101
生物化学・毒素兵器の歴史と現状【品切】
生物兵器防御研究 66
性暴力問題資料集成〈第Ⅰ期〉 100
性暴力問題資料集成〈第Ⅱ期〉 100
『性暴力問題資料集成』解説・総目次 120
一九二〇年代社会運動関係警察資料 82
『一九二〇年代社会運動関係警察資料』
解説・総目録・索引 117
戦後改革期文部省実験学校資料集成〈第Ⅰ期〉 72
戦後改革期文部省実験学校資料集成〈第Ⅱ期〉 72
戦後改革期文部省実験学校資料集成〈第Ⅲ期〉 72
戦後学生雑誌と学生運動 118
全国貸本新聞【品切】
戦後初期沖縄解放運動資料集【品切】
戦後初期沖縄解放運動資料集 DVD版 43
戦後新教育・「実力の検討」実践資料集 73
戦後帝大新聞の歴史【品切】
戦後日系カナダ人の社会と文化 38
戦後日本共産党関係資料 68
『戦後日本共産党関係資料』解題・解説 115
『戦後日本共産党関係資料』収録資料目録 115
戦後の皇軍 重松憲兵少佐綴 60
戦後婦人界の動向【品切】
戦時期早稲田大学学生読書調査報告書 58
戦時下国民栄養の現況調査報告書 59
戦時下国民栄養の現況調査報告書〔昭和18年〕 60
戦時下政治行政活動史料 1941-1945 30, 61
戦時国民生活最低基準ニ関スル答申書 81
戦場心理の研究 15, 60
戦前期愛育会関係資料集成 71
戦前期 海外商工興信録集成 28
戦前期警察関係資料集〈第Ⅰ期〉 55
戦前期警察関係資料集〈第Ⅱ期〉岡山県特高警察資料 55
戦前期中国在留日本人統計 37
戦前期 同性愛関連文献集成 100
戦前期仏教社会事業資料集成 8
戦前期仏教社会事業資料集成 第14巻・補遺編 8
戦前期仏教社会事業の研究 9
戦前期仏教社会事業の研究 第２集 9
戦前期ブラジル移民日本語読本 36
戦争栄養失調症関係資料 59
戦争孤児関係資料集成 第Ⅱ期
関西編 東光学園史料ほか 19
戦争に対する戦争【品切】
戦犯裁判の実相 66
宣撫月報 58, 60
『宣撫月報』解説・総目次・索引 115
占領下の奄美・琉球における教員団体関係史料集成 40
『占領下の奄美・琉球における教員団体関係史料集成』
解説・総目次・索引 114
占領期報徳運動資料集成 16
占領期・琉球諸島新聞集成 42
層雲 89
ソヴェト映画 79
『ソヴェト映画』解説・総目次・索引 116
ソヴェト文化 79
『ソヴェト文化』解説・総目次・索引 116
綜合文化 94
『綜合文化』解説・総目次・索引 118
創作 労働問題 90
叢書『青鞜』の女たち 102
壮年團【品切】
『壮年團』解説・総目次・索引 116
創立期水平社運動資料 25
『創立期水平社運動資料』解説・細目次 112
総力戦研究所関係資料集 61, 64
『総力戦研究所関係資料集』解説・総目次 115
続・目の高さで見た中国【品切】
ゾルゲ事件史料集成 太田耐造関係文書 30
孫冶方の社会主義経済理論【品切】

た

第一次上海事変における第九師団軍医部「陣中日誌」 60
「大逆事件」関係外務省往復文書【品切】
第三帝国【品切】
『第三帝国』解説・総目次・索引【品切】
大正新教育 学級・学校経営重要文献選 71
大正デモクラシー下の〝地域振興〟 83
大東亜縦貫鉄道関係書類 59
大東亜戦下外地俘虜収容所【品切】
大東亜戦争ニ伴フ我カ人的国力ノ検討 59
大東亜戦争俘虜関係外交文書集成 65
大東亜舞台芸術研究所関係資料 62
大同保育隊報告 60
大日本青少年団史 77
大日本青年團史 77
大日本帝国内地俘虜収容所【品切】
太平洋にかける橋——渋沢栄一の生涯 31
台湾慰安婦関係資料集【品切】
台湾議会設置関係書類 52, 61
台湾教育〈大正期〉 72
『台湾教育』総目次・索引 116
台湾出版警察報 56
『台湾出版警察報』解説・発禁図書新聞リスト 115

台湾総督府第六十回帝国議会説明資料 52, 61
台湾島内情報・本島人の動向 59
台湾引揚者関係資料集 53
台湾霧社事件軍事関係資料 59
田澤義鋪（よしはる）選集 74
他山の石 3
『他山の石』解説・総目次・索引 110
魂鎮（たましずめ）への道——無意味な死から問う戦争責任【品切】
探書五十年【品切】
『談藪（だんそう）』研究 107
地域と文化 40
『地域と文化』解説・総目次・索引 114
近きより【品切】
『近きより』解説・総目次・索引 110
知的・身体障害者問題資料集成〈戦前編〉 23
地の塩 11
『地の塩』解説・総目次・索引 110
中央銀行会通信録〈明治期〉〈大正期〉〈昭和期〉 29
『中央銀行会通信録』解題・記事総索引 112
中外 97
『中外』解説・総目次・索引 118
中華民国よりの掠奪文化財総目録 62
中国経済の諸問題【品切】
中国語学資料叢刊 106
中国語関係書書目〈増補版〉 108
中国語教育史稿拾遺 107
中国語教育史論考 107
中国語教本類集成〈第Ⅰ期 第1集～第5集〉 106
中国語教本類集成〈第Ⅱ期 第6集～第10集〉 106
中国語教本類集成 補集 106
中国語辞典集成 105
中国語書誌 107
中国語文資料彙刊 106
中国雑誌所蔵目録 120
中国残留日本人孤児に関する調査と研究 上・下 51
中国社会主義経済建設文献目録 107
中国社会主義経済理論論争史 上・下【品切】
中国社会主義経済理論論争史（抄訳）【品切】
中国書籍総目録 105
中国人日本留学史稿 62
中国における社会主義経済理論の展開 107
中国農業経済論 50
中国の経済改革と経済理論【品切】
中国の経済改革理論10年を回顧する【品切】
中国文学語学資料集成 106
中国文芸理論に関する文献解題・総目録【品切】
中文資料叢刊 補遺 107
『町会』『町と生活』 33
『町会』『町と生活』解説・総目次・索引 113
朝鮮軍概要史 59
朝鮮憲兵隊歴史 49
朝鮮思想運動概況 59
朝鮮戦争下 公安関係資料——光永源槌資料 68
『朝鮮戦争下 公安関係資料——光永源槌資料』
解説・解題・収録資料目録 115
朝鮮総督府 帝国議会説明資料 48
朝鮮総督府 帝国議会説明資料 第4回配本 48
朝鮮治安関係資料集成〈第Ⅰ期〉〈第Ⅱ期〉〈第Ⅲ期〉 48
朝鮮徴兵準備読本 62
朝鮮における日窒コンツェルン【品切】
朝鮮の治安状況 昭和2年・5年版【品切】
朝鮮の治安状況 大正13年12月 49
ヂンダレ・カリオン 94
『ヂンダレ・カリオン』解説・鼎談・総目次・索引 118
通商彙纂〈第Ⅰ期〉〈第Ⅱ期〉〈第Ⅲ期〉 27
通商公報〈第Ⅰ期〉〈第Ⅱ期〉〈第Ⅲ期〉 28
『通商公報』解説・総索引 112
築地小劇場 81
『築地小劇場』解説・総目次・索引 116
『築地小劇場』ポスター・プログラム 81
『帝國青年』『青年』 73
『帝國青年』『青年』解説・総目次・索引 116
帝國大學新聞 75
『帝國大學新聞』記事・執筆者索引 116
「出稼ぎ」から「デカセギ」へ——ブラジル移民100年にみる
人と文化のダイナミズム 38
天鼓【品切】
『天鼓』解説・総目次・索引 119
天乃蒼【品切】
電脳処理 西夏文献《文海》反切法解析 108
電脳処理 西夏文雑字研究 108
電脳処理 西夏文字字素分析 108
電脳処理 西夏文字諸解対照表（稿） 108
電脳処理《文海宝韻》研究 108
東亜諸民族の死亡に関する衛生統計的調査 60
東亜同文書院 中国調査旅行記録 51
東亜同文書院の教育に関する多面的研究 51
東海地域文化の諸問題【品切】
東京外国語学校史——外国語を学んだ人たち 74
東京孤児院月報 19
『東京孤児院月報』解説・総目次・索引 112
東京裁判 大山文雄関係資料 59
東京時事資料月報 61
東京市養育院月報〈明治期〉 18
東京市養育院月報〈大正期〉 18
東京市養育院月報〈昭和期〉 18
『東京市養育院月報』解説・総目次・索引 111
東京大学新聞 75
『東京大学新聞』記事・執筆者索引 116
東京大学薬学図書館薬史学文庫所蔵
「北支関係・満洲関係」綴 46, 61
東京地籍図 34
『東京地籍図』解説 113
東京帝国大学農学部 学徒動員関係史料 72

東京都養育院月報 18
『東京都養育院月報』解説・回想・総目次 111
東京南部サークル雑誌集成 94
『東京南部サークル雑誌集成』
　解説・解題・回想・総目次・索引 118
東京百建築 33
東京府教育会雑誌 73
『東京府教育会雑誌』解説・総目次・関連年表 116
峠 89
『峠』解説・総目次・索引 118
東高時報【品切】
闘争〈瑞金版〉 109
冬柏 85
『冬柏』総目次・索引 117
東北振興計画集覧 104
東北文学 95
『東北文学』解説・総目次・索引 118
ときのこゑ 11
『ときのこゑ』解説・総目次・執筆者索引 111
毒ガス戦関係資料 59
毒ガス戦関係資料Ⅱ 60
毒ガス戦教育関係資料 60
毒ガス戦教育関係資料Ⅱ 60
徳島県農地改革史【品切】
特殊労務者の労務管理 62
特審月報 69
『特審月報』解説・総目次 115
特調班月報・通訊 51, 61
都市公論【品切】
『都市公論』総目次・索引 113
都市創作 32
『都市創作』解説・総目次・索引 113
都市美【品切】
『都市美』監修の辞・解説・総目次・索引 113
都市不燃化 32
『都市不燃化』解題・総目次・索引 113
図書新聞 88
『図書新聞』解説・記事・執筆者・書評索引Ⅰ（'49～'59） 117
『図書新聞』記事・執筆者・書評索引Ⅱ（'60～'68） 118
『図書新聞』記事・執筆者・書評索引Ⅲ（'69～'79） 118
『図書新聞』記事・執筆者・書評索引Ⅳ（'80～'88） 118
土地が哭いている――農地改革と農地法八十条 31
栃木県農地改革史【品切】
特高警察関係資料解説 58
特高警察関係資料集成〈第Ⅰ期〉 55
特高警察関係資料集成〈第Ⅱ期〉 56
鳥取県農地改革誌【品切】
留岡幸助と家庭学校――近代日本感化教育史序説改訂普及版 20
留岡幸助の研究 20
富山県農地改革史【品切】

な

内外地憲兵隊にみる検閲錬成 61
中里介山の原郷【品切】
長崎県農地改革史【品切】
長野県飯田下伊那の満洲移民関係資料目録 47
長野県に於ける農地改革【品切】
長野県農地改革史【品切】
那須皓（しろし）先生――遺文と追想【品切】
七三一細菌戦部隊・中国新資料 66
「七三一部隊」罪行鉄証――関東憲兵隊「特移扱」文書 67
「七三一部隊」罪行鉄証――特移扱・防疫文書編集 67
七三一部隊作成資料 59
七三一部隊1931-1940――「細菌戦」への道程 66
何を読むべきか 82
南方地域現地自活教本 60
南方方面海軍資料 60
南洋群島 52
『南洋群島』解説・総目次・索引 114
新潟県農地改革史【品切】
新島襄先生の生涯【品切】
西ボルネオ住民虐殺事件――検証「ポンテアナ事件」【品切】
二反長音蔵・アヘン関係資料 60
日刊　海外商報 28
『日刊　海外商報』解説・総目次 112
日系アメリカ文学雑誌研究――日本語雑誌を中心に 114
日系アメリカ文学雑誌集成 37
日光 86
『日光』解説・総目次・索引 117
日・朝・韓　自由人の会　会報【品切】
二・二六事件警察秘録 62
日本移民協会報告 36
日本学芸新聞【品切】
『日本学芸新聞』解説・総目次・索引【品切】
日本近代史のなかの沖縄 43
「日本近代文学における上海」研究文献目録 89
日本女性運動資料集成 98
日本女性運動資料集成　別巻＝索引 119
日本女性詩集1930年～1943年 102
『日本女性詩集1930年～1943年』解説・総目次・索引 120
日本人アメリカ移民史 38
日本人移民ハワイ上陸拒絶事件 38
日本人カナダ移民史 38
日本人民反戦同盟資料 47
日本人民反戦同盟資料　解説・解題・総目次 114
日本占領下上海における日中要人インタビューの記録 60
日本帝国主義下の植民地労働史 51
日本帝国陸軍と精神障害兵士【絶版】
日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学 38
日本読書新聞【品切】
『日本読書新聞』解説・記事・執筆者・書評索引 119

日本廃娼運動史 99
日本反帝同盟史研究――戦前期反戦・反帝運動の軌跡 51
日本ＢＣ級戦犯資料【品切】
日本評論 97
『日本評論』解説・総目次・索引 119
日本婦人 98
『日本婦人』解説・総目次・索引 119
日本仏教社会福祉学会年報　第１号～第52号 10
日本流人島史 31
日本労働新聞 83
入門　中国経済論――中国経済と出合う人のために【品切】
女人藝術【品切】
『女人藝術』解説・総目次・索引 120
二六新報 1
人間の輪郭――共生への理念 17
根岸佶（ただし）著作集 50
熱帯野菜園芸【品切】
農家経済調査簿　DVD-ROM版 104
農業年鑑【品切】
農山漁村経済更生運動と小平権一【品切】
農政研究 104
農政時報 104
『農政時報』解説・総目次 120
農村青年＝稲垣稔【品切】
農村保健衛生実地調査【品切】
農民 87
『農民』解説・総目次・索引 117

は

廃娼 100
海南島（はいなんとう）方言基礎語彙集 108
買売春問題資料集成〈戦前編〉 99
『買売春問題資料集成』〈戦前編〉解説・総目次・索引 119
売文集【品切】
長谷川時雨全集 103
迫撃第五大隊毒ガス戦関係資料 61, 64
波多野太郎博士　覆印語文資料提要 108
母なる大地【品切】
ババル島事件関係書類 59
春、雪ふる――荒畑寒村戦中日誌 17
ハワイ日本語学校教科書集成 37
反響【品切】
『反響』解題・総目次・索引 119
犯罪科學 14
『犯罪科學』解説・総目次・索引 111
反帝新聞 51
ビアトリス 103
ＢＣ級戦犯英軍裁判資料〈上〉【品切】
ＢＣ級戦犯英軍裁判資料〈下〉【品切】
ＢＣ級戦犯関係茶園義男論文集【品切】
ＢＣ級戦犯軍事法廷資料――広東編【品切】
ＢＣ級戦犯豪軍マヌス等裁判資料【品切】
ＢＣ級戦犯豪軍ラバウル裁判資料【品切】
ＢＣ級戦犯中国・仏国裁判資料【品切】
ＢＣ級戦犯フィリピン裁判資料【品切】
ＢＣ級戦犯和蘭裁判資料・全巻通覧【品切】
ＢＣ級戦犯米軍上海等裁判資料【品切】
ＢＣ級戦犯米軍マニラ裁判資料【品切】
ＢＣ級戦犯横浜裁判資料【品切】
百五人事件「寺内朝鮮総督暗殺未遂事件」資料集【品切】
百姓の見たソ連【品切】
兵庫県農会史【品切】
兵庫県農地改革史【品切】
病中放浪 89
評伝　賀川ハル――賀川豊彦とともに、人々とともに 101
評伝　桐生悠々【品切】
拓け満蒙・新満洲・開拓 45
『拓け満蒙』『新満洲』『開拓』解説・解題・総目次 114
広島県農会史【品切】
ひろば 95
『ひろば』解説・総目次・索引 118
風景 32
『風景』総目次・索引 113
福井県農会史【品切】
福井県の農地改革【品切】
福岡県農地改革史【品切】
福島県農地改革史【品切】
福田英子（ひでこ）集 101
藤井忠俊著作集 69
婦女新聞【品切】
『婦女新聞』記事・執筆者索引【品切】
『婦女新聞』と女性の近代【品切】
婦人 99
『婦人』解説・総目次・索引 119
婦人運動 99
『婦人運動』解説・総目次・索引 119
婦人界三十五年【品切】
婦人新報 11
『婦人新報』解説・総目次・索引 111
婦人文芸 103
『婦人文芸』解説・総目次・索引 120
婦選 99
『婦選』解説・総目次・索引 119
ふたつの文化のはざまから
――大正デモクラシーを生きた女 101
仏教海外開教史資料集成〈南米編〉 8
仏教海外開教史資料集成〈ハワイ編〉 7
仏教海外開教史資料集成〈北米編〉 7
仏教海外開教史の研究 9
俘虜情報局・俘虜取扱の記録　付＝海軍兵学校『国際法』 62
俘虜取扱に関する諸外国からの抗議集 59
俘虜ニ関スル諸法規類聚 59
文学案内 86

『文学案内』解題・総目次・索引 117
文學界 85
『文學界』解説・総目次・索引 117
文学時標 89
文学としての『青鞜』 103
文学報国 87
文化生活〈文化生活研究会　刊〉【品切】
文化生活〈文化普及会　刊〉 79
『文化生活』〈文化生活研究会　刊〉解説・総目次・索引 117
『文化生活』〈文化普及会　刊〉解説・総目次・索引 116
文化展望 93
『文化展望』解説・総目次・索引 118
文教時報 40
『文教時報』解説・総目次・索引 114
文藝 85
『文藝』解説・総目次・索引 117
文芸懇話会 88
『文芸懇話会』解説・総目次・索引 117
文芸雑誌 97
『文芸雑誌』解説・総目次・索引 119
文芸時報 87
『文芸時報』解題・総目次・索引 117
文庫 85
『文庫』解題・総目次・索引 117
『文章倶楽部』総目次・索引【品切】
文明批評 96
北京同学会の回想 108
北京における魯迅【品切】
へちまの花【品切】
ベトナム通信 69
ベンゾイリン不正輸入事件関係資料 60
変態心理 14
『変態心理』解説・総目次・索引 111
『変態心理』と中村古峡――大正文化への新視角【品切】
変態性慾 14
『変態性慾』解説・総目次 111
遍路 34
『遍路』解説・総目次・索引 110
ほうとくまんだら【品切】
鵬・ピオネ・藝術前衛 93
『鵬』『ピオネ』『藝術前衛』解説・総目次・索引 118
法律新聞〈明治期〉 26
法律新聞〈大正期〉〈昭和期〉【品切】
法律新聞　DVD-ROM版 26
『法律新聞』総目次 112
細川嘉六獄中調書――横浜事件の証言【品切】
布爾塞維克（ボルシェビキ） 109
本土決戦　日本内地防衛軍【品切】

ま

魔女の審判〈増補改訂版〉【品切】
魔女の論理〈増補改訂版〉【品切】
満州移民関係資料集成【品切】
『満州移民関係資料集成』解説 114
満州移民拓務局原資料 59
満洲開拓関係雑誌集成 46
『満洲開拓関係雑誌集成』解題・総目次 114
満州建設勤労奉仕隊関係資料 62
満洲国軍ノ現況 60
「満洲国」資料集積機関概観 47
《満洲国》文化細目 47
満洲事変における憲兵隊の行動に関する資料 59
満洲事変日誌記録 60
満洲帝国協和会組織沿革史【品切】
満洲評論【品切】
『満洲評論』解題・総目次【品切】
満洲泰阜（やすおか）分村――七〇年の歴史と記憶 47
万寿果 23
満鉄調査月報【品切】
『満鉄調査月報』総目次・索引【品切】
満鉄調査時報【品切】
『満鉄調査時報』総目次・索引【品切】
満鉄調査部と中国農村調査――天野元之助中国研究回顧 47
満蒙〈第Ⅰ期〉〈第Ⅱ期〉〈第Ⅲ期〉 45
『満蒙』総目次・執筆者索引 114
満蒙開拓青少年義勇軍関係資料 46
三重県農会史【品切】
「三鷹事件」裁判関係資料集　DVD-ROM版 68
『「三鷹事件」裁判関係資料集』解説・資料目録 115
三田新聞 75
『三田新聞』記事・執筆者索引 116
南満州鉄道株式会社　帝国議会説明資料・別冊 61
都の花【品切】
『都の花』解題・総目次・索引【品切】
宮本百合子裁判資料――「手記」と「聴取書」 85
三好十郎著作集 79
『三好十郎著作集』解説・回想・総目次 116
民衆史の狼火を――追悼 色川大吉 69
民族と歴史 25
『民族と歴史』解説・総目次・索引 112
民本主義の論客 茅原華山伝 4
無我の愛【品切】
『無我の愛』解説・総目次・索引 111
村を考える――村落論集【品切】
牟婁（むろ）新報 2
『牟婁新報』〈第Ⅰ期〉解説・執筆者索引 110
『牟婁新報』〈第Ⅱ期・第Ⅲ期〉解説・執筆者索引 110
明治漢文教科書集成 105
『明治漢文教科書集成』第Ⅰ期・第Ⅱ期解説 120
『明治漢文教科書集成』第Ⅲ期解説・総索引 120
明治漢文教科書集成　補集 105
『明治漢文教科書集成』補集Ⅰ解説 120
明治初期の三女性――中島湘煙・若松賤子・清水紫琴 101

明治仏教研究事始め 7
文部省思想統制関係資料集成 55

や

八重山文化 41
『八重山文化』解説・総目次・索引 114
安成貞雄――その人と仕事 90
山形県農地改革史〈増補改訂版〉【品切】
山口県農会史【品切】
山口県農地改革誌【品切】
山本宣治　上【品切】
山本宣治　下【品切】
山本宣治写真集 83
山本瀧之助全集 77
山本瀧之助日記【品切】
山本瀧之助の生涯と社会教育実践 74
唯研ニュース 16, 63
夕刊　新大阪 4
『夕刊　新大阪』解説・主要記事索引 110
優生 14
優生運動【品切】
『優生運動』解説・総目次・索引 111
優生學 14
『優生學』解説・総目次・索引 111
有聲無聲 89
夢を食う――素描　荒畑寒村 17
幼小接続資料集成 71
『幼小接続資料集成』解説 115
横浜毎日新聞 1
『横浜毎日新聞』解説・総目次 110
吉田松陰の思想――尊王攘夷への思想的道程 17
よみがえる　沖縄　米国施政権下のテレビ映像
――琉球列島米国民政府（ＵＳＣＡＲ）の時代 40

ら

来日留学生の体験――北米・アジア出身者の1930年代 38
陸海軍省法務局長巡察報告 59
陸軍軍医学校五十年史【品切】
陸軍軍医学校防疫研究報告 60, 65
『陸軍軍医学校防疫研究報告』解説・総目次 115
『陸軍軍医学校防疫研究報告』解説・総目次〈改訂版〉 115
陸軍軍医学校防疫研究報告　第９冊・補遺 61, 65
陸軍軍法会議判例類集 61
陸軍経理学校五十年史 61
陸軍省『調査彙報』 58, 60
陸軍省『調査彙報』解説・総目次 115
陸軍に於ける花柳病 60
六合（りくごう）雑誌【品切】
『六合雑誌』解説・執筆者・作品名索引
付＝『創造者』第１号 111
陸地測量部沿革誌 35
力行（りっこう）世界 36
『力行世界』『力行』『力行網』『渡米新報』解説・総目次・
索引 113
琉球新報 42
琉球統計年鑑 41
琉球要覧 41
琉大文学 95
『琉大文学』解説・総目次・索引 118
流芳 104
『流芳』解題・総目次・索引 120
令知会雑誌 7
令知会と明治仏教 9
良民 73
『良民』解説・総目次 116
旅行満洲 46
緑丘五十年史 76
留守名簿　関東軍軍馬防疫廠 64
留守名簿　関東軍防疫給水部 64
留守名簿　北支那防疫給水部 64
留守名簿　南方軍防疫給水部 64
連合婦人 98
『連合婦人』解説・総目次・索引 119
労働共済 19
『労働共済』解説・総目次・索引 112
労働週報 83
労働文学 97
盧溝橋事件期支那駐屯憲兵隊 重松関係文書 60
論集・戦時下「日本仏教」の国際交流 9

わ

わが生涯の新島襄――森中章光先生日記【品切】
「我が職業は普通選挙なり」――中村太八郎とその周辺 83
我が青春のノモンハン事件スケッチ集【品切】
若者仲間の歴史 74
和歌山県農地改革誌【品切】
ワシラノシンブン 25
和平は売国か――ある汪兆銘伝【品切】

不二出版
総合図書目録

2022–2023

不二出版株式会社
〒112・0005 東京都文京区水道 2・10・10
郵便振替00160・2・94084
URL:http://www.fujishuppan.co.jp
電話 〈03〉5981・6704
FAX 〈03〉5981・6705